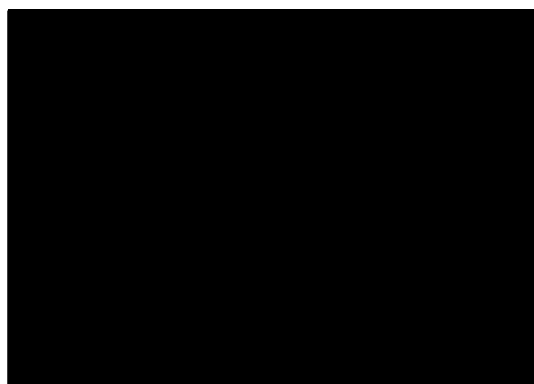
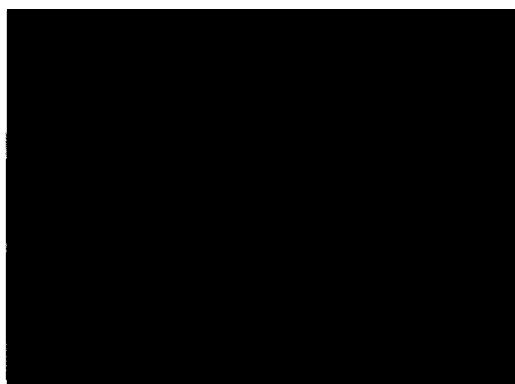
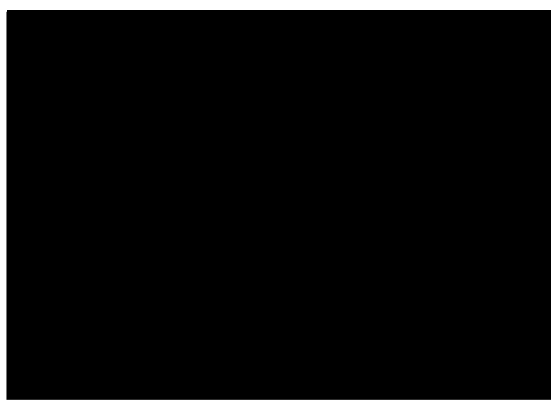


# 平成13年度読書活動実践事例集

(読書活動優秀実践校実践の概要)



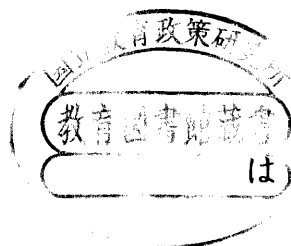
国立教育政策研究所



021201597

国立教育政策研究所





は じ め に

子どもたちにとって読書は，想像力や思考力を身に付け，豊かな感性や情操，そして思いやりの心をはぐくむ上で大切な営みであり，人としてよりよく生きる力をはぐくみ，人生をより味わい深い豊かなものとしていくために欠くことのできないものです。

新学習指導要領においても，すべての教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間に共通する配慮事項として，「児童（生徒）の主体的，意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」が明記されております。各学校においては，児童生徒の望ましい読書習慣の形成を図り，日常生活において読書活動が活発に行われるよう，創意工夫を生かした取組が期待されています。

平成１１年８月には「子ども読書年に関する決議」が国会により採択され，２０００年を「子ども読書年」として，子どもたちの読書の振興を図ることとされました。これを契機として現在，全国で各種の取組が行われています。

文部科学省では，この「子ども読書年」を記念して，児童生徒の読書，学校図書館の活動，公共図書館との連携など，読書を推進する活動において特色ある優れた読書活動の実践を行っている学校を読書活動優秀実践校として大臣表彰を行っています。平成１３年度においては，全国の１０７校が文部科学大臣表彰を受けました。

平成１３年１２月には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定され，子どもの読書の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することとされました。

この冊子は，平成１３年度読書活動優秀実践校に，各校の実践の概要や成果などを簡潔に取りまとめでいただき，国立教育政策研究所において編集したものです。

本書に掲載された取組を参考に，各学校において，今後とも読書によって感動体験や夢を与えるとともに，子どもたちの知的好奇心や探求心をかきたてるような読書活動を，積極的に進めていただくことを期待いたします。

平成１４年３月

国立教育政策研究所教育課程研究センター長

月 岡 英 人





## 目 次

北海道	1	和歌山県	72
青森県	4	鳥取県	74
岩手県	6	島根県	76
宮城県	8	岡山県	78
秋田県	10	広島県	80
山形県	12	山口県	83
福島県	15	徳島県	85
茨城県	17	香川県	86
栃木県	20	愛媛県	87
群馬県	22	高知県	89
埼玉県	24	福岡県	90
千葉県	27	佐賀県	93
東京都	29	長崎県	95
神奈川県	33	熊本県	97
新潟県	35	大分県	99
富山県	37	宮崎県	101
石川県	40	鹿児島県	104
福井県	42	沖縄県	106
山梨県	44		
長野県	46	参考資料	109
岐阜県	48	平成12・13年度読書活動優秀実践校概要	111
静岡県	51	読書活動法令関係等	115
愛知県	54	読書活動関係施策事業	129
三重県	57	学校図書館の現状に関する調査結果	142
滋賀県	60		
京都府	62		
大阪府	64		
兵庫県	67		
奈良県	70		



学校名 えりも町立東洋小学校

所在地 北海道幌泉郡えりも町字東洋189

電話 01466-3-1358

## 1. 本校の概要

本校は、明治18年に油駒小学校として設立され、その後、幾多の変遷を経て、昭和22年に現在の校名へと引き継がれている。

この間、約1600余名の卒業生を送り出しているが、近年は、児童数が年々減少し、現在は26名の小規模校である。

校区は、歌でも名高い襟裳岬から数キロ程の位置にあり、美しい豊かな海と開拓された牧野が広がる風光明媚な集落である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 思いを豊かに

本校は、表現力の育成を目指し、国語科物語文の指導を中心に実践研究を進め、平成11年度には北海道へき地複式研究大会の会場校として、研究成果を広く発表した。

その成果を生かし、音声表現の豊かさを一層培うため、総合的な学習の時間の学習活動等に発展させ、実践を深めている。

#### ② 読書活動を一日のスタートに

表現力育成の取組の一つには、昭和40年代当初から実践してきた『読書活動』がある。これは、始業前の自主的活動で、自ら読みたい本を選択し、継続して読む活動を基本としている。

また、読み聞かせの活動も日常化しており、全校的には教職員によるものや児童の委員会活動としても行っている。

さらに、児童会活動として「読書週間」、「読書祭り」などを実施しており、読書が児童の日常生活に習慣化されてきている。

#### ③ 読書の交流

読書週間では、『読書手紙』や『こんな

本読んだよカード』の掲示を行い、児童相互の交流を行っている。

この活動が功を奏し、他の児童が読んだ本に興味をもち、その本を読んだり、児童が互いに自分の読んだ本を薦めあったりする姿も数多く見られるようになり、低学年児童と高学年児童との交流も深まってきた。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 保護者にも広がる活動

読書活動が始められたころの児童は、現在では、保護者となっており、当時と活動の方法や形態が変わったとはいえ、この活動に深い理解がある。

また、長年にわたる取組で積み上げられてきた『親子読み聞かせ活動』は、地域にも広く定着した活動となっている。

#### ② 町立図書館との連携

本校では、読書に親しむ活動として、町立図書館が定期的に実施している巡回図書を積極的に利用している。

また、「総合的な学習の時間」における学習資料としての図書の活用方法について図書館職員からアドバイスを受けるなど、町立図書館との連携を一層深めている。

## 3. 成果と今後の課題

本校の読書活動の取組は、児童の読む力の向上はもとより、表現力の育成に大きな成果をあげている。

また、児童は、読書の楽しさを実感し、本への愛着が増すにつれ、より多くの本に触れたいという思いや願いをもつようになってきており、これらに応えていくような新たな取組を工夫していくことが一つの課題となっている。

30余年の伝統のある本校の読書活動を今後も継続するとともに、新たな発想を取り入れながら、児童の側に立って活動の改善を進め、一層の充実・発展を目指していきたい。

学校名 苫小牧市立美園小学校

所在地 北海道苫小牧市美園町4丁目26-2

電 話 0144-34-3013

## 1. 本校の概要

本校は、苫小牧市の鉄北地区に位置し、昭和43年4月に創立・開校した。児童数は、539名であり、通常学級17、特殊学級3の編制である。児童は、明るく素直であり、また、保護者は教育に対する関心が高く、PTA活動に協力的である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

読書活動を通して「豊かな心」と「生きる力」の育成を目指した教育活動に昭和43年の開校以来取り組んできた。

① 全校で読書感想文の指導を行い、感想文集「みそのっ子」を毎年発行している。平成2年、12年には、青少年読書感想文全国コンクールにおいて、学校賞を受賞している。

② 児童会図書委員会が読書量調べを行い、その調査結果を掲示したり新しい本を紹介したりしている。また、学級担任が児童の読書量を集計し、通知票に冊数を記入するなどして保護者に知らせている。

③ 開校以来、PTAの図書館司書ボランティアの協力により、図書の貸し出しや新刊本の紹介、図書の整理・補修等を行っている。また、児童会図書委員会と協力して、貸し出しのルールや閲覧室でのマナーの指導を行っている。

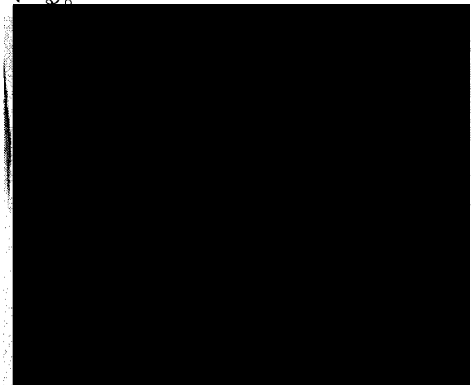
④ PTA文化サークルが中心となり、月1回程度、本の読み聞かせを行う「おはなしの会」を実施している。平成12年度からは、ブラックライトを使った紙芝居を行い、児童だけではなく、保護者や市民にも公開している。さらに、学級ごとに保護者による読み聞かせ活動も活発に行われるようになった。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

① 平成12年の国際読書年には保護者に本の寄贈を呼びかけ、蔵書数を増やした。

② PTA図書ボランティアの活動が、PTA組織の中に位置付けられ、読書活動の在り方が全体で論議されている。

③ 児童の読書意欲を高め、読書活動を広げるため、市内の読み聞かせサークルを招待し、ストーリーテリングを実施している。



## 3. 成果と今後の課題

(1) 児童の図書室利用のマナーが良くなり、貸し出し冊数も増加した。今後は、日課表の中に「朝の読書」を位置付けるなどして、読書活動の一層の充実を図っていく必要がある。

(2) 総合的な学習の時間等の調査活動で図書室を活用することが多くなってきたことから、図書館司書ボランティアとの連携を一層深める必要がある。

(3) 児童会図書委員会の活動をさらに充実させるため、児童による読み聞かせや学校外でのボランティア活動など、活動を学校外へと広げるような視点をもつ必要がある。

学校名	千歳市立向陽台中学校
所在地	北海道千歳市若草5丁目5番地
電 話	0123-28-4286

## 1. 本校の概要

本校は市街地から約6kmに位置し、自然林に囲まれた閑静な新興住宅街にある。開校15年の比較的歴史の浅い学校で、13学級、職員32名の中規模の学校である。生徒は礼儀正しく素直で明るい。「創造・友愛・健康」を校訓とし、心豊かで、主体的に行動する生徒の育成に努めている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 全校生徒による朝読書の実施

本校では次の三点をねらいとして朝読書に四年間取り組んできた。

- ・ 一日の学習や生活を、落ち着いた気持ちと雰囲気スタートさせる。
- ・ 集中力と読書の習慣を身に付け、情操豊かな心の育成を図る。
- ・ 学力の基本である読解力や表現力、思考力の育成を図る。

さらに、意識化を図るために、記録用紙に毎日の読書記録をメモし、個人用ファイルに保存させたり、読んだ本を互いに紹介し合う『紹介ポスターの作成』を行っている。

#### ② 生徒会による自主的な読書活動の推進

生徒会の図書委員会が、図書の貸し出しの管理や、図書の紹介等の広報活動、朝読書の指導を行っている。

図書委員は、8時10分から読書が始められるよう環境づくりを行っている。また、図書便りで新着本の紹介を行ったり、全校生徒を対象とした読書感想文や本の紹介作文コンクールの企画運営を行っている。

### ③ 日常的な読書指導

国語の授業や選択教科（国語）の中でも推薦する図書の紹介を随時行うとともに、日常の授業の中でも、折に触れ教科担任が一部を読み聞かせたりするなど、本の魅力を紹介するブックトークを行っている。

## (2) 家庭や地域との連携

### ① PTAとの連携

保護者に対しては読書活動の意義を説明し、家庭における読書の習慣化に向けて協力を求めている。

### ② 地域との連携

地域のコミュニティーセンターには千歳市の「すみれ文庫」が設けられている。地域の方々がボランティアで運営しており、学校へ図書を寄贈して下さるなど日常的な連携を図っている。また、市立図書館については校区からバスで10分程度の場所にあり、読書活動や、日常の学習における調査活動に利用する生徒も多い。

## 3. 成果と今後の課題

### (1) どの学年も、読書に対する関心・意欲が高まり、読書量も増加している。

朝読書の個人用ファイルの集計によると、朝読書の時間だけでも平均で年間一人20冊、多い生徒では40冊以上も読んでいる。

進路の面接指導で読書が趣味と答える生徒も大変多い。また、教科において読解力が深まり、文章や話すことなどの表現力が身に付くとともに、新聞を読む生徒が増え、記事の内容を的確に読み取り、ものの見方や考え方を広げようとする態度が育ってきている。

### (2) 平成12年度、13年度と連続して全国的な作文コンクールや各種コンクールで、上位入賞をおさめている生徒もいるが、まだまだ読書を苦手としている生徒もいる。

今後、さらに質の高い読書活動を目指し、地道な実践を進めていきたい。

学校名 鯉ヶ沢町立西海小学校  
所在地 青森県西津軽郡鯉ヶ沢町大字舞戸町  
字小夜190  
電話 0172-72-2066

## 1. 本校の概要

本校は、津軽藩発祥の地であり、かつては上方や蝦夷地との交易港、津軽藩の表玄関として栄えた鯉ヶ沢町の中心校である。明治6年7月1日創立・開校という古い歴史と伝統を誇るが、過疎化の波にもまれ、30年前まで1000名を越えていた児童数も現在180名、7学級の小規模校に転じている。行政、地域、学校が一体となって町の活性化に取り組んでいるところであり、その分次代を託す子どもたちへの期待も大きい。

## 2. 本校の実践の概略

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 読書サークル員による「読み聞かせ集会」

地域の「読書サークル」誕生を期に、4年前から月1回、各学年対象に実施。サークル員各自の選びぬいた一冊への思い入れは熱く、巧みな朗読と相俟って子どもたちの心に沁み透る。子どもたちはその日の来るのを待ち望んでいる。



#### ② 朝の「読書タイム」

子どもたちの要望が強く、朝の始業前の自習時間が自由読書タイムに代わり、自由読書週間が旬間へと延長されている。

#### ③ 「図書室は楽しい」ところ

図書室での規制を取り去り、子どもたちのサロンとする。静かに読みたい人は隣の第2図書室へ。図書委員の子たちの紙芝居やビデオ上映に、昼休みの図書室は子どもたちで溢れている。

#### ④ 読書指導の充実

読書サークル員に刺激を受けながら、広い教育的見地でもって本校図書館教育計画に則り、個々の子に応じ、生かした読書指導、利用指導に努めている。

## 2. 家庭との連携、地域との連携

「ふるさとの文化伝承」を掲げる公民館事業ともタイアップして、郷土史はもちろん、ふるさとの民話、伝統的な町の祭りや踊り、国際交流にと、地域の人材を活用した多彩な学習を展開し、郷土に根づいた「生きる力」の育成に努めている。

① 読書サークルの活動が活発化し、本校教職員との交流、研修会、町の図書館行事、他地域読書サークルとの交流も盛んである。

② 本校卒業生有志や教職員、保護者からの図書やその購入費の寄贈が多い。特に地元漁業協同組合からは、30年間にわたり、3000冊余の寄贈があり、「漁協文庫」として子どもたちに親しまれ、感謝されている。

## 3. 成果と今後の課題

(1) 子どもたちの読書意欲が向上し、読書量が増えた。調べ学習での図書室利用も増え、夏休み・冬休みの「自由研究」が大いに充実してきた。

(2) 読書サークル員である水産試験場技師の方の「魚の話」の読み聞かせが、試験場見学、魚の飼育、観察へと発展。また、郷土の民話の読み聞かせに感銘した子たちが地域の民話劇団に入り舞台に立つ等拡大を見ている。

今後の課題として、

(1) 来年度から、本校図書室を、休日に全面開放する予定である。子どもたちの読書生活の一層の定着を図ってゆきたい。

(2) 子どもたちが図書室に向かうような日々の授業のあり方のさらなる充実を図ると共に、学習情報センターとしての機能の強化を図る。

(3) 「親子読書運動」への発展を期す。

学校名 木造町立柴田小学校

所在地 青森県西津軽郡木造町大字柴田字弥生田  
2の1

電 話 0173-42-2175

## 1. 本校の概要

本校は津軽平野を流れる岩木川のほぼ中央部下流の西岸に位置する。木造新田として開墾された地域で、水田単作の農業が主な産業と成っている。

明治9年創立以来125年の歴史があり、現在6学級71名の児童が在籍する。

児童は明朗快活であり、地区の保護者や地域の人々は教育熱心である。伝統のまつり「ねぶた」運行を中心に地域と学校が一体となって教育活動に励んでいる。



## 2. 本校の実践の特色

### (1) 本校の実践の特色

児童の読書習慣をつけることを支援しようと、教師、保護者、児童が一体となり実践的な読書活動を恒常的に展開している。児童は読書を通して本への関心が高まるとともに「ものの見方・考え方」が深まり表現力、作文力がついてきている。

また、この読書活動で、温かく思いやりのある人間関係を構築させようとすることもねらいになっている。



#### ① 教師による読み聞かせ

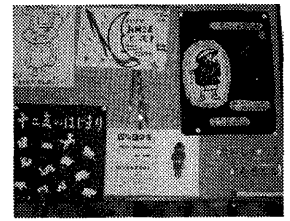
学級担任だけでなく、全職員で全校の児童に対して読み聞かせをした。それぞれの教師が工夫を凝らし、新聞紙を用いたり、パネルシアターを使った実践もあった。

「読書まつり」と銘うち、全職員がポスターを製作し、昼休みに校内の特別教室、体育館等で一斉に読み聞かせを実施する。児童は好きな絵本を開きに行くというイベントを行っている。児童は毎年楽しみ

にしている催しとなっている。

## ② 図書委員会活動

図書委員会の活動の一貫として練習を重ね、紙芝居や読み聞かせの活動をした。また、創作絵本の製作を全校児童に呼びかけコンクールを実施したり、書名に関するクイズ、新刊本の紹介等の活動をした。



### (2) 家庭との連携、地域との連携

保護者の有志による活動が主なものである。夏休みの朝のラジオ体操終了後、子ども達に読み聞かせのボランティアをしている。有志の母親たちが、輪番で持ち寄った絵本を読んでいる。

また、冬に実施される郷土カルタの大会のために読み手、審判、指導などと分担して児童の指導にあっている。



## 3. 成果と今後の課題

児童の活字離れが叫ばれる昨今ではあるが、読書を好み、集中して読んでいる子どもの姿を多く見かける。また、作文や日記を書くことに抵抗感が少なく書くことが好きだという児童も出ている。さらに語彙が増し、表現力が豊かになったと感じられる。それ以上に友だちを思いやる心が育ってきていること、そしていろいろなものの見方、考え方ができるようになったことが、子ども達の発表の中に感じられ、成果として挙げられる。

本校は今年度で閉校になる。柴田小学校で培われた読書の芽を、児童そして教師集団の宝として今後の教育活動に生かしていきたいと考えている。

学校名 盛岡市立山岸小学校  
所在地 岩手県盛岡市山岸二丁目13-1  
電話 (019) 623-2275

## 1 本校の概要

本校は、岩手県庁より北東へ約2km、盛岡市の中心部近くに位置し、昭和4年4月に開校し72年の歴史を持つ学校である。

児童数580名、学級数19、教職員37名の規模となっている。

子供たちは、一般に明るく、素直で思いやりがある。また、保護者や地域の方々の学校教育への関心は高く、PTA活動もたいへん熱心である。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は、主体的に課題解決を図り、心豊かに学び続ける児童の育成をめざし、学習情報センター・読書センターの機能を持った学校図書館の構築とその効果的な活用の研究に取り組んでいる。

平成10年度には、県教委並びに市教委の研究指定を受けて学校公開を、平成12年度には県学校図書館協議会主催の図書館セミナーの会場校として、授業等の公開を行うなど研究を継続し、5年目を迎えている。

#### ① 目的別図書室作りと準備

学校全体が「学習情報センター、読書センター」となるよう、学校図書館メディアが収集・整理・保存された目的別図書室作りを推進している。



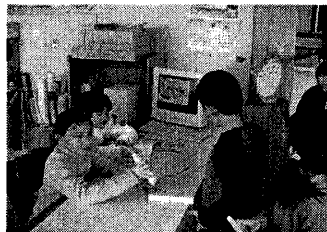
⇐目的別図書室の一つ、「子供学習室」。総合的な学習に活用。

### ② 朝読書の実施



⇐ 毎週2回（水・金）、朝の10分間を全校一斉朝読書の時間に設定している。

### ③ バーコードシステムによる管理運営



⇐ 全職員の手作業によるバーコードシステムの管理運営化の実現。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

PTAの図書館ボランティア「トトロの会」の協力による、読み聞かせ・ストーリーテリング・図書の整理修繕・各目的別図書室の装飾などを行っている。



ボランティアによる活動は、読書意欲を高めるための大きな支えとなっている。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

- ① 目的別図書室の整備、バーコードシステムによって、学習情報センター・読書センターとしての機能が向上している。
- ② 朝読書の実施によって、読書が定着し、読書意欲が高まり読書量も増加している。
- ③ 図書館ボランティアとの連携によって、図書館運営がいっそう充実している。

### (2) 課題

- ① 学校図書館の機能をさらに充実させるためにインターネットの活用やホームページの開設に取り組むこと。
- ② 朝読書を見直し、読まない子供への個別指導と底上げを図ること。
- ③ 公共施設、外部団体とのさらなる連携。



学校名	私立盛岡女子高等学校
所在地	岩手県盛岡市高松1-21-14
電話	019-661-3633

## 1. 本校の概要

本校は、昭和23年創立、「心は豊かに、腕は確かに」をモットーに家政科から始まり現在は、商業科、普通科を合わせ3科をもつ全校生徒541人の私立の女子高である。生徒は素直な者が多く、スポーツは常に県大会においてトップレベルの活躍をしている。

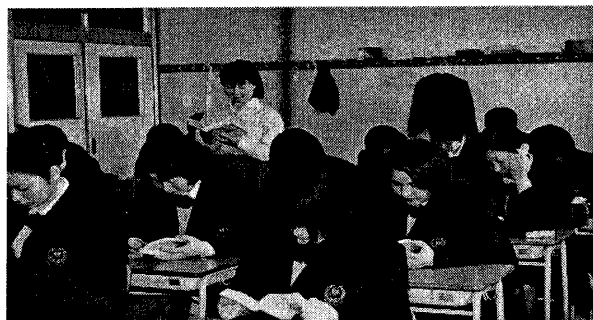
礼法にも力を入れ、挨拶がきちんとできる礼儀正しい生徒の育成に努めている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

朝読書（平成7年4月開始）のねらいは、「活字の本を読ませること」であり、将来母親になるであろう多くの生徒に、読書経験を通じて、「我が子に『読み聞かせ』のできる母親になって欲しい。せめて、テレビに「子守り」をさせるような母親にはならないように」という思いから始めたものである。

高校生の60%から70%が1か月に1冊も本を読まないという状況の中で、生徒からは、朝読書を実施して、「本が好きになった」「集中力がついた」「本を読むことで落ち着きがでてきた」「物事を深く考えるようになった」「家の本棚が漫画から小説に変わった」「朝読書で心が豊かになった」等の感想がよせられている。また、日常生活の中でも、書店へ行く回数が格段に増えたり、人間関係の面でも、自分が感動した本を教師や母親に勧めたりするなかで、友達同士でお互いに読んだ本を貸し借りして交友関係が深まり、他人への思いやりの心が自然に湧いてきた等嬉しい変化が見られた。



### (2) 地域との連携

「読み聞かせのできる母親」の実践学習として、自作の紙芝居を作り、姉妹校であるやよい幼稚園において読み聞かせを実施した。園児たちは、とても喜び、「また来てね」と握手を求めてくる園児も見られた。始める前の不安は一掃され、生徒たちは「読み聞かせ」の素晴らしさを実感したようである。



## 3. 成果と今後の課題

### (1) 内面的変化に驚く生徒

「学ぶことの唯一の証は変わることである」、言い換えれば自分自身の内面的変化にどのくらい気づくか、その“気づき”が多くある生徒がより成長していく。「人間は自分自身の直接体験からしか学べない」と言われる。上記の実践の特色に記したように、朝読書によって一人ひとりが自分なりに変わり、そしてその変容ぶりに自分でも驚き、更に、読書によって着実に、深く、長く、自分を変えていく、その内面的成長こそ朝読書の成果と考える。

### (2) 今後の課題

朝読書の時間は、毎朝とはいえ、わずか10分間であり、その時間が充実していればよいというものではない。学校生活の時間は、その何十倍もあり、朝読書の到達点は“授業”にこそあると考える。学校の全ての授業が“静寂と集中”の朝読書のようになることを目指しており、「全ての生徒が分かる授業」が朝読書の目標である。そして「一人ひとりの生徒が、生きるために必要なことを自分の力でできるようになること、楽しく生き生きとみんなで助け合えるようになること」、まさに“生きる力”そのものを育むことこそ朝読書の究極の到達点であり、今後の課題でもある。

学校名	岩出山町立上野目小学校
所在地	宮城県玉造郡岩出山町下一栗 字片岸浦 9 番地
電話	0 2 2 9 - 7 2 - 1 4 1 4

## 1. 本校の概要

本校のある岩出山町は、宮城県の北部に位置し、伊達政宗ゆかりの史跡が多く、歴史の町としてのたたずまいを残している。

本校は、児童数 72 名、学級数 7 学級からなっている。「強く」「賢く」「温かく」を教育目標に掲げ、心身ともに健全で、たくましく生きる児童の育成を目指している。また、全校を挙げて郷土に伝わる上野目神楽「鶏舞」の伝承活動にも力を入れている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1)「藤澤文庫」の開設

本校では、十数年間にわたり地域の方から本の寄贈を頂いている。現在、それらの書籍を寄贈者の名前をとって「藤澤文庫」と命名し、全校児童による読書活動の充実のために活用している。

児童の、寄贈者に対する感謝の心をはぐくむことに配慮し、道徳の授業で取り上げたり寄贈者との交流会を行っている。

### (2)「郷土出身作家」との出会い

佐左木俊郎は、当町上野目地区出身の農民作家である。高学年の児童の読書活動で、佐左木俊郎の著作や伝記を取り上げている。

児童の中には、「図書の時間」だけでなく朝の「学級の時間」を活用して、佐左木俊郎について調べた者や、「佐左木俊郎文学碑」除幕式の際に、自分から進んで著作の感想発表を希望し、発表した者もいて、読書活動は児童の郷土や郷土出身者への関心を高め、理解を深める上で効果を上げている。

### (3) 家庭との連携、地域との連携

藤沢文庫以外にも、地域の方々からの本の寄贈があり、それらは「学校だより」等で広く地域に紹介している。寄贈いただいた方々へは、PTA や町から、機会をとらえ感謝の意を表していただいている。

### (4)「図書館運営」について

図書委員会の児童と担当教員、町からの派遣職員（巡回図書担当）で図書館運営と整備に当たっている。

派遣職員は、町内の小学校 4 校を巡回して図書館運営に当たっているため、本校における勤務は週 2 日だが、図書館運営全般にわたり大きな力となっている。特に、休み時間等を活用し、派遣職員による全校児童への読み聞かせを試みているが、この時間を楽しみにしている児童も多く、読書意欲の高揚や読書活動の発展につながっている。

## 3. 成果と今後の課題

### (1) 成果

休み時間や放課後に図書館を利用する児童も多く、また、読書量は学年が進むにつれて増える傾向があり、読書習慣が確実に身に付いてきている。更に、「図書館祭り」では図書委員の児童たちが自分たちで校内の読書の傾向を調べ発表したり多読者の紹介をしたりするなど、主体性も育ってきている。

### (2) 課題

児童に「読書の楽しみ」を伝え、読書を通して豊かな心や感性を育成したいと考え取り組んでいるが、現在の学校図書館の蔵書数は、十分とは言えない。児童にとって魅力があり、調べ学習等においても活用しやすいように蔵書を質・量ともに整備していきたい。

今後も、PTA・町・地域と連携を深めながら、より一層充実した読書活動となるよう、工夫していきたい。

学校名 米山町立米岡小学校

所在地 宮城県登米郡米山町西野字古館廻27-1

電 話 0220-55-2009

## 1. 本校の概要

本校は宮城県北の迫川に沿って東西に開けた登米耕土の中心にあり、稲作を主産とする農業の町である。豊かな自然の中で育つ本校の子供たちは、地域と深い関わりを持ち、感性が豊かで自分の思いを意欲的に伝えようとしている。全校児童155名、各学年とも単学級編制で他に特殊学級1、言語通級指導教室2からなる。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 朝の全校読書タイムの実践

平成10年度から、各教室で、朝の10分間読書に取り組んでいる。文字が十分に読めない1年生の1学期は、6年生が紙芝居などの読み聞かせを行っている。心を落ち着かせて一日のスタートが切れるようにと、読書活動推進とを兼ねている。テーマ曲が流れるとどの教室でも静かに本を読む子供たちの様子が見られるようになってきている。



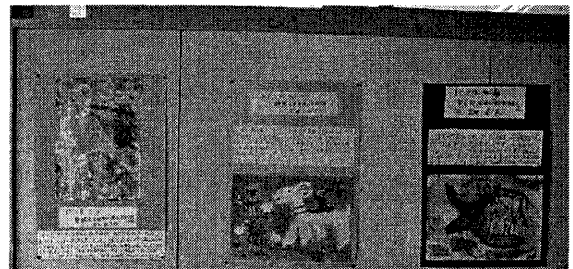
#### ② 目的に応じた図書室の整備

余裕教室を利用し、平成10年度から職員、図書委員会などの協力で、第2図書室の整備を始めた。以前からある第1図書室は読み物中心の本を集め読書活動を担うように整備した。そして第2図書室は学習センターとして、調べ学習ができるようにした。図鑑や辞書、事典類、自然科学や社

会科学、調べ学習の手引きなどを集めた。またテーブルなども準備し、その場で学習できるように整備した。特に総合的な学習の時間が始まってからは、利用頻度が高くなっている。

#### ③ 図書委員会の活動

毎週木曜日に図書室の整頓、本の修理等を行う。また「図書だより」を発行し、図書室のコーナーでは良書や新刊書の紹介を行ったり、朝会での図書集会を企画し、全校に読書の啓発活動を行っている。



#### (2) 家庭との連携、地域との連携

平成13年度の夏にPTAの会報で、家庭に眠っている本の学校への寄贈を呼びかけた。卒業会員の家庭も含めて149冊の寄贈があった。殆ど新刊書に近く、子供が読み終わったからとか、大きくなったので学校の子供たちに読んでもらえればなどありがたい申し出であった。このPTAからの寄贈本は子供たちには大変人気でよく借り出されている。来年度もこの活動を予定している。



## 3. 成果と今後の課題

ほぼ全員が本好きになり、朝の読書タイムは集中して静かに読んでいる。児童の活動、生活に落ち着きが見られ、朝の読書の効果が大きいと言える。

蔵書が2,400冊あまりで一人あたりにすると15冊と少ない。古い本が多く今後は予算の確保と寄贈などで充実を図り、環境整備を続けたい。

学校名	大曲市立花館小学校
所在地	秋田県大曲市花館中町1番40号
電話	0187-63-1022

## 1. 本校の概要

大曲市は、県南部に位置し、全国花火大会で有名である。本校は、出羽丘陵を西に臨み、雄物川と玉川の合流点近くにある。児童数430名、学級数17学級。温和で明るい子供が多く、「ひめがみ活動」と名付けたふるさと教育やマーチング等の音楽活動も盛んである。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 読書活動の推進

- ・毎朝、全校10分間読書タイム
- ・読み聞かせ～昼休み、ボランティアや委員会、クラブの児童による活動
- ・読書まつり、読書集会、エプロンシアター、読書クイズなど
- ・図書館活用年間計画の作成

#### ② 図書館環境の整備

- ・図書整理と本の並べ方の工夫
- ・図書分類と書架案内板の工夫
- ・壁面・掲示板の活用
- ・寝転びコーナーの設置
- ・調べ学習用資料の充実

#### ③ 図書館ボランティア「たまたばこ」の活動

- ・読み聞かせ
- ・図書委員会へのサポート  
貸し出しの手伝い、ディサービスセンター訪問、読書まつりへの支援など
- ・図書館環境の充実のための活動  
本の修理、新刊図書の受付、カバー張り、図書台帳への登録、ラベル貼り、廃棄作業、読み聞かせ予定案内、季節の掲示板コーナーなど図書館の明るい環境づくり
- ・学習への支援

総合的な学習の時間におけるグループ活動への支援、命の学習の講話、ひめがみ活動への参加

### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 「もちより文庫」の呼びかけ

保護者、地域の方々の呼びかけにより、12年度はおよそ700冊、13年度は350冊の寄贈

#### ② 市立図書館からの本の借り出し

ボランティアの方々の協力を得て、学習のテーマに沿った調べ学習用図書の収集

## 3. 成果と今後の課題

(1) ボランティアの方々が、一日中図書館で作業をしたり、子供たちの学習を見守ったりしている。そのため、読書空間に安心感がある。実質的に支援が常時行われていることは、図書館の活性化にもなっている。

(2) 子供の読書への意欲が高まり、本の貸し出し冊数も増えている。今後、個々の子供にとって楽しむための読書と同時に、調べる読書の力、情報収集の力も付けていきたい。

(3) 蔵書数を増やしていくこと、読書に誘う環境づくり、落ち着いた雰囲気づくりなど充実してきているが、さらに、明るい環境の図書館づくりを推し進めたい。

(4) ボランティアの学習支援は、非常に有効である。今後は、単元の構想段階においてボランティアの活用も念頭におき、積極的に進めていきたい。

(5) 開かれた図書館として、保護者や地域の方々の利用も勧めていくため、子育て、教養関連図書も配置し始めた。くつろげる場として利用できるようにしたい。

(6) 他校から活動についての照会が増えたことから、交流会を行って読書活動の紹介をしている。今後、読み聞かせの出前に出かけ、新たな交流をさらに進めていきたい。

学校名	比内町立扇田小学校
所在地	秋田県北秋田郡比内町扇田 字白砂131
電話	0186-55-0043

## 1. 本校の概要

本町は秋田県の北に位置し、昔から商業の中心地である。本校は、全校児童265名の小規模校であるが、町の中心校として創立127年の歴史をもっている。これまでに多くの人材を世の中に送り出しており、世界の平和に貢献した元国連事務次長「明石康」氏も同窓生の一人である。保護者や地域の学校に寄せる期待が高く、協力的である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は長年、豊かな情操と日常生活における読書に親しむ態度を育成してきている。それは、読書指導や発展的な読書など国語科での特色ある授業実践や、朝読書、教師による読み聞かせ等、様々な手立てや時間の確保等の工夫によるものである。

#### ① 図書コーナーの環境整備

昨年落成した新校舎では、2階ホールに図書コーナーを設置し、往来の途中に気軽に本を手にとることができるようにしている。パソコン室との隣接により、学習センターとしての役割も十分機能するようになった。コーナーには町職員がいて、運営・管理の補助、学級担任への情報提供に当たっている。

#### ② 読書活動を中心とした授業実践

授業の中で読書時間を確保することに加え、読書単元や副教材を活用した発展的な読書指導を国語科の年間指導計画に位置付けている。

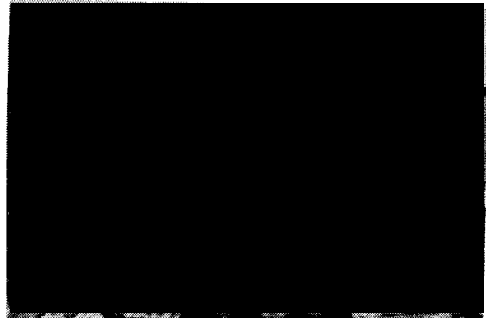
#### ③ お話広場の設定

毎週木曜日の朝に、学級担任以外の教師

による20分間の読み聞かせを実施している。

#### ④ 読むことを楽しむ集いの実施

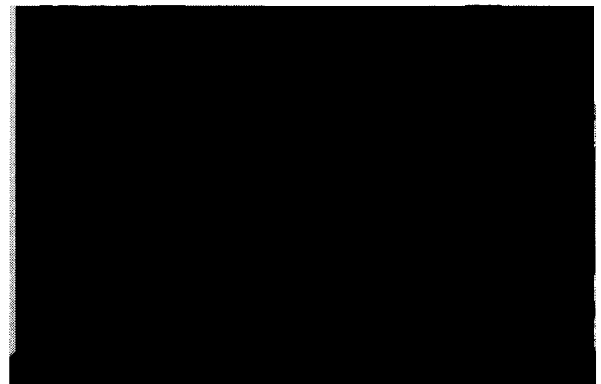
各学年ごとに朗読を発表し合ったり、読み聞かせボランティアの朗読を聞いたりする全校集会を年2回実施している。



#### (2) 家庭との連携、地域との連携

昭和57年からPTAの活動として、親子絵本制作とその読み聞かせを始めている。

その後、PTA学校図書部により読み聞かせや人形劇を上演しており、ユニークな活動として地域へ紹介されている。また、学校図書館への期待や関心も高く、毎年、地域の方や企業から図書の寄贈を受けている。



## 3. 成果と今後の課題

これまでの実践と環境整備により、子供にとって本は身近なものであるという意識が生まれ、日常生活の中に読書が定着し、自らの読書経験を広げることにつながっている。また、PTAや教師の読み聞かせにより、読書の楽しみを知る子供が増えた。そのことが、子供たちの自主的な読み聞かせボランティアに発展している。

今後は一人一人の読書量を増やし、小学生であつても長編を読み切るだけの読書力を身に付けさせていきたい。

学校名 山辺町立相模小学校  
所在地 山形県東村山郡山辺町大字根際2283  
電 話 023-664-5254

## 1. 本校の概要

本校は山形市に隣接した風光明媚な高台にある。創立101年目の伝統と歴史ある学校に、10学級・247名の児童が元気に登校してくる。

豊かな自然の中で生活している子どもたちが生活様式は都市部とさほど変わらない。テレビやゲームを好み活字離れの実態を憂い、全校の取り組みとして読書活動に力を注いできた。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

豊かな感性を育み、読む力や表現力の育成を目指して、全校で日常的に実践していることが特色と言える。

#### ① 毎朝10分間の「さわやか読書タイム」

この時間は日課表に位置付け、全教職員・児童が朝読書に取り組んでいる。何も規制せず、要求せず、自由に読書を楽しむことができるこの時間を、子どもたちは楽しんでいる。

#### ② 詩の暗唱・詩作活動の奨励

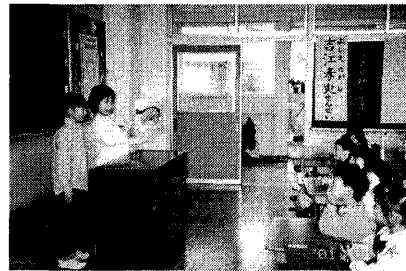
児童用暗唱詩集「花のいろ」は7号になり、校長室や職員室、教室では詩を暗唱する子どもたちの声が聞こえてくる。



#### ③ 図書室の環境整備、学級・学年文庫の充実

図書室は常に子どもたちに開放し、カーペット敷きにしたり装飾を工夫したりして、楽しく読書ができる雰囲気を作っている。廊下も楽しいコーナーとして活用している。

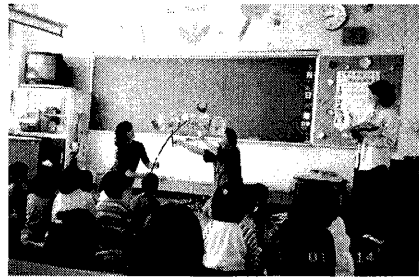
#### ④ 児童会活動による低学年への読み聞かせ



### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 毎週月曜日は読み聞かせの日

本校では、数年前から地域の保護者の方が本の読み聞かせに来てくれており、月曜日は楽しい読み聞かせの日として定着している。



#### ② 図書室環境整備、

図書修理等のボランティア

#### ③ 図書の充実

## 3. 成果と今後の課題

### (1) 落ち着いた朝の時間

始業前は詩を暗唱する子どもでいっぱいの職員室も、8:30になると静まり返る。本校はノーチャイムでもあり、朝読書で迎える朝は、落ち着いた時間が流れている。

### (2) 読書が好きな子ども

子どもたちの読書量は確実に増え、本を読んだり話を聞いたりする学習活動が好きな子どもが多くなった。

また、歌を口ずさむように詩を声に出している子どもが育ってきている。

### (3) 家庭での読書に

学校で読書する子どもも家庭ではなかなか本を読まない現状である。家族が読書を通して話題を広げたり絆を深めたりするよう、家庭でも読書の習慣化を図りたい。

学校名 山形県立松山里仁館高等学校  
所在地 山形県飽海郡松山町字新屋敷 16 番地  
電 話 0 2 3 4 - 6 2 - 2 6 0 2

## 1. 本校の概要

本校は、明治2年藩校として開校、昭和23年松嶺高等学校として創立、昭和56年現在地に新築移転して松山里仁館高等学校となる。今日まで全日制・普通科の小規模高校として、約300名の卒業生を輩出し、地域の人材の育成に貢献してきた。しかし、近年の少子化の影響を受け生徒数が減少し、平成12年度には生徒の募集を停止し（2学級在籍数20名）、ついに平成13年度末（1学級在籍数5名）をもって山形県で初の「本校」としての閉校となる。

最後の年となった今年度は、地域に図書館と体育館を開放し、町民と生徒の交流を深めた。

## 2. 本校の読書実践活動の概要

### （1）本校の実践の特色

特に、募集停止の方針が出てからの生徒の動揺は計り知れないものがあり、生徒に元気を与え、自信を持たせようと諸教育活動に取り組んできた。「総合的な学習」としての「里仁学」の先取りや、「朝の読書」の実践もその一つである。「朝の読書」は平成10年4月から実践した。当初、本に馴染めない生徒、何もしないで終わる生徒、故意に遅刻をする生徒などがいた。しかし、年間170日以上の実施の継続は次第に生徒を変えていった。

- ① 定期試験や朝からの行事のある日を除き毎日10分間（8：45～8：55）読書に当てる。
- ② 各自事前に本を準備し、読後、最小限の記録をする。（書名、作者、一行感想等）
- ③ 担任も生徒と一緒に読書をし、他の職員は職員室の各自の机で同様に読書をする。
- ④ 遅刻生徒は、届を提出して図書館で読書をし、読書中の教室には入らないようにする。

⑤ 遅刻者の指導には毎朝、教務課と生徒課の職員があたり、遅刻防止と静寂の指導に努めた。

⑥ 夏休みの課題として、読書感想文を全員に提出させている。県のコンクールや、町の「千枝子賞」（哲学者阿部次郎の3女エッセイスト提唱）に応募している。

⑦ 現在、図書館には2台のコンピュータがあり1台は図書管理システムに、他の1台は生徒が自由に使えるようにしている。

### （2）家庭及び地域との連携

① 朝の読書については保護者に随時状況を説明し、協力をお願いしてきた。

② 今年度5月～1月末の間、地域に図書館を開放し（毎日10時～15時）町民に利用してもらった。地区の公民館に併設した図書館は小規模で、本校の約1400冊の蔵書は町民には魅力があり、その利用数は多く、町の広報誌にも状況を報告した。

## 3. 成果と今後の課題

（1）朝の読書の継続で図書の貸出数は確実に増加した。一人平均貸出数は平成10年度17冊、11年度26冊、12年度20冊である。

（2）本に対する興味・関心が生まれ、生徒と教員の間の会話も読書に関することが多くなった。

（3）読書のマナーが良くなった。休み時間も読書をする生徒がでてきた。

（4）朝の10分間の静寂で、次の行動への切り替えがスムーズに行われるようになった。

（5）図書館の地域開放により、町民の読書をする姿が学校で頻繁に見られるようになり、生徒への大きな刺激となった。また、朝の読書を経験した卒業生の利用もあり、読書習慣の定着が確認できた。利用者が多かったのは、体育館の開放との相乗効果と考えられる。

（6）今年度末をもって図書館は町の施設として引き継がれるため、現在、図書の整理とコンピュータシステムの整備に取り組んでいる。

学校名 山形県立酒田聾学校

所在地 山形県酒田市大字宮海字新林307

電話 0234-34-2019

## 1. 本校の概要

本校は幼稚園、小学部、中学部から成り、言語力の向上と心豊かな人間性の育成を目指している。コミュニケーションは主に聴覚口話法で進められ、各学部とも小中学校等との交流教育を実践し、望ましい人間関係と集団への適応力の向上に努めている。地域に開かれた学校づくりの一環として通級指導教室を開設し、通常の学級に在籍する聴覚や言語に軽度の障害のある児童等に支援・指導を行っている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

読書を中心とする「読み」の活動は、聴覚障害児にとっては、特に情報獲得や心の育成を図る上で欠くことのできない重要なものである。そこで本校は、「進んで本を読む子に育てたい」「おもしろい学校図書館を子どもたちに実感させたい」「子どもの成長を願って、保護者と共に響き合いたい」という願いのもと、保護者や地域ボランティアと連携し、取り組んでいる。

### (2) 学校図書館ボランティア活用



① 「読み聞かせ活動」：大型紙芝居やペープサートなどを用いて年間10回程度行う。

② 「体験活動」：将棋や折り紙のやり方などを紹介し、実際に体験する。

③ 「おはなし会」：釣りや骨董品など趣味の話から、本や職業に関する話などを聞く。

④ 「図書室の環境整備」：週2回、本の整理や新刊図書の紹介などを行う。年1回子ども、保護者、教員も共に本の整理や修繕活動を一齐に行う。

### (3) 絵本作家土田義晴さんとの交流

① 「おはなし会」：絵本を読んだ感想発表や、お話ししながら絵を描いてもらう。

② 「絵本作り」：土田さんの指導のもと、一人1冊の絵本作りを行い、発表会を開催する。



③ 「小物制作やお菓子作り」：土田さんの絵本に掲載されているものを土田さんと一緒に作る。

### (3) 図書担当教諭や児童生徒主体の活動

① 図書担当教諭：「本の紹介」や季節や行事に合わせた「おはなし会」。読書月間に「読書感想文発表会」や「読み聞かせ」「名作ビデオ上映会」など。

② 児童生徒：全校朝会で「読書クイズ」や「私のお勧めの本紹介」「貸し出し数調べ」など。

## 3. 成果と今後の課題

### (1) 図書室を利用する子どもが増えた

① 図書の貸し出しカードによる利用数も増え、さらに朝の時間など図書室を利用する子どもが多くなっている。本に興味・関心をもつようになり、本の世界に浸ることができるようになった。

② 土田義晴さんの心に触れ、土田さんの本が愛読書となった。

### (2) 人との交流を楽しみにしている

① 毎回違った人、違った内容であったため、興味津々でいい表情をしながら聞いていた。

② お母さんやお父さんがより身近な存在となり、本の内容についても、親子で話し合うなど、共通の話題が広がった。

今後の課題としては、ボランティアの方による活動時間の位置づけと、物語への興味を引き出し、本を読もうとする働きかけをどう継続していくのかをさらに考えていかなければならない。「進んで本を読む子」を目指し、「教師・保護者・地域」がより響き合って活動を進めていきたい。



学校名	会津若松市立第三中学校
所在地	福島県会津若松市湯川町4番20号
電話	0242-27-0994

## 1 本校の概要

本校は、会津藩校「大成殿」の精神を戴し、由緒ある歴史と伝統を背景に文武両道を旨とし教育活動を行っている。特に朝の読書活動の他、帰りの学活時の歌声活動や全日本合唱コンクール金賞7回受賞の実績をもつ合唱部に代表される活発な合唱活動、さらに学校花壇の充実に力を入れている。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 朝の10分間読書活動の実施（平成10年4月より）

○毎朝、学活の前10分間（8時15分～25分）全校生が各学級で読書を行う。

○学級担任もいっしょに読書を行う。

○4つの原則

- ・全校一斉に行う ・毎日続ける
- ・好きな本でよい ・読書以外何も求めない

#### ② 図書館の開館時間の工夫

毎朝7時45分から開館し、朝の読書活動が効果的に行えるよう配慮している。さらに昼の休み時間に担当教師と図書委員が本の貸し出しを行っている。

#### ③ 計画的な図書の購入と広報活動

市教育委員会の図書購入予算をもとに、購入希望図書の調査を行い、生徒の読書傾向を配慮した図書購入を行っている。また読書調査結果を活用するなどして、図書紹介コーナーを設置し、全校生へ図書案内を行っている。

### (2) 家庭及び地域との連携

#### ① PTA会費から毎年予算化し、学校図書を計画的に購入し、図書の充実に図っている。

#### ② PTA文庫を設け、専用書棚に設置し、いつでも保護者が利用できるよう配慮している。

る。

#### ③ 毎週発行される学年通信や生徒一人一人が毎日提出する学習ノートにその週に読んでいる図書名を記入し、週末保護者に確認してもらうなど、学校での読書活動の状況を家庭に周知し、家庭でも読書について話し合えるよう工夫している。

#### ④ 定期的に来校する市立図書館職員から、図書の補修や蔵書管理についてアドバイスを受け効率的な図書館運営ができるよう改善を加えている。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

#### ① 静寂と集中の時間の確保

一日の初めに心を静め、集中した時間を持つことにより、落ち着いた学校生活を実現し、学習効果を高めた。

#### ② 本を読む能力の伸長と学力の向上

文章を読み取り、理解する能力は不易なものであり、学力向上の一助となっている。

#### ③ 教科学習等とのつながり

読書によって出会ったことをもとに総合的な学習の時間の研究テーマを設定し、追究するなど、学習が有効に作用し合った。

#### ④ 豊かな心と望ましい人間関係の育成

物の見方や考え方に深まりが見られるようになり、他者を受容する心が育成され、尊重し合う姿が見られるようになった。結果的に人間関係は一層深まり、互いに高め合う姿勢が見られた。

### (2) 課題

#### ① 読書内容について、今後、級友や教師、家庭でコミュニケーションをもてる方法を工夫し多様な見方や考え方によって、さらに生徒の認識が深まるよう工夫したい。

#### ② 放課後の開館など、図書室の運営を見直しより一層生徒が本に親しみ、同時に読書活動が効果的に行えるよう改善を図りたい。

学校名	都路村立都路第一中学校
所在地	福島県田村郡都路村古道字北町4-6
電話	0247-75-2009

## 1 学校の概要

本校は、阿武隈山系の中程に位置する人口約3,200人の都路村にある。普通学級3学級、生徒数68名、職員数13名の小規模校である。

生徒は、明るく純粋で、教師の働きかけに対して素直な反応を示す。保護者も学校の教育方針に理解を示し協力的である。

## 2 本校の実践の内容

### (1) 本校の実践の特色

本校が朝の読書を始めるようになって6年目となる。平成8年度入学の新1年生からのスタートであった。担任の国語教師が、文章を読む力のなさへの対応として始めた。1年間はほとんど効果は認められなかったが、3年を経過した時期より集中力の向上や落ち着いた態度の醸成等の効果を認め、平成10年度の4月からは、全校体制で取り組むこととした。

文字に触れる機会を確保し、1日の始まりを落ち着いた雰囲気迎えられよう取り組んでいる。身に付けさせたいことは、第一に読書の習慣であり、その延長として、文章を読む力、落ち着きある態度、時間に対するけじめや活動への集中力などである。

#### ①活動内容

始業前の15分間を使って、全学年で朝の読書をする。漫画以外はどのような本でもよく、読後の感想文提出等の強要もしない。自分で本を持ってきて読むが、手軽に本を購入できない地域なので学校図書、学級文庫、寄贈図書を借りて読む生徒が多い。読み終わった本を学級文庫に提供する生徒もいる。特別な行事がない限り毎日実施し、学級担任も一緒に読書する。

#### ②教育課程上の位置付け

朝の読書活動を、創意を生かした教育活動と

して位置付け、「自ら学び自ら考える力の育成を図る」「創意工夫を生かし」た「特色ある教育活動」として実施している。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

「読む力がない」生徒の実態から始まった実践である。教職員集団の熱意や保護者の理解、取り組みへの具体的な計画や共通理解の下現在に至る。

できるところから始めようと実践した朝の読書が6年目を迎え、全校体制で取り組めるようになった。生徒自身も、取り組み当初は目に見える成果を感じられない状況であったが、教師の粘り強い働きかけにより、アンケートでは「楽しい」とする回答が多くなり生徒の意欲的な取り組みが感じられる。7割弱の生徒が集中して読書ができていると答えている。当初のじつくりと活字を追いながら読む活動が徐々に習慣化してきたものと考えられる。朝の読書で得たものの中に「集中力」と答える生徒が増加し「読書の楽しみ」「読解力」と続いている。また、読むことにより文章が理解できるようになったと感じている生徒も多い。

ストーリーへの同化や自分の思考や想像を広げたり耕したりできる生徒も増えてきている。朝の読書を通した成果は、一人一人の生徒によって異なっているが、それぞれの活動の意義を感じながら読書活動に取り組んでいる現在である。

### (2) 今後の課題と改善策

①1年生は、これまで読書になじんでいないせい、1冊の本を読み終わるのに時間がかかり過ぎる傾向がある。これからも継続して読む力を高めていけるようにしたい。

②安易な本を続けて読む傾向がある。本の紹介などを工夫し、読む本の内容や論理的な能力を身に付けさせていきたい。

③読書後の本のよさや感想等について情報交換を図る機会を設けるなど、朝の読書の時間のより効果的な運営について検討し、生活にとけ込んだ読書環境づくりに努めたい。

学校名	久慈郡里美村立小里小学校
所在地	茨城県久慈郡里美村小中202
電 話	0294-82-2404

## 1 本校の概要

本校は茨城県北部の山間部に位置し、学区の中央を里川が流れ、恵まれた自然環境にある。

平成11年度より児童が充実した学校生活を送るとともに、豊かな心と知識力、読解力及び表現力の育成を目指し「朝の読書」活動に積極的に取り組んできている。家庭・地域との連携をさらに密にし、活動の充実、活性化を図ることとしている。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

「朝の読書」活動は、みんなで、毎日、好きな本を読むことを基本方針として、

- ・朝の読書の習慣化と豊かな心の育成
- ・知識力、読解力、表現力の向上や心情面の深化
- ・異学年、全職員や地域の人材の活用による読み聞かせを通しての人的交流を目標として研究を進めた。

#### 〈方 法〉

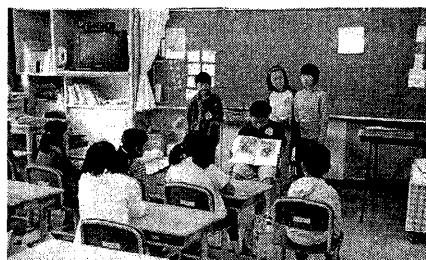
- ・週4回、全学年一斉に、午前8時10分から8時25分までの時間に行う。
- ・「ひとり読み」を基本とする。
- ・全職員、高学年児童及び地域の人材の活用による「読み聞かせ」を火・木曜日に実施する。
- ・読書記録を取り、読んだ本の足跡を残す。



## 〈実 践〉

### ①「読み聞かせ」の実施

- ・高学年児童が低学年児童に対して実施。
- ・全職員や地域の読み聞かせサークルが全校児童に実施。



### ②学級文庫、学校図書館の整備

- ・図書の充実
- ・「読書コーナー」の活用によるみんなにすすめたい本、感動した本の紹介

### (2) 家庭との連携、地域との連携

- ・学校、学年だより等での保護者への啓発
- ・親子読書会の実施とアンケートの実施・分析
- ・PTA文庫「ひまわり文庫」の活動における互いの感動の伝え合い

## 3 成果と今後の課題

### 〈成果〉

- ・読書中の静寂が授業まで継続し、より落ち着きのある態度が見られる。
- ・自主的に本を選択し、読む習慣が定着する。
- ・児童同士や保護者が職員室で自分の感動した本について話し合う場面が見られるなど、本を話題にした会話が aumentando。
- ・毎日の積み重ねによって根気よく続けることや自分自身と向き合う時間を持つことの大切さを、毎日の読書によって確実に学んでいる。
- ・「人の気持ちが分かるようになった。」と自分自身の心の成長にも気付いている。
- ・里美村内の小・中学校、高校が一体となった読書活動が推進されている。

### 〈課題〉

- ・読書の日常化
- ・図書の充実と学校図書館の環境整備
- ・家庭・地域を巻き込んだ読書活動の推進

学校名	龍ヶ崎市立長山小学校
所在地	茨城県龍ヶ崎市長山5丁目7番地1
電話	0297-66-7092

## 1. 本校の概要

本校は、東京のベッドタウンである龍ヶ崎ニュータウンの中にある。平成元年創立で、現在児童数 355 名、学級数 13 の中規模校である。

児童は明るく活発な子が多い。保護者の多くは学校教育に関心が高く協力的である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

児童と本の結び付きを深め、児童自ら進んで本に向かわせることによって、読む力、伝え合う力を高め、思いやりの心をもち、表現力豊かな児童を育てたい。そのために、読み聞かせ、10分間読書、読書へのアニメーション、ブックトークなどに保護者の協力を得ながら全校をあげて取り組んでいる。

#### ① 読み聞かせ

毎週火曜日、朝の20分間、学年別に保護者ボランティア、教職員が2冊程度の本の読み聞かせを行っている。高学年においては本の紹介も行う。図書の選定は教員、保護者ボランティアでつくっている各学年の「本の会」が行っている。

#### ② 10分間読書

火曜日以外の毎日、1校時前の10分間自由読書の時間を設けている。児童は好きな本を自由に読む。読んだ本は記録用紙に各自記録し、自分のファイルに綴じ込んでいく。この時間帯は学校の静寂の時間としている。

#### ③ 読書へのアニメーション

読書へのアニメーションはスペインで生まれた読書指導の手法である。これは読んだ本をもとに児童がゲームを楽しみながら、読書力を高めるものである。アニメーション

の中で、児童は友達の読み方を聞いたり、お互いに意見を交わすコミュニケーションを通して一人で読んでいるだけでは気づかなかったことに気づき、新たな発見をしたりすることもできる。このことは児童の読書を確かなものにし、次の読書に発展させる。本校では全学年で学期1回以上読書へのアニメーションに取り組んでいる。

#### ④ ブックトーク

読み聞かせの感想発表会やみんなにすすめたい本の紹介などに取り組んでいる。

## (2) 保護者との連携

### ① 読み聞かせ

保護者ボランティアが中心になって取り組んでいる。ボランティアは全校で80名を越えている。よりよい読み聞かせを行うために自主的に研修も行っている。

### ② 読書へのアニメーション

この取り組みは教員と保護者ボランティアの共同実践である。研修も教員と保護者が一緒に行っている。

## 3 成果と今後の課題

「読み聞かせ」で本と出会い、「10分間読書」で自ら本に向かい、「読書へのアニメーション」で本の楽しさや読み方を知り、「ブックトーク」で本の世界を広げる。本校ではこの四つの取り組みがバランスのよい一連の流れとなり、児童を効果的に読書の世界へと導いている。次の点が、実践の成果としてあげられる。

- 児童の本に対する興味関心が高まった。
  - 自ら積極的に本を読む子が多くなってきた。
  - 本を読むときに、物語の構造や順序を意識しながら読むようになってきている。
- 次の点が今後の課題である。
- 今までの取り組みの改善と新たな読書活動の開発
  - 教科、領域での多様な読書活動の在り方
  - 読書環境の整備

学校名	北茨城市立磯原中学校
所在地	茨城県北茨城市磯原町豊田 556
電 話	0 2 9 3 - 4 2 - 0 1 1 6

## 1 本校の概要

本校のある北茨城市は、茨城県の東北部に位置し、北は福島県と接している。

本校は、生徒数 507 名、学級数 15 学級からなり、生徒の自主的な活動の育成に力を入れている。体育祭や文化祭などは、生徒による手作りの行事である。また、体験学習にも積極的に取り組める体制を組んでいる。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 朝の読書の時間

本校のめざす生徒像の一つである「豊かな心を持ち進んで協力する生徒」の施策の一つとして、始業前 10 分間「朝の読書の時間」を設定して全校で実践している。

#### ② 学級文庫づくり

生徒会図書委員会が、読書活動の推進のために、図書室の本や自宅から持ち寄った本を集めて学級文庫を作り、管理している。

また、全校生徒から、読んでみたい本や推薦する本のアンケートをとって本の購入をしている。

#### ③ 1 学年の読書集会

中学校に入学して、小学校で経験のなかった「朝の読書の時間」への戸惑いの解消や自発的な読書活動、読書の習慣化のために、6 月の学年集会で読書集会を開いた。主な内容は、次のとおりである。

- ・ 読書クイズ（図書委員を中心にして）
- ・ 語り聞かせ（国語担当の教師による）
- ・ 薦めたい本の紹介（各学級 1 名。これまで読んだ本の中から、友達に本の紹介）
- ・ 私と読書（各学級 1 名によるパネルディ

スカッション）

### (2) 家庭との連携、地域との連携

4 月、入学式や P T A 総会の懇談会の折り保護者に本校の読書活動について説明し、家庭で本の購入や読書に関して話題にしてほしい旨、協力を呼びかけている。

## 3 成果と今後の課題

読書活動を進めてきたことで、豊かな心をもつ生徒が育ってきている。また、読書の習慣が身に付き、読書の楽しさが分かってくるなど、その成果は顕著なものがある。

### (1) 生徒の変容（平成 13,10,30 調査）

- ・ 「朝の読書」は自分のためになっているとする生徒の割合

1 年	4 4 %
2 年	5 4 %
3 年	6 3 %

〔主な理由〕

- 1 年 考える力がついた。知識がふえた。
- 2 年 本のおもしろさがわかった。
- 3 年 いろいろな本に興味をもった。

- ・ 「朝の読書」を始めて、何らかの変化があったとする生徒の割合

1 年	2 6 %
2 年	3 1 %
3 年	4 7 %

〔主な理由〕

- 1 年 家でも本を読むようになった。
- 2 年 本を読みたくなった。
- 3 年 以前は話すことが苦手だったが、発表内容に自信がもてるようになった。

### (2) 今後の課題

- ・ これからもより質の高い読書活動の推進を図るために、学校図書館図書や設備の充実を心がけていく。
- ・ すべての生徒が進んで読書活動ができるようにするため、生徒へのかかわりや指導をどう進めるか研修を深めていく。

学校名 今市市立今市小学校

所在地 栃木県今市市今市531

電話 0288-22-0054

## 1. 本校の概要

本校は今市市の中心部にあり、創立128年の伝統ある学校である。近年は児童数が減少し児童数402名、学級数15（個別指導学級3を含む）の中規模校である。

子どもたちは明朗で、情緒も比較的安定しており、ノーチャームで児童の自主性の育成に力を入れている。保護者の教育に対する関心も高く、教育活動に協力的である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ①朝の読書

昭和50年に、国語学習の発展として始められた朝の読書は、27年目を迎えた。

朝の読書は、週に5日、始業前の20分間で実施しているが、それによって読書活動を推進するとともに、一日を落ち着いた雰囲気ですtartすることをねらいとしている。自由読書が基本であるが、図書委員会の児童や図書館ボランティアによる読み聞かせもある。また、職員打ち合わせのない日は担任も一緒に読書をする。

#### ②読書2000ページ運動

読書の積み重ねを大切にし、達成度によって表彰する。児童の実態に応じて、内容を改善しながら実施してきた。ほとんどの児童が校長室での表彰を受けることができ、その際の励ましの言葉かけによって読書意欲がより高まっている。

#### ③各学級での読書指導、及び学級分館の設置

年度始めに、担任と図書館担当者とのTTによる読書指導を実施し、全校の共通理解を図るとともに、読書への意欲付けをしている。

また、各学級60冊ずつを図書館から選んで学級分館として設置し、読書環境を整えている。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

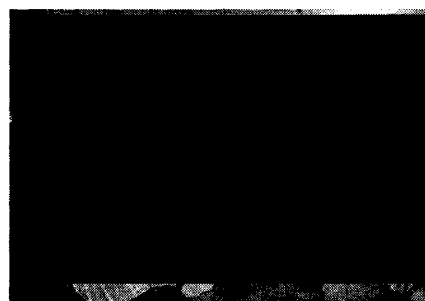
平成12年度から保護者に呼びかけて、図書館ボランティアとして活動を開始した。

①朝の読み聞かせ－毎週水曜日の朝（一部土曜日）担当の学級で読み聞かせをする。

②学校図書館の整備－毎週水曜日の放課後、図書室の整備、調べコーナーの拡充、新刊図書の受付などの活動をする。

③読書の集い－秋の校内読書週間の時に、全校生を対象に、プロジェクターを活用して絵本の読み聞かせをする。

④子どもの好きな本の紹介－読み聞かせをした本の中から好評だったものをまとめて、保護者に知らせる。



＜絵本の世界を楽しむ子どもたち＞

## 3. 成果と今後の課題

### (1) 成果

長年の伝統により読書活動を大切にする校風が築きあげられて児童の心が育ち、学校全体の雰囲気が落ち着いたものとなっている。また、2000ページ運動により児童の読書量に発達段階に応じての増加が見られる。さらに、図書館ボランティアによる読み聞かせが始まったことでより楽しい読書活動ができるようになり、読書への興味関心に深まりが見られた。

### (2) 今後の課題

読書センター、情報センターとしての図書館を充実させていくための取り組みを進めるとともに、更に効果を上げるための専門的な知識を持った司書の配置が求められている。

学校名 栃木県立宇都宮女子高等学校  
所在地 栃木県宇都宮市操町5-19  
電話 028-633-2315

## 1. 本校の概要

本校は明治8年栃木女学校として創設。  
昭和23年宇都宮女子高等学校となり現在  
に至る。普通科9クラス。生徒数1,080名。

## 2. 本校の実践の概要

本校生徒の読書量も、例に漏れず目に見えて減少していた。当然、図書館の果たす役割も低下しつつあった。その結果、過去に比べ言語感覚の乏しい生徒が増え、自己認識も稚拙になり、同時に社会認識の希薄さが目立ち始めていた。言語感覚は、自己確立に欠かせない必須の能力であるという視点から、活発な読書活動を促すため、以下の取組みを始めた。

### (1) 図書新聞のリニューアル

平成8年、それまで一部の図書委員によって趣味的に作られていた月刊図書新聞を改革。森羅万象に対する生徒の好奇心を喚起することを目的とし、「今」の視点から古今東西のあらゆる文化的・社会的事象を対象に、知的・感覚的に切り込んでいく編集に改めた。その結果、図書貸し出し数は前年比約1,000冊の増加が2年間続いた。その後、上昇曲線はやや鈍化しているが、現在も高いレベルを維持している。

### (2) 委員会合宿の強化

前年まで行われていた委員会合宿の内容を強化し、レファレンス能力など、図書委員の資質向上を図った。

研修内容は、例えば、グループ毎に「沈黙の春、シーア・コルボーンなどをキー

ワードに現代を語りなさい」「スーパーカミオカンデとは」「我が国及び世界のボランティアの活動内容を調べ、現代におけるボランティアの意義を述べなさい」などのテーマを与え、3時間後に発表をさせ、相互に質問を交わし、論拠のよりの確なグループに点数を加算する、といったものである。

### (3) 機関誌「書苑」の充実

通常の、年間活動報告、アンケート、読書感想文の他に、特集として年ごとのテーマを決め、1年をかけて編集する。

「特集」のために、5月から毎週編集委員会を開き、テーマ設定。7月から10月まで取材。11月から関係資料の収集、検討、話し合いを行い、編集にはいる。構成、写真挿入、ページの割付に至るまでまで、パソコンを用いて編集をした。今年は、190ページの冊子が完成した。

### (4) 生徒総会でのアピール

年2回の生徒総会において、2mの模擬本やオーバーヘッドプロジェクターを用い、貸し出しの仕方や紛失図書に関するデモンストレーションを行うことが、定例の行事のようになっている。

## 3. 成果と今後の課題

平成7年までの本校の図書館は、年ごとに低迷を続け、昭和のある時期の2万冊という貸出し数は、まさに隔世の感であった。今回の実践でそこまでの回復には至らなかったが、停滞した図書館が活気づき、全校生の読書に対する意識が高まった。現象面では、貸し出し数の増加とともに紛失図書の急速な減少がみられた。

実践の中心となった新聞及び機関誌の改革の目的は、既に記したように、生徒たちの知性、及び感性の深まりを期待したものである。今後も、その目的に添ったより純度の高い編集を心がけていきたい。

学校名 伊勢崎市立三郷小学校  
所在地 群馬県伊勢崎市波志江町1620  
電話 0270-25-4442

## 1. 本校の概要

本校は伊勢崎市の北部に位置し、田園地帯と住宅街に大別できる地域にある。児童数は691名で全21学級からなっている。児童は大変素直であり、ノーチャイムによる学校の取組の中で、様々な活動に真剣に取り組んでいる。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

平成8～9年度、県立図書館から「親子20分間読書運動」の指定校を受けたのを契機に、児童の強い希望と「価値ある活動なので是非継続させたい」との保護者の意向を基盤にして、ボランティアによる「読み聞かせ・親子文庫」活動が今日まで熱心に展開されている。

さらに、今年度から市全体で取り組んでいる「一校一学」（特色ある学校づくり）の具体化として、毎朝10分間全児童による「自主読書」（高学年による低学年児童への読み聞かせを含む）に取り組んでいる。

#### ① 読み聞かせ



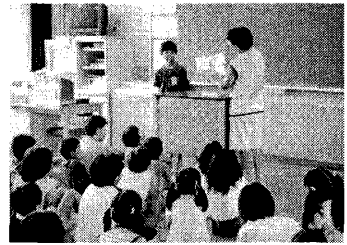
毎週木曜日（8:20～8:35）に、本校の蔵書やボランティア所有の

本、市立図書館より借用した本を活用してボランティアの方々が、主に学級単位で読み聞かせを行っている。

#### ② 親子文庫の貸し出し

学校図書室とは別に、毎週金曜日（13:30～55）に県立図書館等から借りた本を、ボランティ

アの方々の運営により、児童に貸し出している。



#### ③ 自主読書



自分で読みたい本を自分で選び自分のペースで読書していくこと、下級生に対して読み聞かせをする

ことを通して相手に伝わるよう声を出して読むこと、上級生から下級生までの一体化が図れることなどを目指し、毎朝（8:40～8:50）自主読書の時間を設定し児童自身による「自主読書」を実施している。

#### (2) 家庭との連携、地域との連携

読み聞かせと貸し出しは、「児童の心を耕し、心の教育に通じる。」ことを学校・家庭・地域が共通理解して取り組んでいる。

## 3. 成果と今後の課題

親子文庫の貸し出し日には300～400冊が貸し出され、読み聞かせでは、一学級あたり低学年で年間約100冊、高学年で年間約30冊の本を読み聞かせてもらっている。「貸し出し」と「読み聞かせ」の相互作用により、読み聞かせていただいた本を読んでみようとする児童、以前自分で読んだことのある本も読み聞かせの経験から新たな発見をする児童などが見られた。

毎朝10分間の「自主読書」では、落ち着いた状態で一日の生活がスタートできるだけでなく、これまで受け身だった「読み聞かせ」に能動的にかかわり、自信をもってきた高学年生や、その高学年生を尊敬の眼で見るようになった低学年生が多く見られるようになった。

今後、ボランティアと学校図書館の連携による図書室の整備を進めることが課題である。



学校名	藤岡市立藤岡第一小学校
所在地	群馬県藤岡市藤岡 1 8 4 8 - 2
電 話	0 2 7 4 - 2 2 - 0 5 4 9

## 1. 本校の概要

明治 6 年に「藤岡学校」として開校し、今年で 128 年を迎える歴史と伝統をもつ学校である。市内の中心部に位置しているが、周囲は豊かな自然に恵まれ、学校の周囲は市民憩いの城址公園となっている。在籍児童数は 747 名、23 学級である。

## 2. 学校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 業前・学級活動

水・木曜日の業前は全校で読書をしている。また、帰りの学活では担任による読み聞かせを行っている

#### ② 授業時間の活動

1～5 年生では各教科での調べ学習や読書の他に、自分で課題を選んで解決していく自由研究がある。6 年生では学習のまとめとして卒業論文を発表している。自分の未知な情報を得ることが必要であり、学校図書館やパソコン室、市立図書館の利用時間を設け、情報収集の力や、得た情報を活用する力などが身に付くように支援している。

#### ③ 読書月間の活動

6・11 月を読書月間とし、自分の読書について再確認したり読書の幅を広げたりする機会としている。秋には読書感想文の学年代表作品が発表され、友達の心情を表す言葉に耳を傾けながら聞いていた。図書委員会では 1 年生への読み聞かせ、顔写真付きの「おすすめの本カード」作り・壁新聞の発行・しおりのプレゼントなどを行った。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 読み聞かせ班活動

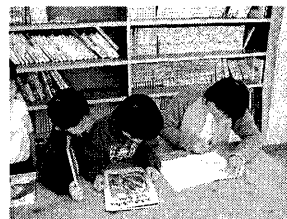
毎月第 1 火曜日には 24 人の読書ボランティアの方が 1 時間ずつ読み聞かせを行っている。

児童は静かに本の紹介や読み聞かせのお話を聞き、楽しんでいる。

#### ① 読み聞かせ



#### ② 貸し出し



#### ① 本の貸し出し班活動

P T A の学級委員の方が、毎週火・金曜日に学校図書館にある P T A 寄贈図書の貸し出しや読書相談、本の整理を行っている。

#### ② 広報班活動

「BOOK ちゃんだより」は読書ボランティアの方による月 1 回の広報誌で、学校や家庭での取組の様子や先生達の読書体験、良書の紹介などを行っている。児童と保護者が一緒に読め、家庭への読書の啓発になっている。

#### ③ 市立図書館との連携

市立図書館とのネットワーク化が整い、読みたい本の検索・予約ができる。図書館巡回車と給食の配送車の活用により、すぐに本が届く。学期毎の 300 冊の貸し出しや、自由研究等のテーマにあった本を置く夏休みの「第一小コーナー」の設置などを工夫している。図書館司書は各学級を毎月 2～3 日巡回し、おすすめの本の紹介、児童への指導や事務処理を行っている。

## 3. 成果と今後の課題

○学校図書館の利用人数や貸し出し冊数が増え、授業の合間にも気軽に本を手にするようになってきている。今後も読書を通して豊かな心が育まれるように取り組んでいきたい。

○「読みたい、調べたい」という児童の欲求に対し、適切な情報を児童自身が選択できるよう、図書の充実とパソコンの活用を図りたい。

○「読書センター」「学習情報センター」としての機能が十分に発揮されるよう、児童数にみあった蔵書数の確保を要望していきたい。

学校名	久喜市立江面第二小学校
所在地	埼玉県久喜市除堀1380番地
電話	0480-22-8237

## 1. 本校の概要

本校は、埼玉県北東部に位置し、四季折々の変化に富んだ自然環境に恵まれている。児童数150名の小規模校である。その特色を生かして、異年齢縦割り集団活動に力を入れている。

本校の児童は、穏やかな子が多く、地域の人に見守られながら、健やかに育っている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 朝の読書を通して

毎朝、8時15分から10分間、読書の楽しさを味わわせるとともに、読書の習慣化と生活化を目指し、児童と教師がともに読書に取り組み、落ち着いた一日のスタートをきっている。教師は児童とともに読書をしながら児童の読書の様子を把握し、個々に応じた支援を工夫している。

#### ② 国語科を通して

教材文の内容や作者と関連させるなど様々なジャンルの読書を意図的に働きかけている。また、単元の目的に合わせて学習過程に読書活動を位置付け、さらなる読み広げや読み深めをしながら、より豊かな読書生活ができるように指導助言している。

#### ③ 特別活動を通して

国語科や朝の読書との関連を図りながら、豊かな読書生活を築いていくために、「ようこそブックスフレンドリーの世界へ」等の題材を設定して、自分の読書生活を振り返ったり、友だちと本を紹介し合ったりして読書を広め、自ら進んで楽しく読書をしようとする態度を育てている。

#### ④ 親しみやすい図書館運営を通して

教師による手作りのブックスタンドを活用し、子供たちが閲覧しやすいように展示の工夫をしている。また、図書館ボランティアの方から、貸出しや整備の支援を受け、温かい雰囲気づくりに努めるとともに、家庭・地域から多数の本の寄贈も受け、児童と本との出会いづくりに努めている。

### (2) 家庭や地域との連携

#### ① 親子読書

夏休み中に親子で一冊の本を選び、読み合い、感想を話し合う中で、親子のふれあいを深くし、きずなを深めている。その一端を市の親子ふれあい行事「ハートフルフォーラム2001」で発表している。

#### ② 公立図書館とともに

教材に関連する図書の収集や、市職員による定期的な学校訪問での読み聞かせ等で連携を図っている。例えば、人権週間では、人権に関係する本を読み聞かせするなど、季節や行事に合わせた読書活動の工夫も行っている。

## 3. 成果と今後の課題

### (1) 読書活動の成果

① 朝の10分間読書を継続により、低学年では集中して読み続けられるようになった。中学年では読書に幅が出てきた。高学年では読書に一層広がりが見られるようになった。

② 意図的に読み聞かせやブックトークをすることで、いろいろなジャンルの本に目を向けることができるようになった。

③ わずかな時間でも本を広げ、進んで読もうとする読書への意欲が向上した。

### (2) 今後の課題

朝の読書のさらなる推進、及び各教科・総合的な学習等との密接な関連、家庭と連携を図った親子読書活動の推進などを地道に継続していきたい。

学校名	越谷市立大相模小学校
所在地	埼玉県越谷市大成町2-1
電 話	0480-52-9820

## 1. 本校の概要

本校は、明治6年に創立され、児童約500名のなかには、3世代にわたって学ぶ家庭も多く、学校に寄せる期待や願いには大きなものがある。地域・保護者との連携が従来からスムーズに進んでおり、学校図書館ボランティア「どんぐり」父親の会「いちょう会」による活動等、開かれた学校づくりを推進してきた。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校では、図書館ボランティアとの連携を深めるため、学校図書館推進委員会が学校図書館活動の見直し、改善を図り下記の取り組みを行っている。

- ・読み聞かせ部会による、読み聞かせ、お話活動の実践
- ・環境整備部会による図書館の整備
- ・広報部会による広報活動

### (2) 学校図書館推進委員会の取組

本校では学校図書館を、一人一人の子供の思いや願いに対応できる場としてとらえ、第1図書室を読書センターとし、夢をはぐくむ図書館として位置付けている。

蔵書は子供たちのリクエスト等にも応え、定期的に新刊本を加えている。

また、読書への関心・意欲を高めるため、週一回、読書タイムの中で多様な読書活動を推進している。

さらに、パソコンを使ったシステムにより、全校児童に対して貸出しを行い、個人カードを使った読書履歴等の管理を行っている。

### (3) 学校図書館ボランティア・家庭との連携

#### ①読み聞かせの実践

- ・昼休みに自由に参加できる読み聞かせ活動

を週1回、月4回程度実施

- ・多様な読書活動で構成されたブックフェスタ（図書集会活動）の実施

## ②環境整備の実践

- ・図書委員会児童、来館児童への支援活動
- ・閉館後の返却事務と本の整理

## ③広報活動の実践

- ・「どんぐり」通信の発行と本の紹介活動



## 3. 成果と今後の課題

子供たちにとって魅力ある図書館をつくろうと学校図書館ボランティアの積極的活用をはかってきた。平成12年度の図書の貸出しを開始した日から、子供たちは図書館にあふれ、本の貸出しに並ぶ列は後を絶たない。

平成12・13年度の学校図書館全貸出し数は、12年度 9,854冊 1児童平均 20.7冊  
13年度 12,754冊 1児童平均 25.4冊  
となり、子供たちの中に読書の習慣が根付いてきていることが分かる。

子供の意識調査の結果からも、お話や読み聞かせを聞くことが、大好きであるばかりでなく、読み聞かせ・お話会の後、本に対する興味や関心が高まり、図書館での貸出し数が増える傾向にある。

子供たちにとって、読み聞かせ活動は大変効果的であることがわかり、今後ともボランティア活動の推進を積極的に図っていきたいと考えている。

学校名	さいたま市立大原中学校
所在地	埼玉県さいたま市大原3-1-11
電話	048-831-5397

## 1. 本校の概要

本校はさいたま市を南北に流れる見沼代用水の西縁に沿った緑豊かな自然環境の中にある。三角形の回廊方式という特色ある校舎を有し、生徒数は689名で、18学級である。多くの生徒は学習に意欲的に取り組み、感性も豊かである。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校では学校図書館教育目標の一つを「人格形成の基礎となる読書の指導を推進し、心豊かな生徒の育成に努めること」とし、平成11年4月よりコンピュータによる蔵書管理、検索、貸出し等を開始して学校図書館の情報化・活性化に努めた。

#### ① 学校図書館の整備

原則として学校図書館司書が勤務する日を全日開館日とし、生徒がいつでも気軽に利用できるようにした。教科の要望による調べ学習用図書、大原中独自の図書購入基準に合わせた必要図書、生徒のリクエストの三点から購入図書を選定し、計画的な図書整備を進めた。また、総合的な学習の時間への対応も考え、新聞の切り抜きやインターネット資料、各種パンフレット等のファイル資料の収集・整備にも努めた。更に「心のオアシス」となるよう文芸部や図書委員会の生徒の手による古典作品のちぎり絵、手作り絵本、新着本紹介ポスター等で環境を整備し、書架用分類ラベルも生徒手作りのものに替えて温かい雰囲気づくりを心掛けてきた。

#### ② 朝の10分間読書

始業時間の8時30分から10分間、全校一斉に実施している。本は生徒自身の興味・関心等に応じたものを選ばせ、読書記録や感想メモは原則として書かせないこととした。本校は職員の朝の集会を行っておらず、学級担

任も始業時間から教室で生徒とともに読書をしている。

### ③ 国語科における読書指導

年度初めに国語科が中心となり、全校生徒を対象に学校図書館利用指導のオリエンテーションを実施している。また、目的に応じた的確に読み取る能力や、進んで読書に親しむ能力の育成を目指し、発達段階を考慮した学校図書館を活用する表現活動に取り組んでいる。

実践 1 学年 グループ単位のブックトーク

2 学年 「埼玉の文学案内」編集

3 学年 「京都・奈良ゆかりの文学作品紹介新聞」の作成

毎年1回 朝読書の本を紹介する「しおり」作り

### (2) 家庭や地域との連携

#### ① PTA学校図書館ボランティア

PTA役員会後、定期的に新聞記事の切り抜き作業、子供たちに読ませたい記事の掲示、本の修理やラベル貼りを行っている。

#### ② 市立図書館との連携

旧浦和市立図書館に併設されている学校図書館支援センターでは、レファレンス対応や学校図書館への団体貸出しを行っている。本校では、積極的に授業で活用している。

## 3. 成果と今後の課題

全校で「朝の10分間読書」に取り組むことによって生徒は落ち着いた雰囲気の中で1時間目の授業に臨むことができるようになった。また、本をいつも身近な所に置くことによって、読書が生活の一部になってきた。

収集を始めて4年目を迎えた新聞の切り抜きやパンフレット等は、「総合的な学習の時間」において活用され、生徒の様々な要求に対応できるようになった。

学習活動を支える学校図書館の機能を更に充実させるためには、教員間の緊密な連携を図った取組が重要課題と考える。

学校名 袖ヶ浦市立中川小学校  
所在地 千葉県袖ヶ浦市横田2583  
電 話 0438-75-2015

## 1. 本校の概要

本校は、房総半島中央の田園地帯に囲まれた創立130年の歴史の古い学校である。児童数は380名、13学級の中規模校であり、児童は穏和で自然や友達を大切に接する子が多い。休み時間には広い校庭を元気いっぱい遊ぶ。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

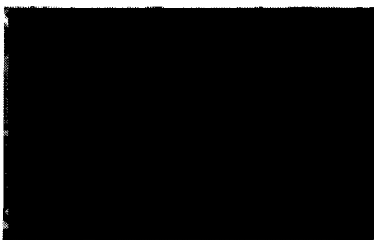
本校は、「心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、思いやりのある心の美しい子の育成を目指し、読書の日常化を図っている。平成10年から3ケ年、文部省指定「学校図書館情報化・活性化推進モデル地域事業」の協力校となり、読書センター、学習情報センターとしての図書館を目指し、市の物流ネットワークを利用し学習に役立てている。

#### ①人のいる温かい学校図書館

読書指導員が担任と共に子ども達に「読み聞かせ」や「ブックトーク」などの読書指導の手助けをしている。また、調べ学習に関するいろいろな相談にも応えている。

#### ②全校朝の読書タイム

静まりかえった朝の校舎、教室。読者タイムを楽しみにして好きな本を思い思いに読む子ども達と教師の姿がある。最近では登校するとすぐ読書を始める子も増えてきた。始業時10分間だが、読書の習慣化が身についてきている。

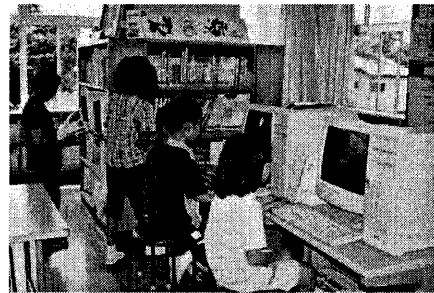


#### ③図書委員会を中心にした読書活動

- ・低学年への読み聞かせを行ったり、春、秋の読書週間では、読書郵便を開設したり、また読書集会を開催して全校に読書を広めている。
- ・著名な童話作家や劇団を招いて読書活動の感動を確かなものにしようと毎年行っている。

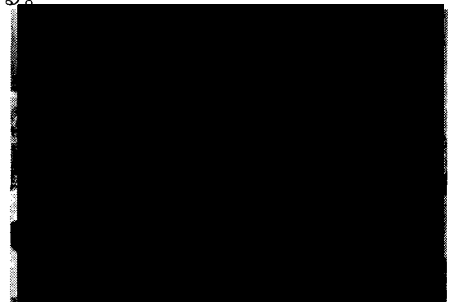
#### ④魅力ある図書環境作り

- ・図書室のガラスには、物語の絵が、壁には作家の顔写真が掲示され語りかけてくれる。
- ・本と関わりながら季節の行事を紹介をする。
- ・本の森、廊下への読書意欲をそそる掲示物。



#### (2) 地域との連携

月2回のボランティアによる「おはなし会」では、「読み聞かせ」や「語り聞かせ」などが行われ、子ども達は目を輝かせて聞いている。また、人形サークルによる人形劇を年に1度鑑賞している。



## 3. 成果と今後の課題

- (1) 常に本が手元にあり読書の日常化を図ることができたと同時に、本好きな子ども達が確かに増え貸出冊数も伸びてきた。
- (2) 調べ学習が定着し、疑問や情報をすぐに本やインターネット、CD-ROMなどで調べようとする子ども達が増えてきた。
- (3) レファレンスサービスを充実し子ども達により有効な資料を提供して、さらに主体的な読書や学習を促していく必要がある。

学校名	船橋市立船橋中学校
所在地	千葉県船橋市夏見2-11-1
電話	047-422-8121

## 1. 本校の概要

本校は、J R 船橋駅周辺の商業地域、近郊農業が残る地域及び新興住宅地域からなる学区を持つ。昭和22年創立の伝統ある学校で、生徒数は23学級、858名の大規模校である。

学区が広く、その構成要素も多様で、生徒指導上の問題も多いが、保護者・住民の学校への関心は高く、学校への協力の基盤が固い。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校では、読書教育を教育活動の基軸として「思いやりのある心豊かな生徒の育成」に取り組んでいる。

大規模校として、様々な問題を抱えていた時期「子供の生活の中に内なる自分に向き合う時間を」と、朝の読書運動を取り入れて6年になる。

朝の始業が静寂の中からスタートする。「好きな本を読む。みんなで読む。本を楽しむ。」ことを合い言葉に継続しているが、現在では、生徒と教師、親が同じ本を読むなど、読書を通じ親子や生徒と教師間に共通の話題が出来会話が弾むようになった。生徒と教師が、同じことに取り組み、心の落ち着く時間を共有することは、生徒指導に大きく役立っている。

#### ① 読書教育の意義

- ・心の教育の充実を目指す。
- ・生涯学習の基盤づくりとして、読書習慣を身につけさせる。
- ・読書は、自省心、批判力、判断力、思考力等を養い、思慮や視野を広げ、感性を育てる。従って、教育の基盤となるもの

と考える。

#### ② 具体的方策

- ・読書タイムの定着と充実。
- ・朝、10分間毎日、全校の生徒と先生が一斉に黙読で読書に取り組む。
- ・読む本は、漫画、雑誌、教科書以外の本で、読みたい本、好きな本を自分で選んで用意する。
- ・感想文や読書日記などは強制しない。他の活動をしないで、ひたすら読書をする。
- ・生徒指導の場としない。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

- ① PTA 広報誌をとおして家庭にも生徒の様子を知らせ、話題が広がるように努力している。
- ② 学区の小学校説明会に読書運動の話題を出す。また、継続の運動でもあるので中学入学前に「読書をするものだ」との気持ちを持って中学生生活を始めている。

## 3. 成果と今後の課題

### (1) 生徒のアンケート調査結果

生徒のアンケート調査結果では、

- ・家庭での読書時間が増えた。
- ・本屋へ行くことが多くなった。

等の理由を挙げ、読書の時間は好ましいと7割から8割が答えている。しかし、図書館の利用については「よく利用するようになった」と答えた生徒は多くなかった。

### (2) 保護者の感想

保護者の感想では、家庭での話題が増えた、本屋に行くことが多くなった等、生徒と同じ答えが多くなっている。

### (3) まとめ

職員の捉え方では、「ややマンネリで、これで良いのだろうか」と感じているものも多い。しかし、推進委員会では、「結果を期待しない、ただひたすらに読書をする」と校内をまとめている。

学校名 東京都板橋区立高島第三小学校  
所在地 東京都板橋区高島平4丁目21番1号  
電 話 03-3938-5173

## 1. 本校の概要

本校は、高島平の西端の地域に30年前に開校した。マンモス校として出発した本校も、現在では11学級274名の小規模校となったが一町会に一校の小学校として、地域の中に位置付いてきている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

「自ら楽しみ、心をつなぐ読書活動」を主題とし、児童の主体性を重視した読書活動に取り組む。読書を通して、本とのかかわりだけではなく、様々な人と心をつなぎ合い、子どもたちの興味・関心を大切にして「総合的な学習の時間」へと発展させる。

#### ① 日常的に様々な形態を取り入れた活動

##### ○朝の15分読書（ホットタイム）

年間、火・金・土で自主読書と教師・保護者の読み聞かせを中心に行う。

##### ○読書旬間（6月と10月の2回）

学年単位の保護者の読み聞かせ、学級・学年・全校での教師の読み聞かせ、ゲストのお話会、図書委員会の活動として読書集会や読み聞かせ・カルタ取り等を行う。

##### ○教科から発展読書と調べ活動（中高学年）

##### ○読書後の一言感想文（高学年）

##### ○ゲーム的な調べ活動（高学年）

#### ② 表現活動を取り入れた交流読書（総合）

##### ○読書活動の年間計画作成（全学年）

##### ○なかよし読書（低学年…国語・生活科）

・いろいろな本に親しもう・見つけようこの本だいすき・あつまれ本のひろばへ・作ろうわたしの本

##### ○異学年交流の読み聞かせと感想（中学年）

「ワクワクドキドキ心をつなごう」

（月1回、児童の希望で班編成し計画）

##### ○異学年交流の調べる活動（中学年）

『キョウリュウたんけんたい』

##### ○異学年交流の読書活動（高学年）

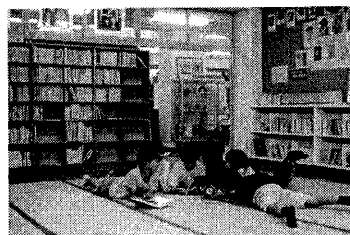
『夢への第一歩』

##### ○学級単位『リレー創作話』（高学年）

#### ③ 児童の興味を高める読書環境の整備工夫

##### ○二つの図書室作り（3教室半のスペース）

絵本・物語の本の部屋と調べる本の部屋



##### ○学級文庫の充実

・定期的な入れ替え・図書館から借入れ  
・家庭からの持ち込み・ブックトラック

##### ○掲示、展示の工夫

・表紙が見える置き方・教師のお薦め本の展示・読み聞かせの木・本のカバーやマスコットの陳列・感想画・特設（恐竜）の部屋を設け図書や写真、ミニチュアの展示・児童による本の紹介ポスター

## 3. 成果と今後の課題

(1) 本をリクエストしたり進んで読書したり、集中して話を聞いたりすることができるようになった。読む力・表現する力を国語との関連等で伸ばしていく。

(2) 子どもの興味・関心を生かしながら、主体的な活動をさらに進めていきたい。そのため教師の支援のあり方を追究していく。

(3) 学習の仕方が分かり始めて、他でも進んで図書資料を活用するようになった。子どもの様々な要求に応えられる読書環境をさらに充実させる。

(4) 保護者や地域の協力が得られるようになってきた。今後はボランティアによる司書の活動と子どもの多様な興味関心に応えるための支援者としての活動を検討し試行していく。

学校名	東京都杉並区立松ノ木中学校
所在地	東京都杉並区松ノ木1丁目4番1号
電話	03-3313-1561

## 1. 本校の概要

本校は生徒数262名、学級数は8学級の小規模校である。教育目標「進んで学ぶ人」「心の豊かな人」を具現化するため、教育活動の一環として「読書活動」を位置付け、教員の読書教育に対する共通理解のもとで、保護者や地域との連携を図りながら、昭和55年より特色ある教育活動を継続している。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校では、昭和55年度より学級指導の中で朝の読書時程を設定し、全校生徒が一斉に2週間から3週間の「朝の読書週間」を実施してきた。各学期ごとに1回ずつ年間行事として組み込まれている。

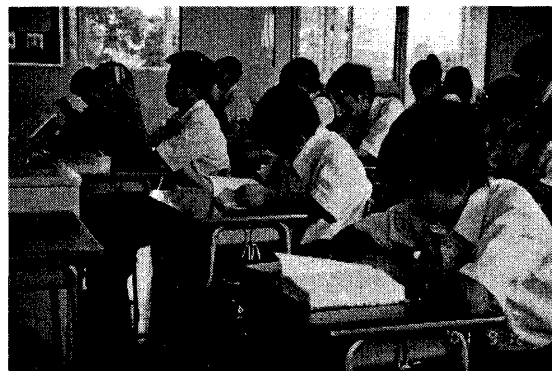
読書を推進する活動内容として下記のものがある。

#### ① 朝の10分間読書・読書マラソン

現在の2学年は入学時より読書の好きな生徒が多く、その特色を生徒指導に生かす一つの方法として、朝の読書を年間を通して実施してきた。そのために年度の当初に図書視聴覚部より課題図書10冊を選定し、その中の3冊以上を年度末までに読むよう指導している。読後は「読書カード」に記入し、年度末に「読書マラソン」上位入賞者を表彰する。

#### ② 読書ゆうびんコンクール

読書週間のまとめとして、葉書大の用紙を準備し、読書した本を相互に紹介し合う郵便形式の「読書ゆうびん」を作成する。内容の紹介や感想に留まらず、イラストや貼り絵などの工夫を凝らし、受け取った側



が嬉しい作品とする。図書委員会が優秀作品を選定し、表彰をする。

#### ③ 読書新聞

1年間に読んだ本を読書活動のまとめとして新聞形式で紹介する。学年ごとにまとめて印刷し、小冊子を作成する。

### (2) 家庭、地域等との連携

① 課題図書の選定や購入にあたっては必ず保護者の了解をとっているが、協力的であり、その趣旨はよく理解されている。また調べ学習等で地域の図書館の団体貸出しを利用したり、来館する生徒の検索の手伝いを依頼したりして、連携を図っている。

② 杉並区立中学校教育研究会、図書館部主催「書評座談会」（昭和33年より実施）に学校として継続的に参加し、生徒たちの読書交流の場となっている。

## 3. 成果と今後の課題

朝の読書週間で、落ち着いた雰囲気をつぎの学級活動や授業に取り組めるという効果があげられる。また、本とふれあう経験を継続させることで、読書の楽しさを生徒に気付かせることができた。学年として取り組んだ2年生では、読書好きな生徒が増え、休み時間に本の内容についての話題等での盛り上がりが見られた。

今後の課題としては、朝の10分間の読書活動が学年単位の枠を越えて、通年の取り組みとして実施することであり、その取り組みを生かして、現在実施している読書活動をさらに深め、広げていくことができると期待している。



学校名 東京都立青井高等学校  
所在地 東京都足立区青井 1-7-35  
電話 03-3848-2781

## 1. 本校の概要

本校は東京都区内の東北部、埼玉・千葉県境に近いところに位置しています。普通科18クラスで創立25年目を迎えた、比較的新しい学校です。卒業後は大学短大・専門学校・就職とそれぞれ1/3ずつに希望が分かれます。「明るい人柄、旺盛な探求心・生き生きとした身体」を教育目標に生徒との交流を大切にしながら、日々の実践を重ねています。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

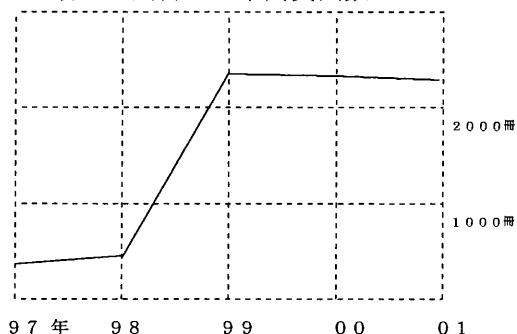
3年間で生徒一人ひとりが生き生きできる学校、また自分に自信が持てるようになる学校の実現へのこだわりが、「朝の10分読書」につながりました。様々な行事の試みの中でこの読書活動を活動の重要な柱としました。「みんなで読む、毎日読む、好きな本を読む」をモットーに出発しました。朝読書を実施して行く中で、本を読むことだけから出発し、教員が単行本や新聞から有用と思われる文章を抜き出してプリントを作り、その内容も読み、感想を書かせる形式へと幅が広がりました。その形に定着すると、一層成果が上がりました。

①平成11年度1年生が6月から、全国で行われている読書活動を手探りで始めました。順調に進みましたが、日頃よりマンガぐらいしか読まない生徒が多いので、夏休み終了後は続けることが難しくなりました。ある教科の授業にも読書の時間を取り込んでなんとか実のある方法を模索しました。

②そんな中 教員の側でプリントを作り、読書をしてもらい、プリントの内容を読んでも良いことにしました。本の一部を抜き出したり、新聞記事から様々な知識や考え方、自分

を客観視できる内容を選び素材としました。

### <最近の図書室の年間貸出数>



③プリントづくりは何人かの教員が交代で作りましたが、少しエネルギーを要する仕事でした。プリントには担任団のメッセージ性もあるので感想も書いてもらい、それに再び担任からコメントを加えることも続けました。

④そのような「朝の読書」活動の中で新たな生徒の発見がありました。「先生、初めて自分のお金で本を買って、今読んでるよ」「今朝のプリントは面白かった」などの話が自然に生徒から出るようになりました。

⑤この活動によって生徒達は落ち着きを増し、ことばや関心事・話題が多くなり、生徒同士、生徒・教員の間で共通に会話する内容が豊富になったと言えます。

⑥「朝の10分読書」は次の学年に引き継がれ、「ハリーポッター」を原書で読む、さらに下の学年ではクラス単位で朝の読書を実施するなどバリエーションを持つ読書活動に発展しています。

## 3. 成果と今後の課題

上記のグラフからも分かるように、年間の図書貸し出し数が大幅に増えました。読書に親しむ生徒が増えた分、HRでの落ち着きや授業にスムーズに入ることができるようになりました。また、自分を客観視でき、他人の痛みが分かる生徒が増えたのは大きな成果でありました。

さらに現在、3年生は全クラス、1・2年生は各クラスで「10分間読書活動」を実施していますが、発展するためには、担任だけでなく、全校的に読書に対しての理解と生徒に対する思いが必要だと思います。

学校名	東京都立八王子養護学校
所在地	東京都八王子市台町3-5-1
電話	0426-21-5500

## 1. 本校の概要

本校の通学区域である八王子市は、東京都の西部地区に位置し、古くは絹織物の産地として栄えた。本校には、小学部・中学部・高等部があり、知的障害のある児童・生徒が172名在籍している。

昭和41年に開校して以来30余年の歴史を重ね、平成9年には新校舎が竣工した。

## 2. 本校の実践の概要

本校には、言語能力の未発達な児童・生徒が多く、読み聞かせによる読書活動の推進を重視してきた。

小学部や中学部においては、絵本や物語本の内容を、パネルシアターとして具象化し、読書の興味・関心を高め指導の効果を上げている。さらにブラックライトを活用して、その効果を高めるなど、校内では多数の教材・教具を開発した。

高等部では、国語や自由時間に図書室を計画的に利用し、読書への関心を高めている。

### (1) 本校の実践の特色

本校の児童・生徒の興味や関心にあったパネルシアター・紙芝居等は、話す力を育み言葉で表現する力の育成に効果を上げている。同時に見る、聞くための集中力や、見通しをもって予測する考える力や、豊かな情操を育てるのに役立っている。読書活動の前段階の活動として位置付け、以下の視点で工夫し開発している。

ア 児童・生徒が見通しをもちやすいよう、繰り返しの動きや台詞、ストーリーの教材を選ぶ。

イ 登場人物は、背景に紛れぬよう輪郭のはっきりしたものにする。

ウ 影絵やパネルシアター、紙芝居を作成するに当たっては、児童・生徒の興味・関心を引くような鮮やかな色使いや配色になるよう配慮する。

エ 教師の演出は、児童・生徒がわかりやすい声と動きになるよう留意する。

オ 児童・生徒を引きつけるキャラクターを効果的に活用する。

カ 障害や発達段階の異なる児童・生徒のそれぞれの興味・関心に合わせ、歌や台詞の唱和など楽しみ方を工夫する。

### (2) 指導時間

ア 国語・算数（数学）週4～5時間

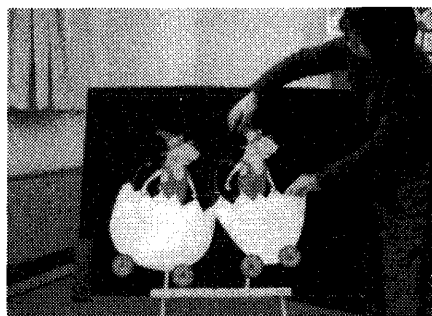
イ 合同学習（小・中学部）各週1時間

ウ 休み時間等 図書コーナーで絵本や雑誌・事典等を読む。

## 3. 成果と今後の課題

- ・物語への興味・関心が育ち、簡単な話の筋を理解し楽しむことができるようになった。
- ・自分からすすんで絵本などを見ること、読むことができるようになった。
- ・集中して見る力・聞く力・読む力が育った。
- ・次の台詞や登場するもの等を予測して楽しめるようになった。
- ・模倣や、歌うことなどを通して言葉への興味や意欲が育ち表現する力が伸びた。

今後も児童・生徒が喜び、一層興味・関心の幅が拡大するよう、教材の開発を継続していくことが課題である。



学校名 愛川町立愛川中学校  
所在地 神奈川県愛甲郡愛川町田代 1395 番地  
電話 046-281-0094

## 1. 本校の概要

本校は愛川町の北西部に位置し、中津川にのぞむ高台、田代城跡の東側にある。新制中学発足時の昭和22年5月5日に開校した55年の歴史をもつ学校である。

生徒数は522名、学級数17学級(内、特別指導学級2学級)の中規模校である。生徒たちは比較的素直で部活動が盛んである。

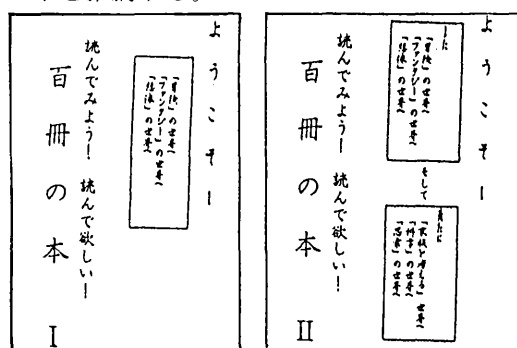
## 2. 本校の実践の概要

### (1)本校の実践の特色

#### ①「朝の10分間読書」の実施

(平成10年度より実施)

- \*毎朝、朝の会の前の10分間(8時30分～40分)を朝読書の時間とする。
- \*読む本は生徒の好きな本とする。(雑誌・漫画等は除く)入学式の時保護者に朝読書の説明をし、翌日から全学年で朝読書を開始する。
- \*生徒や保護者からの要望により、読ませたい本のリストを作り全校生徒に配布する。「読んでみよう・読んで欲しい100冊の本Ⅰ・Ⅱ」合計200冊の本を推薦する。



#### ②「読み聞かせ」

- \*自分で読むだけでなく人から読んでもらうことの楽しさを知ってもらうために



「読み聞かせ」を行う。年2回「読み聞かせ講座」

を開き、読み手を育てる。

- \*中学生は学区の小学校に読み聞かせに行く。

### (2)家庭との連携・地域との連携

#### ①保護者・地域の人による「読み聞かせ」活動

- \*町のPTA家庭

教育学級の研究委託を受けたことを契機に読み聞かせ活動の普及をはかる。

保護者・地域の方々に「読み聞かせ講座」を受講してもらい中学校で読み聞かせを行う。



### 3. 成果と今後の課題

#### (1)「朝の10分間読書」

どの学年も多くの生徒が落ち着いて読書に取り組むことにより、静かな学校生活を送ることができた。今年度は学級別に特定の本を決め、学級全員がその本を読み、道徳の時間に主人公の生き方を学習した。また、「読んでみよう!読んで欲しい100冊の本」の冊子は保護者や生徒にも好評で、その中から自分の読みたい本を積極的に探す生徒も多かった。さらに、読書の方が映像よりも想像力が広がることを認識する生徒が多くなった。

#### (2)「読み聞かせ」活動

3年生が「読み聞かせ講習会」を受け読み手として小学校に読み聞かせに行った。とても評判がよく、今年度は卒業生と在校生が地域の公民館で幼児等に読み聞かせを行った。読み聞かせることにより生徒たちはさらに読書が好きになっている。

#### (3)家庭・地域との連携

「読み聞かせ講習会」のお知らせを地域へ回覧し、保護者だけでなく地域の方々の読み手を募集した。15名程の地域の方々が、週2回交代でボランティアとして読み聞かせを行っているが、中学生がこれほど集中して聞くことに驚きを覚えていた。

学校名 神奈川県立大沢高等学校
所在地 神奈川県相模原市大島 1226
電話 042-761-5055

## 1 本校の概要

本校は相模原市北部に昭和 55 年に創立された 18 学級・生徒数 659 人（平成 14 年 2 月 19 日現在）の普通科の高校である。本校はこれまで学習面・生活面などでさまざまな課題を集中的にかかえてきた。しかし、部活動・福祉・情報・生徒指導などに力を入れてきた結果、現在落ち着いた学校になっている。中でも男子バレー部の活躍は際だっている。現在、平成 15 年度の総合学科改編に向け精力的に準備をすすめている。

## 2 本校の実践の概要

### （1）苦難と模索の 5 年間

本校は平成 6 年以来 8 年間「朝の読書」に取り組んできた。しかし、最初の 5 年間は苦難と模索の連続であった。生徒は本を持ってこない、読まない、私語をする、立ち歩く、化粧をする…。多くの困難を抱え込むことになった。

「朝の読書」は、小中学校とは違い高校では「いつでも、どこでも誰にでもできる」実践ではなく、また「奇跡を生む」とは限らないことを証明することになった。

### （2）「研究開発」の 3 年間

苦境に陥っていた本校を救ったのは、平成 10 年の「教育課程審議会答申」に示された「総合的な学習の時間」であった。

① 「総合的な学習の時間」は、「生きる力」の育成を目的とし、「自己の在り方・生き方」に深く関わる学習であり、「自らの興味・関心」にもとづく学習活動である。そこで「朝の読書」を、「総合的な学習の時間」の中に組み込むことの検討をすぐに開始した。

② 平成 11 年度、「総合的な学習の時間」に関する「研究開発学校」に文部省から指定され、

3 年間研究実践に取り組んできた。

③ 毎朝 10 分間の読書の呼称は、「朝の総合」（読書）になった。

④ 「朝の総合」を体験学習・進路学習・課題研究と合わせて各学年 2 単位の「総合的な学習の時間」となる。隔週 100 分の「体験・進路・課題」をコアとし、毎日 10 分の「朝の総合」（読書）を加えて、2 単位とする。

⑤ 「朝の総合」（読書）は、本校の「総合的な学習の時間」全体の「ベース学習」である。また読書は作者の表現した世界の間接体験という観点から「体験学習」の一つともいえる、など「総合的な学習の時間」としての位置づけを明確にするよう努力してきた。

## 3 成果と今後の課題

### （1）劇的な変化

① すべての生徒が本を準備し読むようになった。私語や立ち歩きなども一切消えた。

② 「朝の総合」に対し、職員が一致した行動をとるようになった。

③ 副次的な効果として、学校に落ち着きが生まれ、遅刻する生徒もほとんどいなくなった。

### （2）課題と展望

① 変化の根本的な要因は、研究開発学校として「読書」を「総合的な学習の時間」に組み込み、単位として認定したことにある。

② 総合学科改編後のカリキュラムにも「朝の総合」（読書）は位置づけられている。今後、本校の生徒の読書力に応じた一般的な本だけでなく、体験学習・進路学習・課題研究や総合学科の系列に関する本の紹介に力を入れることが課題である。

③ 「総合的な学習の時間」の中に組み込まれた「朝の総合」（読書）に対する関心はきわめて高く、資料請求や学校訪問もあいついでいる。「研究開発」の成果が全国の読書推進活動に生かされるようになれば、本校にとっても喜ばしいことである。

学校名	新井市立新井小学校
所在地	新潟県新井市白山町4-1-12
電話	0255-72-2612

## 1. 本校の概要

本校は、新井市の中心地にあり、児童数470名、16学級(特殊1)の中規模校である。児童は、明朗で素直な子が多い。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① テーマ読書(昭和61年度より)

その年の実践に合ったテーマを設定し、6月



【H7 戦争の本特集】

読書週間や11月図書館まつりでの図書や資料の展示、ビデオ放映、図書委員の活動等を実施し、全校児童が参加できる

読書活動をしている。

#### ② 辻読書会(昭和63年度より)

教室から飛び出し、校舎内外のあちこちで教職員や保護者に

よる読み聞かせやブックトークを毎年実施。また、なかよし辻読書として、縦



【職員による辻読書会】

割り班での一人一人の本紹介と6年生による紙芝居や読み聞かせ・クイズを実施している。

#### ③ 朝読書(昭和56年度より)

毎週1回、朝の10分、全校一斉に実施。学級担任も一緒に読んだり、読み聞かせ等をしてしている。図書委員は隔週ごとに1、2年生の教室へ出向き、紙芝居を上演している。

#### ④ 図書委員会の活動

貸出当番や放送等の常時活動をはじめ、読書週間や図書館まつりの全校集会、文化祭ではジ

ャンボ紙芝居・ペープサート・パネルシアター・劇・人形劇等、幅広く活動している。

#### ⑤ 読書環境づくり

読書センター(下学年用のにじいろ図書館・上学年用のいずみ図書館)、学習センターの3つの図書館を設置。特に、推薦図書コーナー、郷土作家コーナー等の別置配架や毎月のテーマ図書掲示・季節ごとの掲示を工夫している。また、学年部ごとに推薦図書を『読んでほしい本』として奨励し、読了者には賞を出している。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 親子読書

読書週間の際に読書記録カードを活用して、全校一斉に親子読書を奨励している。

#### ② 読書活動の公開

10月の文化祭で、その年のテーマに沿った図書や資料展示、図書委員の活動を保護者や地域に公開している。



(今年度は「日本の昔話に親しもう」)

#### ③ 保護者ボランティアと地域の人材活用

6月の読書週間の辻読書会に保護者ボランティアを募り、読み聞かせやブックトークを行った。今年度は16名で、年々増加中。また、地域ボランティアグループ『ジャックの会』『絵本の部屋』による影絵やエプロンシアター等を上演し、好評であった。

## 3. 成果と今後の課題

継続的に様々な読書活動を実施していることで読書量(S55:26冊→H13:76冊/1人平均)が増えたのに加え、読書範囲の拡充、質の高い読書ができるようになった。図書委員による主体的な活動で、本に対する親しみが増している。また、保護者の読書に対する関心・理解も高まってきている。

今後は、総合的な学習等で知識や適切な情報を収集し活用する力を育てるために、学習情報センターとしての機能の強化を図っていきたい。

学校名	新潟市立五十嵐中学校
所在地	新潟市上新栄町5丁目3番1号
電話	025-260-1490

## 1. 本校の概要

本校の学区は、新潟市のベッドタウンとして近年急激に発展した地域であり、本校は昭和52年4月に分離新設した歴史の浅い学校である。生徒数は、2001年5月1日現在783名で通常学級21学級、特殊学級1学級からなっている大規模校である。保護者の教育への期待や関心は高く、家庭環境に恵まれ、優れた能力を持つ生徒が多い。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

学習指導要領の全面改訂に伴い、これからの学校図書館の課題として、

#### ○ 教育課程の展開に寄与する図書館づくり

- ・授業の課題解決や調べ学習・発展学習に役立つ機能を持つ。
- ・選択授業・総合的学習の推進に役立つ機能を持つ。

#### ○ 蔵書の宝庫としての図書館づくり

- ・豊かな人生にするための心の耕しの場としての機能を持つ。
- ・私的なニーズに答え得る、資料センター・情報センターとしての機能を持つ。

以上の二面を併せ持つ図書館作りを本校ではめざしている。

### ① 図書館の機能を高める取り組み

- (ア) 年度初めに、全職員の関心と協力を求めるため、図書館の運営計画や指導計画を、自校の研修主題や重点目標と関連付けて示す。
- (イ) 新入生への図書館利用指導を国語部とタイアップし、オリエンテーションの時間を1時間設定し、図書館利用の一助とする。
- (ウ) 図書館運営のための、職員と図書委員会

の組織化を図る。

- ・図書館主任・図書館司書・図書委員会

### (エ) 図書館の蔵書の計画

- ・職員・生徒の図書の希望状況、授業とのかかわりの程度などを参考に、大まかな蔵書計画を立てる。

### (オ) 新刊図書の案内を出す

- ・案内と同時に、新刊コーナーを設ける。

### (カ) 行事に見合ったタイムリーな図書の配置をする

- ・修学旅行の事前学習に必要な図書のコーナーを設けるなど。

## ② その他の実践

### (ア) 全国図書館協議会主催の「読書感想文コンクール」への応募

- ・夏休みに、原稿用紙5枚の「読書感想文」を課題とする。
- ・校内審査を行い、優秀作品数編をコンクールに出品する。

### (イ) 読書体験の充実を図る「読書会」への参加

- ・新潟市中学校図書館主催の「郷土の作家との読書会」に参加し、作者の作品への思い入れや、生徒の読みの感想を述べていただく。感動をいっそう深め、読書に対する気持ちに変化が見られるようになった。

## 3. 成果と今後の課題

- (1) 図書館の機能を高めることにより、授業における図書館利用が複数教科で増えており、生徒が作成するレポートの内容に質的な深まりが見られるようになってきている。
- (2) 図書の貸出し冊数は、年度によって大きな差はなく、安定している。生徒一人当たりの年間貸出冊数は、平均9冊～10冊となっている。
- (3) 全校読書の時間を、全職員のさらなる理解と協力のもとで、より充実した内容にしていきたい。

学校名	富山市立水橋西部小学校
所在地	富山県富山市水橋辻ケ堂1919-2
電話	076-478-0067

## 1 本校の概要

水橋地区は富山市の北部に位置し、かつては売薬業と漁業が盛んであった。本校は海岸沿いの古い町部と南側の農村部を校区としている。5月1日現在児童数228名、普通学級7、特殊学級1という小規模校である。

三世代同居という児童が多く、生活全般に目が行き届いている。また、年度当初に教育ボランティアを募集したところ20数名の応募があるなど、学校の教育活動に対して協力的である。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

心身ともに健康で自ら学ぶ意欲とたくましい実践力をもった児童の育成を目指し、特色ある学校づくりの一環として読書活動に全校的に取り組んでいる。

#### ① 朝の全校読書

毎週、火・水・木曜日の朝8時15分から30分までを読書タイムとし、全校一斉に取り組んでいる。

#### ② 学校図書館司書との連携

金曜日の5限、学校図書館司書が新刊の紹介や読み聞かせ、ストーリーテリングなどを行っている。

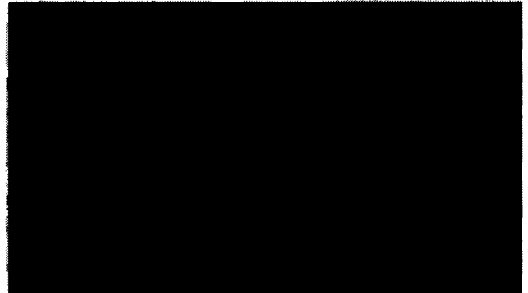
#### ③ 書架の設置

各教室前廊下には書架を設置し、いつでも児童が自由に本を読めるようにしている。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

① PTA総会や学級懇談会で朝の読書について説明し、家庭においても親子読書を行って、親子の絆を深めるとともに読書の習慣化を図るよう推奨している。

② 毎週水曜日の放課後、地域の図書館ボランティアの方々に読書指導をしていただいている。また、児童とボランティアの方々とで地域に題材を求め、それを劇化して、学習発表会の際や特別養護老人ホームで披露している。



## 3 成果と今後の課題

- (1) 読書タイムの15分間は集中して本を読むので、落ち着いた気持ちでその後の学習に取り組むことができる。そのことが、落ち着いて物事を判断し行動できる児童の育成につながっていると思われる。
- (2) 本の続きが読みたくて家でも読書することが多くなった。親子の語り合いや親子読書をとおしてふれあいが深まってきている。また、本を買う機会が多くなっている。
- (3) 活字に抵抗がなく、本を開くとすぐにその世界に浸ることができる。また、想像することを楽しみ、それを身体を使って表現することを好む児童が増えてきた。読書をとおして、豊かな心をはぐくんできている。
- (4) 意見を述べる際、資料を明らかにして、意見の根拠になることがらを明確にしようとする傾向も見られ、自ら考え判断する基礎を培ってきている。
- (5) 児童図書委員会の活動をより活発にし、児童による読み聞かせや読書週間の充実など、児童相互の交流を一層深めていきたい。
- (6) ビデオ・カセットなどの視聴覚教材の整備や、パソコン・インターネットの活用といった「学習情報センター」としての機能の強化を図っていく。

学校名	富山県立呉羽高等学校
所在地	富山県富山市呉羽町 2070-5
電 話	0 7 6 - 4 3 6 - 1 0 5 6

## 1 本校の概要

富山市の西に位置する普通科単独校で、全校生徒数678名。各学年6クラスだが、2・3年には1クラスずつの音楽コースがある。生徒の殆どは進学希望で、富山大学を初め金沢・新潟などの近隣の国立大学への進学者が多い。また音楽コースでは東京芸大や国立音大などの音楽大学へ進む生徒も多数いる。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

創立時より読書会・映写会・シンポジウムなど活発な図書委員会活動をしている。学年や教科との連携も密で図書館を利用した授業も多く、平成12年度からはコンピュータによる図書館運営システムを導入した。

#### ① 読書会

ホームルーム読書会は平成元年より毎年実践している。集団読書テキストや他の図書をクラス全員で読み、意見を交換し冊子を作るなどしているが、年度によっては、朗読会を通じて作品の新しい解釈の模索、クラス枠をはずして学年単位での希望作品の研究、逆に全校同じ作品の研究など、工夫をこらして毎年実践している。

#### ② 課題学習授業

平成2年度に、図書委員会で大テーマを決め、全図書委員が数名程度の班に分かれて、夏休みから秋にかけて各々小テーマで研究し、芸術祭（文化祭）に発表した。その時のテーマは自然環境に関する問題であった。

その後何年かはこの形で実践され、集書が進んだ。その時代の趨勢をみつめ、それに関する図書を読み、自分で考え、自分の言葉で発表するという作業を通じて社会への認識を新たにし、教科などの課題学習にも役だった。

平成6年度に、男女共修となった家庭科が班別

研修やコンピュータによる授業を、図書館を利用して行い、芸術祭で図書委員会主催のシンポジウムで発表し成果をあげた。

以後、各教科との連携を密にし、教科の希望に添った集書に努め、家庭科だけでなく公民科、英語科、国語科、保健体育科などの授業が図書館を利用して実施された。

このような授業では学年全員（230名弱）が同一の大テーマで研修するため、必要な図書は可能な限り図書館で購入したが、公立図書館からかなりの図書を借り出して対応した。公民科の授業では「フィールドワーク」を行い、地域との連携の中でも、学習が深められていった。

これらの学習の多くは、毎年10月に開催される芸術祭（文化祭）において、前述の生徒図書委員会主催の全校生徒に開かれたシンポジウムで発表されている。ここは、保護者なども含めた参加者が意見を交換する場にもなっている。

#### ③ コンピュータの導入

一クラス40名の生徒が一斉に必要なとする図書を検索するためにコンピュータを導入し、図書委員の協力も求めて、図書のデータの入力を行い、平成13年の2月から検索できるようになった。

現在11,000冊入力済みだが、いまでも図書データの入力は継続中である。

## 3 成果と今後の課題

本校での利用は、授業で使うことが多いので、館内閲覧が主流である。課題学習授業の際には、該当テーマで生徒一人あたり最低でも2冊から3冊読むことになる。このように本校では授業をとおしながらの読書体験を計画的に取り入れている。しかしながら完全学校週5日制になると、ますます授業に余裕がなくなるので、今後この体制がとり続けられるかどうか不安である。

現在3台のパソコンが図書館に設置されていて生徒が利用しているが、班別研修の充実のために6台のノートパソコンの導入が予定されている。

新しい時代の図書館のあり方を模索するきっかけにしたいと思う。



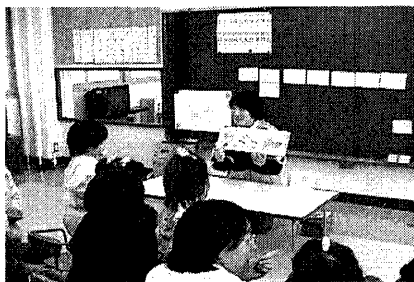
学校名 富山県立富山ろう学校  
所在地 富山県富山市下奥井1-9-56  
電 話 076-441-9172

## 1. 本校の概要

本校には、聴覚に障害のある幼稚部(12名)・小学部(12名)・中学部(6名)・高等部(6名)・専攻科(9名)の計45名の幼児児童生徒が在籍している。(平成14年2月現在)

## 2. 本校の実践の概要

聾学校においては、聴覚面からだけでなく視覚面からの刺激を大切にして指導を行っている。読書は、言葉の獲得や知識理解の拡大、より豊かな情操を育成するためにたいへん有効であり、重要な役割を担っている。本校においても、幼児児童生徒の実態に合わせて、学校図書の実践や日々の読書指導、教科や行事との関連指導、図書室・自動車文庫(移動図書館)の利用の促進など、各学部で様々な取り組みを行っている。例えば、小学部においては特別活動の時間に図書クイズなどを行い、読書活動の充実を図っている。



(小学部：図書クイズ)

本稿では、読書活動の活発化を促すための実践を、幼稚部の取り組みを中心に紹介する。

### ― 幼稚部の実践の概要 ―

#### ①テーマ

「お話が好きな子どもに育てるための実践研究」

#### ②趣 旨

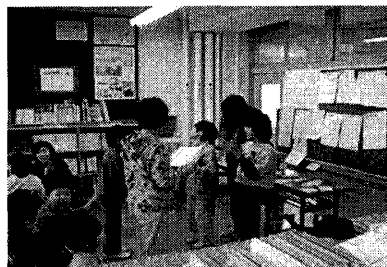
本研究では、幼児の興味・関心を高めるような題材の選び方や具体的な指導のあり方について考察した。

#### ③方 法

・「絵本」の時間の授業研究を通して、一人一人の幼児の絵本等への興味・関心を促す提示方法を工夫する。

#### ④指導内容

・絵本や紙芝居の読み聞かせと話の内容に沿った遊び。  
・ペープサートやパネルシアターの視聴とペープサート等を使っでの表現活動。



( 幼稚部：「絵本」の時間 )

#### ⑤指導に当たっての検討事項

題材の選び方、言葉の選び方、提示の仕方(絵本、ペープサート、パネルシアター、紙芝居、マスコットなど)、保護者援助のあり方、幼稚部図書を選び方と活用などについて共通理解した。

#### ⑥活動の効果

幼児の絵本等への関心が高まり、教師や保護者の絵本の扱いへの理解も深まってきている。幼児は、じっくりと話を聞くようになってきており、自ら本を読んだり、印象に残った場面をごっこ遊びや、日常生活、会話に取り入れたりする様子も見られるようになってきた。

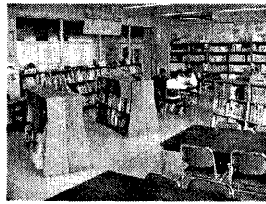
## 3. 今後の課題

日々の実践を通して、絵本等への関心は高くなってきている。今後も各学部の読書指導を連続的に捉え、絵本等を自ら読むことの楽しさを味わい、生活を豊かにしていくことができるように読書による指導の充実を図るとともに図書環境の整備を進めていきたい。

学校名	金沢市立押野小学校
所在地	石川県金沢市八日市1丁目176番
電話	076-241-4197

## 1. 本校の概要

本校は、金沢市の南部にあり、野々市町と境界を接し、市の中心部から離れた郊外に位置する。明治6年創立の伝統ある学校であり、一時期1900名を越えるマンモス校であったが、2つの学校を分離独立させ、現在18学級の中規模校である。平成10年度、全国学校図書館協議会全国大会小学校視察校となり、図書館の整備も進みも、読書活動が盛んに行われている。



## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

各学年1名で構成する図書館プロジェクトチームを中心に、読書活動の推進と図書館の運営・整備充実が進められている。～学校図書館を生かして～という副題をつけた学校研究が続けられ、研究発表会も開催した。学校教育活動の中に学校図書館がしっかりと位置づけられ、豊かな読書活動を生み出すために工夫された掲示や目当ての本が探しやすい配架で、お話の世界へ夢が膨らむ「お話ランド」、メディアセンターとして総合学習等をサポートする「学習センター」の2つの図書館がある。

#### ① 朝の読書タイム

火・木・土曜日は毎朝読書タイムが15分間設定されている。教室には、百冊程度の本を配置し、学期毎にクラス間で入れ替えを行っている。また、自宅から読みたい本を持参し読書している児童も見られる。

#### ② 図書委員会によるお話し会

24人の図書委員会児童が、月2回、休み時間を利用して「お話し会」を開催している。図書委員は、その会に向けて、本を選ぶ、ポスターで呼びかける、練習をするという準備を経て、全児童対象に開催しており、好評である。

#### ③ 縦割りお話し会

縦割りグループを利用し、その中に所属する全児童がそれぞれ工夫した読み聞かせや朗読、紙芝居などを行事「縦割りお話し会」として開催している。内容は、詩や紙芝居、教科書の作品、図書館の本の読み聞かせや朗読などであるが、学年の発達段階に応じ、頑張っている姿が見られる。

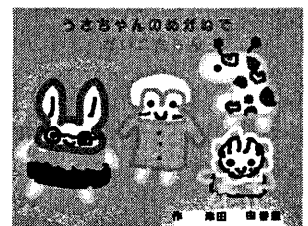
#### ④ 手作り絵本や紙芝居づくり

総合的な学習の時間等で、手作り絵本や紙芝居を作っているクラスもある。その作品は、図書館にも配置され、どの児童も見ることができるようになっている。中には、話の筋書きも面白く、絵も丁寧に仕上げているものもあり、そのような作品はよく読まれているようである。



#### ⑤ パソコンで絵本・紙芝居作り

本校では、平成13年度に本格的なパソコン整備がなされ、児童にとって大変身近なツールとして利用され、リテラシーも向上している。その能力を生かして、パソコンによる絵本・紙芝居づくりを行っている。お絵かきソフトを使い、児童により10枚以上の作品に仕上がっているものもある。これにより、お話の創作力、パソコンのリテラシー向上をめざしている。



#### (2) 家庭との連携・地域との連携

読書活動ボランティアグループ「お日様はらっぱ」と連携し、月2回のお話会、サマースクールでの特別お話し会を開催するなど熱心に読書活動をサポートしていただいている。



## 3. 成果と今後の課題

(1) 継続した読書活動を支援する職員の意識の高揚、図書を増冊

(2) 学校五日制におけるボランティアグループの活動との連携のあり方

学校名	七尾市立小丸山小学校
所在地	石川県七尾市小島町チ部3番地
電 話	0 7 6 7 - 5 2 - 5 4 3 2

## 1. 本校の概要

本校のある七尾市は、能登地区の中核都市で七尾湾に面しており、海の幸の豊富な所である。

本校は、児童数550名、通常学級18学級と特殊学級2学級、通級学級1学級からなっている。校区内には、七尾美術館・市立図書館もあり、文化的に恵まれた環境にある。児童は明朗活発で、物事に積極的に取り組む子が多い。

## 2. 本校の実践の概要

めざす子ども像～自ら本と親しむ子～

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 朝の読書タイム

週2回、朝自習の時間を全校一斉の読書タイムにした。月初めの1週間は教師も参加し、読み聞かせなども行っている。

#### ② 図書委員による読書への関心を高める活動

##### ・「図書まつり」（6月）

本探しコーナー、しおりコーナー、4コママンガコーナーなどを図書室に作り、休み時間に希望する児童が参加した。

##### ・全校集会でのお話会（7月）

##### ・「大好き！本まつり」（11月）

手作りの紙芝居やペープサートを行った。



#### ③ 読書ラリー

「図書まつり」期間中に読んだ本の感想を校内の教師に話し、スタンプを集めた。

#### ④ 読書環境を豊かにするために

- ・手作り本立てを各学級に置き、学級文庫の充実を図った。
- ・行きたくなる図書室

児童に人気のある本を購入したり、本の配置を工夫して、児童が本を探したり返したりしやすくした。また、手作りの飾りや掲示、学習に役立つ特別コーナー、くつろいで本が読めるソファなど、楽しい雰囲気の図書室になるようにした。

#### ・絵本の部屋

空き教室に畳を敷き、夏休みの職員作業で図書室の絵本を移動し、絵本の部屋とした。

#### ・おすすめの本コーナー

廊下や各学年のプレールームなどに、児童によるおすすめの本コーナーを作り、おすすめカードを掲示し、実物の本を置いた。

### (2) 家庭・地域との連携

①「大好き！本まつり」期間中に家族で同じ本を読んだり、お互いに読み聞かせをしたりするファミリー読書ラリーを行った。

②図書館だよりを発行し、保護者に読書活動への関心と理解をもってもらった。

③七尾美術館のボローニャ絵本原画展やピカソ陶芸展を鑑賞した。

④市立図書館の団体貸し出しを利用した。

⑤地元のお話サークル「しびびの会」を招き、人形劇、素話、紙芝居などをしてもらった。



## 3. 成果と今後の課題

(1) 児童が本に触れる機会が増え、読書への関心が増した。また、読んだ本が児童の会話の中によく出てくるようになった。

(2) 朝の読書タイムがマンネリ化しないように時には趣向をこらしたのも計画したい。

(3) 総合的学習の時間が本格実施されることから、児童のニーズに合わせた図書の充実を図りたい。また、近い将来には、コンピューターによる蔵書管理を進め、図書室でもインターネットを活用できるようにしたい。

学校名 勝山市立鹿谷小学校  
 所在地 福井県勝山市鹿谷町本郷34-1  
 電話 0779-89-2539

## 1. 本校の概要

7クラス、全校生120名の学校である。田園風景が広がる中に位置している。3世代同居の家庭が多い。粘り強く、情感豊かな子供が多い。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

ここ10年間、家庭、地域、学校が一体となって展開している青少年健全育成運動を基軸に、地域と学校、親子のふれあいを大切にした読書活動を推進している。また、教科等の学習活動に対する読書活動の効果について研究を進めてきた。

#### ① 読書タイム

毎週4日間（月～木、土）の、朝の10分間、全校児童・教員が一齐に読書活動を行っている。どの児童に聞いても「今、～という本を読んでいます。」という返事が戻ってくるぐらいに読書活動が児童の生活の中に浸透してきた。

#### ② 図書のコンピュータ管理

バーコード入力で図書の貸し借りができる。図書委員会が管理、運営をしている。

#### ③ 図書委員会の活動

毎週火曜日の昼休みに図書室で紙芝居等を行っている。多くの子供たちが集まり、盛況である。また、金曜日には、昼の放送で読書クイズや先生方お勧めの本を紹介している。

#### ④ 図書室を和室に改造

図書室全面に畳を敷き、くつろぎと落ち着きの中に集中力を高める効果を上げている。

#### ⑤ 読書紹介

毎週月曜日の全校朝礼では、児童がみんなにも読んでほしい本の紹介を交代で行っている。校長自らも計画的、継続的に読書活動に関する講話を行っている。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

親子で図書を購入するシステムは、児童一人一人の読書意欲を高め、好ましい読書習慣を形成する上で効果的であるとともに、親子や地域のつながりを深め、学校が地域の読書活動を推進する役割も果たしている。また、地域の方による「読み聞かせボランティア」により、児童の読書意欲は一層高まってきている。

#### ① 親子で選ぶ学級文庫

学校主体の図書の選定・購入の他に、親と子が相談して図書を購入し、その代金を学校が負担するという方法もとっている。児童にとって興味・関心の高い図書が選定できるとともに、保護者は子供の読書活動について理解を深めることができ、効果的で、保護者にも好評である。この方法で購入した本には、見返しに次のようなスタンプを押し、所定の事項を記入する。読書意欲の醸成、購入の社会的責任の意識化をねらっている。

この本を買ってきた人			
学年		買った年	
氏名			

鹿谷小学校学級文庫

#### ② 読み聞かせタイム

毎週金曜日、朝の10分間、地域の「読み聞かせボランティア」の方8名により、読み聞かせを行っている。子供たちは週1回の「読み聞かせタイム」を楽しみにしている。ボランティアの方々の取組も意欲的である。

## 3. 成果と今後の課題

読書の生活化が確実に深化していると感じている。今後は、読書活動をさらに家庭に広げたり、地域の福祉施設や老人会等で朗読を行ったりするなど、学校から地域へ広める方向を考えている。

学校と地域との密接な連携のもとに、読書活動をより充実し、学校が、豊かな地域づくりの基盤となるよう、取組を重ねていきたい。

学校名	美浜町美浜北小学校
所在地	福井県三方郡美浜町笹田15-1
電話	0770-32-0317

## 1. 本校の概要

本校は美浜町の北西部に位置し、山あり海あり湖ありの風光明媚で自然に恵まれた地域にある。児童数は90名で、特殊学級を含む7学級で構成されている。児童は全体的に純朴で明るく素直である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ①委員会活動の活性化

##### ・紙芝居の上演

毎月、紙芝居を上演している。あらかじめポスターを作り低学年の教室や廊下に掲示して、当日は低学年のみならず5・6年生まで集まるという盛況ぶりである。



##### ・アンケートの活用

「好きな本ベスト5」や「購入してほしい本」「本読みベスト5」などのアンケートをとって掲示し、読書意欲を高めるようにしている。

##### ・「本読み賞」の作成

図書貸し出し時に個人カードを使っている。(1枚に19冊記入、色が変わる)カードが一杯になると手作りの「本読み賞」を贈っている。

#### ②全校読書タイムの設定

子供たちに毎日読書の時間を保障するために、10分間全校一斉に「読書タイム」として日課表に位置づけている。

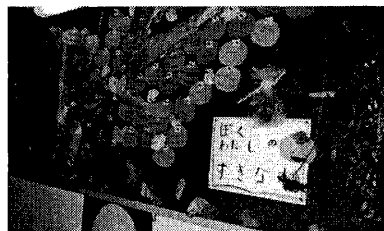
#### ③校内読書感想文発表会

年に一回、図書委員会主催で開いている。上・下学年に分かれ、それぞれ金賞・銀賞に選ばれ

た各学年2名が感想文を発表し、意見を述べて合っている。

#### ④掲示物による環境作り

読書に親しむ雰囲気全校で味わうために、季節に応じて、「おすすめの本」の題や「感動を絵で」の感想画等全校生の作品を掲示している。



## (2) 家庭との連携、地域との連携

### ①「読書カレンダー」(低学年)の活用

読書の足あとになるよう、家庭で記録してもらっている。読書記録になるのはもとより、読書傾向を知ることでもある。

### ②公共図書館との連携

国語科の関連図書はもとより、調べ学習の資料や季節に応じた絵本などを借りて、図書室の入り口にコーナーを設け展示している。全校生が手に取り、興味深くみている。



## 3. 成果と今後の課題

すべての子供が読書の楽しさを味わってほしいと願って取り組んできた。10分間の「読書タイム」を続けていく中で、続きを休み時間に読んだり家庭に持ち帰って読んだりして、読書が生活の中に位置づいてきた児童が増えた。

また、委員会活動を活発に行うことにより、自然に図書室へ足が向くように心掛けてきた。図書室利用は増えて、低学年では色別カードNo.9までいく児童も出てきた。読書離れの進む高学年でも、リクエストの本を購入するなどして興味を持たせ意識づけをしてきた。

今後も地道な取組を続けると共に、総合的な学習の時間とも結びつけて読書指導の充実を図りたい。

学校名 甲府市立貢川小学校

所在地 山梨県甲府市貢川本町8-1

電話 055-222-2408

## 1 本校の概要

本校は、甲府市の南西部に位置し、創立125年を迎える歴史古き学校である。15年程前から、地域教材の発掘や地域交流に努めてきた。

本を通しての調べ学習に力が注がれ、調べ学習専用の第2図書室も自校の工夫でつくりあげた。子供たちが、相手に自分の考えを伝える表現力なども、このころからつき始めた。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 特色ある実践活動内容

①週4日(月・火・木・金曜日)全校一斉の朝の10分間読書。学校の図書館から貸出を受けている本や家から持ち寄った本など、児童の自由読書により本に親しみ、読書意欲を高めている。特に、入学間もない1年生には、委員会の子供が教室を訪問し、紙芝居や本の読み聞かせを行っている。

②調べ学習に関する本を充実させ、課題追求や課題解決学習に応じられる環境整備に努めている。

③図書館の年間利用指導計画を作成し、学級活動や短学活、教科との関連において指導している。

④開かれた図書館をめざし、子供に毎日一人2冊の図書貸出を行っている。また、レファレンスサービスを充実させ、本に親しみをもたせる工夫もしている。

⑤図書委員会活動の充実を図り、常時活動だけでなく委員会が中心となって、全校児童への読書の啓発と図書委員の思いを伝える手段として読書週間中に集会の企画立案を行っている。〈劇やクイズ、多読者の表彰、本の紹介など〉

⑥毎年11月を読書月間とし、図書館入口

に先生方のお薦めの一冊の本の紹介を掲示している。また、低学年の児童には、先生による読み聞かせを行っている。

⑦図書館だよりを発行し、新刊および課題図書などや甲府市立図書館の案内を掲載し、子供に興味をもたせる工夫を行っている。

## 3 全校体制による取組の成果と課題

学校図書館運営部会(校長、教頭、教務主任、司書教諭、図書館主任、視聴覚主任、学校司書)

図書委員会(4, 5, 6年生で構成)

常時活動、定期活動、特別活動を行う。

### ① 全校的取組による効果

・子供一人一人の語彙が深まり、感性や表現力・発表力が豊かになった。併せて、人の意見を聞くようにもなってきた。

・年間利用計画に沿った利用指導の積み重ねにより、調べ学習の本の選び方等、基本的な手順が徐々に理解されてきた。

・総合的な学習の時間等で、実際に児童が図書館の本を使い、自分の課題解決のために活用しはじめている。

・コンピュータ等の整備がよいよ進む中で、図書に親しみ、本とふれあう楽しみを、低学年のうちから味わわせる体制と伝統を受け継いでできていることが、大きな効果であると考ええる。

・蔵書貸出の推移を見ると、学校全体としての体制が、しっかり定着していることの一つの成果としての目安となっている。

・総合的な学習の時間の取組とともに、児童一人一人の年間の読書量も増加の傾向にあることは、創意工夫ある日常的活動や、第2図書室の整備の効果と考えられる。

### ② 今後の課題

児童一人一人に「生きる力」を育てていくため、情報センターとしての役目を重視し、図書館運営を工夫改善していくこと。

学校名	八代町境川村中学校組合立浅川中学校
所在地	山梨県東八代郡八代町岡1111
電話	055-265-2449

## 1 本校の概要

本校は、すべての生徒に「生きる力」を、とりわけ、自主性、創造性、文化性に富んだ学力を保障するための一つの手だてとして、読書活動や、図書館利用活動を積極的に推進している。

特に読書活動では、全校一斉10分間読書の継続は19年に及ぶ。秋の読書週間を中心に、生徒に対して教職員の読み聞かせや、親子で行なう親子読書の実施も10年以上続けている。

また、冬休み中に学校図書館の本を利用して読書感想画も全校で長く取組を継続している。

## 2 読書を推進する活動の実践内容

### <その1>

①活動内容「全校一斉10分間読書」(週1回)

②活動体制・全校生徒及び担任による一斉読書

・活動時間 毎週月曜日

午後3時55分～午後4時10分

・前日に用意した本を、チャイムと同時に一斉読書する。

・読書後には、読書内容と実態を知るため読書一覧表を記入する。

・読書記録として残すため、読書ノートの一とこと感想を記入する。

③活動の効果・帰りの学活の前に行うことで、

担任も毎回参加でき定着している。

・生徒の自主的な読書と、読書量の増加、読書内容の充実につながっている。

### <その2>

①活動内容「学級担任による読み聞かせ」

②活動体制・秋の読書週間中の学級活動の時間

50分間(全校一斉)

・各担任が選定した、本や紙芝居を読み聞かせる。

・事後はアンケートに記入し、読書

ノートに200字感想をまとめる。

③活動の効果・アンケート結果は、毎年90%以上の生徒がよかったと答える。

・読み聞かせをもっとしてほしいと望む生徒は、50%に及ぶ。

### <その3>

①活動内容「ふれあいのひととき親子読書活動」

②活動体制・秋の読書週間中に、各家庭で、親子読書をする。

・学校としては、集団読書テキストを配布するが、選定は自由とする。

・親にひとこと感想を書いてもらう。

・生徒は、読書ノートに200字程度の感想をまとめる。

③活動の効果・親子、家族が読書を通して、ふれあうことができる。

・感性鋭い思春期における読書は貴重な体験であり、また、親子で同じ本を読むことで、意見交換をしながら、ふれあいの機会をもつことにもつながる。

・忙しい生活やテレビが主流の生活を変えることができよい機会となる。

④その他特記事項

・読書週間中は特に一人一人の読書への興味・関心を高めるよい機会になっていることがわかる。

### <その4>

①活動内容「読書感想画」

②活動体制・冬休みの課題として、全校が図書館の本を利用して取り組む。

③活動の効果・読書の感動を絵画によって表現することで、読書が創造的に発展し、読む楽しみを二重に得ている。

## 3 今後の課題

コンピュータ導入も視野に入れる中で、全教職員、保護者をも含めた、学校・家庭・地域体制による、読書活動の一層の推進を課題としたい。

学校名	飯田市立追手町小学校
所在地	長野県飯田市追手町2-673-1
電話	0265-22-5112

## 1 本校の概要

本校は飯田の市街地に位置し、昭和4年に建てられた校舎で、日々の教育活動を行っている。各学年単級で、児童数160余名の小規模校ゆえに、教師と子どもたちのつながりも強く、職員は共通理解に立って地域社会と共に子どもたちをはぐくむ学校づくりに努めている。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

学校経営方針の一つである「児童の豊かな感性をはぐくみ、個性の伸長に努める」活動の一つとして図書館教育を位置づけ、「本に親しみ、本に読み浸る時間を充実させる」ことに全職員が協力して取り組んでいる。

#### ① 図書館の時間の設定

時間割に、各学級週1時間設けられている「図書館の時間(国語)」は、担任引率のもと、子どもたちが図書館に来て司書の読み聞かせやブックトークを聞いたり、本に読み浸ったりする時間として活用している。

#### ② 10分間読書の実施

「読書は全ての学習の基礎である」「読書を通じて豊かな心を持った子どもたちを育てたい」等の願いから、平成9年度より「10分間読書」を清掃終了時に位置づけ、全学級で実施している。

#### ③ 親子読書ノートの実践

参観日で子どもたちと一緒に読み聞かせを聞いた保護者が、ぜひ家庭でも行いたいと希望し、「親子読書ノート」が始まった。学級で図書を決めて親子で読み、親が感想や子どもの様子を記入している。実施して2年目であるが、各学級で好評である。

#### ④ ブックリストの活用

教科学習で教科書の題材に関連する図書

や調べ学習で利用する資料をまとめておく必要から、職員の協力を得て平成9年度には国語科、11年度には社会科の件名ブックリストを作成し、情報を得やすくした。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 読書ボランティアの活動

「学校と親と一緒にあって、子どもたちの読書活動を支えていきたい」との願いから、保護者に協力を呼びかけ、平成10年度から保護者による読書ボランティアが始まった。毎月実施されている休み時間の「おはなしの会」や読書旬間中の「昼の放送」等は、子どもたちだけでなく、活動されるボランティアの方々も楽しみにしている。

#### ② 公共図書館との交流

公共図書館が本校に隣接していることから、学校帰りに図書館に立ち寄る子どもが多い。本の情報を教えていただいたり、読書旬間中には、職員の方が各学年に応じた読み物を紹介してくださったり、教科学習の資料や調べ学習関連の図書をまとめて貸出しをしてくださったりしている。

## 3 成果と今後の課題

時間割に位置づけて読書の時間を確保したり、保護者にも協力いただいて読み聞かせ等を行い、本と出会う機会を多くとったりしたことは、図書の貸出数の増加や司書に本のアドバイスを求めるに来る多くの子どもたちの姿から、たいへん効果的であったと考える。また、調べ学習の中で、意欲的に図書館を利用する姿が増えてきている。さらに、担任と司書とのTTの授業を工夫したり、ブックリストを充実させたりして、子どもたちが自分に必要な情報をどのように選択させ、活用させていくかを考えていきたい。

本校のさまざまな実践の成果から、図書館を動かす原動力は人であり、本の良さを伝える人なくしては、本を読む子どもは育たないと実感している。今後も、子どもたちの視点に立ち、子どもたちの読書活動を充実させていきたい。



学校名 東部町立田中小学校

所在地 長野県小県郡東部町大字県71-2

電話 0268-62-0001

## 1. 本校の概要

本校は、長野県の東部に位置し、北に、烏帽子、湯ノ丸、三方が峰の山々がそびえ、南に千曲川の清流を臨む豊かな自然に囲まれている。

児童数541名、20学級の中規模校である。素直で明るい子が多く、「つよく」「かしこく」「あたたかく」という学校目標のもと、児童会活動、縦割り活動（異年齢集団での活動）などを通して、生きる力の育成に力を入れている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校では、平成7年、エコール（上田地域図書館情報ネットワーク）の協力により、学校図書館と公共図書館がネットワーク化され、要望図書の検索や集団貸し出し、出張ブックトーク等のサービスがきめ細かく行われている。児童も学校図書館を多く利用し、公共図書館からの貸し出しも多い。

#### ① 学級文庫の設置

町立図書館より各組100冊の本を学期毎に借り、学級文庫として活用している。

#### ② 読書の時間の工夫

低学年では、読み聞かせを大事に考え、朝の会、帰りの会、国語科の授業の中で行っている。高学年でも、国語科学習の発展として、作者別・テーマ別に本を読んだり、社会科の調査学習の発展として、関連した読み物を読んだりしている。

#### ③ 公共図書館の活用

学校図書館にない本については、ウィンドーズロボ（検索用端末機）を子どもたちが自由に使い、本の検索をしている。また、ブックトークや読み聞かせの会の開催、学習の資料となる図書集めなどの場面でも、町立図書館の協力を得ている。

#### ④ 春、秋の読書旬間

朝の一斉読書、教師と子どもたちによる図書紹介のポスター作り、図書館だよりの

発行などに取り組んでいる。

#### ⑤ 司書による図書館環境の整備

季節、テーマごとの本の紹介、絵本コーナーの設置、公共図書館との連絡など、学校図書館の司書を中心にさまざまな取組がなされている。

### (2) P T Aとの連携

母親文庫会員の保護者の方々が、春と秋の読書旬間に、朝の会を利用して各学級で読み聞かせの会を行っている。また、低学年では、旬間中だけでなく年間を通して、母親文庫会員の保護者の方々による読み聞かせが定着してきている。



## 3. 成果と今後の課題

子どもたちにとって魅力のある図書館にするために、様々な取組を行い、成果が上がってきている。その一つとして、子どもたちの図書館利用の状況がたいへんよくなってきたことがあげられる。また、子どもたちの中に、読書の楽しさが感じられたり、わからないことがあったら図書館の本を利用して調べてみようという意欲が広がってきたりしている。

低学年では、担任や母親文庫会員の保護者の方々による読み聞かせや本の紹介などを通して、本に親しみ、子どもたちが読書の楽しさを感じることができるようになってきている。今後も、このような日常的な指導を積み重ねていきたい。

高学年では、国語、社会、総合的な学習の時間などで、調査学習を中心とした利用指導に取り組んでいる。一人一人に適切な助言をすることで、子どもたちは調査学習の楽しさを感じられるようになってきている。今後は、自分にとって本当に必要な情報を選択する力、その情報について感じたことや考えたことを適切に表現できる力を育てていきたい。

学校名 岐阜県立斐太高等学校
所在地 岐阜県高山市三福寺町736番地
電話 0577-32-0075

## 1. 本校の概要

本校は山紫水明の飛騨高山にあり、創立以来115年の伝統を誇る男女共学25学級の普通科高校である。ほとんどの生徒が進学希望で「切磋琢磨」「確乎不拔」の校訓のもと、真摯に学業に励み、部活動や各種の行事にも力を尽くしている。近年は、卒業式当日の伝統的生徒会行事「白線流し」が全国的に有名になっている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 行きたくなる図書館

職員と図書委員が知恵を出し合って、全校生徒が一日に一度は図書館に行きたくなるような工夫を凝らしている。廊下の図書館広報コーナーで「こんな本があるよ。」と巧みに呼びかけている。図書館内は、利用者の立場に立った配置に心掛けている。発泡スチロールとテグスを使って、館内の全てが一目でわかるように案内したり、座り心地の良い椅子を用意したりしている。さらに、観葉植物や熱帯魚などを置くことで、学校の一角に不思議の国の別世界を演出し、「安らぎ」と「癒し」の空間を提供している。また、行事の度に閲覧室の中央で特設展示を行っている。例えば、クリスマスには、約50冊のクリスマス関係の本を展示し、飾り付けをするなどして楽しい雰囲気を作り出している。

#### ② 情報センターとしての役割

図書館内には、新聞切り抜きコーナーやペット本、旅行本、洋書コーナーなど30種を超える常設コーナーと、その時々話題本、人気本、行事関係本などの特設コー

ナーがある。例えば、常設の「アテンションプリーズ」のコーナーでは、主に当日の新聞から興味ある記事をコピーして貼ったり、催し物の案内をしたりするなど最新情報を提供している。また、生徒の小論文対策にも役立つよう、新聞切り抜きの記事を文学、教育、医療、歴史、環境、人権、女性問題など多くの分野別に整理している。レファレンスサービスでは、岐阜県図書館をはじめ多くの機関と広く連携を取り合っており、あらゆる手段を講じ、熱心に、また誠実に行うことをモットーとしている。

#### ③ 図書委員会の充実

最大の特色は図書委員会の活躍である。本校の伝統的な部分で、総務部、広報部、サービス部のそれぞれが「どんなことを提供できるか。」を常に考え、利用者の目線で見直し改善し、「日だまり」のような図書館づくりを目標に、全校生徒と図書館をつなぐ大切な役割を果たしている。

#### (2) 地域に開かれた図書館

本校の図書館は、保護者、卒業生、学校周辺の一般の方々にも開放されている。貸出の他に、貴重本の閲覧もあるため、地域の情報センターとしての役割も果たしている。

## 3. 成果と今後の課題

次のような利用者の声の中に、これまでの成果を見ることができる。

- (1) 最新の本があり、「こんな本もある!」と、うれしくなるような本がいっぱいある。
- (2) スポーツ新聞から英字新聞まで、新聞の種類も多く、広告のチラシも整理されていて、買い物情報や映画情報まですぐ分かる。
- (3) 館内がきれいで、気楽に入館でき、ほっとして、大変落ち着くことができる。

今後の課題はコンピュータのより広い活用による蔵書管理、他の図書館とのネットワークの充実、利用者への新しい情報提供などである。

学校名	岐阜県立岐阜聾学校
所在地	岐阜県岐阜市加納西丸町1-74
電話	058-271-3700

## 1. 本校の概要

本校は、岐阜県唯一の聴覚障害教育機関で、創立70年の歴史をもち、幼稚部から高等部までの4学部を有し、85名が在籍している。

現在、教育用ネットワークの環境整備と授業活用、また定期的な居住地校交流や近隣の学校や地域の人との交流等特色ある教育の推進に努めている。

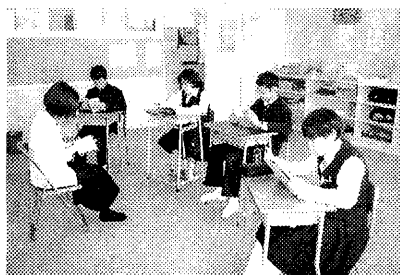
## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

情報検索能力を高めるための読書活動は重要な課題で、読書活動のみならず文字情報盤を活用した情報提供等に、積極的に取り組んでいる。必要時にすぐ活用できる図書館を目指し、各学部ごと図書室とパソコン室をそれぞれ隣接して設置し、容易に多様な方法で求める情報の収集ができるようになっている。

#### ① 10分間読書

中学部では、毎朝教室で10分間読書を実施している。読書の習慣が確立されていない生徒には、漫画本も認めている。



#### ② 小学生新聞

図書委員会が中心となり毎朝内容を点検し、必要性や児童生徒たちの興味・関心に応じ、新聞コーナーに掲示したりするなど、最新情報を提供している。

#### ③ 読み聞かせ

絵本や紙芝居を活用し、教師による読み聞かせ活動を永年実施している。手話や指文字等も活用している。

#### ④ 本ごはん

三食のご飯の他に本も食べようと呼びかけ、寄宿舎でも読書活動を展開している。

#### ⑤ 情報機器活用

いつでも誰もが、パソコン活用ができるようになっており、昼休みや放課後等でも利用者でにぎわっている。

### (3) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 高校生による読み聞かせ活動

高校生との交流活動の中で、手作り紙芝居による読み聞かせを行っている。



#### ② 親子読書

幼稚部での読み聞かせ活動が、家庭での親子読書に発展し、親子の絆を深めるのに役立っている。

#### ③ 手話講座受講者による図書館活用

## 3. 成果と今後の課題

図書委員会発行の小学生新聞には、環境問題等社会の動向を身近に感じさせる工夫がある。新聞を通して児童生徒の興味・関心を促すことができ、総合的な学習にも発展した。また、校内の活動が交流活動に広がっていることから、読書活動が児童生徒の「生きる力」をはぐくむことにつながってきていることが分かる。

今後は、新刊書籍の充実に努めるとともに、朝の10分間読書などの読書推進活動を定着させ、読書のすばらしさを伝えていきたい。

学校名	高山西高等学校
所在地	岐阜県高山市下林町353
電話	0577-32-2590

## 1. 本校の概要

本校のある高山市は、岐阜県北部に位置し、乗鞍山脈のふもと、豊かな自然に囲まれ、伝統的な文化と歴史の息づく町である。

本校は生徒数621名、学級数20学級の規模校であり、「学習三原則①生活を正す。②目標をもつ。③継続する。」に従って、学校全体が学習、部活動、学校行事に積極的に取り組んでいる。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 朝の読書タイム

平成4年度から朝の10分間読書を実施している。「氣息を整える。活字に親しむ。間接体験。思考の源。語彙力の養成。情操の涵養。」を目標として始めた。毎朝SHR前の10分間を学校の時間割の中に組み込み、また各クラスには約60冊の学級文庫を設置し、生徒は自由に好きな本を読むことができる。

### (2) 図書館オリエンテーション

各学年、各クラス1、2学期に1回ずつ図書館利用のオリエンテーションを行っている。(1年生の1学期は国語の時間、他の学年は朝の10分間読書タイムを利用)

また今年度は各学期、数名の職員が朝の読書タイムに全校放送で、読書に関する講話を行った。初めての試みだったが、好評だった。

### (3) 図書委員会

委員会の活動内容は次のとおりである。

- ① 図書館だより、壁新聞の作成
- ② 写真ニュースの掲示
- ③ 環境関連図書の管理
- ④ バーコード処理の作業

このような活動を通し、図書委員会が中心になって、全校生徒への読書の働きかけを行っている。

### (4) 西高祭での古本バザー

図書委員会による「古本バザー」が、平成10年度の西高祭(文化祭)から始められた。

育友会の協力を得て家庭で不要になった本などを販売し、本の再利用をしている。収益金はボランティア活動の一環として福祉団体に寄付している。

### (5) 環境関連図書と雑誌、新聞コーナーの設置

今年度から、2階売店前ラウンジに、上記のコーナーを設置した。昼休み放課後の利用数が増え、憩いの場としても活用されている。

特に環境関連図書の充実に力を入れているのは、本校が「エコスクール高山西」を宣言し、ISO14001を取得するなど、環境教育を積極的に推進しているためである。

## 3. 成果と今後の課題

今後さらに利用者を増やすため、各教科で図書館を活用した授業を実施し、そのために必要な書籍を購入していきたい。

また、「本校職員の薦める100冊」などと銘打って学級文庫のさらなる充実を図りたい。

その他、情報教育が可能になるように今年度から校内LAN配線をし、来年度からバーコードによる貸出し、返却ができるよう準備を進めている。今後もIT時代にふさわしい学校教育にも適応できる環境作りに、学校図書館としても積極的に取り組んでいきたい。



学級文庫

学校名 清水市立辻小学校

所在地 静岡県清水市辻4丁目3-40

電話 0543-65-5910

## 1. 本校の概要

本校は市の中央部に位置し、旧東海道に面した商店街と住宅地に囲まれている。他地区からの転入者は少なく、長い歴史に支えられた地区である。

平成7年度から清水市調査研究委託校として学校図書館教育に力を入れてきた。朝の読書続けることで、子供たちは本を読むことに魅力を感じてきている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 朝の全校読書

週3回15分間の朝読書を全校で行っている。  
15分間黙っ



て静かに読むことをめあてにし、集中して読書する習慣を身に付けている。

#### ② 学習情報室の整備

中学年以上の2・3・4・6類の本を図書室から移動し、学習情報室を作った。子供たちがいつでも調べ学習ができるように調べ学習の方法や参考図書の使い方が分かるような掲示も作成した。

#### ③ パソコンの利用

貸し出しについては、蔵書・個人バーコードを活用し、簡単に貸し借りができるようにしている。また、パソコンで本の検索を行うこともできる。

#### ③ 市立図書館との連携

市立図書館の協力を得て、毎月本



を200冊借りている。本好きな子を育てようと考え、子供たちがいつでも必要な本や新刊本等、魅力ある本と出会えるような機会や場を設けている。

### (2) 地域との連携

#### ① フレンドリータイムの読み聞かせ（全クラス読み聞かせ）

お母さんボランティアが、月1回15分間、1年から6年の全クラスで読み聞かせを実施している。

#### ② 読書の時間の読み聞かせ

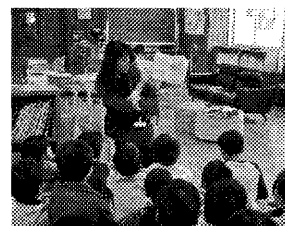
1年生から3年

生を対象に、月1

回、読書の時間に

お母さんボランテ

ィアが、個別に読



み聞かせをしたり、学級の全員にストーリーテリングを行ったりしている。

また、4年生には地域の「お話宅配便」の方が、月1回、読書の時間に本の楽しさを伝えに来てくれている。

## 3. 成果と課題

### (1) 本を読む習慣が身に付いてきた。

低学年でも本を静かに読む習慣が身に付き「読書は楽しい」と感じる子供が増えた。

### (2) 授業で調べ学習がしやすくなった。

学習を支える学校図書館として学習情報室を整備したことで、読書指導をしているクラスと一緒にすることがなくなり、いつでも子供たちが調べに行くことができるようになった。授業で本を活用することが多くなった。

### (3) 今後も一層、個にあった読書指導（読書量・質）のあり方を研究していく。

子供一人一人の読書傾向を調べ、様々なジャンルの本を読ませたい。そうすることで、本から幅広い知識を得る喜びや、想像する楽しさを味わわせていきたい。

学校名 富士市立青葉台小学校  
所在地 静岡県富士市一色295番地  
電 話 0545-21-6310

## 1. 本校の概要

本校は平成10年に開校。校名が表すように、校地は茶畑の広がる高台に位置しており、南側には遠くに駿河湾を、北側には雄大な富士山の姿を見ることができる。豊かな自然ときれいな校舎の中で、15学級507人の子どもたちは明るくのびのびと生活している。そして教職員も一丸となって「未来を見つめる子」の育成に努めている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① キャラクターシールの作成

図書室のキャラクターを作り、その名前を全校に募集。ポプリンと決定。ポプリンのシールを作成（現在55種類）し、子供に配布した。配布の条件は、下記の3点のいずれかである。

ア おすすめの本の紹介。（専用用紙にかく）

イ 6冊本を借りる。（専用葉に記入）

ウ 自分の読んだ本5冊分の題名などを記録。

\*図書室には常時おすすめの本の用紙や葉、読書記録を書く紙を用意している。

\*今年度はポプリンの友達ププリンも登場し、シールの種類も増えている。

#### ② 読書週間の全校での取組

ア 学年ごとの大型ジグソーパズル

イ 10万ページ読めるかな

ウ 読書双六

エ あの本探して！クイズコーナー

オ 読書郵便コンテスト

#### ③ 魅力的な本の入手

常時「リクエストコーナー」を設置し、子どもたちの読みたい本を知り、本の購入の参考にする。また、実際本屋に足を運び話題の本などをリアルタイムで購入する。

#### ④ 入門書から卒業書

「ハムスター研究レポート」などの漫画を読書入門書、「はてしない物語」（ミシェル・エンデ）を卒業書とし、発達段階に応じて読書が楽しめるように心がけた。「はてしない物語」を読破した子には、本と一緒に写真を撮り、それをパウチして「読破おめでと賞」として記念に贈った。

#### ⑤ コンピュータ導入と司書

コンピュータによる貸し出し返却のため、本を借りる煩わしさが軽減された。そのため、外遊びに行く前に図書室に気軽に立ち寄れる。また、週2、3日ではあるが年間を通して司書がいるため、蔵書がしっかり整備され、図書館運営をしていく上で大きな支えとなった。

### (2) PTA、地域との連携

#### ① 読み聞かせ

毎月木曜日（朝8時から15分間）に地域の読み聞かせボランティアの方による読み聞かせを行った。第1週が低学年、第2週が高学年の各クラスで。

#### ② PTAによる本の購入

PTA活動によるバサールの収益金で図書室の本を購入。本選びは、母親委員が中心に行った。

## 3. 成果と今後の課題

一日平均の本の貸し出し冊数は、開校した平成10年の60冊から年々増え続け、現在では一日平均約120冊、年間で2万冊を越えている。図書館が身近な存在になってきた子どもたちに、今後はさらに情報提供の場としての存在も大きくアピールしていきたいと思う。そのためには、本の検索システムの充実を図るとともに、司書教諭、学校司書の連携を密にし、本の情報や知識を広げていきたい。そして学習に役立つ本、心が温かくなった本の紹介など、一冊の本を通して教職員、保護者、子どもたちとの間に豊かな人間関係の輪が育まれるような図書館運営を目指していきたい。

学校名	私立 静岡雙葉中・高等学校
所在地	静岡県静岡市迫手町10番71号
電話	054-255-0305

## 1 本校の概要

本校は静岡県の県庁所在地である静岡市の中心部に位置している。徳川家康ゆかりの駿府公園の外濠と内濠の間に建つ中高一貫のカトリック女子校であり、生徒数1094名、学級数24クラス、創立は1903年であり、平成15年には百周年を迎える伝統校である。

## 2 本校の実践の概要

### ① 指導開始時期

中学入学時、国語科から春休み中の課題図書を示し、感想文を書かせる。

### ② 読書ノートの活用

中学生は年間6回の読書ノートを提出させる。高校生は各学年ごとに計画し、四分野読書や生徒相互間の推薦図書紹介などで読書ノートを利用している。推薦図書や課題図書を読んで感想を書いて提出する。

### ③ 夏の読書感想文の指導

毎年7月上旬に、全学年対象に夏の読書感想文にむけて推薦図書のリストを配布している。

### ④ 図書委員会の活動

図書新聞を発行したり図書館の掲示板や黒板を活用する。また、古本市を開く。

### ⑤ 活動体制

図書文化課(教員4人、司書・事務員2人)と国語科が感想文の指導に当たっている。

夏の推薦図書については、各教員が個人で出し、読書活動の指導の観点から各学年の教員が関わっている。各教科でも課題図書による読書をさせたり、教科の特色にあった本を勧めたり、調べ学習をさせたりする。このように、全教員が読書活動の指導に関わってい

ることが特徴である。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 過去6年間の主な入賞実績

年度	入 賞 実 績
12	静岡県私学読書感想文コンクール 中学生部門 私学協会長賞 高校生部門 私学協会長賞 静岡県青少年読書感想文コンクール 県高等学校図書館研究会長賞
11	静岡県私学読書感想文コンクール 高校生部門 静岡新聞社賞 静岡県青少年読書感想文コンクール 県教育委員会教育長賞 全国コンクール入選 井上靖作品読書感想文コンクール 中学生の部 優秀賞
10	静岡県私学読書感想文コンクール 中学生部門 私学協会長賞
9	第19回角川文庫による読書感想文 静岡県コンクール 優秀賞
8	静岡県私学読書感想文コンクール 中学生部門 私学協会長賞 高校生部門 静岡新聞社賞
7	静岡県青少年読書感想文コンクール 県高等学校図書館研究会長賞 全国コンクール 毎日新聞社賞

### (2) 活動の効果

中高一貫の特色を生かして、継続的な指導を行い、教員自身が本を推薦することによって効果を上げている。読書感想文は生徒全員が取り組み提出できている。

### (3) 今後の課題

平成13年度12月に、新校舎の第2期工事が終了、翌14年1月末には新図書館を開館した。広さ、明るさ、使い易さも向上し、よりよい環境を生徒に提供できるようになった。これからも、内容を充実させ、授業や種々の探究活動の助けとして活動し、より質の高い読書指導を推進していきたい。

学校名	春日井市立鳥居松小学校
所在地	愛知県春日井市月見町45番地
電話	0568-81-2601

## 1. 本校の概要

本校は、明治42年開校、今年で94年目を迎える伝統校である。児童数は、2月1日現在で375名で、各学年2学級と特殊学級2学級から成っている。児童は大変明るく、児童を主体としたさまざまな活動が推し進められている。PTA活動も積極的で、学校と家庭、地域が一体となって、心豊かな児童の育成にあたっている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校には、主に高学年が利用する「なるほど広場」、低学年中心の「おはなし広場」、紙芝居や読み聞かせ等に利用する「わくわく広場」の3つの図書室があり、さまざまな読書活動の軸となっている。またそれらの活動は、図書委員会の児童を中心に進められている。

#### ① 年間を通しての読書指導

毎週金曜日を朝読書の日とし、全校一斉に読書に取り組んでいる。また、「図書館だより」の月1回の発行、読書目標の設定、多読者の表彰などを通して、読書活動を推進している。

#### ② 読書週間の取り組み

各学期ごとに読書週間を設けている。教師及び地域の方々による読み聞かせ、読書郵便の交換、先生のすすめる本の展示、しおりのプレゼント等さまざまな行事を計画し、また、読書郵便コンクール、感想画コンクールへも参加している。

#### ③ 図書館のコンピュータ化

本校は、平成3年度に図書のデータの入力を始め、8年度から市販の図書検索ソフトを導入し、コンピュータによる図書管理、貸出手続き、検索を開始した。13年度からは、春日井市独自のソフトに変更し、将来的には

市内の小中学校及び市立図書館とコンピュータでつながる予定である。

#### ④ 学習センターとしての図書館

図書館を単なる本を借りる所ではなく、学習センターとしての機能をもたせ、学習に役立つ魅力ある学校図書館づくりに努めている。特に、調べ学習が効果的に進められるために、図書だけでなく各国、県市町村のパンフレット等の資料の整備に努めている。

### (2) 家庭との連携・地域との連携

#### ① 家庭との連携

図書委員会が発行する「図書館だより」で図書館の活動を家庭に知らせている。また、長休業中には、親子読書をすすめ、記録を冊子にまとめている。

#### ② わくわく絵本の会

在校児童及び卒業生の母親の有志の方々による読み聞かせのサークルである。わくわく広場での全校児童を対象とした読み聞かせ、朝読書の折の各教室での読み聞かせを実施し、どの児童も毎回大変楽しみにしている。



## 3. 成果と今後の課題

担任の教師の協力もあり、図書館へ通う児童の数は、年々増え、貸し出される図書も多種多様になり、さまざまな形で図書館が利用されるようになった。今後、児童がさらに利用しやすくなるように環境を整備する必要がある。また、学習センターとしての機能を十分に果たすために、蔵書数を増やすことの他に、図書以外の資料の充実やコンピュータでの検索のためのデータの充実、コンピュータの増設、図書館でのインターネットの利用などの実現に努力していきたいと思う。



学校名	豊川市立東部小学校
所在地	愛知県豊川市三谷原町石坪 1-1
電話	0533 - 86 - 4368

## 1. 本校の概要

本校は豊川市の東端、東名高速道路豊川インター南側に広がる田園地帯に位置し、学級数 13、児童数 420 名の学校です。学校図書館には 5, 678 冊（一人あたり 14 冊）の蔵書があります。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

「本読んで心豊かな東部っ子」校門を入ると、体育館の壁に大きく掲げられたこの文字が、真っ先に目に飛び込んできます。また、げた箱の上には、「本読むとちょっぴりどきどきたのしいな」、階段には「読み聞かせみんなの笑顔すてきだな」等々、大きなパネルが掲げられています。これらは、平成 8 年「読書活動を核にした総合学習の展開」をテーマに研究発表をした時作られたものです。

その後も、読書活動を中心に、本校は下記の実践を継続しています。

#### ①全校読書タイム（火～土）

8：30～8：40

- \* 火・木曜日は教師による読み聞かせ
- \* 水・金・土は自由読書

#### ②図書委員会の活動

- \* 図書の貸し出し（2 年生以上）

月～土曜日の

{	始業前
	20 分放課
	昼放課

- \* 平成 12 年度図書貸し出し冊数  
3, 463 冊（児童一人あたり 11 冊）

#### ③読書週間（読書旬間）

- \* 講師による読み聞かせ、講演会
- \* 親子読書、家庭での 20 分読書

#### ④学年 10 冊の推薦図書の選定と活用

#### ⑤学校図書館の充実

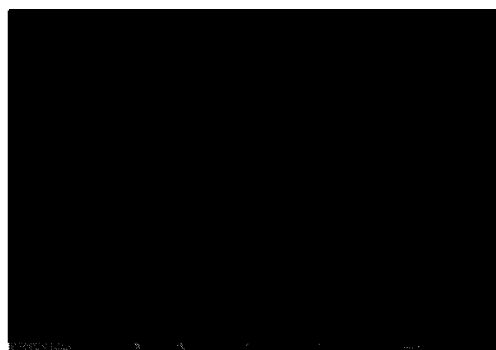
- ・おはなしのくに 中高学年向き
- ・えほんのくに 低学年向き絵本
- ・ちしきのくに 事典・年鑑

#### (2) 家庭との連携、地域との連携

##### PTA による「お話ひろば」

毎月 1 回、PTA の委員が 4～5 名来校して、「えほんのくに」で低学年を相手に読み聞かせをしています。委員の一人は次のような感想を書いています。

「1, 2 年生がたくさん聞きにきてくれた。とても真剣に聞いてくれたので、楽しく読み聞かせをすることができた。お話ひろばはこれからも、ずっと続けていってほしい。」



また、読み聞かせの後、PTA の方が市の中央図書館へ本を 100 冊程度借りに行き 1～2 年生の書架へ入れています。

## 3. 成果と今後の課題

読書活動の輪が広がり、豊川市の他の学校でも朝の 10 分間読書が多く取り入れられるようになりました。本校も、より一層本好きな子を育成すべく、読書活動を推進していきたいと思っています。

今後の課題としては、総合的な活動を支える「情報センター」としての機能を強化して、子供たちの調べ学習の要求に答えられるように資料を充実させ、インターネットでも検索できるように、設備を充実させたいと考えています。

学校名	相山女学園高等学校・中学校
所在地	愛知県名古屋市中種区山添町2-2
電話	052-751-8131

## 1. 本校の概要

本校は建学の精神「人間になろう」のもとに幼稚園から大学院までを併設する中部地区唯一の女子総合学園で、平成13年度、中学・高校合わせて1,870名が同一キャンパスで学んでいる。図書館は、蔵書10万冊検索可能、インターネット接続可能な6台のコンピュータを有し、司書資格を持つ館員3名と館長が図書館教育係6名の教員と協力して、運営・指導にあたっている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

- ① 中学・高校ともに年2回HRの時間（本年度からは一部総合学習）を利用してHR読書会を実施。50冊揃った集団読書テキスト213点の中から、クラス希望図書を選び、図書委員が中心となって、予備調査カードや資料を作成し、当日の運営の充実を図る。
- ② 中学・高校ともに年2回の読書感想文コンクール、年1回の読書感想画コンクールを実施し、クラス全員で参加し、校内審査の結果優秀なものは、全校放送で朗読し、作品集も全校生徒に配布する。校外の各種コンクールにも積極的に参加し、毎年優秀な成果を収めている。
- ③ 生徒が良書に親しむために中学・高校ともに「相山中学(高校)100冊の本」を選定し、各3冊揃え利用を勧めてきた。古典的名作中心の選定であったが、昨年度から、新しい社会的視野の広がりのある、生徒の実態にふさわしいものに大幅に改定し、利用状況も良好である。
- ④ 各種行事に際して関連教科、行事係と連絡を密にし、推薦図書・参考図書を別置したりして、事前学習推進に寄与している。

- ⑤ インターネット接続可能な検索端末6台を利用して、館内資料とインターネットの両方から必要な情報を探し出す力をつけるために、高校1年生全員を対象にして、メディア・オリエンテーション「知の探検家を目指して」を実施した。さまざまな教科の調べ学習がより効果的に能率的に充実したものとなるような支援の第一歩である。



### (2) 家庭との連携、地域との連携

平成14年度から本校生徒の保護者に図書館資料を開放する運びとなった。蔵書を広く活用させ、同じ本を読んで親子の対話が進んだり、PTA活動の中に読書活動を取り入れ、互いの教養・交流を深めたりすることができれば幸いである。さらに、保護者がボランティアで図書館運営に関わるような開かれた図書館を目指したい。

## 3. 成果と今後の課題

平成14年度から本格的に始まる総合学習において、図書館がこれまで以上に重要な役割を担わねばならないということは論を俟たない。館員は研修を重ね、総合学習を企画する係会に参加し、連携をとって、生徒に必要な情報が提供できるよう選書、インターネットの検索用ガイドフォルダの作成などの準備を整え、生徒の調べ学習を積極的に支援する体制をとっている。

また、中学では朝の10分間読書もスタートするため、開館時間を延長し、生徒が、ゆっくりと本を選び、静かに読書したり、AV資料を見てくつろいだりする、学校生活の中のオアシスのような空間作りも心がけたい。

学校名	河芸町立上野小学校
所在地	三重県安芸郡河芸町上野 2963
電話	059-245-1137

## 1、本校の概要

本町は人口 17,400 人の小さな町である。伊勢平野のほぼ中央にあり、鈴鹿市と津市にはさまれた約 18.8 k m<sup>2</sup>で海と山のある自然に恵まれた町である。

本校は、児童数 365 名で素直で人なつっこい児童が多い。保護者・地域の人の学校への関心は高く、授業参観への参加、ゲストティーチャー、諸活動のボランティアなどに積極的に参加している。

## 2、本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 図書委員の活動

6 月の梅雨の時期に低学年の児童を対象に昼休みや業間に教室に出向き、紙芝居をしている。また、図書委員が給食後の休憩の時間に図書館で読み聞かせをしている。

辞典の使い方を学習するため、4 年生を中心に辞書引き大会を開いている。

年度末には、1 年を通じてたくさん本を読んだ児童に各学年 5 名ほど多読書賞を渡している。

秋の読書週間には、10 日間ほど読書キャンペーンを行い図書委員手製のしおりを渡している。

#### ② いろいろなコンクールに応募

東海地区郵便コンテストに全校の 2/3 以上の児童が取り組んでいる。他に読書感想文や読書感想画などに応募している。

#### ③ 図書集会

新刊を児童集会で発表したり、図書館コーナー掲示板には、本の内容を絵と文で簡単に書き紹介している。また、図書館のきまりや本の借り方等を、劇によってわかりやすくしたり、クイズで興味を持たせたりして図書館の利用を呼びかけている。

#### ④ 図書の係から

課題図書を全校児童に読んでもらう為に、夏休みに各クラス二冊ずつ回覧をしている。また、毎月、図書館だよりを発行して、図書館の利用を呼びかけている。

### (2) 町の図書館や P T A との連携

- ・三年生の見学体験学習で全員の町立図書館利用者カードを作る。学校の集団利用カードで、一回に 100 冊借りることができるので、学年で借りている。
- ・町の図書館のホールを借りて郵便コンテスト等の優秀作品を展示している。
- ・町図書館の情報と学校図書館の情報を、お互い図書館だよりのにのせて交換している。
- ・一・二年生を対象に P T A に定期的に図書館に来ていただき、読み聞かせをしてもらっている。
- ・夏休みに図書の整理のお手伝いを P T A にお願いして、来てもらっている。

## 3、成果と今後の課題

図書委員の活動によって、図書館の利用が増え、貸し出し冊数も増えた。図書館でいろいろな行事をすることによって、児童が本に興味を持つようになってきている。

P T A の人にゲストティーチャーとして来ていただいているので、新鮮さがあって良かった。児童の読書意欲がますます出てきている。

夏休みや冬休みには親子読書カードを作成して休み期間中も本に親しんでもらうようにしたら、親の意識も変わり読書の量が増えた。

町立図書館を有効利用することによって、児童の学習範囲が広がり、本を読む楽しさがわかった。さらに、総合的な学習の時間において、児童の自ら学ぶ力を育むためにも役立った。

学校の図書館経営は、読書、学習の場としての整備、充実が大切であり、これを基本に町立図書館とどう関わっていけるのか、さらに模索していきたい。また、総合的な学習の時間においてもっと利用できるようにしたい。

学校名 四日市市立三重小学校

所在地 三重県四日市市東坂部町233

電話 0593-30-0036

## 1. 本校の概要

本校は、三重県四日市市街の周辺地域にありながら、学校の周りには自然が残り、3世代の家庭の児童も多く、比較的落ち着いた学校である。今年度創立126年を迎え、歴史のある学校である。児童数は、平成13年5月1日現在431名、14学級(障害児学級1)の中規模校である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は、開かれた学校づくりの具体的な取組として、『保護者ボランティアのいる学校図書館』を始めた。

#### ① 明るく親しみのある図書館に変貌

書架の整理や清掃のみならず、トランプの飾りや造花、絵本に登場するぬいぐるみを置いて明るくしたり、子どもたちが本に出会いやすいよう、元大工のおじいちゃんに本棚等の改造をしていただいた。

#### ② ボランティアさんとの触れ合い



休み時間には子どもたちから「読み聞かせ」をおね

だりしたり、時には、「詩の体現」を演じていただいている。読書の時間には本探しのお手伝いや、調べ学習では子どもたちに助言していただくこともある。

#### ③ 「朝の10分間読書」との響き合い

「朝の10分間読書」のために、学級文庫を充実させたいと、ボランティアさんのアイデアで、リサイクルの本(「ともだち文庫」と命名する。)を各学級へ定期的に巡回させている。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

保護者等が日常的に出入りする学校と、この取組の波及効果から、保護者や地域社会との響き合いのある連携ができるようになった。

また、大人の存在が不審者等の侵入を未然に防ぐ効果があるようで、学校の安全確保にも役立っている。

## 3. 成果と今後の課題

2年間の取組で、図書館が本に親しめる明るい空間に変貌し、校内では自然な形での保護者の存在があり、学校全体が一段と明るくなったようである。図書館への入館数や本の貸し出し数が増え、「朝の10分間読書」の定着もあり、心豊かな子どもの育成に成果が出ている。

ボランティアが日常的に学校に存在する「開かれた学校像」と教師が行う教育活動との線引きを明確にすることと、ボランティアの思いを学校との『互惠』の観点で、いかにコーディネートするかが今後のボランティア支援体制の定着に向けた課題である。

学校名	三重県立四日市四郷高等学校
所在地	三重県四日市市八王子町字高花 1 6 5 4
電話	0 5 9 3 - 2 2 - 1 1 4 5

## 1 本校の概要

- (1) 生徒数 950名(25クラス)
- (2) 昭和58年開校(今年度で19年目)
- (3) 本校は、女子生徒が全体の3分の2を占める全日制普通科高校です。生徒の個性を伸ばすため、スポーツ科学コースや芸術コースなどのコースを設けています。就職や進学などさまざまな進路希望を持った生徒が集まる学校です。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

「1日の初めを静かに読書することから始め、読書の楽しみを知る機会とする」を目的として、平成10年度から朝の10分間読書をスタートし、今年度で4年目になります。

- ① 毎朝SHR前の10分間(8時40～50分)、HR担任と全校生徒が各自の好きな本を読んでいます。(マンガ、雑誌、新聞は除く)
- ② 本は各自が用意する。学級文庫を利用してもよいことになっています。
- ③ 各学期に約2回、1～2週間をひとつの単位として、担任以外の教員も一緒にHRに入り、本を読む「読書週間」を設けています。これは、担任を手助けし、ともに静かに読書する雰囲気を作っていくことが大きな目的です。
- ④ 図書部と連携し、生徒向けの「ブックトーク」(本の紹介)や「読み聞かせ」を図書室で実施しています。これにより、本と出会うきっかけを作っています。

- ⑤ 年1回の「全校生徒向けアンケート」と「3年間の朝の読書についての感想文」(3年生対象)を実施しています。これは、朝の読書の成果、意義を確認するよい機会となっています。
- ⑥ 生徒が選んだ人気作家は？

- |    |                     |
|----|---------------------|
| 1位 | 赤川次郎「三毛猫ホームズ」等      |
| 2位 | ローリング「ハリー・ポッター」     |
| 3位 | 大平光代「だからあなたも生きぬいて」等 |

## 3 成果と今後の課題

### (1) 朝の読書の成果

- ① 今年度の取組に対するアンケートの結果は次のとおりであった。

- ・ 朝の読書に対して「ふつう、または積極的に取り組んでいる」と答えた生徒は、全体の78%。(5人中4人)
- ・ 「読解力がつく」と答えた生徒は、40%。
- ・ 「考えが広がる」と答えた生徒は、32%。
- ・ 「集中力がつく」と答えた生徒は、27%。
- ・ 学校以外でも読書する生徒は、40%以上。

- ② 朝の読書により、今まで本に縁のなかった生徒たちにとって、読書することが当たり前のことになったことが大きな成果である。

### (2) 今後の課題

今後の課題は、①読書のための環境が作られているか、点検し続けていくこと。(きれいな教室、静かな雰囲気)②自分に合う本に出会うための支援。(本の紹介や読み聞かせなど)③教職員の共通理解を深めていくことの三点です。

学校名	高月町立古保利小学校
所在地	滋賀県伊香郡高月町西柳野38
電話	0749-85-4466

## 1. 本校の概要

琵琶湖の北東部に位置し、豊かな自然と、古保利古墳群など歴史的史跡・文化的遺産に恵まれた農村地帯である。

児童数は120名(普通学級6学級と障害児学級1学級)で、子どもたちは明るく温厚である。

保護者や地域の方も教育に関心が高く、学校と協力して子どもの健全育成に熱心である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は、平成10年度からの3年間、文部省の「学校図書館情報化・活性化推進モデル地域事業」の指定を受け、本に親しみ、目的を持って本を活用しようとする子どもの育成に努めてきた。また、「読書の町・高月」を合い言葉に、町を挙げて子どもの読書意欲を高める工夫を図ってきたが、町立図書館と学校の図書室をネットワークで結び、学習情報センターとしての機能を拡充するよう努めてきた。

#### ① 子どもたちの豊かな心を育む読書活動の推進

- ・全校児童と職員による朝の15分間読書

いろいろな本にふれ、楽しんで読もうとする意欲を高める。

- ・年3回の読書強調月間の充実

教師の読み聞かせを聞き、本を紹介しあったり、好きな本の音読や群読に取り組む。

- ・図書委員会の活発な活動

昼休みや雨の日などには、児童が自主的におはなし会を開き、多くの



児童が参加する。また、ブックトークやアニメーション、しおりコンクールなど多様な活動

を展開し、読書への意欲づけを図っている。

#### ② 子どもたちの学びが輝く授業実践

- ・調べ学習、課題解決学習に図書を活用

主体的に学ぶ力を育むために学校の図書室や町立図書館を積極的に利用する。

- ・図書を利活用した授業の改善

本やビデオ等の情報を活用する学習活動を工夫する。

#### ③ 魅力ある学校図書室の経営と環境整備

- ・学校図書館ボランティアによる読み聞かせや図書環境の整備に努める。

#### (2) 家庭との連携、地域との連携

毎年4月当初のPTA総会や学級懇談会で読書活動の推進について啓発し、その活動について計画し実践していく。

- ・親子読書を進め、家族で読書を楽しむ。

- ・読書週間中は家族がそろって20分間の読書を楽しむことにより、家庭での読書の習慣化を図る。

- ・PTA教育講演会で町立図書館長から読書についての講演を聞く。

- ・親子ふれあい活動(各学年)で、読み聞かせや親子読書を行う。

## 3. 成果と今後の課題

(1) 朝の15分間読書や読書強調月間などの取り組みにより、本に親しむ機会も増え、読書量の伸びが見られた。また、静寂な雰囲気の中で毎日読書が続けてきたことにより、子どもどうしの交流がより一層和やかになってきた。

(2) 課題解決の学習課程を重視するとともに、情報活用能力の指導を系統的・計画的に行うことにより、情報や資料の収集、選択、活用などの力が向上した。

(3) 学校の図書室に学習情報センターとしての機能をもたせるだけでなく、本を媒体とした人と人とのふれあいの場、学びの場として位置づけて活用することにより、心豊かな子どもの育成に努めていきたい。

学校名	滋賀県立八幡工業高等学校
所在地	滋賀県近江八幡市西庄町5
電 話	0748-37-7227

## 1. 本校の概要

本校には、機械科・電気科・情報電子科・建築科・環境化学科の5つの専門学科がある。生徒数は806名、そのうち女子は51名。今年度秋には創立40周年記念式典を行った。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

図書館は本館2階の職員室とHR教室のつなぎ目にあり、生徒の動線上にあるので、たいへんよく利用されている。

平成13年度図書館統計（平成14年1月末現在）

生徒・職員一人当たりの貸出冊数 8.9冊  
授業時間数 185時間、蔵書冊数 20,603冊

### ① 教科等による学校図書館の活用

1年では、図書館オリエンテーションの利用指導に始まって、国語科の読書指導や美術科の画材探しが行われる。2年では、家庭科の家族の授業や社会科のレポート学習が行われる。3年では、家庭科の保育の授業や工業科の課題研究に使われる。このように、本校では授業でよく活用されている。

### ② レファレンス・サービス

各教科の教材研究を中心に、生徒たちの疑問にも応えられるように、あらゆる分野の本を揃えるよう心がけている。本校の蔵書で不十分な時は、公共図書館や博物館等も活用する。

### ③ リクエスト制度

生徒のリクエストを積極的に受け入れ、話題の新鮮な本が並ぶよう心がけている。「図書委員が選んだ本」のコーナーも、とても人気がある。

### ④ コンピュータの活用

平成11年度、学校として、コンピュータ教育開発センターの「Eスクエア・プロジェクト」に「学校図書館でインターネットを活かす」というテーマで参加した。その研究に伴い、インターネットも自由に使えるよう、図書館のコンピュータが整備された。

来年度からは、コンピュータで貸出業務や検索等ができるようになる。

### ⑤ 組織的な取り組み

図書視聴覚推進委員会が月1回定期的に開かれ、図書館活動について学校全体のバックアップがあることも、大きな特色である。

生徒の図書委員会は、企画広報班・カウンター班・図書整理班・コンピュータ班に分かれて春・秋の校内読書週間を行ったり文化祭に参加したりする。図書館ニュース『LIBRO』の編集もしている。

### (2) 公共図書館との連携

滋賀県では、公共図書館が非常に充実している。そこで、レファレンスやリクエストに対応するための資料の借用や、展示のための実物資料（絵画、写真、民俗資料等）を借用している。また、公共図書館の広報紙や催し物のチラシも活用している。

## 3. 成果と今後の課題

レファレンス・サービスやリクエスト制度等の資料提供を基本にした日常活動を大切にできたので、生徒たちは図書館を身近な所と感じるようになってきている。来年度からコンピュータによる蔵書管理を実施するので、いっそう利用しやすくなると思われる。

今後は、さらに校内のさまざまな活動や社会の動きに合わせた資料提供を行い、学習情報センターとしての役割を果たせるようにしていきたい。また、読書活動やさまざまな文化活動のセンターとしてのあり方も探っていきたい。

学校名 木津町立梅美台小学校  
所在地 京都府相楽郡木津町大字梅谷小字  
長城谷 77番地  
電 話 0774-73-6421

## 1. 本校の概要

本校は京都府の最南端に位置し、平成9年に開校して以来5年を迎えた。校舎内は、図書ラウンジや教室前のワークスペースなど開放的でゆとりのある施設・設備が整えられている。

全校児童は276名で、何事にも熱心に取り組み、意欲的に学習できる子が多い。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は平成11・12年度と京都府小学校教育研究会の図書館教育研究協力校の委嘱を受け「自ら読書に親しむ子どもの育成」を目指して、読書環境づくりや日常的な読書活動に取り組んできた。

また、子どもたちに自ら課題を追究する力を身に付けるために、学校図書館を活用した授業改善に取り組んでいる。

#### ① 読書環境づくりと日常的な読書

学校図書館が読書センターと学習・情報センターとして機能できるように、図書ラウンジの蔵書を増やすだけでなく、畳の上でゆったり読書できる「楽しい本屋」や調べ学習に使える図書を揃えた「ゆうゆうコーナー」を設置した。

朝の10分間読書に取り組み、毎週水曜日は担任教師による読み聞かせ、金曜日は自由読書を行っている。

#### ② 情報活用の実践

木津町中央図書館や町内小中学校の図書が図書ラウンジから検索できるシステムが導入され、児童が読みたい本や調べ学習用の図書資料を探すときに活用している。

また、調べ学習や表現活動を高めるため

に、コンピュータソフトやインターネット、視聴覚機器の多様な活用を推進している。

#### ③ 授業研究の実践

国語、社会、生活、総合的な学習の時間を中心に図書館の効果的な活用を図るため年間計画の作成と、調べ学習や読み広げで育てたい力を基にして学習指導過程を作成し、授業実践や授業研究に生かした。

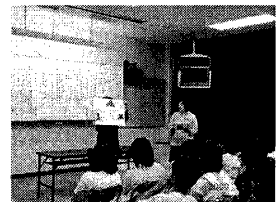
#### (2) 家庭との連携、地域との連携

##### ① 保護者ボランティアによる読み聞かせ

毎月1回のお母さん方の熱心な読み聞かせに子どもたちは聞き入っている。

##### ② 保護者の授業や読書集会への参加

国語でのお話シャワーやブックトーク、また、読書集会などで協力を得ている。



## 3. 成果と今後の課題

#### (1) 学校図書館が「学習・情報センター」・「読書センター」としての機能を徐々に整えてきたため、児童の図書の貸し出しが増加するとともに、読書量が増加してきている。

#### (2) 多様な読書活動の工夫によって、読書の楽しさを味わえる児童が増加するとともに、児童の読書の幅にも広がりが出てきた。

#### (3) 図書館やコンピュータを活用した児童の主体的な調べ学習が活発になってきているため情報活用能力が身に付いてきた。

#### (4) 情報活用能力の基礎となる「話す・聞く」「読む」「書く」などの能力を系統的に育てていくことや児童一人一人に「自ら学ぶ」ための方法を身に付けさせる実践を高めたい。

#### (5) 公立図書館との多様な連携方法の追求、保護者ボランティア等地域社会の人材のさらなる有効活用を考え、「開かれた学校づくり」「特色ある学校づくり」を推進していきたい。



学校名 京都市立朱雀第八小学校  
所在地 京都市中京区西ノ京中御門西町25  
電話 075-841-0080

## 1. 本校の概要

京都市の中心部に位置する学校であり、19学級、児童数525名という中規模の学校である。

平成7年度より、国語科を研究教科としてとりあげ、現在まで継続的に研究を深めている。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」においては、毎月発表の場『どきどきわくわく広場』を設定し、自分の意見を述べることを大切にしている。また、「読むこと」にも力を入れ研究を深めている。

毎月、読書週間（1ヶ月の内1週間）の設定や、読み聞かせの会の開催など、子ども達が本に接する機会を増やすことも行っている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

子ども達の読書に親しむ態度の育成を図るため、毎月、読書週間を設定し次のような取組を実施している。

#### ① 読書活動伸長のために

目指せ〇〇冊、読書マラソン、読書感想文、読書感想画、絵本づくり、本の帯作り、しおりコンクール等を実施し、本に接する機会を増やす工夫を行っている。

#### ② 読書の楽しさを味わう

読書週間に、図書委員会の児童・教職員・保護者による「読み聞かせ会」を行い、読書に対する意欲を高めている。



### (2) 家庭との連携、地域との連携

本好きな子どもを育てるために、家庭に啓蒙活動を行っている。休業期間中に実施する「体験教室」で、読み聞かせの学習会、読書の楽しさについての講演会、絵本づくりに挑戦する機会等も設けている。

#### ① 保護者による「読み聞かせ会」

##### ・大型絵本の読み聞かせ会

保護者が数ヶ月かかって制作した手作りの大型絵本の読み聞かせ会を図書室で開催している。

##### ・スキルタイムの読み聞かせ会

毎月の読書週間の朝の15分間、低、中、高学年別に読み聞かせを行っている。読み聞かせに向け、保護者・学校の要望を取り入れ、毎月打ち合わせ会を実施している。

読み聞かせには国語の学習に関連した作品、季節に合わせた読み物等を取り上げるよう工夫している。

#### ② 保護者による蔵書の整理

図書の整理分類や破損箇所の修理等、児童がいつも気持ちよく図書館の利用ができるように援助してもらっている。

#### ③ 保護者による読み聞かせグループの位置づけ

十数名のボランティアによる読み聞かせグループであるが、幅広く活動できるように、PTA活動として組織的な位置づけを行っている。

## 3. 成果と今後の課題

読書活動の推進に向け、図書室の蔵書数の拡充、終日開放の実施、一段高くした絨毯敷きのコーナーの設置を行った。このことにより図書室を利用する児童が増加した。子ども達が学習のために情報収集を行う場所は、コンピュータ室と図書室が中心となる。今後は、図書室においてもインターネットが利用できるようにし、学校の「情報センター」となるように改善していきたい。

学校名	和泉市立信太小学校
所在地	大阪府和泉市上町754
電話	0725-43-1007

## 1. 本校の概要

本校は、和泉市の最北部に位置し、西北は国道26号線を境に泉大津市、高石市と隣接している。また、枕草子に「森は信太」とうたわれ、人形浄瑠璃や歌舞伎の「芦屋道満大内鏡」で有名な聖神社と葛の葉稲荷神社などがあり、豊かな歴史風土を有する地域にある。

平成11・12年度、学校図書館ボランティア活用実践研究指定校として研究に取り組む。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

教育活動の中心に図書館教育を設定し、学校図書館の充実を図るとともに、児童の読書意欲を喚起し、読書の習慣を定着させるためのさまざまな活動を展開している。

#### ① 全校朝の10分間読書

- ・週3日、朝の10分間読書タイムの設定
- ・一学期に6年生が1年生の教室に入り、朝の10分間読み聞かせを行っている。

#### ② 図書館の常時開館と環境整備

- ・児童がいつも図書館が利用できる工夫
- ・児童に図書館が楽しい場所である工夫
- ・児童にとって利用しやすい図書館の工夫
- ・地域人材活用による司書ボランティアが児童の図書館活用の支援をするとともに、保護者ボランティアがブックカバー掛け等の環境整備を行っている。

#### ③ 保護者ボランティアによる読み聞かせ

各学期毎に全クラスにおいて「読み聞かせタイム」を設定し、保護者ボランティアによる読み聞かせ活動を行う。また、パネルシアター等の工夫を凝らして児童の読書意欲を高めている。

## (2) 家庭との連携、地域との連携

### ① 学校図書館への保護者ボランティアの活用

平成11・12年度に文部省の学校図書館ボランティア活用実践研究指定を受け、保護者による図書館ボランティア活動を始めた。

- 読み聞かせ
- 図書管理  
(ブックカバー掛け、補修、蔵書点検等)
- 貸し出し・返却業務
- 図書館ニュースへの推薦図書の掲載



### ② 地域でのブックフェスティバルの開催

本校を含む富秋中学校区では、平成10年より中学校区教育総合推進事業の一環として、学校・幼稚園・保育園・保護者組織が実行委員会を作り、「富秋校区ブックフェスティバル」を開催している。

地域全体で読書活動を進めることを目的に開催される本事業では、「子育ての中での絵本の読み聞かせの大切さ」をテーマとした講演と、各校園の教職員・保護者による読み聞かせコーナーを開いている。

## 3. 成果と今後の課題

- 児童の読書習慣・意欲が高まり、図書の貸出数は、平成9年度5,600冊から平成12年度17,000冊と飛躍的に増大した。
- 保護者と連携した読書指導の大切さを、教職員が実感を伴って認識することができた。
- 司書教諭・学級担任・司書ボランティア・保護者ボランティアによる指導体制を確立し地域と連携した取組を推進していきたい。

学校名	茨木市立葦原小学校
所在地	大阪府茨木市新和町13番50号
電話	0726-33-7680

## 1. 本校の概要

本校は淀川と北摂丘陵（旧万博会場）間にある。昭和49年に旧村4村と新興住宅を基盤とし、創立・開校された。児童数は5月1日現在619名、通常学級18学級と養護学級1学級からなっている。

地域は学校を大切にし、大変協力的であり、開校以来PTAに図書委員会が位置づけられている。自治会活動、公民館活動共に学校と連携をし、一体化して、今日に至っている。

## 2. 本校の実践の概要

### （1）本校の実践の特色

#### —— 努力目標の三本柱 ——

1. 人権総合学習
1. 基礎基本学力の育成
1. 図書館活動とその利用

本校は創立時より、人権教育を努力目標の中心に置いて研究を重ねてきた。全国大会を初めとして、多くの場で発表した実績を持っている。しかし、研究を重ねるにつれて、基礎・基本学力の必要性を認識し、さらに「読む」力の必要性をも確認した。同時に人権の大切さを理解するためにも「読む」「理解する」力が必要だと認識し、H10年度からは図書館活動に積極的に取り組んできた。H10年度には文部省の学校図書館情報化・活性化推進モデル地域事業の指定を受け、図書館活動改革も行ってきた。

#### ① 読書タイムの設定

毎週水・木曜日の始業前15分を読書タイムとして、職員・児童も読書に専念した。

現在は兄弟学級で高学年が低学年に読み聞かせも行っている。

#### ② インターネットと情報ネットワーク

インターネットを利用して、児童が個々に情報収集を実施し、学習活動に多大な成果を上げている。

#### ③ 第三図書室（お話ルーム）の設置

毎週一時間、図書指導を位置づけ、新たに教室を改造し、第三図書室を設置した。主に、低学年の図書指導と読み聞かせに利用している。

#### ④ 職員の研修と発表

図書館全国大会を初め、研修会には積極的に参加し、研究発表も随所で行った。各地からの本校見学には全面的に協力し、説明した。

## （2）家庭との連携、地域との連携

#### ① 環境・蔵書整備

市立中央図書館の廃本を譲渡してもらい修理後、第三図書室に配置し、いつでも読める体制にしている。

#### ② 家庭・地域の協力

地域内の読み聞かせグループやPTA文化委員会、ボランティアグループが毎週一回水曜日の25分休憩時間に出前の読み聞かせを実施している。

教職員も学年ごとに読み聞かせを実施している。

#### ③ 物流システムの活用

教育委員会の物流システムを通じて他校からも本や資料を借りることができたので学習効果が向上した。

## 3. 成果と今後の課題

子どもたちが本好きになったことと、地域の活動が活性化したことが最大の成果であった。今後は自分で課題を見つけ、インターネット利用で情報収集し、整理・発表する能力を伸ばしていきたい。

さらに、地域や市立中央図書館と活動のネットワーク化を図り、機能と利便性を伸ばしていきたいと考えている。

学校名	羽曳野市立羽曳が丘小学校
所在地	大阪府羽曳野市羽曳が丘 6-8-1
電 話	0 7 2 9 - 5 8 - 3 3 6 1

## 1. 本校の概要

大阪府の南東部に位置する羽曳野丘陵に造成された閑静な住宅地域内に、昭和44年設立された。近くには応神天皇陵古墳を始め多くの古墳や遺跡等歴史的建造物が点在する。

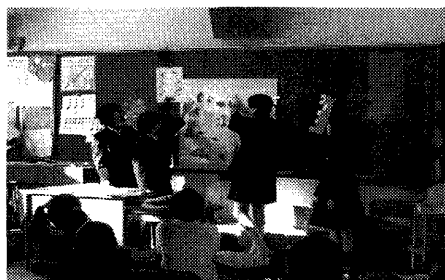
児童は明るく活動的で素直だが、幼さも感じられる。保護者の教育への関心は高く、学校及び学級の教育活動等に対する願いや思いも強く協力的である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

平成9年度に司書が配置され、朝の始業前から放課後まで常時開館している。また、市の公立図書館とコンピュータによるネットワークを結び、児童の読書活動及び調べ学習等の活性化が見られる。

#### ① 図書委員の活動



朝の読書タイム時に、1年生等低学年の学級へ行き「紙芝居」や「ペープサート」等を行う。

#### ② 朝の読書タイム



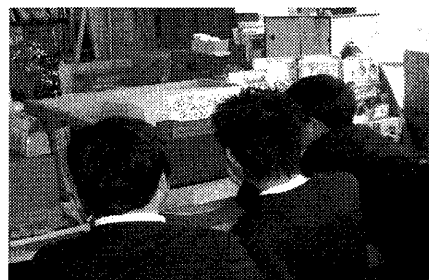
火曜日～土曜日の朝10分間、全校一斉に児童、教師ともに思い思い好きな本を楽しんでいる。貸し出し冊数も大幅に増加している。

#### ③ ブックトーク



3・4年生を中心とした児童によるブックトークを行った。劇・ペープサート・パソコン等いろいろな方法で友達に感動を伝えている。

#### ④ 公共図書館とのネットワーク



学校図書館に設置してある端末機を使い、公共図書館の図書を検索、予約、配送でき、調べ学習での活用が大きい。

### (2) 地域との連携

地域の読書推進グループ「お話しの部屋」の方々によるストーリーテリングを平成9年度より続けている。子ども達も大変楽しみにしている。

## 3. 成果と今後の課題

教師と司書との連携と協働により、児童が本に接する機会が確実に増えてきている。また、図書委員による読み聞かせ等により、異学年交流が図れた。

児童の読書量は増えたものの、個人差が大きいことや図書のジャンルに偏りが見られる等について検討する必要がある。

学校名 西宮市立高須南小学校  
所在地 兵庫県西宮市高須町1-1-41  
電話 0798-40-1300

## 1. 本校の概要

本校は西宮市の東南端にあり、昭和50年度の武庫川団地造成に伴って創設された14年目の学校である。

本校の図書館は創立当初から、教育課程に寄与する学校図書館としての方向づけがなされ、充実が図られてきた。現在は、1階に5教室分の広さを持ち、蔵書数は15,000冊を有する。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校実践の特色

図書部を中心とした取り組みと保護者の協力により、始業前から放課後まで「いつも人のいる図書館」が実現している。

平成10年度に西宮市の全小・中学校が文部省から学校図書館情報化・活性化推進モデル地域事業の指定を受けた際には、先進校としての役割を果たした。また平成12年度の文部省・兵庫県教育委員会主催の中部地区学校図書館活用フォーラムでは、分科会会場として授業や読書集会を公開した。

#### ① 「図書館の時間」の授業の充実

全学級で週に1時間「図書館の時間」を設定し、年間指導計画を作成している。計画に沿って、図書資料やインターネット・CD-ROM・ビデオテープなどが準備され、学習活動に有効に利用されている。また、学習期間に合わせ資料を展示したり、学習の成果を発表する場としても図書館を活用している。



#### ② 朝の10分間読書の実践

学期ごとに「読書タイム」を実施していたが、それを発展させ、現在は通年で実施している。毎週金曜日には高学年が低学年の教室に読み聞かせに入り、楽しいふれあいの時間を持っている。

#### (2) 保護者との連携

保護者の図書館運営ボランティア「ブックママ」が組織されており、現在約30名が参加。午後の開館の補助や整理、月1回の「お話し会」、高須南小読書週間での「ふれあい読書集会」の開催などの活動を実施している。

そこで紹介された本は毎回図書館で大人気となり、予約が殺到



するなど、児童が心待ちにする行事となっている。

## 3. 成果と今後の課題

本校図書館は、空調が完備し、畳のコーナーや大きなソファもあり、休み時間や放課後も児童が気軽に立ち寄る場所となっている。そして、いつも教師やボランティアがいることにより、児童が安心して過ごせるオアシスのような存在となっている。児童は学習に使う本をコンピュータで検索したり教師やボランティアに相談をしたりしながら選ぶことができる。また、話題の本について話をしたり、読みたい本の相談をしたり、低学年の児童は読み聞かせをせがんだりもしている。

図書部を中心とした取り組みにより、授業の質が高まり、系統立てた図書館教育が実施できている。

今後は、さらに取り組みを発展させていくためにも専任の司書教諭の配置が望まれる。

学校名	神戸市立井吹台中学校
所在地	神戸市西区井吹台西町2丁目3番地
電話	078-997-0850

## 1. 本校の概要

本校は、平成5年4月、神戸市西区の丘陵地に開発された西神南ニュータウンの街開きとともに開校された新しい学校である。

保護者の教育への関心は高く、学校に対しても協力的であるが、新しい街であるため人間関係が希薄である。阪神淡路大震災以後、大規模な復興住宅等が建設され、校区も多様化してきているが、生徒は落ち着いた明るい学校生活を送っている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

図書館の基本運営方針「調べ学習のできる図書館づくり」国語科努力目標「豊かな人間性と思考力を養う読書指導」の実践を目指している。

#### ① 読書習慣の形成

##### ・「朝の読書」の実施

8時25分から8時40分までの15分間、全校一斉に自由読書の時間を設定し、図書委員を中心に生徒が自主的に読書に取り組んでいる。読書記録は「読書ノート」に3年間の記録を各自で記入している。

- ・図書委員会を中心に、放送による全校読書会、読書週間、貸し出しコンクール（学級表彰、個人表彰）などの図書館行事を実施している。

#### ② 生きる力をはぐくむ学校図書館づくり

- ・図書委員会の活性化を図るため、各種図書館行事の企画、運営を行っている。月一回の図書館だよりでの啓発活動、図書館をよく利用した生徒への手作りのブックカバーやしおりのプレゼントなどを行い、好評を得ている。
- ・自主的、主体的な調べ学習を支える図書館資料の整備と充実を心がけている。総合的な学習の時間のテーマに基づいて、平成12年度は

「福祉・ボランティア」、平成13年度は「環境」に関する資料の充実を図った。また、朝の読書の時間を支えるため、生徒の希望アンケートボックスを設置し、生徒が求める話題の本をタイムリーに購入している。

#### ③ 読書啓発ポスターの作製

「朝の読書」のまとめを兼ねて、1年間読んだ本の中から一番心に残った本の推薦ポスターを各自が作製している。平成9年度から毎年継続して行っており、今では本校の伝統になりつつある。ポスターは校内の至る所に掲示され、読書活動の啓発に大いに役立っている。

#### ④ 「図書館の時間」の設置

本年度、新学習指導要領の試行として、第2学年の国語で、週1時間を「図書館の時間」として年間計画に位置付けた。NDCによる図書の分類の学習、調べ学習とミニレポート学習、新聞記事の要約指導、読書感想文・学級文集の作文指導、読書啓発ポスターの作製等、1年間の計画的、系統的な一貫した指導により、大きな効果を上げることができた。

#### (2) 家庭・地域との連携

##### ① 家庭とつなぐ「朝の読書」

「朝の読書」で家族から薦められた本を読む生徒が多く、家庭で感想を話し合うようになったなど、保護者にも好評である。

##### ② 公立図書館との連携

本年度、第2学年の総合的な学習の時間では、公共図書館から集団貸し出しを受け、「環境新聞」作成のための情報収集に有効に活用できた。

## 3. 成果と今後の課題

部活動や塾通いで忙しい中学生に、読書の時間を確保し、環境を整えてやることは大変重要なことである。若い世代の活字離れが叫ばれているが、指導により彼らの読書に対する意欲をかなり高めることができる。そのためにも、司書教諭の配置等、生徒の自主的な読書活動を支援できる人材の確保と予算の裏付けが不可欠である。

学校名	兵庫県立尼崎高等学校
所在地	兵庫県尼崎市北大物町18番1号
電 話	06-6401-0643

## 1. 本校の概要

尼崎市南部の工業・商業地域の中心に位置する、80年の歴史をもつ伝統校である。

一方近年では社会全体の落ち込みによって、経済的に就学が困難な生徒の割合が増加している。また、在日韓国人・朝鮮人生徒、障害のある生徒も多く在籍している状況である。そのような中、生徒たちと向き合い、どのように生徒たちの自立を促していくのかということが日々の教育活動での大きな課題の1つとなっている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1)本校の実践の特色

平成9年度より「学校を生き生きしたもの」と、他校に先駆けて「学校改革」を進めてきた。教育課程も従来の進路中心の3類型（文・理・就職）から、生徒の興味・関心を大切に選択の幅を広げた4類型（人文・国際・自然・情報）へと改編した。

「朝の読書」の取り組みも、この学校改革の一環として4年前から始められた。毎朝8時30分から10分間の「朝の読書」時間の内容を略記する。

- ①「朝の読書」時間を学校全体として取り組む。
- ②SHRの時間と区別し、読書を楽しむ時間を確保する。
- ③教職員がまず読書を楽しみ、静かな、落ち着いた雰囲気を作り出す。
- ④一人でも二人でも読書に親しむ生徒が増えることを念願し、欲張らず、焦らず、無理をせず、根気よく成長を待つ、継続した取り組みにする。
- ⑤学校全体の取り組みゆえ、「学級文庫」等の条件を整える。

### (2)家庭・地域との連携

平成12年度より、PTAの保護者を中心に23名の方々に図書ボランティアとして活動して頂いている。図書の整理・貸出しなど積極的な協力で、図書館教育が活発になり以下のような成果につながっている。

- ①図書館を保護者・卒業生など地域に開放できた。
- ②終日図書館が開館できる。
- ③「古本市・バザー」を共催し学級文庫や図書館の書籍の充実につなげることができた。
- ④何よりも、保護者の方々が学校の実情・生徒の姿を良く理解し、信頼関係が深まった。
- ⑤保護者全体に図書館教育の関心が高まった。

## 3. 成果と今後の課題

- ①「あの本、どうだった」と言う一言で始まる「朝の読書」時間は、落ち着いた気持ちで生徒と話し合えるすぐれて大切な時間となっている。
- ②「本を読む」生徒たちの姿が、ありふれた日常の学校生活の一部となっている。本の話題で生徒間の関係が豊かになった。
- ③「朝の読書」時間が契機となって、本が好きになる生徒が着実に増え、進路選択時の大きな力となっている。
- ④学級文庫や本棚などハード面は整ってきたが、ソフト面（読書をどう進め、励ましていくのかとか、読書に興味を示し始めた生徒たちを、次にはどうするのか）の課題は多い。教師側の努力と目の確かさが問われている。

教師の力量を高めながら、継続して取り組んでいきたいと思っている。

学校名	香芝市立旭ヶ丘小学校
所在地	奈良県香芝市今泉 1 1 6 0 番地
電 話	0 7 4 5 - 7 8 - 7 1 2 3

## 1. 本校の概要

本校は、平成7年度、大阪府に隣接する奈良盆地北西部の新興住宅地域内に開校し、今年で7年目を迎える。創立時 11 クラス（278 名）であったが、ここ 2、3 年の児童の急増により、現在は 21 クラス編制（600 名）となっている。県内外からの転入の多いことは人間関係の不安定要因となっており、学校と家庭、家庭と地域との相互理解を進め、よりよい関係を築いていくことが、児童の心の安定につながり、学習の基盤となると考え、言葉を育てる国語の学習や、セルフエスティーム（自尊感情）を高める取組を行ってきた。

## 2. 本校の実践の概要

### （1）香芝市民図書館との連携

本校は 456 平方メートルの大きな図書館を持っており、その管理運営については、香芝市民図書館がよきアドバイザーとなっている。毎年秋には市民図書館の司書を迎え、「おはなし会」を開くことが恒例となっており、楽しいお話とブックトークにより、子どもの読書する心を育てようとしている。

### （2）朝読が好き

開校して3年目の平成9年度より全校で朝の読書タイムを実施し、今年で5年目となった。毎週水曜日の始業前の20分間、静かな音楽で始まりを告げ、終わりにも音楽を流す。低学年でも慣れてくると、読み終わった本を無言で合図して交換し合って読んだり、学級図書と交換したりと、読む雰囲気を上手に保てるようになってきた。アンケートでは、朝読が好きと答えた児童が圧倒的に多く、その時間を楽しみにしている。個人により、読みの深さや本選びの的

確さに差があるが、まずは静かな環境で読書する時間を確保することが大切である。児童には読む本の分野を強制せず、集中して読む雰囲気の中に身を置いて、本の世界に浸る醍醐味を実感する中から、読書する楽しさに自ら気づき、手に取る本の分野が広がっていくことを願って実践してきた。

## 3. 成果と今後の課題

### （1）言葉を育てることは心を育てることである。

文字を習い覚えた小さい子どもたちは、読むことがまず喜びである。文章として読めるようになると、場面や気持ちを想像して心の世界が広がる。読書は画一的な学習より、自主性を育てることができ、集中力も高まってくる。本を通じて友達の輪も広がった。読書の中で疑似体験したことが生きる力となって実生活を助け、いろいろなことに挑戦しようとする行動力につながっていることも多い。

（2）また、今年度より、香芝市民図書館を中核として、市内1高校と14小・中学校の図書館を結ぶオンライン化のためのデータベース整備も始まった。従来から、より豊かな読書や調べ学習のために、市民図書館が大いに活用されているが、今後は、この事業の推進が、各図書館の管理・運営を充実させ、図書資料の円滑な相互利用によって、教科学習や総合的な学習への資料提供の幅が広がるものと期待される。

（3）朝読の習慣が浸透して子どもたちの読書生活を高めてきたことは確かであるが、完全学校週5日制の実施に伴い、学校での読書環境をより充実させるとともに、家庭での家族を巻き込んだ読書環境の充実のための働きかけが重要である。学年・学級通信や学級懇談会などを有効利用し、保護者と連携した読書推進が望まれる。



学校名	奈良県立耳成高等学校
所在地	奈良県橿原市常盤町6 1 6 番地
電 話	0 7 4 4 - 2 3 - 6 4 1 1

## 1. 本校の概要

本校は、大和三山の一つ耳成山近くの歴史の香りと豊かな自然に恵まれた地域にある。学校の規模は全校生徒908名、教職員63名。クラス数23で進学率93%以上の進学校である。創立以来、前期・後期の評価の2期制を採用してきたが、平成11年度より正式に2学期制としている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 「朝の読書」の実施 (H11年4月開始)

①対 象 第1学年生徒全員

②時間帯 8時30分～8時40分(SHR前)

### (2) 朝の読書の生徒アンケート結果

①一年間実施して思うこと (H11/ H12/ H13)

1. 本を読むことは面白い(23/25/29%)
2. 興味を持つようになった(22/33/42%)
3. 少しは読む習慣が付いた(13/11/10%)
4. 何とも思わない(28/20/15%)
5. 本を読むのは嫌である(14/10/5%)

②朝の読書で良かったこと (ベスト4)

1. 読むペースが速くなった
2. 知識の幅が広がった
3. 集中力が付いた
4. いろいろなものを感じる力が付いた

### (3) 朝の読書に対する保護者の感想

- ・ある日、子供が今読んでいる本の内容を得意そうな顔をして話してくれた。その話を聞きながら子供が本の世界を楽しんでいると思った。
- ・朝の読書は落ち着いた学習活動のスタートになり、読みたい本を自分で選ぶことは、子供にとって好ましい結果につながる。
- ・心静かに読む、知識を得る、いろんな感性を受け入れる。そんな時間を持たせてもらうことはすばらしい。

・考えたり、想像したりコンピュータやテレビにはない考える力が付く。

・朝の読書から家でもよく本を読むようになり、図書館や本屋で読みたい本を捜しているようだ。面白い本があると親にも教えてくれて、お互いの感想を話す機会も増えた。

・読書離れの防止に一役買うし、毎日決まった時間に決まったことを行うことで読書が生活の一部になればと考える。

・一年生の間は新しい環境で落ち着かないこともあると思うし心も体もゆっくりできるこの時間があってもいい。

## 3. 成果と今後の課題

朝の読書は生徒たちの中に、この3年間で確実に定着してきた。図書館の貸し出し図書数も大幅に増加した。古い文庫本を親から借りてきた生徒は親子での共通の会話が生まれた。読書の習慣化による効果は単に学力向上だけでなく生徒の自己教育の可能性を大いに広げている。

生活面では、遅刻が大幅に減少し、生活に落ち着きが見られるようになった。余裕をもって一日のスタートが切れ、朝の連絡事項の伝達もスムーズに出来るようになった。

学習面では読書習慣のなかった生徒が、熱心に読書することで、活字に対する興味を高めたようである。この時間を通して読書の大切さ、面白さが分かり、読書の習慣を深めているように思える。書物を通して筆者の考え方を理解し、更に疑問を多くの書物から学ぶ。読書は問題解決能力を育成する真の学力を身に付けてくれるように思う。

課題としては読書に興味をもつ生徒の割合と読書内容の質を高めるために、生徒に本の紹介をどう工夫するか。また今後、図書館の蔵書等の面で生徒の読書環境をどのように整えていくか検討する必要がある。ともあれ生徒と教師が落ち着いた雰囲気の中で共に読書ができることは、大いなる喜びである。

学校名	高野町立花坂小学校
所在地	和歌山県伊都郡高野町花坂652
電話	0736-56-4034

## 1. 本校の概要

本校は、霊峰高野山の中腹に位置し、自然豊かなたたずまいの中に位置している。児童数9名の少人数の学校である。子どもたちは純真で、保護者や地域の人たちは学校に対して常に協力的で熱心である。毎年夏祭りに行われる「鬼もみ太鼓」を十数年前に考案し全児童が参加し、



夏祭りに和太鼓を演奏している。今では、かなり近隣地域で有名となってきた。

## 2. 本校の実践の概要

本校は、全校児童9名と少人数であることから、みんな仲良く楽しい学校を目指している。

「いきいき・きびきび・はきはき」を合い言葉に、総合的な学習の一つとして読書活動に取り組んできた。少人数だからいつも「大きい子との関わりを大切にしたい。」という親や教師の願いがあり、全校一斉に取り組む活動が多い。読書活動も温かい人間関係を育てるため、本校の教育目標に取り入れ、取り組みを進めている。

### (1) 読書意欲を高めるための読書カードと感動レベル

読書カードは、本を返却するときに題名をカードに記入する。自分がどのような本を読んだか記録として残しておくため。学期末に一人40冊ぐらい読んでいる。また、題名を紹介することで他の児童の励みにもなる。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

読後に本の感想を「感動レベル」という形で書く。レベルは1～5までとし、表現はその子独自のものをごく短く表している。例え

ば、『一つの花』を読んで「悲しいレベル5」。

『15少年漂流記』を読んで「頭がいいぞレベル5」というように書いている。人気のある本や子どもたちの読書の状況がよくわかる。異学年の子どもたちが、お互いのよさを見つけあってその子を認めあう事もできる。そして、学期に一回、子どもたちが一番好きだという本を図書室に掲示したり、図書便りも発行している。

#### ① 保護者の方の読み聞かせ

花坂小学校の読書週間行事の一つとして、保護者の方に読み聞かせをお願いしたところ快く引き受けてくださり、3人のお母さんと1人のおばあさんが読み聞かせをしてくれた。OHPを利用して、色鮮やかな読み聞かせをしてくれたり、平和について考えさせてくれる本を読んでもくれたり、心の温かさが伝わってくる本を紹介してくれたり、子どもたちの興味を膨らませてくれた。

#### ② 地域の「コロボックル」の読み聞かせ

町内に「コロボックル」というサークルがあり、保育所や子ども会で読みき



聞かせをしている。読み聞かせをお願いしたところ7名の方がそれぞれ味のある本を選んで、読み方も工夫し子どもたちを本の世界に入り込ませてくれた。

## 3. 成果と今後の課題

自分にあった本を選べるようになった。図書便りの発行や感動レベルを図書室に掲示することで、全校児童の読書意欲を高める刺激となった。

課題としては、今後、与えられた活動から主体的に活動できるようにしたい。今後も開かれた図書室となるために、地域とのつながりを大切にしていきたい。また、図書担当職員だけに頼らないための体制も確立していきたい。

学校名	広川町立耐久中学校
所在地	和歌山県有田郡広川町広 1123番地
電話	0737-63-5431

## 1. 本校の概要

本校は和歌山県のほぼ中央部に位置しており、永続を願っての名前の如く歴史は大変古い。「先達が営々と築いてここに百四十九年、新時代を拓く私たちは今」の額が掲げられ、校訓「真・健・美」の精神が今に受け継がれている。海岸沿いの広い敷地には、9学級251名の生徒が学び、毎朝校門では、各クラブが交替で立つあいさつ運動の元気な声が聞こえている。生徒会活動や部活動は意欲的で活発、保護者も非常に協力的である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

全校一斉朝の読書の時間（火～金、始業時の10分間）が始まってまだ2年であるが、その効果は着実に現れてきている。これまではチャイムが鳴っても廊下で騒いでいた生徒が、予鈴で入り、準備（既に読み始める生徒もいる）をして席に付いている。担任も一緒に読んでいるが、たとえ遅れても時間と共に静かに読み始めており、学校中が静寂に包まれる。1時間目の授業も静かで落ち着き、1日が気持ちよくスタートできている。

- ① 各クラスには学級文庫が置かれ、誰でも利用できる。
- ② 読書のようすを学校だより「ポプラ」で知らせることにより、家庭での読書も広がりつつある。
- ③ 図書委員会として、「図書だより」（新刊本の紹介等）の発行や貸し出し等の日常活動を行っている。
- ④ すべての生徒に、もっといろいろな本が読めるようになってほしい（確実に読める漢字を


増やす）との願いから、基礎学力を高める取り組みの一つとして全校一斉「漢字（読み）テスト」に取り組んでいる。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

- ① 朝の読書支援活動の一つとして、「朝の読書運動をすすめ、図書室の充実をはかる」ための取り組み（図書本の寄贈と寄付）を育友会と一体となって推進している。

## 3. 成果と今後の課題

- (1) 保護者の読書アンケート調査結果をみると、学校だより「ポプラ」等でこまめに知らせていることもあって、保護者が取り組みに対して評価し、継続を望んでおり一致した取り組みとなっている。



**ポプラ**


学校だより NO. 24  
(耐久中)  
2001.3.5

3年生ともや通でお別れです。  
過ぎ去って見れば、あっという間の3年間でした。  
ポプラも、私たちの成長を見守ってくれています。

**「朝の読書」で本好きが増えた！**  
～これを機会に、これからも読み続けてほしい～

先日実施した「朝の読書」についての、保護者アンケートの集約結果です。  
ご協力ありがとうございました。(全体で92名、1年18名・2年52名・3年22名)

1. 今年度(4月)より、「朝の読書」が始まったことを知っていましたか。	ア. 知っていた 86名	イ. 知らなかった 6名
2. 「朝の読書」が始まったことを、何で知りましたか。(いくつでも可)	ア. 学校だより「ポプラ」で 49名	イ. 子どもから 63名
ウ. その他 5名		
3. 「朝の読書」の取り組みを、よいと思いますか。	ア. よいと思う 92名	イ. 特に思わない 0名
4. 今後の「朝の読書」について、どう思いますか。	ア. 続けたい 92名	イ. やめたい 0名
5. 「朝の読書」が始まってから、お子さんの本好きはどうかになりましたか。	ア. 大層好きになったようである 15名 (16.3%)	
イ. 少しは好きになったようである 40名 (43.5%)		
ウ. 変わらない 37名 (40.2%)		
エ. 嫌いになったようである 0名		
6. 「朝の読書」の時間以外に、家で本を読むことがありますか。	ア. よく読むようになった 19名 (20.7%)	
イ. 時々読むようになった 49名 (53.3%)		
ウ. 読まない 24名 (26.0%)		



本を読もう

上記の結果については、アンケートの回収率が低いので全体として見るには正確さに少し欠けるかも知れない。しかし集約結果を見る限りにおいては、「朝の読書」の始まりについては、学校だよりや子どもを通してほぼ全員が知っていた。  
取り組みについては、全員がよいと答え、今後も続けることを望んでいる。  
「朝の読書」が始まってからの子どもたちの本好きについては、少しは含めて約6割が好きになったと見ており、また時々もめると家で7割強が読むようになったと答えている。取り組みの成果が少しずつではあるが現れてきていると見える。

- (2) 朝の読書が、学校生活の中に定着して、学校全体が落ち着いた状態で授業が行われている。
- (3) すべての生徒が自分で選んだ本を最後まで読み切ることができるようにしたい。
- (4) 図書本を増やすことを始めとして、図書室の充実をはかる。いろんな取り組みを通して、もっと読書好きになるようにしていきたい。
- (5) 朝の読書から、学校全体・家庭と結びつけた、より幅の広い取り組みへと発展させたい。

学校名	鳥取市立岩倉小学校
所在地	鳥取県鳥取市立川町7丁目110
電話	0857-27-8101

## 1. 本校の概要

本校は、鳥取市の東部に位置し、児童数497名、学級数17からなる学校である。平成8年より鳥取市嘱託職員（非常勤）として、学校司書が配置された。その後、校舎改築により、市でも数少ないオープンスペースの校舎となった。

## 2. 本校の実践の概要

### （1）本校の実践の特色

#### ①読書センターとしてのはたらきの充実

本校では、子どもたちが本に親しみ、図書館をより身近に感じることができるようさまざまな図書館業務の工夫をしている。借りたい本を予約することができる予約制度やくじの日（9のつく日に実施）で当たりが出たときや個人カードを1枚終えた時に特別貸し出し券を発行する制度を導入している。また、利用についてのオリエンテーションを行う際には、子どもたちが楽しみながら学ぶことができるよう、ペーサートやクイズ等を取り入れて工夫し、読書指導や情報活用能力の育成に努めている。



くじの日の様子

秋には、読書月間を設定し、委員会の子どもたちを中心として、お薦めの本を紹介するしおりコンクールや、読み聞かせなどの取組を行っている。全職員が本の読み聞かせを行う「探検ブックの会」も子どもたちに大人気の行事である。読書月間の最後には、「読書祭り」も行っている。

探検ブックの会の様子



#### ②学習資料センターとしてのはたらきの充実

学習資料コーナー・テーマ展示の工夫をするなどして、子どもたちが教科や総合的な学習で情報を収集したり、活用したりできるよう工夫している。



調べ学習の様子

### （2）家庭との連携・地域との連携

本校では、平成10年度より、朝の読書を毎日10分間実施している。本の世界に浸りながら読書をする習慣が付き、落ち着いた気持ちで一日の生活がスタートできるようになってきている。司書だけでなく、地域・保護者の有志で構成されているグループによつての定期的な読み聞かせもある。



また、「読書祭り」では、地域の文化サークルの方や読み聞かせの会の方などによるブラックシアターや読み聞かせの取り組みもある。

### （3）成果と今後の課題

子どもたちにとって魅力ある図書館にするために、図書館業務、読書月間の取り組み等を工夫することで、読書好きの子どもたちが増えている。また、利用指導を繰り返していくことで、情報収集を目的に図書室を訪れる子どもが増えるなど、図書・資料を活用する力がついてきている。

しかし、総合的な学習などでは、さまざまな分野の図書や資料が必要となる。公共図書館からの借入れもしているが、子どもたちの求めに対応できるよう蔵書・資料の確保をしていかなければならない。また、子どもたちが適切に情報を活用できるよう、コンピュータを活用する学習との連携も課題となっている。

学校名	鳥取県立境港工業高等学校
所在地	鳥取県境港市竹内町925番地
電話	0859-45-0411

## 1. 本校の概要

本校は、鳥取県の西部に位置し、西日本最大規模を誇る漁港のある境港市にある工業高校である。電子機械科・電子電気科・電子情報科・建築科の4学科からなり、生徒数429名、学級数12の中規模校である。生徒は明朗温和で規律正しく、部活動も盛んで、平成12年度には硬式野球部が全国選抜大会の21世紀枠の補欠校に選ばれた。13年度には陸上部、バドミントン部、スキー部が全国大会出場を果たし、また、ハンドボール部、弓道部等も毎年中国大会に出場するなど活躍している。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

平成9年4月より、生徒の「心の教育」の一環として、県下の高等学校では最も早く全校一斉の朝の10分間読書に取り組み、今年で5年目を迎える。

#### ①活動内容

朝の始業時の10分間、生徒は自分の読みたい本を持参して読書する。ただし、漫画、雑誌、教科書、辞書は対象外とし、原則として活字本としている。

#### ②活動体制

- ・生徒の読書に合わせて、担任も教卓で読書を行い、その他の全職員もそれぞれ自分の席で読書をする。
- ・読書をしようとしめない生徒に対しては、決して叱らず趣旨を理解するよう粘り強く指導している。
- ・定期的に読書委員会を開き、全担任を召集して進捗状況を点検し、問題点があれば改善の方策を立て、常に朝の読書がきちんと行われるよう努力している。

## (2) 家庭との連携

入学式や学年懇談会で「朝の10分間読書」について説明し、本の購入、読書について家庭において話題として取り上げるよう協力をお願いしている。

## 3. 成果と今後の課題

生徒は毎朝静粛に読書を続け、その結果、読書の質及び量の向上や、校内の雰囲気の醇化など、有形無形のさまざまな成果が見て取れる。

### (1) 活動の効果

- ・読書好きの生徒が増えた。
- ・読書の量が増え、図書室の貸出冊数が激増した。(平成8年度約4千冊であったのが平成13年度は1月現在で1万冊(生徒1人当たり23冊)を超えた)
- ・多くの生徒の読書傾向に軽いものからより高いレベルのものへという進歩が見られる。
- ・連絡事項や授業の開始がスムーズに行えるようになった。
- ・集会で人の話を静かに聴く雰囲気ができた。
- ・人に迷惑にならないよう配慮する生徒が増えてきた。
- ・生徒の生活全体の雰囲気が落ち着いて、問題行動を起こす生徒が減ってきた。

### (2) 生徒の感想

「本がおもしろくなった。読書の習慣がついた。家でも読むようになった。たくさん読むようになった。速く読めるようになった。漢字が読めるようになった。言葉をたくさん覚えた。集中力がついた。心が落ち着く。ものの見方が変わった。」等々、様々な効用や内面の変化を具体的に記述している生徒が全生徒の80%以上いた。

### (3) 今後の課題

- ・図書室のコンピュータ化

図書管理システムの導入により、貸出・返却業務の簡素化、資料検索の効率化など、生徒の読書環境のさらなる整備、充実を図る必要がある。

学校名	横田町立八川小学校
所在地	島根県仁多郡横田町下横田 500-2
電話	0854-52-0211

## 1. 本校の概要

本校は、広島・鳥取県境近くにあり、児童数は88名、6学級の学校である。町に公共の図書館はなく、本校図書館もわずか3,576冊の蔵書という誠にさみしい読書環境である。児童は明るく素直であるが、語彙が乏しく豊かな表現ができかねる。「みんなで輝く自分をつくろう」を目標に夢いっぱいの楽しい学校をめざしている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

継続的な活動による読書の習慣化、イベント的な活動による読書への誘いなど、多様な活動を通して、個々の読書のジャンルを広げたり、意欲・関心を高めたりする活動を推進した。

#### ①朝の読書タイム 8:25~8:35 (毎日10分間)

平成10年度より、集会のある金曜日を除いて毎日実施。始業のチャイムと共に、児童も担任も各学級で読書をする。時々地域の読書ボランティア(八川文庫)の方の協力がある。

#### ②音読集会 毎月1回金曜日朝(8:25~8:40)

平成10年から3年間継続して行っている。各学年が交替で、読書タイムで出会った本を多く紹介があった。平成13年度はアピール集会と改名。

#### ③ブックトーク・ストーリーテリング

平成10年度から毎年1~2回、定期的に宇田祥子先生を招



いて実施した。先生を講師に職員の研修を重ねる。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

学級ごとに家庭での親子読書を呼びかけ、低学年は定着しつつある。地域の方による読み聞かせも年間計画に位置付け実施した。「聞いて、読んでみる」活動はイベント的な活動として、地域全

体の協力により実施している。

#### ①お話の会 毎月2回月曜日(14:30~15:30)

地域の読書ボランティアの方による低学年への読み聞かせ活動である。八川公民館や本校の図書室まで「出前」をしてもらっている。

#### ②林洋子一人語りを聞く(平成11年11月)

読書や朗読への発展をねらって地域全体で実施した事業である。宮沢賢治作品「雪わたり」「いちじょうの実」の公演等、耳で聞く名作を体験した。

#### ③谷川俊太郎 詩 LIVE IN 八川

(平成13年1月に八川小学校にて実施)

詩人の谷川俊太郎氏と里みちこ氏を招いて、学級ごとに、また全校で詩の朗読会を実施した。当日をはさむ数か月間を「詩に親しむ」期間と設定し、詩集を図書室へ新たに購入したり、県立図書館より100冊以上の詩集を借りてきて、それぞれの学級で詩を読んだり、詩を創ったり、詩を朗読したり、詩の世界に浸る活動を展開した。

## 3. 成果と今後の課題

・「いつも読みかけの本を持つ子どもに」を合い言葉に、読書活動を推進してきたが、少しずつ読書量が増え、学校図書館の利用者も増えてきつつある。常に読みかけの本を机の中に持っており、休憩時間になると広げて読む児童の姿も、わずかなではあるが見られるようになった。

・担任によっては、毎年招く講師から学んだブックトークを試みる教員もあり、児童の読書のジャンルが広がりつつある。

・朝読書を始めて4年目を迎えた今年度は、始



業のチャイムと共に机について静かに読書を始める学級もあり、全学級のモデルとなりつつある。

・児童会「本を読もう委員会」の読書クイズで、内容に関する問題が分かる児童が多くなり、学校図書館の本を読む人が増えてきたと、児童自身が評価するようになってきた。

学校名	瑞穂町立瑞穂中学校
所在地	島根県邑智郡瑞穂町淀原 8 1 0
電 話	0 8 5 5 - 8 3 - 0 1 1 8

## 1. 本校の概要

本校は中国山地の中央に位置し、生徒は緑豊かな環境の中で学んでいる。生徒数 137 名。県内市町村の中で 3 番目の広さの町内各地域から通学している。明るくあいさつのできる生徒を目指して、生徒会は日々活発な活動を行っている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

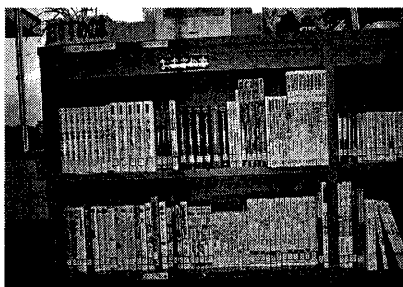
読書へのアンケートにおいて「読書は好きだけど、読書の時間がない」と答える生徒が多かった。そこで、「読書の時間を保障しよう」「本を身近なものにしよう」ということを合言葉に実践に取り組んだ。

#### ① 朝読書の実施

全国で実施されている朝の読書に習い、4 年前から実施している。今年度は、月曜日から金曜日まで、朝の 10 分間を読書に充て、担任も一緒に本を読むことで読書時間を保障した。

#### ② 学級文庫の充実

本が身近なものとなり、すぐに手に取って読めるように学級文庫の充実を図った。町立図書館からの貸し出しも活用し、生徒による学級文庫の充実活動も行った。



#### ③ 図書室の配架の工夫

20 年以上変化のなかった図書室を、使いやすくしようと、全職員で模様替えを行った。壁面の工夫もあり、全体として温か

な雰囲気となった。

## (2) 生徒会の活動

本校の図書管理は、平成 11 年度よりコンピュータで行っている。新しく入った本の入力や貸し出し等の手続きも生徒ができるようになり、本そのものへの興味も高まってきた。生徒が読書活動の中心的役割を担っている。

### ① 読書祭り 6 月実施

楽しい展示の工夫、本のクイズやブックトーク等の実施により図書室への来訪者を増やしている。

### ② 本作り 11 月実施

文化祭の企画として、自分でストーリーを考えた手作り本の作成を行った。そのことにより生徒は、本を身近なものと感じるようになった。



## 3. 成果と今後の課題

- ・ 本（読書）への抵抗感がなくなり、朝読書の時間になると、進んで本を出して読んでいる。声をかけにくいほど集中していることもある。本や読書について生徒同士で、あるいは教師と一緒に話している光景もよく見られる。
- ・ 「読書のアニメーション」等の新しい取組によって、みんなで頭を寄せ合う行動的、能動的な読書場面を作ることができた。
- ・ 集団の雰囲気をリードできるほどの読書好きな生徒がいる一方、十分に読書に集中できない生徒もいる。個人カルテ等を活用し、今後も個に応じた読書指導を継続していく必要がある。
- ・ 調べ学習のノウハウがかなり身につく、図書室が生徒にとって、着実に身近な存在となってきた。「平和学習」等のコーナーを設けているが、今後、調べたことを情報発信する活動を、どのように充実していくかが課題である。

学校名	玉野市立山田小学校
所在地	岡山県玉野市山田422
電話	0863-41-1035

## 1. 本校の概要

本校は岡山県南の玉野市東部に位置しています。校区は、岡山市への県道が一本通るだけの、三方を山に囲まれた静かなデルタ地帯です。かつては、広大な塩田を背景に脚光をあびた時代もありましたが、現在は人口も減少し、児童数107名（平成13年度）の小規模校です。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は、平成10年度、市の研究指定を受け、美しいものに感動する心・いのちを尊重する心をもった人間に成長して欲しいとの願いから、「よりよい生き方を求め、ともに生きる子どもをめざして」というテーマで研究に取り組んできました。その手だての柱として読書活動を位置づけ、朝の一斉読書や読み聞かせ、図書室の本を利用する授業や行事などに取り組んでいます。

#### ① 朝の一斉読書

水曜日と金曜日の8時45分～9時までの15分間、全校で一斉読書に取り組んでいます。好きな本を読んだり、担任による読み聞かせを通して、読書が習慣付けられるとともに、子どもたちにとって心とむあたたかい時間となっています。



5年生朝の一斉読書

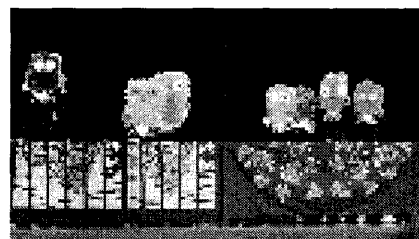
#### ② 授業と図書館との連携

授業の導入やまとめの段階で、読み聞かせやブックトークを取り入れることによ

り、深まりのある授業作りに努めています。また、図書館司書と連携しながら、調べ学習の力を培えるように取り組んでいます。

#### ③ 読書祭り

読書週間の最後を飾る、図書委員会主催の行事です。読書のすばらしさを伝えるために、各クラスごとにペープサートやパネルシアターなどの出し物を実施し、子どもたちもとても楽しみにしています。



2年生ペープサート「まっくろネリノ」

### (2) 家庭、地域との連携

子どもたちの生活の中に読書を定着させるために、家庭や地域への啓発活動に取り組んでいます。

#### ① 親子読書

家庭の中で親子で本を読む時間を大切にしてもらうように、保護者に呼びかけています。子どもたちの日記から、読書を仲立ちとした家庭の和やかな様子が伝わってきます。

#### ② 保護者への貸し出し

夏休み中などの長期休業中には、保護者に対しても本の貸し出しをおこなっています。図書館司書におすすめの本を紹介してもらおうお母さんも少なくありません。

## 3. 成果と今後の課題

いろいろな分野の本に触れることで、子どもたちの興味や関心に広がりが出てきました。学習活動や遊びの活動の際に、図書室で調べながら取り組む児童も増えてきています。これからは、校内だけでなく、保育園や老人施設などでの読み聞かせなど、地域へも発信していきたいと考えています。



学校名	吉備郡真備町立真備東中学校
所在地	岡山県吉備郡真備町大字辻田 6 0 - 1
電話	0 8 6 6 - 9 8 - 5 5 2 2

## 1. 本校の概要

本校のある真備町は高梁川中流西部に位置し、隣接する倉敷市のベッドタウン的な役割を果たしている。

本校の生徒数は405名で、通常学級12学級と特殊学級1学級からなっている。生徒は素直で人懐っこいが、物事を広い視野でとらえて深く考えていく力が十分であるとは言えない。

## 2. 本校の実践の概要

本校では、平成9年の中四国学校図書館教育研究発表会を機に、従来、図書館教育が一部の教科に偏りがちであったことを見直し、すべての教科での利用を図り、それに合わせた図書の充実も進めてきた。その結果、各教科・行事・総合的な学習の時間など、今では生徒の活動のさまざまな場面で、図書室が調べ学習の拠点として、大いに活用されている。

### ① 調べ学習の充実

本校では司書がいなかったため、図書館担当の司書教諭が中心となって、教科主任、学級担任などと連携して図書館教育を進めているが、総合的な学習の時間や授業の発展学習として必要な資料を希望に応じて速やかにそろえることで、いろいろな教科での時宜を得た利用が可能になっている。

学校行事に向けた事前の調べ学習にも使われているが、関連資料を一まとめにしたコーナーを設けたり、不足分を町立図書館との連携で補ったりして、情報の確保に努めている。

### ② 第2図書室の設置

英語、国語の辞書がそれぞれ数種類ずつクラスの人数分置いてある辞書の部屋を、空き教室を利用して設置。辞書を使った授業が容

易になり、さらに比較によって調べる内容が深まる。また、第1図書室から関係図書を持ってきて特設コーナーを設け、必要に応じて多様な調べ学習を展開することができる。職業調べや、教材世界を具現した中での期間限定国語教室などが実践されている。

### ③ いつでも利用できる図書室

本校では、例えば、国語科の授業であるクラスがグループに分かれて手作り授業のための準備学習に入ると、授業中でも生徒だけで自由に図書室を利用できるようにしている。この場合、使用届の提出による調整と、利用のルールの生徒への徹底を行うことで、司書のいない不便さを補っている。

### ④ 図書室大人気の秘密

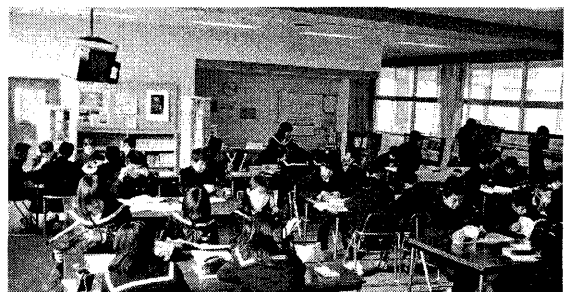
リクエストカードと予約カードで、教師・生徒のニーズに速やかに応える、新しい本や漫画・雑誌のコーナーを設けるなどの対応で、いまや図書室は校内有数の人気スポットとなった。

### ⑤ 読書活動を支える図書委員会の地道な活動

図書の受け入れ・貸し出し・整頓、学級文庫の世話のほかに、図書便りや校内放送による本の紹介などを行っている。

## 3. 成果と今後の課題

図書室が生徒にとって楽しいところ、身近なところとなり、本を活用することに抵抗がなくなった。自ら進んで調べるという、これから必要とされる力が生徒についてきている。さらに「朝の読書」などを通して、心を豊かにする読書活動の充実にも力を入れていきたい。



学校名	君田村立君田小学校
所在地	広島県双三郡君田村東入君35
電話	0824-53-2128

## 1. 本校の概要

本校がある君田村は、広島県の北部に位置し四季折々の自然の美しさに恵まれた風光明媚な山村地帯で人口2000名余りの村である。

学校は、児童数102名、6学級の小規模の学校である。

子どもたちは、まだまだ農山村の純朴な心を残しているが、一般的な社会風潮の中で生活習慣の乱れ等が急浮上しているのも事実である。

保護者・地域の方々は学校教育に大変協力的で、「読書活動」「君田村塾」などを通して子どもたちの育成に熱心である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は「豊かな心の育成」をめざして読書教育に取り組んでいるが、その歴史は長く、今年度で30周年という節目を迎えた。学校・家庭・地域が一体となって読書活動に取り組み、「地域ぐるみの読書教育」という評価を得ている。

#### ① 図書館の整備

##### ○読書コーナーと学習センター

広い室内を二分し、それぞれの目的別に本を配置。学習センターとしてはパソコンを設置して自学自習の学習体制に備えている。

##### ○雰囲気づくり

童話の世界に導くよう掲示物にも配慮しながら、楽しい雰囲気をかもしだすよう努めている。



♥図書館の入り口で  
子どもたちを迎える  
白雪姫

#### ② 読書教育年間指導計画の作成

#### ③ 「読書祭」「読書講演会」「朗読会」の実施

#### ④ 「読書朝会」「読書の時間」の実施

### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 「地域読書会」の実施

地域単位で年間4回(延べ28回)の読書会を実施。1冊の本を媒介として子育てなどについて話し合っている。

#### ② 「ノーテレビデー」の実施

#### ③ 「親子読書」の実施

家庭内で時間を決めて、親子で読書を行う取り組みを継続している。

#### ④ 保護者による「読み語り」

全校児童に対して、毎月1回の保護者ボランティアの方々から、読み語りをしてもらっている。

#### ⑤ 「らくがき帳」の回覧

読書関係の内容だけでなく、保護者が自分の思いをノートに書いて、学級の保護者間で回覧し、交流を図っている。



♥保護者による  
読み語り

## 3. 成果と今後の課題

読書活動の大切さが言われている中、改めて読書指導のあり方を見直していく必要がある。

活字離れが指摘される社会風潮の中で、一人でも多くの子どもたちが、本好きになることを願い、取り組みを進めてきている。

30年という取り組みの歴史の中で今後も継続していくことが最大の教育だと考えている。

「心の教育」を充実させるためには、教職員の熱意こそが推進の原動力と考え、今後も積極的に取り組んでいきたい。

学校名	福山市立川口小学校
所在地	広島県福山市川口町2丁目2番1号
電 話	084-953-0023

## 1. 本校の概要

本校の校区は、福山駅より南東へ3km、芦田川の河口を干拓してできた農地が1960年代から急激な人口の増加により都市化した地域である。現在では、住宅がほとんどであるが、事業所も多い。今年度で創立114年となり、児童数710名24学級の比較的規模の大きい学校である。地域の学校への関心は高く、協力的である。子どもたちは明るく活動的である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は、学校をあげて読書活動の推進に努めている。まず、子どもたちにとって魅力ある学校図書館をめざし、整備に努めている。また、本好きになり多くの本を読んでみようという意欲を育てる読書指導、読書を発展させた総合的な学習の時間にも取り組んでいる。

さらに、ボランティアによるお話の会や図書の修繕等もあり、地域ぐるみで読書運動の展開をめざしている。

#### ① 学校図書館の整備



子どもたちにとって魅力ある図書館にしようと全職員で環境整備をおこなった。

まず、分類を徹底し、配架を工夫した。次に、学習テーマに沿ったコーナー、民話のコーナー等を設けた。このように、掲示を工夫し、楽しい雰囲気を作り、読書意欲を起こさせるように努めた。

#### ② 本好きな子の育成に向けた多彩な読書活動の実施

- ・ 読書に親しみ、学校として読書の雰囲気をつくるために、朝の読書を毎週火曜日始業時に15分間実施した。

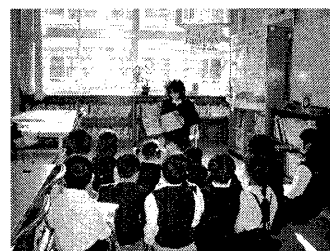
- ・ 総合的な学習の時間を使って、読書を発展さ



せた活動を実施した。「絵本の楽しさを伝えよう」というテーマで、幼稚園の子に劇や紙芝居などで昔話を紹介した。

- ・ 図書委員会の活動として読書週間には、

「読書まつり」を実施し、大型紙



芝居やクイズを全校児童集会で行った。また、学校図書館で昼休みに読み聞かせも行った。

#### (2) 保護者との連携

図書館ボランティアの保護者に「お話の会」(月2回)での絵本の読み聞かせや図書の修繕等の活動をしていただいている。



## 3. 成果と今後の課題

- ・ 人気のある本を増やしたり、配架や紹介のコーナーを工夫したりすることにより、来館児童数や貸し出し冊数が増えた。また、調べ学習での利用も増えた。
- ・ 読み聞かせや劇、紙芝居、ペープサート、朗読などの活動により表現力がついてきた。
- ・ 今後、読書センターとして、児童の意見を取り入れ、利用したい学校図書館づくりをさらに進めていく必要がある。
- ・ インターネットの活用、CD等の整備により情報センターとしての機能をより高めていく。

学校名	吉田町立吉田小学校
所在地	広島県高田郡吉田町 8 6 6
電 話	0 8 2 6 - 4 2 - 0 3 6 8

## 1. 本校の概要

本校は、郡山城跡の麓にあり、創立 1 2 8 年をむかえ、毛利元就にちなんだ百万一心劇や 4 世代にわたる卒業生の自画像制作など、伝統ある吉田小学校教育が引き継がれている。

児童数 3 8 4 名、学級数 1 3 学級からなる中規模校で、子どもたちは素直で明るい。

## 2. 本校の実践の概要

本校では、平成 1 2 年秋より、「わが町の教育推進事業」の一環として、地域ボランティアとの連携による「読書タイムの導入」と「図書館の有効利用」を柱に活動の推進が始まった。これまでも、地域ボランティアによる読書活動は 2 0 年間続いていたが、本好きな一部の子どもたちだけのものになりがちであった。

そこで、読書活動の輪を広げていくために、次の 4 点を柱に実践を重ねてきた。

### (1) 本の楽しさを届ける「朝のお話宅配便」

第 2、第 4 水曜日の朝、地域ボランティアによる全クラス一斉の読み語りを実施している。この時間に読まれた本は 2 週間各教室に置かれるので、子どもたちの間で楽しく回覧されている。

### (2) 行きたくなる図書館づくり

子どもたちの願いを聞きながら、図書委員とともに図書ボランティアによる図書館づくりを進めている。それは、子どもたちによって「本の森」と命名され、いつも誰かがいてくれて、読みたい本がある、明るく楽しい図書館をめざした取り組みを進めている。

### (3) 教育内容の充実

読書教育・図書館教育についての研修を深め、子どもたちと本との出会いを、学習や生

涯にわたる生きていく力の基として育てていく。本の帯や紹介カードづくり、絵本づくりなどをしたりして、子どもどうしで本の紹介をし合っている。

また、調べ学習に利用するために選ぶ本の幅も広がってきている。

### (4) 図書委員の活動

図書ボランティアの方が生き生きと活動される姿に刺激されるとともに、自分たちの願いが実現していくことに喜びを感じ、図書委員会の活動が充実し、図書委員希望者が増加してきている。

- ・貸し出しや図書日誌の記録
- ・休み時間のお話会
- ・朝の読書タイム・・・「もっと本を読みたい」という願いを受け、金曜日の朝に「読書タイム」を設定して、1 年生には読み聞かせ、他の学年には進行役として図書委員が入っている。
- ・本の紹介コーナー 設定
- ・図書祭り

## 3. 成果と今後の課題

月 2 回 の「お話宅配便」でボランティ



アの方々から届けられる本の楽しさは、確実に子どもたちの心に響き、感性をゆさぶってきた。子どもたちは次第に、自分が読みたい本を探すようになり、友だちの間で本についての情報交換をするようになった。

本との出会いが子どもどうしで広がり始め、そのリーダーとして、図書委員の子どもたちが活発に活動してきたことは、本年度の大きな成果である。本好きな子どもが増えたことを出発点とし、生涯にわたって自ら学ぼうとする、真の「生きる力」につながるよう、今後もさらなる充実した実践を継続することが大切である。

学校名	新南陽市立和田小学校
所在地	山口県新南陽市大字埴 2 1 2 - 1
電 話	0 8 3 4 - 6 7 - 2 1 0 1

## 1. 本校の概要

本校は、新南陽市北部に位置し、島地川流域に開けた山村にある。児童数は86名で、6学級からなっている。子どもたちは、明るく純真である。異学年とのふれあいや下学年の世話をよく行い、縦割り班活動も活発である。

## 2. 本校の実践の概要

本校では、読書が子どもたちの知的生活を増進させ、人間形成や情操を養う上で重要であると考え、子どもたちの望ましい読書習慣を形成するとともに、子どもたちが主体的に学校図書館を活用することを願って、学校図書館ボランティアを積極的に活用している。

具体的には、学校図書館ボランティアに、読み聞かせやブックトークなど様々な支援をしてもらうことを通して、家庭や地域と連携しながら読書活動を推進している。

(1) 豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもの育成をめざして

① 身近な素材や様々な手法を取り入れた本の読み聞かせを実施し、本との楽しい出会いを作っている。

② ブックトークで多様な本を紹介し、一人一人の興味や関心に応じた本との出会いを作っている。

(2) 進んで図書館を活用し、主体的に学ぶ子どもの育成をめざして

① 本の配置を工夫したり新しい本の紹介の掲示や学校図書館ボランティアのコーナーを設置したりすることを通して、親しみやすい図書館づくりを進めている。

② 本の検索や貸し借りの簡素化を図るためのコンピュータへのデータ入力や新聞コー

ナーの設置、インターネットの整備を通して、情報社会に対応できる図書館づくりを進めている。

③ 市立図書館との連携や学校図書館の地域への開放を通して開かれた学校図書館づくりを進めている。

(3) 豊かな表現力を育み、主体的に取り組む子どもの育成をめざして

① 子どもたち一人一人の思いや願いに対応できるように、教師と学校図書館ボランティアが連携して授業を展開している。

② 子どもたちの視点を変えたり、学びを広げたり深めたりできるように、読書ゲームや学校図書館を活用した情報収集などを取り入れた授業を展開している。

(4) 夢を語り、郷土のキラリ輝く子どもの育成をめざして

① 全校一斉に朝の10分間読書を推進し、落ち着いた読書時間を定期的に確保している。

② 読書集会や学校図書館祭りを開催し、読書の楽しさを伝え合う機会をもっている。

③ 独居老人との交流会などの機会をとらえて、子どもたちによる地域での読み聞かせ活動を積極的に進め、読書を通して地域とのかかわりを深めている。

## 3. 成果と今後の課題

(1) 学校図書館ボランティアとのかかわりを通して、子どもたちの読書意欲が増し、読書の幅も広がった。

(2) 子どもたち同士がおすすめの本を紹介し合ったり、読み聞かせや手作り紙芝居をしたりする姿が多く見られるようになった。

(3) 学校図書館ボランティアの授業への協力や図書館の環境整備を通して、主体的に図書館を利用する子どもが多くなった。

(4) 今後、教育課程の中に計画的に組み込むことで、活動を長く継続していきたい。

学校名 大島町立蒲野中学校

所在地 山口県大島郡大島町東三蒲1106-1

電話 0820-74-2329

## 1. 本校の概要

本校のある大島町は、山口県東部の瀬戸内海に浮かぶ屋代島に位置し、豊かな自然にいだかれた風光明媚な環境にある。

本校は、過疎化や少子高齢化に伴い、生徒数が減少し、現在生徒数24名、学級数3学級の小規模校である。こうした中、人間性豊かで、確かな学力、たくましい実践力をもつ生徒の育成に努めている。

## 2. 本校の実践の概要

読書の時間を確保し、読書ノートの記録を継続的に行うなど、自分自身を見つめ、考えを深める機会を設けてきた。本校は毎月定期的に「俳句作り」を実施しているが、それとともに読書活動は、生徒の語彙力や豊かな感性を育てる一助となっている。

また、町立図書館や地域・家庭と連携して、家庭や地域でも読書に親しめる生徒の育成に努めてきた。「開かれた学校」づくりの視点から、高齢化の進む地域のお年寄りに手紙を出す読書郵便、保育園などでの生徒による読み聞かせ、そして、地域全戸への図書郵便の配布の実施など、生徒が自ら地域に対し読書の推進についての活動を行っている。

### (1) 学校での取り組み

#### ① 朝の読書

給食配膳時間等を有効に活用するため読書タイムにすることから取り組み、現在は全校一斉に始業前の十分間読書を実施している。

#### ② 読書ノートの記録

山口県学校図書館協議会作成の冊子「わたしたちの学校図書館」の中にある読書ノ

ートを継続的に活用しており、生徒同士によるコメントの記入も取り入れている。

#### ③ 本の紹介活動

教師によるブックトークや朝礼での本の紹介、生徒による本の紹介カードの作成やオープンスペースである図書コーナーの掲示を行っている。

### (2) 家庭・地域との連携

#### ① 親子読書（PTA図書）

学校図書館に、親子読書の機会を提供するため、親子で読める本などを選書したPTA図書コーナーを設置している。また、家庭間での図書の回覧も行っている。

#### ② 読書の集い

読書の集いとして、町立図書館司書によるブックトークやストーリーテリングを行っている。

#### ③ 地域への本の貸し出しと図書便りの配布

地域全戸へ図書便りを配布して、学校図書館利用の便を図っている。町の広報誌にも学校の読書活動を掲載し、読書啓発をしている。

#### ④ 保育園での読み聞かせ

隣接する保育園で、生徒による園児への絵本の読み聞かせを行っている。

#### ⑤ 地域のお年寄りへの読書郵便

敬老の日の前に、地域のお年寄りに読書郵便を出している。返事をもらったりすることにより、交流が生まれている。

## 3. 成果と今後の課題

学校で読書の時間を確保したり、様々な方法で本の紹介活動をしたりすることで、全体的に読書量や読書時間が増えている。それに伴い知識だけではなく心情面での豊かさも徐々に感じられるようになってきた。今後、学校での読書活動を一層進めていくとともに、家庭や地域との連携に力を入れて、日々の生活の中で読書に親しむ習慣を定着させることが課題である。

学校名	徳島県立板野養護学校
所在地	徳島県板野郡板野町大寺字大向1-2
電 話	088-672-3456

## 1. 本校の概要

本校は、徳島県北部の阿讃山脈の裾野に位置し、自然豊かな恵まれた環境の中にある。

小学部、中学部、高等部では、肢体不自由や病弱の児童生徒 118名が、毎日楽しく学んでいる。

しかし、障害の程度は年々、重度・重複化、多様化傾向にあるため、小・中・高の一貫した指導体制によって一人ひとりの教育ニーズに応じた教育活動を行っている。

## 2. 本校の実践の概要

本校の図書館では、あらゆる機会や手段を駆使して、児童生徒が本との出会いが持てるような運営を心掛けている。

入りやすい図書館、魅力ある図書館、わかる図書館をモットーに、利用しやすい環境づくりを工夫している。

### ①本のある環境をつくる

児童生徒の興味・関心のある本を豊富に整備する。文字やことばの理解が苦手な児童生徒のために、音声付き・しかけ・触れるなどのメディア本を整える。

それらの本は、学級文庫や学期に一回全学部を巡回する移動図書館を設置し、本を身近に置くことで、本に親しむ工夫をしている。

### ②本に出会う活動をする

毎月発行している『今月の本棚』に名作物語を4コマにイラスト化し、書名を当てるクイズをのせる。先着10クラスに手作り葉を手渡し、本に巡り合う機会を設けている。葉は一日でなくなるほど関心が高い。

また、本に出会う導入として、おはなし教材を手作りしている。大型紙芝居・布絵本・手袋人形・木工シアター・エプロンシアター・パネルシアターなどである。

手作りならではの温もりと柔らかさが好評で、親しみやすい雰囲気を持っているため、いろいろな行事で大活躍をしている。

### ③本を活用する機会をつくる

全校の児童生徒に発達段階に応じた形式の読書記録ノートを配布している。

一ページごとにシールをはり、読書の意欲や達成感をもつよう励ましている。また、その記録をもとに貸し出し冊数の多かった児童生徒に多読者表彰をする。

さらに読書感想文・読書感想画をかくことで、考え方や感じ方を引き出すなど、読書とおして豊かな心を育てている。

### ④本を読む時間を設ける

全校一斉行事として、“おはなしワンダーランド”や“読書タイム”を企画運営する。

教師の創意工夫された読み語りや児童生徒が一生懸命練習した読み語りの成果を発表する時間を設けることで読書の楽しさを味わう。

## 3. 成果と今後の課題

児童生徒にとって親しみのある図書館にするための環境改善や読書の喜びを体感できる図書館行事に地道に取り組んできた結果、児童生徒の本に対する態度も徐々に変わってきている。

自分の琴線に触れる本を見つけだせた子、友達と本を共有することで友愛の心が生まれてきている子、また、読み語りなど多くの働きかけによって、本に接することで生き生きとした表情がでてきている子も多い。

そんな中で、小学部3年の児童が第47回青少年読書感想文全国コンクールでサントリー奨励賞の快挙に輝いた。

今後、重度・重複化、多様化傾向の進む中すべての児童生徒が満足でき得る読書活動をどのように実現していくかを最大の課題としたい。本を通して幅広い知識の吸収や自立心、ひいては生きる力の育成を図る場としての図書館活動を目指して取り組んでいきたい。

学校名 丸亀市立城坤小学校

所在地 香川県丸亀市今津町348番地

電話 0877-24-4705

## 1. 本校の概要

本校は、丸亀市の西端に位置し、児童数690名、22（普通19、障3）学級である。

地域の人々は、教育に熱心で、学校に協力的であり、学校と地域とが密接に連携して教育を進めている。

## 2. 本校の実践の概要

### （1）本校の実践の特色

平成10年度より、「自ら学び考え、豊かな心をはぐくむ読書活動」を学校経営課題として、児童の自ら学ぶ力の育成や豊かな感性や情操などの人間形成をはぐくむ場として学校図書館の利活用を行っている。特に、児童の学習活動や読書活動、学校図書館ボランティアの活用、市立図書館との連携、校内の運営委員会や児童活動を中心に取り組んでいる。

#### ① 学校図書館の整備

空き教室を利用した低学年図書室と高学年図書室の二つの図書室を備えている。低学年図書室は、主として、読書センターとしての活用を、高学年図書室は、読書センター及び児童が自ら学ぶ学習・情報センターとして活用を図っている。



低学年図書室



高学年図書室

#### ② 校内学校図書館運営委員会の設置

校長、教頭、図書館教育主任、学年主任で委員会を組織し、児童・職員の図書の購入の選定、校内の読書活動、図書館の運営について話し合っている。

#### ③ 国語科や総合的な学習の時間での学校図書館の活用

国語科担当教師が低学年の読書指導（ＴＴでの指導を含む）を行っている。また、総合的な学習の時間には、児童が課題学習や発展学習等の主体的な調べ学習の場として利活用している。

#### （2）家庭・地域との連携

学校図書館ボランティアに、10数名の保護者が人材バンク登録しており、図書の修理・整備、低学年児童への読み聞かせ等のボランティアを週2日（月・水曜日）行い、児童の読書意欲を高めたり効果的に学校図書館を利用できるようにしたりして支援している。

#### 図書ボランティア



読み聞かせ



## 3. 成果と今後の課題

- （1） 学校図書館ボランティアの支援によるお話の会によって、児童が読書に興味・関心をもつようになった。
- （2） 読み聞かせ、ストーリーテリング等で読書の世界に浸ったり、聞いた話の本を読んだりする児童が増えた。
- （3） 児童が目標をもって読書に親しんだり、積極的に取り組んだりするようになった。
- （4） 学校図書館のゆとりのある環境整備ができて、読書に意欲をもつ児童が増えた。
- （5） 各教科や総合的な学習の時間等において調べ学習等の主体的な学習や問題解決的な学習に取り組むようになった。
- （6） 国語科を中心にした読書活動によって、児童の学習や読書意欲が高まってきた。
- （7） 学校図書館へのコンピュータ設置、完全学校週5日制に向けての開かれた学校図書館の運営が課題である。



学校名 西条市立飯岡小学校

所在地 愛媛県西条市飯岡 2 1 2 4 番地

電 話 0 8 9 7 - 5 6 - 2 1 1 9

## 1. 本校の概要

本校は、西条市の東に位置し、自然豊かな農村地帯にある。清らかなせせらぎと豊かな大地の恵みの中、地域の温かい人たちの思いに支えられ、児童も伸び伸びと生活している。「玉うさぎ」に象徴される丸く赤い眼は、純粹でひたむきな児童の姿そのものであり、幅広い体験活動を通して磨かれた感性や柔らかい心をさらに広げながら生きる力をはぐくんでいる。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

保護者の温かい思いからスタートした読み聞かせ活動は、本校の教育活動や児童の読書体験にやさしい風を送り込むとともに、地域の人たちがおのずと児童の活動にかかわることのきっかけとなっている。本との出会い、人との出会いを大切にして、児童の未来に続く生活を潤し続けていくことができるよう、学校・家庭・地域との連携を深めた実践が続けている。

#### ① 二つの図書室と「ひまわり教室」設置

児童の願いや思いを大切にしたい二つの図書室と、図書館ボランティア活動の拠点となる「ひまわり教室」を設置した。

#### ② 図書館ボランティアを活用した学習の構想と教職員の意識改革

### (2) 学校図書館ボランティア活用

#### ① 「ひまわり文庫」の主な読み聞かせ活動

- ・ 木曜日の昼休み、ひまわり教室にて
- ・ 毎週月曜日の読書タイムに低・中・高学年の各 1 クラスで読み聞かせを実施。

#### ② 学習活動への支援

- ・ 絵本の読み聞かせや紹介
- ・ 紙芝居や絵本づくりのアドバイス
- ・ 交流活動や課題追究活動の支援



- ③ 総合的な学習の時間「読み聞かせ教室」「点字教室」「国際理解教室」など開催
- ④ 読書への誘い「ひまわり新聞」発行
- ⑤ 集会やイベント活動での支援



- ⑥ 地域諸団体からの協力
  - ・ 飯岡読書会による「百人一首カルタ会」
  - ・ 文化財愛護会による「ふるさと探訪」
- ⑦ P T A 図書委員会や文化芸術委員会の発足と多様な読書活動推進への支援

## 3. 成果と今後の課題

「困ったことがあったり悩んだりした時、心に残った本を読むと気持ちが楽になるんよ。」ある高学年児童が、ふと語ったことばである。

ひまわり文庫の読み聞かせ活動からスタートした図書館ボランティア活用実践は、児童の心に、見えないたくさんの根っこをはぐくんでくれた。決して恵まれた図書館環境とはいえない状況の中、たくさんの方々の温かい心によって、多様な読書活動が展開でき、学校だけでは限界のある図書館運営にも明るい光が見えてきた。読み聞かせに浸る児童の横顔には、安らぎさえ感じる。

今後は、読書の効用をさらに学校教育全体に広げ、図書館ボランティアの方と共に学び高め合って、児童の生活化へと結び付けたい。

学校名 松山市立窪田小学校

所在地 愛媛県松山市久米窪田町307番地

電話 089-970-1533

## 1. 本校の概要

平成6年に開校した新設校で、松山市の南東の田園地帯に、ピンクの鮮やかな校舎がそびえるオープンスクールである。開放感に満ちた恵まれた施設環境のもと、「新しい風を起こそうくぼたっ子」をテーマに開かれた学校づくりに取り組んでいる。495名のくぼたっ子が伸び伸びと個性豊かに読書活動に取り組んでいる。

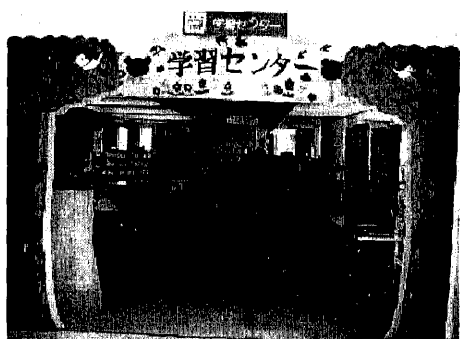
## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

平成11年度に西部地区学校図書館活用フォーラム、平成13年度に四国地区学校図書館研究大会の会場校となり、読書活動と情報活用を柱とした研究を公開した。

#### ① 学習・情報センターの充実

広い学習センターを「お話のへや」と「調べ学習コーナー」に分け、読書や調べ学習に活用している。学習活動を支える学習・情報センターを目指し、図書の整備や楽しい展揭示の工夫、スクールリブによる図書の管理・貸し出しを行っている。低学年には学年内に専用の図書スペースを設置。



#### ② 読書活動の充実(毎週木曜日)

読書の日とし、朝の「ひだまり読書」の時間を設け、自由読書や教師の読み聞かせ、他学年との読書交流を行っている。

「本は友だち」コーナーの掲示、読書集会、図書委員会による読書郵便等を行っている。読書郵便は特に児童の反応が大きく、読書の浸透や交流に一役かっている。

#### ③ 情報活用の授業実践

子どもの実態に応じ「くぼたっ子GoGo学習」(総合的な学習の時間)をはじめ様々な学習で、コンピュータ・本等の多様なメディアを活用した授業を行っている。

#### ④ 学習情報の充実

子どもの個別ファイルやフォルダー(パソコン)、教師による図書資料リスト、ホームページリンク集等の学習情報の活用・蓄積を行っている。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

保護者読書ボランティア「ふう」による、読書の日を読み聞かせや親子読書・ファミリー読書の推進を図っている。地域の幼稚園・保育園との読書交流を行ったり、地域の方をゲストボランティアとして積極的に学習に招へいしたりしている。



## 3. 成果と今後の課題

### (1) 成果

読書の日を中心に、読書に浸る子ども、読書交流を楽しむ子どもが増え、図書館が読書センターとして機能してきた。また本をはじめ様々なメディアを活用して、調べ学習が展開されるようになり、学習・情報センターとしての機能も進んできた。

### (2) 課題

親子・ファミリー読書、地域における読書交流等をさらに進め、家庭・地域と一体になった豊かな読書活動を推進していきたい。

学校名 須崎市立多ノ郷小学校  
所在地 高知県須崎市吾井郷乙1909-2  
電 話 0889-42-0337

## 1. 本校の概要

本校のある須崎市は、高知県のほぼ中央部に位置し、土佐湾に望む緑豊かなところである。

本校は、児童数 523 名、学級数 20 学級で、児童は全体的に明るく元気である。本校では、総合的な学習の時間における学校図書館の活用を通して、自分の思いや考えを表現できる子どもの育成を目指し、学校全体で取り組んでいる。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 朝の読書タイム

毎週月、水、金曜日の朝自習の時間を「読書タイム」として位置づけ、児童は多くの本に親しんでいる。

#### ② 青少年読書感想文コンクールや読書感想画コンクールへの取り組み

児童の表現能力を育てるために全校的に取り組んでいる。

#### ③ 秋の読書月間

11 月に図書委員会が中心となり、読書活動に取り組んでいる。内容は、主に次の通りである。

##### ◎ 読書タイムを毎朝行う。

##### ◎ 校内読書郵便

自分の読んだ本の内容を友達や先生に紹介するはがきを書き、読書郵便として図書委員が配達している。児童は読書郵便が大好きで、1 年生から 6 年生まで楽しく取り組むことができた。

##### ◎ 辞書早引き大会

日頃から辞書に親しむ習慣をつけるために 4、5、6 年生全員参加で行っている。

◎ 図書委員会からのしおりのプレゼント  
読書月間中、目標冊数を超えた児童に図書委員会からしおりをプレゼントし、読書の励みとしている。

##### ◎ 読書まつり

日常実践している読書活動をさらに発展させるために、「読書まつり」として、劇、紙芝居、歌、オペレッタ、朗読などの発表に力を入れている。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 親子読書

1 年生は毎週末に、他の学年は時期を決めて、児童が借りて帰った本を親子で読み、本に親しんでいる。

#### ② お話の時間

保護者や地域の方々や月に 2 回、始業前の 10 分間、各学級へ入り、お話や本の読み聞かせを行っている。子どもたちも大変楽しみにしており、地域の方々とのふれあいの場にもなっている。

## 3. 成果と今後の課題

### (1) 成果

様々な取り組みを通して、児童が一層本に親しみ、図書室をフルに活用できたことが大きな成果である。また、家庭や地域との連携を深めることにより、校内のみでなく、全地域的に読書活動が盛んになってきている。

### (2) 今後の課題

① 読書を通して、一層の読む力や心情表現を高め、より質の高い読書活動の推進を図る。

② 総合的な学習に対応できる蔵書、児童の要求や社会の変化に対応できる蔵書を充実させ、日々の学習活動に即応できる体制をつくる。

③ 21 世紀を担う児童の心をいかに育て、高めるかを、今後の図書館教育の中心的課題として取り組む。

学校名 桂川町立桂川東小学校  
所在地 福岡県嘉穂郡桂川町土師28番地  
電話 0948-65-1200

## 1 本校の概要

本校は昭和22年桂川小学校吉隈分教場として開設され、昭和33年独立し、桂川東小学校となった。一時は児童数も1500名を越える大規模校で、日本一の分校と言われた。

炭坑の斜陽化とともに児童数も激減し、現在児童数180名、特殊学級を含め7学級の小規模校である。

## 2 本校の実践の概要

平成9年度の文部省教育総合推進事業及び桂川町学力向上推進事業の委嘱を契機に、「学校・家庭・地域の連携のもとに子どもの学習意欲を高め、確かな学力の定着を図る」ことを目指し、授業の改善に取り組んできた。その取組と合わせ、次のような読書活動の推進に力を注いできた。

### (1) 朝の「読書タイム」

5年前より「読書タイム」(火・木・土の8:35～8:50)がスタートした。

「読書の楽しさを子どもたちに分かってほしい」という願いから、担任をはじめ校長、教頭、補助教員等全ての教職員が担当の学級に入り、全校一斉に読み聞かせを行っている。



この時間は全校が静まり、目を輝かせて読み聞かせに集中している子どもたちの姿が見られ「読書タイム」を楽しみにしている子どもたちが増えてきた。

近接学年読書や交流読書を取り入れ、教職員

も楽しみながらの「読書タイム」に発展してきている。

### (2) PTA文化部「親子読書会」

炭坑が閉山し、児童数が激減したとき、子どもたちの生きる希望になってほしいという願いを込めた「親子読書会」が始まった。当時の保護者の願いは現在も受け継がれ、地域の読書運動とタイアップした形で「親子読書会」が行われている。

PTA文化部のメンバーが、1学期に大型紙芝居やパネルシアター等を行ってくださっている。1カ月前から、夜、学校に集まり、準備や練習を重ねられる姿から、「子どもたちに良いものを」という真摯な気持ちが伝わってくる。

2学期には、各学年ごとの読み聞かせ、3学期はお別れ集会での劇への参加と、地域の方々にも加わっていただいている活動が楽しく行われている。

### (3) 「おばあちゃんの子守歌の会」との連携

毎朝、校門でのあいさつ運動に取り組んでいただいていた地域のおばあちゃん方に呼びかけ毎月第3木曜日の「読書タイム」の時に、紙芝居をしていただいている。

おばあちゃんたちに親しみを感じ、自然に挨拶を交わしている子どもたち。「おばあちゃんの子守歌の会」も年々人数が増え、意欲的に練習されている。「子どもたちと毎朝接することや、紙芝居を行うことで、私たちもたくさん元気をもらっています。」と代表の方は言っている。いろいろな面でご支援をいただいております、本校の大切な宝である。

## 3 成果と今後の課題

### ○ 成果

- ・児童の読書量が増えてきた。
- ・木曜日の家庭読書の日が定着してきた。
- ・読み聞かせボランティアの人数が増えた。

### ○ 課題

- ・学校五日制に向けての読書活動の充実。
- ・一人読書の充実

北九州市立前田小学校

福岡県北九州市八幡東区祇園 1-6-1

093-661-6464

## 1. 本校の概要

94年の歴史を数える伝統校です。八幡東区の西端に位置し、南に皿倉山を望み、緑に囲まれた土地にあります。周辺には、市立の芸術・文化・科学・体育施設やJICAのセンターもあり、教育環境として非常に恵まれたところ です。保護者の教育活動に対する理解と協力は厚く、PTA活動において文部大臣賞を受ける等、地域の教育力も大です。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 読書への誘いの活動

- ・ 読書タイムは、毎週金曜日の朝十五分間を子どもたちの自主的な読書の時間とし、自分で用意した本を読みます。
- ・ お話の日は、毎月一回、教師が読み聞かせをしたり、児童が自分の読んだ本の紹介をするなど、学級により様々な工夫がされています。

#### ② 表現力に結びつく活動

- ・ 読書集会は、年間二回、学年ごとに実施されます。表現方法も子どもによってデジタルカメラやOHPなど、視聴覚機器を用いる場合も多く、劇化・絵本・ペーパーサート・ブックトークと、多様です。

#### ③ 魅力ある図書館にするために

- ・ 特設コーナーには、新刊書・国際理解・福祉・環境・健康・調べ学習ファイル・県の資料・国別資料・詩・児童作品・外国の作家・季節ごよみなど、年々増加しています。
- ・ やすらぎの場として、高学年図書室・絵本の部屋・廊下はオープンスペースと

し、雰囲気づくりに努めています。

- ・ パソコンの導入は、バーコードでの貸し出し事務簡略化、検索の便利さ、統計整理と広報活動に効果をあげ、利用数の増加がみられました。
- ・ 児童の運営参加によって、創意工夫のある活発な児童委員会活動になっています。カウンター業務、季節ごよみづくり、本の紹介、ポスターづくり、図書館新聞づくり、お話の会、ブックトーク集会など、児童の発想を取り上げてやることにより、意欲的な活動が増えました。

### (2) 地域との連携

- ① 前田どんぐりの会は、隣接する市立前田市民福祉センター内サークルに読書好きな9名が集まってできた「学校ボランティア」グループです。毎月第4水曜日昼休みに、低学年を中心に「読み聞かせ」や「紙芝居」をしています。また、学習時のゲストティチャーとして本の修理をグループ指導してもらっています。さらに、児童の物語づくりの学習では、聞き役をしてもらう等、年長者と児童との心の交流の場として欠かせないものになってきています。

- ② 隣接する市立八幡図書館の利用も多く、全児童が図書カードを持っています。

## 3. 成果と今後の課題

本校の図書館教育のテーマは「伝統を未来へ」です。昭和25年度、職員室の一隅に児童図書館を設置したことにはじまり、学校の主題研究が図書館教育ではない時期でも、設立の趣旨は伝統として受け継がれています。

他の関係機関とのインターネット接続の計画が実現すれば、より活発な活動が期待できます。近接の大学図書館利用や大学生による読み聞かせなどの交流も増えています。

学校名 大和町立豊原小学校  
所在地 福岡県山門郡大和町豊原125  
電話 0944-72-3046

## 1. 本校の概要

福岡県の南部に位置し、柳川市に隣接している本校は、児童数は237名、学級数は10学級の中規模校である。

学校の教育目標「心豊かに、自ら学び、たくましく生きぬく児童の育成」のもと、児童は、明朗であり、伸び伸びと学校生活を送っている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校の読書活動は、昭和60年度頃より始まっている。そして、今日まで新たな試みを付加したり、改善したりしながら啓発や推進を図ってきている。この読書活動で目指す児童像は、「本が好きな児童」である。以下、主な活動を紹介する。

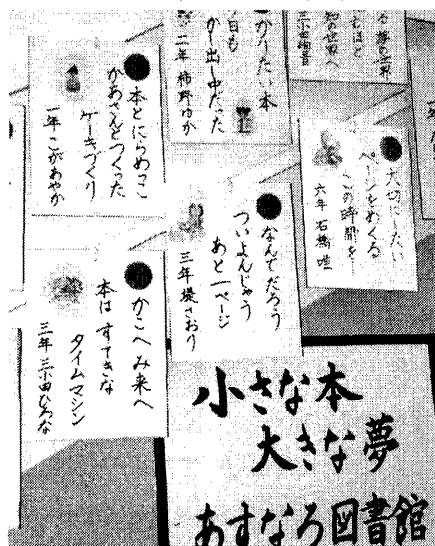
#### ① 読書月間

子どもの読書に対する興味と関心を高め、幅広い読書ができるように、次の活動を全校で行っている。

○読書標語作りに挑戦しよう

○すすめる本を絵や文で紹介しよう

○読書月間の集大成、図書館祭りをしよう



#### ② 集団読書の日

十分以内に読めるように選定された集団読書用テキストを、一斉に読む日を年間5回設定している。

#### ③ 縦割り読書集会

縦割り班のリーダーの自主的計画のもと、その班の全学年の児童が楽しみながら、読書の幅を広げることをねらいとしている。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

読書活動は学校だけではなく、家庭や地域と一体になって行うことによって、さらなる効果や価値が期待できる。

#### ① 家庭読書

毎月第二・第四土曜日を「家庭読書日」と位置づけ、児童を通して貸し出した本を家族で読み合い、その感想を「どくしょのきろく」というノートに書く。

#### ② 大和町子供会の集い

町内の児童を対象として、地域のボランティアの方による読み聞かせやブラックシアターなどが行われ、校区内外の児童の交流を図っている。

## 3. 成果と今後の課題

本校の読書アンケートでは、多くの児童が「本を読むことが好き」と答えている。また、日頃の読書活動のなかで、豊かな心を感じさせる児童の姿をみることも少なくない。このような成果の背景として次のことが挙げられる。

- (1) 教職員の共通理解による読書指導
- (2) 「もの・こと・ひと」の読書環境作り
- (3) 自主的な活動ができる場や時間の確保
- (4) 児童自身による達成目標の設定
- (5) 家庭や地域との連携による読書指導

また、主な課題としては、完全週五日制のもとでの効果的な読書活動の推進をいかに図っていくかが挙げられる。

読書活動が本校の伝統として、ますます継続、発展していくように創造的に展開していきたい。

校 名	神埼町立神埼小学校
所在地	佐賀県神埼郡神埼町大字枝ヶ里 3 4 9
電 話	0 9 5 2 - 5 2 - 4 1 7 5

## 1. 本校の概要

本校は佐賀県東部に位置し、弥生人の環濠集落ゾーンを有する吉野ヶ里歴史公園と隣接している。児童数 6 8 8 名、学級数 2 2 クラスの大規模校である。

子供たちは明朗で、誰にでもすぐに慣れ親しむ。保護者・地域の学校教育に対する関心は高く、母校を誇りに思う気持ちも強い。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

昭和 5 0 年度より、国語科学習指導方法の研究を継続実践し、平成 9 ・ 1 0 年度文部省指定「教育課程及び読書指導」を機に、学校図書館の充実と読書指導の工夫改善についての研究を開始した。

#### ① 読書指導と読解指導の一元化

国語科学習において、読書指導と読解指導を一元化するために、教科書教材に関連した図書や作品を活用する学習指導過程の基本パターンを開発した。

#### ② 発達段階に応じた読書指導

各学年の発達段階に応じて、子供たちに手にとって読んでもらいたい本を、学年ごとに 5 0 冊精選し、読書を奨励した。

#### ③ 読書を支える環境の整備・充実

図書館では、楽しく明るい雰囲気の中で読む場づくりを目指し、月ごとのテーマ展示や子供の作品展示等を行った。

#### ④ 読書タイムの設定

平成 9 年度より、火曜日から金曜日までの連続 4 日間、朝の 1 0 分間を全校一斉読書の時間として設定した。

#### ⑤ 図書館祭りの実施

子供たちの読書意欲の向上と図書館への

慣れ親しみを願って、学期に 1 回、連続 3 日間を図書館祭りを開催した。祭りの内容としては、ペープサート劇・パネルシアター・紙芝居・読書ビンゴ・点字速読み等の活動や、しおり作り・とびだす絵本作り等の製作コーナーを設けた。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

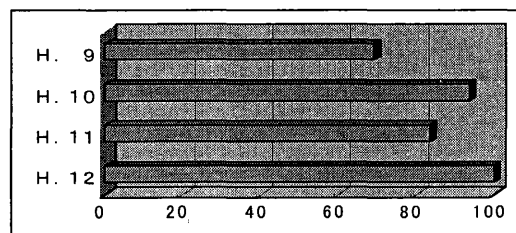
① 家庭の中にも読書の輪を広げようと、図書館祭りと同時期にファミリー読書を行ってきた。ペアペアカードを家庭に配布し、協力依頼を行った。

② 子供たちの読書意欲の向上に伴い、図書館蔵書だけでは読みたい本のニーズに応えることができなくなってきた。そこで、地域の図書館からの長期貸出しの協力を得た。

また、PTA 主催のバザーや地域廃品回収の益金で新刊図書購入をして頂いた。

## 3. 成果と今後の課題

○ 読書タイム等の実践により、子供たちの読書に対する意欲が向上し、読書量が大幅に増えてきた。平成 1 2 年度には、一人あたりの学校図書の平均貸出し冊数が、9 9 . 9 冊となった。(グラフ)



また、神埼町主催の「子どもわくわくフェスタ」では、子供たち自身が町立図書館のボランティアスタッフとして活躍するなど、子供たちの読書に関する活動が広がっていった。

○ 平成 1 3 年度、本校では国語科学習と総合的な学習の基盤作りとして読書活動を位置付けている。これまでの実践を継続しながら、学校図書館が学習情報センターとしての機能を持ち、読書活動が子供たちの生活の中で生きて働くような支援をしていく必要がある。

学校名 玄海町立値賀中学校  
 所在地 佐賀県東松浦郡玄海町大字平尾691  
 電話 0955-52-6109

## 1. 本校の概要

本校は、佐賀県西北部の玄海原子力発電所のすぐ側にあり、3学級86人の生徒が在籍する小規模校である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

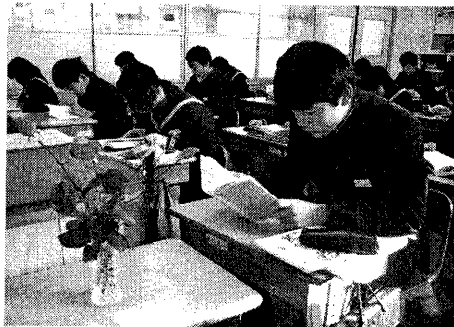
図書主任と図書館司書補を中心とした全職員の連携により、生徒が主体となった学校図書館活動になるよう日々実践している。

#### ① 「朝の10分間読書」の実施

平成11年9月14日より開始、行事のない火曜日から土曜日の朝に各クラスで10分間読書を実施している。各クラスの担任、副担任も生徒と一緒に読書を行っている。

#### ② 「読み聞かせ」の実施

平成11年度は担任による読み聞かせ、平成12年度からは土曜日の「朝の読書の時間」に生徒（図書指導部員）による本の「読み聞かせ」を実施している。

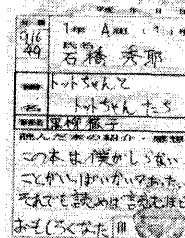
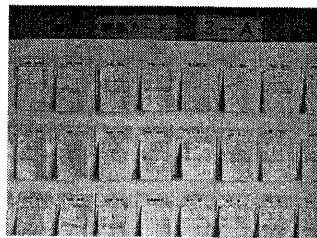


#### ③ 「図書館のしおり」の活用

平成10年より「図書館のしおり」を作成している。入学時に配布し3年間使用する。「3年間にこれだけは読もう」という本50冊を選定し、読み終わったら『読破シール』を貼らせ、校内に全生徒の読破状況を掲示している。

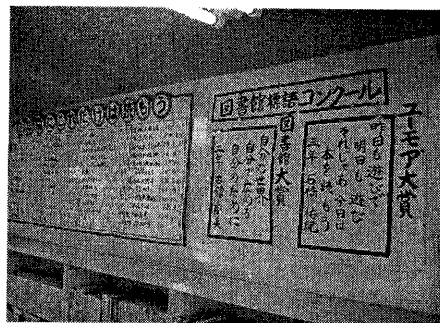
#### ④ 「読書カード」の記入と掲示

平成10年度より開始、読んだ本の書名・著者名・感想などを紹介する「読書カード」を各自に記入させ、掲示している。



#### ⑤以上の他、生徒（図書指導部）による活動

- ・図書館標語コンクール
- ・俳句短歌コンクール
- ・全校朝会での本の紹介
- ・文化祭における人権に関する本の紹介、展示
- ・多読者へのアンケート
- ・先生お薦めの本の紹介
- ・記念日の放送と図書室利用の呼びかけ



## 3. 成果と今後の課題

### (1) 成果

朝の読書を始める以前と比べれば、「読書が好きになった」という声が増えた。また卒業生には「もっと早く読書の楽しみを知りたかった」という声を残し卒業する者もいた。

読む本の内容も、軽い読み物から、じっくり味わって読む本を選ぶようになった。

学校図書館のイメージが本の貸し借りやおしゃべりの場から静かにじっくり本を読む場へと変わった。

学校図書館の本の年間貸出し冊数は、朝の読書の開始前では1人当たり約18冊だったのが、開始後は毎年1人当たり30冊を超えるようになった。

### (2) 今後の課題

教科との連携を図り、図書館利用の活性化を目指すとともに、個に応じた読書指導の展開を図り、豊かな心をはぐくみ、生きる力につなげていきたい。



学校名	福島町立福島中学校
所在地	長崎県北松浦郡福島町 塩浜免2944番地
電話	0955-47-2024

## 1. 本校の概要

本校がある本町は長崎県の北部、佐賀県伊万里市との県境に位置し、伊万里市と橋で結ばれた離島である。

本校は、生徒数135名、学級数5学級の小規模校であり、生徒は「努力・勇気・友愛」の校訓のもと、恵まれた自然と人情味豊かな環境の中で、心豊かに育っている。

北海道福島町・長野県木曽福島町の中学校と永年交流会を実施しているのが特徴である。

## 2. 本校の実践の概要

豊かな感性と情操を身につけた生徒を育成するために、読書活動の推進と魅力ある図書館づくりを目指し、次のような取組を行ってきた。

### (1) 朝の15分間読書活動の推進

毎週、木・金・土曜の8時5分から20分までを「読書タイム」と位置付けた。教師も全員が各教室に入り、一緒に読む。学級文庫の運営については、各学級の担任と生徒がそれぞれの学級の持ち味を生かし運営してきた。



### (2) 読書推進に関する啓発活動の推進

読書活動を活発にするために、「学校だより」「学級通信」「文化部だより」「図書室だより」の中で、新刊図書の紹介や読書に関する情報を中心に、生徒や保護者、地域の人に啓発活動を推進してきた。

### (3) 「読書室」と「学習室」の分離

目的に応じた使用を目的に、調べる学習が

できる「学習室」を空き教室を活用して新たに設置し、従来の図書室を読書専用の図書室（読書室）と改めた。読書室にはやすらぎとくつろぎのある空間を目指して、畳の間や観葉植物を配置し、好きなときに訪れ、気軽に本が借りられるような工夫をしてきた。

### (4) 読書に関する校内の整備や掲示

読書に関する情報の提供を目的に、階段の踊り場に「図書案内」「一口感想文」などのコーナーを設けた。また、校舎内の掲示板をフルに活用して「読書マラソン」「お薦めの本の紹介」などを掲示した。



## 3. 成果と今後の課題

(1) 朝の読書活動については、当初はあわてて図書室に駆け込み、本を借りにくる生徒が見られたが、次第に時間とともに読書を始める姿が見られるようになった。最近は朝のひとときを全校生徒と教師が静かに共有しているそんな思いを抱かせる15分となった。また本に親しむ姿がいろいろな場で見られるようになり、読書量も増えてきた。

(2) 各種たよりによる啓発活動については、新しい図書や眠っている図書の寄贈があるなど地域からの反応もあった。また、読書が家族での話題になり、親子で読書を始めた家庭も数多く見られた。

(3) 「読書室」「学習室」の分離による図書館の運営については、分離したことで静かに本を読める環境が整った。昼休みに読書室を訪れる生徒も多くなった。また、貸し出しの手続きが簡略化されたことにより、貸し出し冊数も増えた。

今後は、これらの活動をいかに定着化し、継続していくかが本校の課題であり、特色ある学校づくりの一環に結びつけていきたい。

学校名	長崎県立佐世保西高等学校
所在地	長崎県佐世保市田原町130-1
電話	0956-49-2528

## 1. 本校の概要

長崎県の北部、佐世保市に位置する。生徒数は、1000人規模の進学校である。従って、生徒は毎日朝補習・放課後補習と勉強に忙しい学校生活を送っている。

図書館の概要を説明する。(H12年度)

入館者状況 17,000人

蔵書数 26,000冊

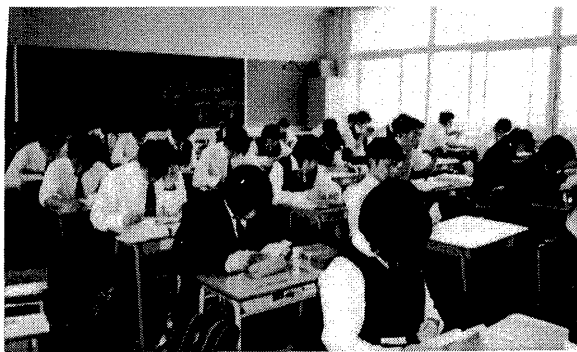
貸出状況 6,240冊

## 2. 本校の実践の概要

本校の読書活動は、自ら生きる力を育成する「朝の読書」を基盤に置き、図書館の資料を利用した調べ学習及び小論文学習を両輪として考えている。

### ①「朝の読書」

平成10年度の2ヶ月の試行期間を経て、現在まで、毎朝10分間の全校一斉読書を実施している。この読書活動は、読書力の向上を第一義に、学校全体の学力向上と静寂さを作り出すために始めたものである。



### ②図書館の資料を利用した授業

(平成12年度236時間の利用)

教科学習を積極的に手助けする読書は学校図書館の学習センターとしての役割を確認させ、勉学に取り組む生徒の学習姿勢に変化をもたらすこと

ができる。平成10年度以降、本校では、国語・公民・英語・数学・理科・家庭の6教科で実践してきた。

### ③校内小論文コンクール(1・2年生で実施)

平成11年度より実施。調べもの学習を展開させた形として、図書館の資料を利用した小論文学習(校内小論文コンクール)を位置づけている。

### ④卒業論文(3年で実施)

平成11年度より実施。進路が12月中に決定した生徒を対象に呼びかけている。

### ⑤心の虹運動(朝の読書の発展した形)

平成12年度より全国の学校と読書を通じての交流を実践している。その交流の成果は文化祭で発表している。

## 3. 成果と今後の課題

本校の読書教育の目標は「生きる力の育成」である。図書館と教科・分掌・HRと連携した読書活動を多角的に研究し、生徒の読書意欲を高揚させる実践を目指している。

①図書館の貸出し冊数が朝の読書を開始してから、1000冊程度増加した。

②ひと月に読む本の冊数が1～2冊のパーセントが15%増加した。

③学校図書館を利用する生徒が11%増加した。

④生徒が集中して読書できるようになった。

⑤全国学芸科学コンクール、全国高等学校文芸コンクールに自発的に応募して、入賞者が出た。

### 今後の課題

①教科と連携した読書活動の促進のため、図書館には学習ができる資料が準備されていること。

②そのための、カリキュラムを準備すること。

③「朝の読書」を生徒だけでなく、学校全体で取り組む環境を作り上げていくこと。

④1年生に対する朝の読書のためのLHR指導案・資料の充実。

⑤「小論文」コンクールの充実。

⑥生徒会図書文芸部・図書委員会を中心とした校内読書活動をさらに発展させていく。

学校名	熊本市立飽田中学校
所在地	熊本県熊本市孫代町72番地
電話	096-227-0004

## 1. 本校の概要

本校は、熊本平野の西端に位置し有明海に面している、学級数12の中規模校である。

保護者の学校への協力が盛んであり、図書館ボランティアを初め、各種活動に参加されている。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は平成12年度、13年度熊本市委嘱「図書館教育推進校」及び文部科学省・国立教育政策研究所指定「生きる力をはぐくむ読書活動推進事業」を受け、学校・地域をあげた取り組みを進めてきた。特に、図書館の整備と読書活動の充実に取り組んできた。

#### ① 図書室整備

図書購入費の大幅増額とともに、環境整備の充実などを、司書を中心として行っていた。

#### ② 蔵書の電算化、図書館の情報化

平成12年度より本校区4小中学校で、平成13年度より全市で蔵書の電算化を実施。図書館には平成13年度現在、光ケーブルで接続された4台のコンピュータが設置され、インターネットも利用できる。

#### ③ 運用改善

平成12年度より、市立小中学校全校に司書が配置された。また、本校では朝7時30分から午後5時まで終日開放している。

#### ④ 読書指導

朝のいっせい読書、図書委員による昼のお話し会の実施など、読書活動を推進してきた。

### (2) 家庭、地域との連携

本校は地域の幼稚園・保育園・小学校・民生委



員などを会員とする幼保小中連携協議会を組織して、活動を続けてきた。その基盤の上に、以下のような活動を行っている。

#### ① 小中学校間の連携

校区内の3小学校・1中学校の司書4名と図書館担当教諭との連絡会を毎月1回実施した。

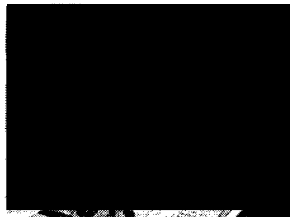
#### ② 公民館活動との連携

公民館講座で図書館活動に関連するものを行い、生徒・保護者の参加があった。読書祭りを地域全体として行った。

#### ③ 学校図書館ボランティア活動



環境整備ボランティア・読み聞かせボランティア・装備ボランティアなど多くの方が関わってこられた。



## 3. 成果と今後の課題

総合的な学習の時間の実施に向けて、学習情報センターとしての学校図書館整備を進めてきた。図書購入もその方針のもとに行っている。同時に、読書指導の充実も必要であり、そのための取り組みも進めている。その結果、落ち着いた授業ができるようになってきている。また、遅刻もほとんどなく、成果が出ている。また、図書の貸し出し冊数も飛躍的に増えてきている。

これからの課題として、「授業で活用される図書館」を目指して、職員の意識改革や利用指導の充実を図っていきたい。また、司書の専門性を生かしたレファレンスなどを、授業の中でも活用していきたい。

学校名 熊本県立蘇陽高等学校  
所在地 熊本県阿蘇郡蘇陽町滝上 223  
電 話 0967-83-0072

## 1. 本校の概要

各学年2クラス、生徒数159名の小規模校である本校は、教職員、生徒同士の絆が深く、ボランティア活動や茶園作業等を通じて地域とのつながりも強い学校である。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 朝の15分間読書

平成12年9月より実施。この試みは、生徒たちに読書習慣を身につけてほしい、読書を通して自分で考えることのできる力をはぐくんでほしい、自分自身を静かに見つめなおす時間を持ってほしい、一日を落ち着いた環境の中で始めてほしいという職員の一致した思いから始まり、担任はもちろん、副担任や学年団の教職員も教室、廊下等で本を読むなど、全校をあげて取り組んでいる。



#### ② 「読みたい本がある」図書館づくり

近隣に大型書店や公共図書館がないため、74.1%の生徒が、朝の読書で読む本を図書館から借りている。図書館側も、生徒たちがより利用しやすいよう「読みたい本がある」「居心地が良い」「使いやすい」という3点を心掛けた図書館づくりに取り組んでいる。

特に、生徒達の「読みたい」気持ちを大切にするために本の予約制度のPRと定着には力を入れている。また、公共図書館とも連携して、生徒の読みたい本、必要な本は必ず

提供するよう努めている。

### (2) 家庭・地域との連携

月曜から金曜の午後1時40分から4時40分まで図書館を地域の方々に開放している。

1人3冊まで、1か月間の貸出も行っており、育友会新聞や蘇陽町の広報紙を通して利用を広く呼びかけたところ、平成12年度は60冊の貸出があった。

## 3. 成果と今後の課題

### (1) 読書の習慣化

朝の読書の時間は物音ひとつせず、生徒達は一日を落ち着いた環境の中で始めることができるようになった。以前より本を読むようになった生徒は69%、朝の読書は自分にとってプラスになっていると感じている生徒は61%おり、生徒たちは朝の読書に積極的に取り組んでいる。

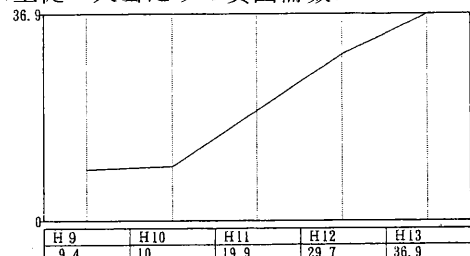
また、読書が好きと答えた85%の生徒のうち、半数近い40.5%が朝の読書で本を読むことが好きになったと回答している（平成13年11月実施の読書実態調査より）。

### (2) 図書館の利用増加

図書館に一度も足を運んだことのない生徒は朝の読書実施前の21.0%から3.8%に、また貸出0冊の生徒も23.2%から1.1%に減少した。

生徒一人当たりの貸出冊数も飛躍的に伸びていっている。

＜生徒一人当たりの貸出冊数＞



### (3) 今後の課題

朝の読書の継続と図書館の環境整備。より良いサービス提供のためにも、コンピュータによる貸出に向けてデータ入力を急ぎたい。

学校名 臼杵市立上浦小学校

所在地 大分県臼杵市大字大泊215の2番地

電話 0972-62-2618

## 1. 本校の概要

臼杵市の東側の、海と山に囲まれた風光明媚な場所に位置している。少子化現象と上浦地区からの人口流出が多く、児童数は現在47人で5学級（うち複式学級1）の小規模校である。地区住民は学校に対してきわめて協力的で、学校教育への期待は大きい。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

読書意欲や、関心を高め、読書活動を活発にするための指導法の実践的な研究を行っている。特に国語科を中心に、生活科・社会科における読書活動への支援を通して、読書を楽しみ、読書を学習に役立てようとする児童を育てるための授業のあり方を探ってきた。また、児童の実態を踏まえ読書環境を整備し、読み聞かせなどを通して本との出会いの場を意図的・計画的に設け、さまざまな読書活動や集会活動を通じた児童間の交流を図っていくことをねらってきた。

#### ① 校内研究

校内研究の中で、学習意欲の高まりをねらって、単元の発展学習として「読書活動」を位置付けている。

#### ② 読書カルテ

児童一人ひとりの本に対する興味関心等の理解のため「読書カルテ」を活用している。

#### ③ 上浦タイム

学級担任以外による読み聞かせの時間（上浦タイム）を設け読書の楽しさを知らせ、読書への意欲を高めている。

#### ④ 読書朝会

児童会や図書委員会を中心に、新しい本の紹介をしたり、パネルシアター・ビデオを使って発表やお知らせを行ったりしている。

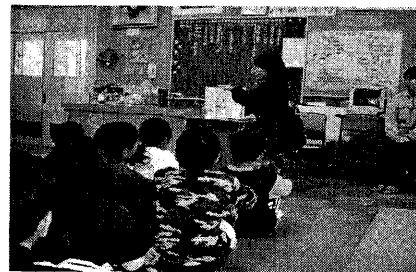


### (2) 家庭との連携、地域との連携

児童の読書環境のあり方の一つとして、家庭での読書環境の整備・地域ぐるみの読書活動を挙げ、次のような取り組みを行っている。

#### ① 親子読書

PTA専門部(研修部)と協力して、保護者による読み聞かせの時間(親子読書タイム)を設けている。



#### ② 家庭との連携

「読書環境作り」の充実のため、「家庭での読書環境作り」と「家庭への啓発」を行っている

#### ③ 地域への図書館の開放

「学校へ行こう」を合言葉に、地区の方々が気軽に学校へ来て読書に親しめるよう日ごろから図書館を開放し地域住民と子どもたちとの交流を深めている。

## 3. 成果と今後の課題

「図書館教育」を学校研究の中心に据えて取り組むようになり、児童自ら図書館に足を運ぶようになってきた。また、家庭や地域住民も読書に対する理解が深まってきている。今後は、総合的な学習とのかかわりも課題である。

学校名	大分県立高田高等学校
所在地	大分県豊後高田市大字玉津 1 8 3 4 番地の 1
電 話	0 9 7 8 - 2 2 - 3 1 4 5

## 1. 本校の概要

本校は、九州の国東半島にある豊後高田市に位置し、今年で創立 91 周年を迎える、商業科（2 学級）と普通科（1・3 年 4 学級，2 年 5 学級）の 2 学科 19 学級，全校生徒 750 名からなる学校で，文武両道を目指し，テニス部，空手道部，カヌー部が全国大会に出場している。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校の図書館は利用者の増加を目指して，独自の図書館活動を展開し，図書館利用のきっかけを作っている。入館のきっかけをつかめれば，カウンターでのブックトークや読書相談を通じて読書の習慣をつけていくことが可能である。入学時に全く読書体験のない生徒が，3 年間に読書の楽しさを語るまでになったという事例もある。

本校の館報は，図書館の動向を伝えるばかりでなく，読書へのアプローチや学習にもつながることを目指して，生徒図書委員会の作成する「LIBRARYnews」と司書の作成する「としょかん通信点点点」，「朝読書・本・情報」で読書へのアプローチを行っている。

#### ① 「LIBRARYnews」

図書館の本や行事を通して図書館を身近に感じてもらい、読者が「読んで得した」という気になる館報作りを目指すということに，館報発行の主旨を置き，月 1 回の定期発行を続けている。担当は 4 月に各クラスから選出される図書委員広報班である。

機器の発達した昨今であるが，親しみやすいことを理由に手書きを踏襲している。

特に手書きでは読みやすさが求められるため，班全員でゴシック体の字を練習して字体を統一している。毎月発行日前に校正会議を開き，誤字，脱字，タイトルの決定，カットやレタリングの検討等を行っている。

#### ② 「としょかん通信 点 点 点」

読書案内に主眼を置き，これも手書きで，B5 判で読み物形式の館報である。ラジオ，テレビ，新聞，雑誌から取材した，高校生に伝えたい内容も，図書の紹介とあわせて記事にしている。カウンターでの読書相談やブックトークの話題となり，関連図書の利用につながっている。

#### ③ 「朝読書・本・情報」

本校では，サタデー読書（第 1，3 土の朝読書会）を行っており，木曜日に朝読書の本の選択に役立つように発行している。配布後の本の貸し出し数が増加し，図書館を身近に感じるという生徒が多くなった。

### (2) 活動体制

生徒図書委員会広報班の会議で，館報製作の月を決定する。月担当者はその月の校正会議の後，特集や続きものなどの，取材，編集，ゴシック体の字で清書，校正会議を行う。この会議には係の教員も参加し，記事にタイトルをつけ，レタリングしたり，飾り野を入れたりして紙面を完成している。

## 3. 成果と今後の課題

館報の発行により図書館利用者が増加の傾向にある。サタデー読書との相乗効果により読書意欲の向上に役立っている。

- ・館報配布後の館外貸し出し数が増加した。
- ・読書に対するイメージの変化。本を読むのは特別な人という意識から，誰でも本を読むという雰囲気になった。
- ・年間一度も本を借りない生徒が減少した。
- ・図書館を身近に感じるという生徒が多くなり，読書に親しみを持つようになった。

学校名 串間市立福島小学校
所在地 宮崎県串間市大字西方4148番地
電話 0987-72-0004

## 1 本校の概要

本校は、天保13年に設置された旧高鍋藩福島領の郷学「正名舎」の流れを引く歴史の古い学校である。5月1日現在、19学級、児童数584名で構成されている。

児童は明朗温和であり、地域の人々は本校の教育活動に対して大きな期待や関心をよせている。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は、新しい時代の福島の文化を創造する子どもを育てることを学校の特色とし、その基本的な柱を次のように設定している。

- ・ 読書活動の展開
- ・ 地域の文化を学び新しい文化を創る活動
- ・ 表現力の育成

そのような背景をふまえ、特色ある学校づく作りの重要な側面として読書活動を積極的に推進している。

#### ① 朝の10分間読書

平成10年度から火曜日を除く毎朝10分間、全校児童とすべての教師が、好きな本に読み浸る活動を続けている。

#### ② 読書環境の整備

図書室とは別に、第一読書室（畳の間）、第二読書室（椅子と机）、調べ学習室（広いテーブル）を整備し、児童が目的に応じて利用できる読書環境を工夫している。

また、図書委員会の児童やPTA図書部のメンバーが、切り絵などで季節感あふれる読書室の環境設営を行っている。

さらに、パソコンを導入して、蔵書の集中管理や貸出事務の簡素化が図られた。

#### ③ 読書祭の実施

本年度から毎学期1回、読み聞かせや多読賞の表彰、本の紹介、読書感想文や感想画の展示などを中心にした読書祭を行っている。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 「読書の杜」事業の展開

##### ア 近隣の学校との連携

県教育委員会の地域指定を受け、近隣の小・中・高等学校や市立図書館と連携しながら読書活動の充実に努めている。

- ・ 親子読書の推進
- ・ 「読書の杜新聞」の発行など
- ・ 「おすすめの本」の発行

##### イ 図書館祭

市立図書館と近隣の学校が連携して図書館祭を実施した。内容は、古本の交換や読み聞かせ会、読書アンケート、読書に関する講演会等である。

#### ② PTAとの連携

本校のPTAには、図書室のパソコンの設置からバーコードの入力作業等積極的な支援をいただいている。また、毎週水曜日の昼休みには学級の保護者の代表に交替で読み聞かせをしていただいている。

#### ③ 市立図書館との連携

市立図書館からは毎学期2000冊の図書を団体貸出として受け入れ、各学級の朝の10分間読書等に活用している。

## 3 成果と今後の課題

串間市教育委員会が読書活動を市の重点施策にするなど周囲の熱心な支援もあり、読書活動は活発になった。児童の情緒の安定が著しく、生徒指導上の問題行動がなくなり、学習指導にもよい影響をもたらしている。

一方で、2割程度の児童が読書に興味をもてない状況がある。原因を調査分析し、すべての児童が読書の楽しさを味わうことができるように工夫していきたい。

学校名	新富町立新田小学校
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字新田 7717番地1
電話	0983-33-1014

## 1. 本校の概要

本校は、ほぼ県中央の児湯郡東南部に位置し、校区は一ツ瀬川流域北岸の広範囲に水田が広がる農村地帯である。

児童数は5月1日現在368名で、各学年2学級の中規模校である。子どもたちは児童会を中心に、「あいさつ運動」や「社会福祉」などの活動に幅広く取り組んでいる。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

#### ① 朝の10分間読書

平成8年より、毎朝全校一斉に本を読んでいる。全児童が本に集中し一日が静寂の中で始まる。教師も共に読書を楽しむ時間である。

#### ② 読書貯金通帳の利用

「読んだ本」「本の页数」「累計」を記録する読書貯金通帳を活用し、読んだ量を確認しながら読書意欲を高めている。

#### ③ 図書室の整備

これまでの学校図書館から調べ学習などの資料となる本を選出し、空き教室を利用して第2図書室を作った。図書室で調べ学習の学級と読書利用の学級がぶつかることなく、目的にあった利用ができるようになった。

#### ④ 読書まつり

毎年11月に読書集会を実施している。クイズや劇、読み聞かせ、多読



賞表彰などを行ってきた。今年は2時間に拡大し、読書まつりとして学年発表や読み聞かせ「先生方の思い出の本」など盛りだくさん

のプログラムで本の世界を楽しんだ。

### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① ファミリー読書

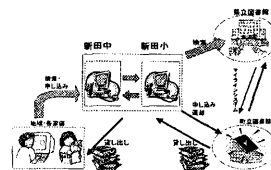
家庭での読書を習慣化するために、毎学期2週間、家族で本を読む活動を推奨している。普段忙しい保護者にも、この時期には子どもと一緒に本を読んでもらっている。

#### ② 学校図書館のネットワーク化

学校図書館にパ

学校図書館インターネット化のイメージ図

ソコンを配置し、校内LANによるインターネットの利用が可能となっ



た。来年には小学校・中学校が連携して蔵書検索できるようになり、双方の図書閲覧をはじめ、家庭・地域からの検索が可能となる。

#### ③ PTAによる読み聞かせ

家庭教育学級の一環であるPTAの読み聞かせの会「ピーターパン」が、定期的に学級に入って読み聞かせを行っている。

#### ④ 文集「心に残る1冊」の制作

新田小・新田中・児湯養護学校・校区内保育所・公民館が連携し、165人の心に残る本を紹介し合う文集を作成した。読書という観点からコミュニケーションを広げていくため、新田地区全戸に回覧している。

## 3. 成果と今後の課題

学校では、各学級で読書の時間を確保する手だてがとられ、いつも手元に本があるという状態となっている。そのため、児童の読書量も確実に増えている。また「読書の楽しさ」を感じることのできる子どもも8割を越えている。

今後は、学習との関連をより深め、地区でも利用しやすい学校図書館にするために、情報センターとしての図書館づくりをめざしたい。また、より新しい情報を提供できるように、図書選定のあり方や配架方法などの工夫にも努めたい。



学校名	日之影町立小原小学校
所在地	宮崎県西臼杵郡日之影町大字分城 737番地
電 話	0982-88-1331

## 1 本校の概要

本校は、宮崎県北部に位置するへき地1級地校である。明治11年に開校し、現在創立124年の歴史ある学校である。児童数は、全校児童9名で複式学級3学級からなる。

読書好きの児童が多く、読書量も毎年全校児童で年間10万ページの読破を目指している。

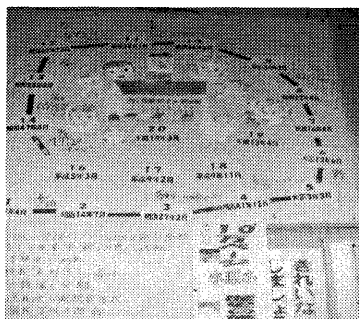
## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は過去6年にわたり、全校で「年間目標読書量」を設定し、意欲的な読書活動を行っている。また、学校の教育活動の中心に読書活動を位置付け、基礎学力の定着を図る取組を続けている。

#### ① 年間目標読書量の設定

4月当初、図書委員会の提案で全校児童9名で年間10万ページの目標読書量を設定した。児童の意欲を喚起するため、「10万ページ小原小歴史ツアー」と銘打ち図書室前に掲示した。5000ページを小目標とし、達成した段階で日付と達成ページを書き込むようにした。



#### ② 朝の読書

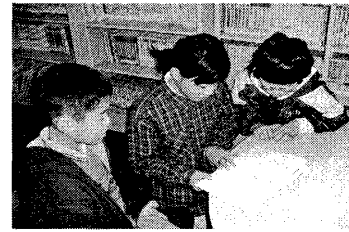
毎週木曜日を全校読書の日とし、朝の10分間全校読書を実施している。

#### ③ 業間活動における読書

月に数回、業間の時間(20分)に全校読書を行っている。また、本の紹介をお互に行い、いろいろな本に親しむ活動も行っている。

#### ④ 給食前の読書

給食当番以外の児童は、図書室で本を読むようにしている。高学年の児童が低学年の児童に読み聞かせを行っている。



### (2) 家庭との連携、地域との連携

#### ① 読み聞かせの取組

家庭教育学級において、外部講師による読み聞かせ活動(親子対象)を行った。

#### ② 参観日における読書の呼びかけ

懇談会で児童の読書状況を保護者に説明し、家庭でも積極的に読書をするよう勧めている。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

- ・ 過去数年にわたって年間10万ページの読書量を達成している。量的にはかなりの成果を上げている。
- ・ 集中して本を読むことのできる児童が増えてきた。
- ・ 読書活動が、国語や算数などの他の学習にもよい影響をもたらしている。

### (2) 課題

- ・ 量的には満足できるが、読むジャンルが決まっているなどの質的な問題がある。
- ・ 読書量に個人差があり、必ずしも全員が読書好きであるとは言えない。さらに読書に親しむ支援が必要である。

学校名	始良町立山田中学校
所在地	鹿児島県始良郡始良町下名 9 7 7
電 話	0 9 9 5 - 6 6 - 2 5 0 4

## 1 本校の概要

本校は鹿児島県のほぼ中央に位置している始良町にある。人口急増地区にありながら、本校の校区の大半は田園の広がる農村部や緑の広がる山村部である。

過疎化にともない生徒数は減少し、現在は3学級、62名の小規模校である。

生徒は温順で礼儀正しいがやや積極性に欠ける面もある。

## 2 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校は平成7・8年度に文部省から読書指導の研究校の指定を受け、全教職員と全校生徒が一体となって読書活動に取り組んだという経緯がある。現在まで読書活動は継続して行われている。その活動の一端を紹介する。

#### ① 朝自習読書

実態調査から、生徒が本を読まない理由として時間がないからということが分かった。そこで、朝自習時間を読書と学習の隔週制で行うことにした。

本を忘れた生徒もスムーズに取りかかれるように学級文庫も設置している。

現在はさらに読書の時間がほしいという声に応じて水曜日を読書の日に設定して、全校生徒が放課後に一斉に読書をしている。

#### ② 読書旬間の活動

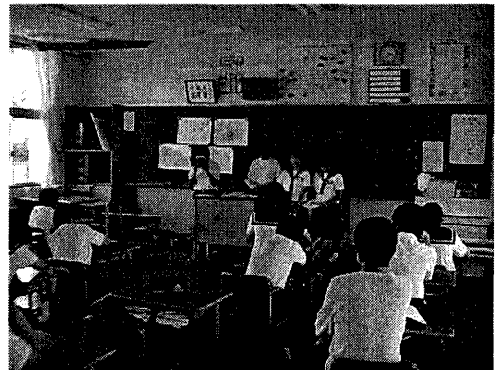
生徒の読書の幅を広げさせるためにも、読書旬間はテーマを設定し、取り組んでいる。多くの行事を行うが1時間は図書委員によるブックトークを実施している。生徒自身が本の選定と紹介の準備をしていく。生徒の興味が広がるいい機会である。

#### ③ パソコンの導入

以前はカード式の貸し出しシステムであったが「学校図書館情報化・活性化モデル事業」により図書館にコンピュータが導入され、貸し出し業務がスムーズに行われるようになった。貸し出し冊数も飛躍的に増え、総合的な学習でも図書や資料の検索に役立っている。

#### ④ 個に応じた読書指導

全体的に見ると読書に対して積極的に取り組める生徒が多いが、一人ひとりを見ていくと、読書に対して抵抗をもっている生徒もいる。年に一度は実態調査を行い、個に応じた本を勧めたり、声をかけたりしている。



読書旬間中のブックトークの様子

## 3 成果と今後の課題

- (1) 学校生活の中で読書ができる時間が増えたために、生徒の中にも読書は生活の一部と感じている生徒が多い。
- (2) コンピュータの導入は貸し出し業務を始めまでには大変な時間と労力がかかったが、現在はかなり簡素化されているために、他の図書館運営に力を注ぐことができている。
- (3) さまざまな読書活動を展開したことから生徒同士だけでなく、教師とも感動の共有ができつつある。
- (4) 全職員の共通理解と共通実践で進められているが、さらに継続していけるようにしていきたい。

学校名	鹿児島県立種子島高等学校
所在地	鹿児島県西之表市西之表7376番地
電話	09972-2-1181

## 1. 本校の概要

本校は、旧制種子島中学校・種子島高等女学校を前身として創立76周年目を迎える、この地区きっての普通科進学校である。生徒数は9クラス 319人と小ぢんまりしているが、「文武両道を目指して、部活動・文化活動も活発である。学校図書館は蔵書数21,253冊のほか、郷土資料コーナーやパソコン・CD-ROMを含む「村山文庫」等、内容も年々充実しつつある。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

読書を生涯学習の基礎と位置付け、その習慣を身に付けさせるための種々の実践を通して、「豊かな感性」や「判断力」「表現力」を育成することを目指す。

#### ① 朝の読書の実践

平成12年度から、毎朝10分間の時間帯で全学級スタート。生徒・職員にも好評で、ほとんどの生徒が「自分の好きな本」を読むことから、静かな1日が始まっている。

#### ② 新入生へのオリエンテーションと「読書案内」の配付

#### ③ 読書強化週間と読書日記の作成

5・11月の年2回設定。この期間に読んだ本の簡単な紹介・感想を提出させ、生徒と教師の心の交流に役立てている。

#### ④ 校内読書感想文コンクールの実施

春・夏・冬の長期休業期間に学年ごとに課題図書を設定して感想文を書かせる。その第一次選考には学級担任が携わるようになっており、学校全体の読書意欲を喚起するのに役立っている。最終的には、各学年

3人ずつを表彰する。

#### ⑤ 各種読書感想文コンクールの紹介と積極的な応募

#### ⑥ 図書館だよりの発行

生徒図書委員会を活用して年11回発行。学級別貸出冊数・貸出冊数上位者等を掲載することで啓発活動の一環としている。



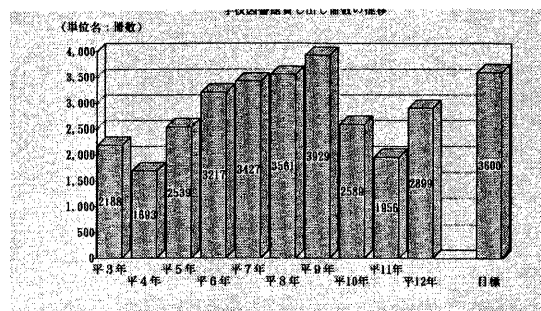
### (2) P T Aとの連携

読書によってものを見る目が育ち、自分の意見を持てるようになっていく。これを踏まえてP T Aの保護者代表と生徒代表による「本音討論会」を年1回程度実施。その模様は「P T Aだより」でも紹介し、好評を博している。最近のテーマは「携帯電話は必要?」「あなたにとって故郷とは?」であった。

## 3. 成果と今後の課題

### (1) 一時低下していた貸出数が、「朝の読書」

の開始を機に増加。これを今後の放課後や休日における読書の習慣化に結び付けたい。



### (2) 各種作文・感想文コンクールにおける3つの「学校賞」の受賞や多数の上位入賞は、読書による豊かな感性や表現力が身に付きつつあることを如実に証明している。

学校名 浦添市立浦西中学校  
 所在地 沖縄県浦添市字当山700番地  
 電話 098-879-3236

## 1. 本校の概要

本校は平成4年4月に開校し、今年2月に創立10周年を迎えた。短い歴史の中で生徒たちはスポーツや勉学、文化面に活躍し県内外で数々の素晴らしい実績を残している。また、保護者や地域の方々との交流も盛んで特にPTA活動は非常に協力的で活発である。

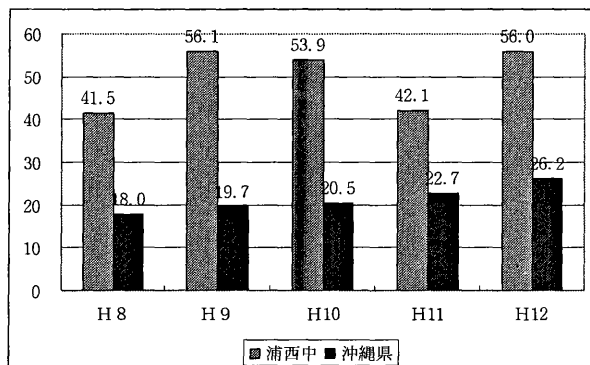
## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

創立当初から図書資料をデータベース化し、県内小中学校に先駆けてコンピュータを導入、現在の学校図書館の情報化、活性化事業の先駆的役割を果たしてきた。また、朝の読書活動推進校として平成5年～8年の3年間、学校図書館モデル研究指定校を経て今日まで10年間、朝の読書活動の実践を継続的にやっている。

本年度の読書読書冊数は、2月19日現在、生徒一人当たり60.0冊となっている。

〈過去5年間の県平均との比較〉



### ① 読書活動を充実させる取り組み

#### 〔朝の読書活動〕

ねらい：心豊かな生徒の育成、学習の雰囲気づくり、学習意欲の向上、読書の習慣化  
 取り組み：月間目標の設置、読書ノートへの記入、学級読書通信の発行等

#### 〔多読者の表彰〕

100冊以上の多読者を全校集会等の場で表彰する。(年4回)

#### 〔読書案内〕

校内放送や掲示により新刊図書や推奨する図書等を紹介する。

### ② 教科指導における図書館利用の取り組み

- ・総合的な学習の時間における福祉、平和、進路学習の調べ学習
- ・国語の教科書に沿った漢字、意味調べ
- ・道徳の時間の発展としての関連図書の読み深め



(調べ学習の様子)

### (2) 家庭との連携、地域との連携

図書委員が各自の読書ノートを「学級読書通信」にまとめ、各学年掲示板に掲示するとともに、家庭へも配布している。また、「図書館だより」の発行により、クラスや個人の読書傾向や新刊図書を紹介したり、読書月間期間中の作品や入賞者等を家庭に知らせたりしている。

## 3. 成果と今後の課題

学校のスローガンに「朝の読書から育つ心の芽」とあるように、読書に取り組む意欲の高さが生徒の平均読書冊数において、8年連続で沖縄県の平均を大きく上回る点に表れている。このことは、創立当初から今日までの教師と保護者の継続的で熱心な指導と協力の結果であると考えられる。

今後の課題としては、生徒の興味や意欲を促す魅力的な図書館にするために、施設や設備、図書資料を充実させるとともに、教師と司書との密接な連携により、学習センターとしての機能も充実させたいと考えている。

学校名 具志川市立田場小学校  
所在地 沖縄県具志川市字田場713番地  
電話 098-973-3364

## 1. 本校の概要

本校は那覇市より北に35Km、沖縄本島中部具志川市内にあり、市の南東与勝半島に通ぶる県道8号線沿いに位置している。

学校の所在する田場区は、戦後沖縄の教育発祥の地でもあり、終戦直後、文教学校や警察学校、農林学校、外語学校が設立され、沖縄の教育文化の中心地として発展してきた。本校は、昭和21年沖縄文教学校附属初等学校として設立され、昭和25年に田場初等学校として独立した。

## 2. 本校の実践の概要

### (1) 本校の実践の特色

本校では、児童の主体的に学ぶ力の育成のために、各教科や総合的な学習の時間等で「調べ学習」の場としての図書館の活用を中心に進めてきた。特に市立図書館や他校の資料を図書館のコンピュータから検索・予約して取り寄せ、日常の授業の中で子供たちの問題解決を支援する学習情報センターとしての図書館活動も実践している。

#### ①活動内容

- ア 朝の一斉読書
- イ コンピュータによる本の貸出・返本
- ウ 市立図書館及び他校の図書資料の相互貸借による教科学習での活用

#### ②実践開始時期

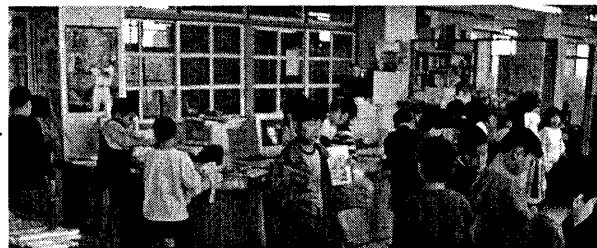
〔平成9年〕

蔵書の電算化を行い、2台のコンピュータ端末で図書館業務を行う。

〔平成10～12年度〕平成10～12年度

「学校図書館情報化・活性化モデル地域事業」の文部省指定を受け、図書館システム3台、図書館検索用端末2台のコンピュ

ータを配置する。地域図書館ネットワークが構築され、総合目録が整備される。また、物流配送サービスも開始され相互貸借がシステム化され、市立図書館、市教育研究所、市内小中学校図書館との協力が円滑になった。



(きょうはどの本借りようかな?)

### (2) 家庭との連携、地域との連携

- ①「図書館だより」を毎月発行し、活動のようすや、新着図書や読書統計などを家庭に知らせている。
- ②「ひとり一役みんなのPTA」で募集した人材バンクより「読み聞かせ」のできる方々で「読み聞かせ」ボランティアサークル結成し、毎週水曜日の朝8:15～8:40の間、各学級で読み聞かせをしてもらっている。本の読み聞かせはもちろん自作の大型紙芝居やパネルシアターなどの工夫を凝らした取り組みは、子供たちに喜ばれている。



(毎回楽しいお母さんたちの読み聞かせ)

## 3. 成果と今後の課題

具志川市図書館地域ネットワークを活用することにより、必要な資料を相互貸借することが可能になり、授業の調べ学習等に生かされ、児童の情報活用能力の育成ができた。司書と各担任との連携を強化することを今後の課題とし、児童の「調べる」力の向上を目指していきたい。



# 参 考 資 料





## 平成13年度読書活動優秀実践校表彰概要

### 1 趣 旨

子どもたちの「生きる力」をはぐくむ読書活動の一層の推進に資するため、児童生徒の読書、学校図書館の活動、公共図書館等との連携など読書を推進する活動において特色ある優れた実践を行っている学校を顕彰する。

### 2 表彰の手続き

#### (1) 表彰者

文部科学大臣

#### (2) 表彰を受ける学校の推薦

##### ア 推薦者

都道府県教育委員会

##### イ 推薦できる学校

各都道府県の域内に所在する小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校

##### ウ 推薦手続き

都道府県教育委員会は、域内に所在する国立、公立及び私立の学校の中から2校程度選考し、文部科学大臣に推薦する。その場合、都道府県教育委員会は、国立学校及び私立学校については、附属学校を置く国立大学長及び都道府県知事に推薦を求めることができる。

##### エ 推薦基準

域内において、学校における読書を推進する活動が顕著に優秀と認められること。ただし、読書活動優秀実践校として過去10年以内に文部科学大臣から表彰されたことのある学校は除く。

##### オ 優秀実践校の推薦

都道府県教育委員会は、推薦しようとする学校について、別紙様式により「読書活動優秀実践校推薦書」を作成し文部科学大臣に推薦する。

### 3 表彰学校数 107校（各都道府県2校程度）

小 学 校： 63校

中 学 校： 20校

高 等 学 校： 19校

中・高等学校： 2校（私立）

聾 学 校： 3校

養 護 学 校： 2校

合 計：107校

### 4 表彰の期日等

日 時：平成13年6月24日（日）

於 ‘子ども・ゆめ・読書’ フォーラム

場 所：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター

平成13年度読書活動優秀実践校表彰校一覧

都道府県	学 校 名	備考
1 北海道	1 えもり町立東洋小学校	
	2 苫小牧市立美園小学校	
	3 千歳市立向陽台中学校	
2 青 森	4 鯹ヶ沢町立西海小学校	
	5 木造町立柴田小学校	
3 岩 手	6 盛岡市立山岸小学校	
	7 私立盛岡女子高等学校	
4 宮 城	8 岩出山町立上野目小学校	
	9 米山町立米岡小学校	
5 秋 田	10 大曲市立花館小学校	
	11 比内町立扇田小学校	
6 山 形	12 山辺町立相模小学校	
	13 県立松山里仁館高等学校	
	14 県立酒田聾学校	
7 福 島	15 会津若松市立第三中学校	
	16 都路村立都路第一中学校	
8 茨 城	17 里美村立小里小学校	
	18 龍ヶ崎市立長山小学校	
	19 北茨城市立磯原中学校	
9 栃 木	20 今市市立今市小学校	
	21 県立宇都宮女子高等学校	
10 群 馬	22 伊勢崎市立三郷小学校	
	23 藤岡市立藤岡第一小学校	
11 埼 玉	24 久喜市立江面第二小学校	
	25 越谷市立大相模小学校	
	26 さいたま市立大原中学校	
12 千 葉	27 袖ヶ浦市立中川小学校	
	28 船橋市立船橋中学校	
13 東 京	29 板橋区立高島第三小学校	
	30 杉並区立松ノ木中学校	
	31 都立青井高等学校	
	32 都立八王子養護学校	
14 神奈川	33 愛川町立愛川中学校	
	34 県立大沢高等学校	
15 新 潟	35 新井市立新井小学校	
	36 新潟市立五十嵐中学校	
16 富 山	37 富山市立水橋西部小学校	
	38 県立呉羽高等学校	
	39 県立富山聾学校	
17 石 川	40 金沢市立押野小学校	
	41 七尾市立小丸山小学校	
18 福 井	42 勝山市立鹿谷小学校	
	43 美浜町立美浜北小学校	
19 山 梨	44 甲府市立貢川小学校	
	45 八代町境川村中学校組合立浅川中学校	
20 長 野	46 飯田市立追手町小学校	
	47 東部町立田中小学校	
21 岐 阜	48 県立斐太高等学校	
	49 岐阜県立岐阜聾学校	
	50 飛騨学園高山西高等学校	
22 静 岡	51 清水市立辻小学校	
	52 富士市立青葉台小学校	
	53 私立静岡雙葉中・高等学校	
23 愛 知	54 春日井市立鳥居松小学校	
	55 豊川市立東部小学校	
	56 私立椋山女学園中・高等学校	

都道府県	学 校 名	備考
24 三 重	57 河芸町立上野小学校	
	58 四日市市立三重小学校	
	59 県立四日市四郷高等学校	
25 滋 賀	60 高月町立古保利小学校	
	61 県立八幡工業高等学校	
26 京 都	62 木津町立梅美台小学校	
	63 京都市立朱雀第八小学校	
27 大 阪	64 和泉市立信太小学校	
	65 茨木市立葦原小学校	
	66 羽曳野市立羽曳が丘小学校	
28 兵 庫	67 西宮市立高須南小学校	
	68 神戸市立井吹台中学校	
	69 県立尼崎高等学校	
29 奈 良	70 香芝市立旭ヶ丘小学校	
	71 県立耳成高等学校	
30 和歌山	72 高野町立花坂小学校	
	73 広川町立耐久中学校	
31 鳥 取	74 鳥取市立岩倉小学校	
	75 県立境港工業高等学校	
32 島 根	76 横田町立八川小学校	
	77 瑞穂町立瑞穂中学校	
33 岡 山	78 玉野市立山田小学校	
	79 真備町立真備東中学校	
34 広 島	80 君田村立君田小学校	
	81 福山市立川口小学校	
	82 吉田町立吉田小学校	
35 山 口	83 新南陽市立和田小学校	
	84 大島町立蒲野中学校	
36 徳 島	85 県立板野養護学校	
37 香 川	86 丸亀市立城坤小学校	
38 愛 媛	87 西条市立飯岡小学校	
	88 松山市立窪田小学校	
39 高 知	89 須崎市立多ノ郷小学校	
	90 桂川町立桂川東小学校	
40 福 岡	91 北九州市立前田小学校	
	92 大和町立豊原小学校	
41 佐 賀	93 神埼町立神埼小学校	
	94 玄海町立値賀中学校	
42 長 崎	95 福島町立福島中学校	
	96 県立佐世保西高等学校	
43 熊 本	97 熊本市立飽田中学校	
	98 県立蘇陽高等学校	
44 大 分	99 臼杵市立上浦小学校	
	100 県立高田高等学校	
45 宮 崎	101 串間市立福島小学校	
	102 新富町立新田小学校	
	103 日之影町立小原小学校	
46 鹿児島	104 始良町立山田中学校	
	105 県立種子島高等学校	
47 沖 縄	106 浦添市立浦西中学校	
	107 具志川市立田場小学校	

# 平成12年度生きる力をはぐくむ読書活動推進事業 (読書実践活動推進事業) 概要

## 1 趣 旨

「子ども読書年」及び新学習指導要領の実施を契機として、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ読書活動の一層の推進に資するため、児童生徒の読書、学校図書館の活動、公共図書館等との連携など読書を推進する活動において特色ある優れた実践を行っている学校を顕彰する。

## 2 表彰の手続き

### (1) 表彰者

文部科学大臣

### (2) 表彰を受ける学校の推薦

#### ア 推薦者

都道府県教育委員会

#### イ 推薦できる学校

各都道府県の域内に所在する小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校

#### ウ 推薦手続き

都道府県教育委員会は、域内に所在する国立、公立及び私立の学校の中から3校程度選考し、文部大臣に推薦する。その場合、都道府県教育委員会は、国立学校及び私立学校については、附属学校を置く国立大学長及び都道府県知事に推薦を求めることができる。

#### エ 推薦基準

域内において、学校における読書を推進する活動が顕著に優秀と認められること。

#### オ 優秀実践校の推薦

都道府県教育委員会は、推薦しようとする学校について、別紙様式により「読書活動優秀実践校推薦書」を作成し文部大臣に推薦する。

## 3 表彰学校数 150校（各都道府県3校程度）

小 学 校： 2校（国立）

小 学 校： 84校（公立）

中 学 校： 31校

高 等 学 校： 25校

聾 学 校： 2校

高 等 学 校： 6校（私立）

合 計：150校

## 4 表彰の期日等

日 時：平成12年12月10日（日） 東京都（東京国際フォーラム）

於 「子どもの心を育てる読書活動推進全国大会」

(別記)

## 平成12年度生きる力をはぐむ読書活動推進事業（読書実践活動推進事業）優秀実践校一覧

番号	都道府県名	学校名	備考
1	北海道	沙流郡門別町立 賀張小学校	
2	〃	岩見沢市立 美園小学校	
3	〃	伊達市立 達南中学校	
4	〃	私立 札幌静修高等学校	
5	青森県	青森市立 篠田小学校	
6	〃	弘前市立 第一大成小学校	
7	〃	西津軽郡種埴村立 豊川小学校	
8	〃	県立 八戸高等学校	
9	岩手県	下閉伊郡普代村立 普代小学校	
10	〃	下閉伊郡川井村立 小国中学校	
11	〃	県立 伊保内高等学校	
12	宮城県	角田市立 角田小学校	
13	〃	本吉郡津山町立 津山中学校	
14	秋田県	南秋田郡大湯村立 大湯小学校	
15	山形県	東置賜郡高島町立 高島小学校	
16	〃	鶴岡市立 朝陽第一小学校	
17	〃	酒田市立 新堀小学校	
18	〃	私立 九里学園高等学校	
19	福島県	南会津郡伊南村立 伊南小学校	
20	〃	相馬郡小高町立 小高小学校	
21	〃	田村郡船引町立 春山小学校	
22	〃	東白川郡矢祭町立 東館小学校	
23	茨城県	水戸市立 三の丸小学校	
24	〃	龍ヶ崎市立 長戸小学校	
25	〃	水戸市立 堀原小学校	
26	〃	猿島郡総和町立 総和南中学校	
27	栃木県	宇都宮市立 西原小学校	
28	〃	鹿沼市立 みどりが丘小学校	
29	〃	矢板市立 矢板中学校	
30	群馬県	吾妻郡長野原町立 応桑小学校	
31	〃	渋川市立 北小学校	
32	〃	藤岡市立 小野中学校	
33	埼玉県	加須市立 不動岡小学校	
34	〃	清和町立 本太小学校	
35	〃	南埼玉郡白岡町立 南中学校	
36	〃	県立 小川高等学校	
37	千葉県	袖ヶ浦市立 奈良輪小学校	
38	〃	市川市立 富貴島小学校	
39	〃	浦安市立 南小学校	
40	〃	千葉市立 加曽利中学校	
41	東京都	品川区立 立会小学校	
42	〃	世田谷区立 希望丘中学校	
43	〃	都立 大塚ろう学校	
44	神奈川県	相模原市立 共和小学校	
45	〃	横浜市立 幸ヶ谷小学校	
46	〃	横浜市立 末吉中学校	
47	新潟県	豊栄市立 葛塚小学校	
48	富山県	下新川郡朝日町立 さみさと小学校	
49	〃	射水郡小杉町立 小杉中学校	
50	〃	県立 福野高等学校	
51	石川県	小松市立 荒屋小学校	
52	〃	松任市立 北星中学校	
53	〃	県立 金沢桜丘高等学校	
54	福井県	坂井郡三国町立 三国北小学校	
55	〃	吉田郡永平寺町立 永平寺中学校	
56	〃	県立 武生東高等学校	
57	山梨県	甲府市立 相生小学校	
58	〃	韭崎町立 韭崎北西小学校	
59	〃	甲府市立 上条中学校	
60	〃	県立 上野原高等学校	
61	長野県	岡谷市立 小井川小学校	
62	〃	長野市立 篠ノ井西小学校	
63	〃	木曽郡南木曽町立 南木曽中学校	
64	岐阜県	恵那市立 大井第二小学校	
65	〃	岐阜市立 合渡小学校	
66	〃	安八郡安八町立 牧小学校	
67	〃	大野郡蓮村立 宮中学校	
68	静岡県	袋井市立 今井小学校	
69	〃	富士郡芝川町立 芝富小学校	
70	〃	掛川市立 東山口小学校	
71	〃	県立 庵原高等学校	
72	愛知県	岡崎市立 根石小学校	
73	〃	名古屋市長 前山小学校	
74	〃	東海市立 横須賀小学校	
75	〃	私立 金城学院高等学校	

番号	都道府県名	学校名	備考
76	三重県	亀山市立 白川小学校	
77	滋賀県	東浅井郡びわ町立 びわ南小学校	
78	〃	近江八幡市立 八幡東中学校	
79	〃	県立 湖南農業高等学校	
80	京都府	綾部市立 東八田小学校	
81	〃	京都市立 洛北中学校	
82	大阪府	堺市立 赤坂台小学校	
83	〃	茨木市立 天王小学校	
84	〃	豊中市立 豊南小学校	
85	〃	府立 北千里高等学校	
86	兵庫県	尼崎市立 立花西小学校	
87	〃	美方郡村岡町立 村岡小学校	
88	〃	神戸市立 御影中学校	
89	〃	県立 播磨南高等学校	
90	奈良県	磯城郡田原本町立 田原本小学校	
91	〃	奈良市立 椿井小学校	
92	〃	北葛城郡広陵町立 真美ヶ丘第一小学校	
93	和歌山県	日高郡南部川村立 高城中学校	
94	〃	那賀郡桃山町立 桃山中学校	
95	〃	県立 新宮高等学校	
96	〃	和歌山県立 和歌山ろう学校	
97	鳥取県	西伯郡西伯町立 西伯小学校	
98	〃	東伯郡三朝町立 西小学校	
99	〃	美郷郡気高町立 浜村小学校	
100	島根県	隠岐郡西郷町立 下西小学校	
101	〃	出雲市立 神西小学校	
102	〃	益田市立 高津小学校	
103	岡山県	国立 岡山大学教育学部附属小学校	
104	〃	川上郡川上町立 高山小学校	
105	〃	岡山市立 石井中学校	
106	〃	県立 倉敷古城池高等学校	
107	〃	私立 山陽女子高等学校	
108	広島県	佐伯郡大野町立 大野西小学校	
109	〃	因島市立 田熊小学校	
110	〃	県立 御調高等学校	
111	山口県	厚狭郡山陽町立 殖生小学校	
112	〃	県立 大嶺高等学校	
113	〃	私立 宇部女子高等学校	
114	徳島県	羽ノ瀬町立 羽浦小学校	
115	〃	県立 板野高等学校	
116	香川県	高松市立 木太南小学校	
117	〃	観音寺市立 柞田小学校	
118	〃	県立 三木高等学校	
119	愛媛県	西条市立 西条小学校	
120	〃	西予郡内子町立 保内中学校	
121	〃	県立 松山中央高等学校	
122	高知県	高知市立 追手前小学校	
123	〃	吾川郡伊野町立 伊野中学校	
124	福岡県	福岡市立 金山小学校	
125	〃	宗像郡玄海町立 玄海小学校	
126	〃	浮羽郡田主丸町立 田主丸中学校	
127	佐賀県	佐賀郡諸富町立 諸富中学校	
128	〃	県立 厳木高等学校	
129	〃	県立 鳥栖商業高等学校	
130	長崎県	長崎市立 伊良林小学校	
131	〃	長崎市立 上長崎小学校	
132	〃	県立 上長崎高等学校	
133	熊本県	国立 熊本大学教育学部附属小学校	
134	〃	八代郡農村立 泉第二小学校	
135	〃	天草郡埴戸町立 埴戸中学校	
136	〃	県立 南関高等学校	
137	〃	私立 尚綱高等学校	
138	大分県	日田市立 咸宜小学校	
139	〃	東国東郡佐々木町立 姫島中学校	
140	〃	県立 三重高等学校	
141	宮崎県	西諸県郡野尻町立 栗須小学校	
142	〃	東臼杵郡北川町立 北川中学校	
143	〃	県立 都農高等学校	
144	鹿児島県	鹿児島市立 伊敷小学校	
145	〃	大島郡宇佐町立 田検中学校	
146	〃	県立 指宿高等学校	
147	沖縄県	宮古郡下地町立 下地小学校	
148	〃	那覇市立 泊小学校	
149	〃	中頭郡勝連町立 南原小学校	
150	〃	石垣市立 石垣第二中学校	

# 子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成13年法律第154号)

## (目的)

**第1条** この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

## (基本理念)

**第2条** 子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

## (国の責務)

**第3条** 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

## (地方公共団体の責務)

**第4条** 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

## (事業者の努力)

**第5条** 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

## (保護者の役割)

**第6条** 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

## (関係機関等との連携強化)

**第7条** 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

### **(子ども読書活動推進基本計画)**

**第8条** 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

### **(都道府県子ども読書活動推進計画等)**

**第9条** 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

### **(子ども読書の日)**

**第10条** 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

- 2 子ども読書の日は、4月23日とする。
- 3 国及び地方公共団体は、子どもの読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

### **(財政上の措置等)**

**第11条** 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するために必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

### **附 則**

この法律は、公布の日（平成13年12月12日）から施行する。

# 子どもの読書活動の推進に関する法律に対する附帯決議

平成13年11月28日

衆議院文部科学委員会

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

- 1 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。
- 2 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。
- 3 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。
- 4 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。
- 5 子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。
- 6 国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

# 子ども読書年に関する決議

## 参 議 院

平成 11 年 8 月 9 日  
参議院本会議にて決議

国際連合は 1990 年 9 月、子どものための世界サミットを開き、ここに参加した世界 71 か国の元首、首脳たちが「子どもを政治の最優先に」と誓い合ってから 10 年が経過した。

しかし、広く地球的観点からこれを見れば、貧しさゆえに子どもの人権がないがしろにされ、また、子どもたちが最大の犠牲者となる民族間や宗教上の対立による地域紛争が絶え間なく続いているのも現実の姿と言わねばならない。「子どものための世界サミット」における国連の誓いを結実させるためには、国際間のさらなる努力が必要である。

先進国でもモノの豊かさに心の成長が追い付かず、わが国においても校内暴力、いじめ、衝動的行動、薬物汚染など子どもたちの悲惨な事件が相次いでいる。こうした、子どもたちの乾いた心に、潤いを取り戻すことは、今日差し迫った課題である。

われわれは、二十世紀の反省と教訓の上に立って、新しい世紀を担う地球上のすべての子どもたちに、人権を尊重し、恒久平和の実現と繁栄に努め、伝統的な文化遺産を継承することを託さなければならない。

その第一歩として、わが国は世界にさきがけ、平成 12 年、西暦 2000 年の「子どもの日」の五月五日、質も量も世界で最大規模の蔵書と読書環境を整え、内外情報の収集と発信のできる国際子ども図書館を開館することになっている。

読書は、子どもたちの言葉、感性、情緒、表現力、創造力を啓発するとともに、人としてよりよく生きる力を育み、人生をより味わい深い豊かなものとしていくために欠くことのできないものである。

本院は、この読書の持つ計り知れない価値を認識して、子どもたちの読書活動を国を挙げて応援するため、平成 12 年、西暦 2000 年を「子ども読書年」とすることとする。

右決議する。

## 衆 議 院

平成 11 年 8 月 10 日  
衆議院本会議にて決議

わが国をはじめ世界 71 か国の元首、首脳が国際連合の「子どものための世界サミット」に集い、「子どもを政治の最優先に」と誓い合ってから、やがて 10 年が経過する。しかし、この誓いが、いまだ十分に果たされていないことは、世界の子どもの現状をみれば明らかであり、わが国はもとより、国際間のさらなる努力が求められている。

わが国は、平成 12 年（西暦 2000 年）五月五日の「子どもの日」に、ひろく世界のこども文化に貢献し得る国立の国際子ども図書館を開館する。

本とふれあうことによって、子どもたちは言葉をまなび、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生き抜く力を身につけることができる。

政府は、読書の持つ計り知れない価値を認め、国立の国際子ども図書館が開館する平成 12 年（西暦 2000 年）を「子ども読書年」とし、国を挙げて、子どもたちの読書活動を支援する施策を集中的かつ総合的に講ずるべきである。

右決議する。



# 新学習指導要領における 「読書活動」に関する取扱い

## 新小学校学習指導要領

(平成10年文部省告示第175号) (抄)

### 第1章 総則

#### 第3 総合的な学習の時間

5 総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。

#### 第5 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

- 2 (8) 各教科等の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用する学習活動を充実するとともに、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。
- (9) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

### 第2章 各教科

#### 第1節 国語

#### 第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い

- 1 (3) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の言語活動の指導に当たっては、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。
- (6) 第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること。

## 現行小学校学習指導要領

(平成元年文部省告示第24号) (抄)

### 第1章 総則

#### 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

- 2 (8) 視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図るとともに、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用に努めること。

### 第2章 各教科

#### 第1節 国語

#### 第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い

- 1 (6) 読むことの指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うことを促すようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く偏りがないように配慮して選定すること。

## 第2節 社会

### 第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い

- 1 (4) 学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、資料の収集、活用・整理などを行うようにすること。  
また、第4学年以降においては、教科用図書の地図を活用すること。

## 第4章 特別活動

### 第2 内容

#### A 学級活動

- (2) 日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。

希望や目標をもって生きる態度の形成、基本的な生活習慣の形成、望ましい人間関係の育成、学校図書館の利用、心身ともに健康で安全な生活態度の形成、学校給食と望ましい食習慣形成など

## 第2節 社会

### 第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い

- 2 (2) 第4学年以降においては、児童が教科用図書の地図を活用すること。

## 第4章 特別活動

### 第2 内容

#### A 学級活動

- (2) 日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。

不安や悩みの解消、基本的な生活習慣の形成、望ましい人間関係の育成、意欲的な学習態度の形成、学校図書館の利用や情報の適切な活用、健康で安全な生活態度の形成、学校給食など

## 新中学校学習指導要領

(平成10年文部省告示第176号) (抄)

### 第1章 総則

#### 第4 総合的な学習の時間の取扱い

5 総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。

#### 第6 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

- 2 (9) 各教科等の指導に当たっては、生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするための学習活動の充実に努めるとともに、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。
- (10) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

### 第2章

#### 第1節 国語

#### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 (4)

ア 目的や意図に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てるようにすること。その際、広く言語文化についての関心を深めるようにしたり、日常生活における読書活動が活発に行われるようにしたりすること。

- (5) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の言語活動の指導に当たっては、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。

## 現行中学校学習指導要領

(平成元年文部省告示第25号) (抄)

### 第1章 総則

#### 第6 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

- 2 (9) 視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図るとともに、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用に努めること。

### 第2章

#### 第1節 国語

#### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 (5) 読むことの指導については、読書に対する興味、関心、意欲を高め、読書力を育てて、日常生活における読書活動が活発に行われるようにすること。

第6節 美術

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 4 生徒が随時鑑賞に親しむことができるよう、校内の適切な場所に鑑賞作品などを展示するとともに、学校図書館等における鑑賞用図書、映像資料などの活用を図るものとする。

第4章 特別活動

第2 内容

A 学級活動

- (3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること。  
学ぶことの意義の理解、自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用、選択教科等の適切な選択、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成、主体的な進路の選択と将来設計など

第6節 美術

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 4 校内の適切な場所に鑑賞作品を展示し、随時、鑑賞できるよう配慮する必要がある。

第4章 特別活動

第2 内容

A 学級活動

- (2) 個人及び社会の一員としての在り方、学業生活の充実び健康や安全に関すること。  
イ 自主的な学習の意欲や態度の形成、選択教科等の適切な選択、学校図書館の利用、情報の適切な活用など

新高等学校学習指導要領  
(平成11年文部省告示第58号) (抄)

第1章 総則

第6款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

- 5(8) 各教科・科目等の指導に当たっては、生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするための学習活動の充実に努めるとともに、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。
- (9) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

第2章

第1節

第2款

第3 国語総合

3 内容の取扱い

- (4) 内容のCに関する指導については、次の事項に配慮するものとする。  
ウ 読書力を伸ばし、読書の習慣を養うこと。

第4 現代文

3 内容の取扱い

- (2) 生徒の読書意欲を喚起し、読書力を高めるよう配慮するものとする。

第4章 特別活動

第2 内容

A ホームルーム活動

- (3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること。

学ぶことの意義の理解、主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用、教科・科目の適切な選択、進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の確立、な進路の選択決定と将来設計など

現行高等学校学習指導要領  
(平成元年文部省告示第26号) (抄)

第1章 総則

第6款 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

- 6(9) 視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図るとともに、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用に努めること。

第2章

第1節

第2款

第1 国語

3 内容の取扱い

- (3) 内容のBの指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。  
オ 読書力を伸ばし、読書の習慣を養うこと。

第4 現代文

3 内容の取扱い

- (2) 生徒の読書意欲を喚起し、読書力を高めるよう配慮する。

第4章 特別活動

第2 内容

A ホームルーム活動

- (2) 個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関すること

イ 学業生活の充実

主体的な学習態度の確立、教科・科目の適切な選択、学校図書館の利用、情報の適切な活用など

## 確かな学力の向上のための２００２アピール「学びのすすめ」（抄）

平成１４年１月１７日 文部科学省

### 各学校の取組

#### ３ 学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高める

##### 【ねらい】

これからの変化の激しい社会にあって、生涯にわたって自ら意欲的に学んでいく態度を育成するため、学校教育において、学ぶ楽しさを実感できるようにすることが不可欠です。新しい学習指導要領の下では、総合的な学習の時間において、各教科等の学習との関連付けを工夫しながら、児童生徒に学び方やものの考え方を身に付けさせ、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を育成することが重要です。また、社会人の方々にご協力いただいて実社会での生きた知識や経験に触れる機会を増やしたり、わかりやすい目標を立てて取り組ませるなど、各学校において、学ぶ楽しさを実感できるようにするための工夫が求められます。

- 総合的な学習の時間と教科等との関連付けを工夫しながら、学びへの意欲を高める。
- 実社会での生きた知識や経験に触れる機会を増やすため、積極的に社会人を活用する。
- 例えば、一定の冊数の読書、英検、数検、漢検、TOEFL、運動会や作品展示会における具体的な目標の設定などわかりやすい目標を立てて取り組ませ、達成した児童生徒を誉め、その結果を適切に評価するなど、学習意欲を高めるための取組を工夫する。

#### ４ 学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身に付ける

##### 【ねらい】

学校においては、例えば朝の読書などが、読書本来の効果に加え、児童生徒の集中力を高め、授業への姿勢をつくる上で効果を挙げているとの報告もあります。また、放課後の時間などを活用して、個々の児童生徒の授業で理解できなかったところの復習や主体的に調べる学習などを教員が支援したり、あるいは学習の方法について指導したりするなどの工夫も考えられます。このように、授業時間だけでなく、学校の教育活動全体で、児童生徒一人一人に応じた学びの機会の充実を図り、教員が適切に指導・支援に当たることが求められます。また、こうした活動を含め、学校の教育活動全体を通じて、学校外の人材を積極的に活用するなどの工夫も考えられます。さらに、宿題や課題を適切に与えることなどにより、家庭における学びの充実を図り、学校と家庭が協力して、児童生徒に学ぶ習慣をしっかりと身に付けることも重要です。

- 放課後の時間などを活用して、補充的な学習や児童生徒の主体的な学習を支援する。
- 朝の読書など、始業前学習を推奨・支援する。
- 宿題や課題を適切に与えることなどにより、家庭における学習の充実を図る。

## 学校の取組を支援するための国の施策

### 4 学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身に付ける

○学校いきいきプランなどにより、学校における社会人の活用を推進する。

○子どもたちが読書に親しむ機会を充実し、読書の習慣を身に付けるよう、学校図書館図書資料の計画的な整備を図る。

○博物館、美術館をはじめ地域の様々な施設等における学習活動など、体験的な学習機会の充実を図る。

### 5 確かな学力の向上のための特色ある学校づくりを推進する

○各学校における自己評価を制度化し、学校の自己点検・自己評価の実施を促進する。

○文部科学省が実施する全国的な学力調査の問題を学校に提供し、各学校においてこれを利用した取組ができるようにする。

○学力向上フロンティア事業（注7）などにより、確かな学力の向上のための教材等の研究開発や効果的な指導方法等の実践研究を推進する。

○教育情報ナショナルセンター（注8）において、優れた実践を行っている学校の取組等についての情報を収集し、インターネット等を通じて全国に紹介する。

○ 確かな学力の向上の成果を適切に評価するため、具体的指標を導入し、国民にわかりやすく説明する。（習熟度別指導の実施状況、授業の理解度、数学・理科が好きな児童生徒の割合、学校における読書活動の取組状況など）

#### 注7）学力向上フロンティア事業

全国47地域において、「学力向上フロンティアスクール」を核として、発展的な指導、補充的な指導の一層の充実や小学校における教科担任制の実践的研究など確かな学力の向上のための取組を実施し、その成果を全国の小・中学校に普及する事業。また、個に応じた指導のための教師用指導資料の作成や、教科書会社などとの協力による「自ら学び自ら考える力」の育成のための教材開発を行う。

【平成14年度政府予算額（案） 約5億円】

#### 注8）教育情報ナショナルセンター

学校教育や生涯学習における情報化の推進・情報教育の充実を全国的な視野から支援するためのネットワーク上の拠点として、平成17年度を目標にナショナルセンターとしてのさまざまな機能を整備することとしており、基本となるサイトを平成13年8月に開設した。（<http://www.nicer.go.jp/>）

各種教育情報データベースにリンクして、有用な情報を検索できるようにするとともに、インターネットを通じた学習・指導に資するような教育コンテンツ提供システム等の開発、運用を行うなど、教育情報を総合的に提供する。

【平成14年度政府予算額（案） 約1億6200万円】

## 「新しい時代における教養教育の在り方について」(抄)

(平成14年2月21日中央教育審議会答申)

### 第1節 幼・少年期における教養教育

#### (2) 具体的な方策

##### ①家庭や地域で子どもたちの豊かな知恵を育てる

教養教育の原点は家庭教育である。その重要性は、どんなに社会が変化しようと変わることはない。

また、地域社会において、子どもが他者と触れ合う中で、人間関係や集団のルール、公共心や規範意識、勤勉性や自己規制の力などを身に付けることができるよう、社会全体で子どもを育てる環境づくりを進める必要がある。

平成14年度からの完全学校週5日制を意義あるものにするためにも、家庭や地域の教育力の向上は緊急の課題であり、取組の一層の充実が必要である。

##### ◇家庭での日常生活を基本にした教育の充実

各家庭における子どもの日常生活を大切にすべきである。例えば、絵本や昔話の読み聞かせ、家庭での年中行事や地域の行事への積極的な参加、子どもに毎日決まった手伝いをさせるなど家庭での役割を与える、テレビやゲームに費やす時間を制限するなど、忍耐力を養い、規律ある生活習慣を身に付けさせるための「我が家の決まり」づくりなどを奨励する必要がある。

##### ◇文化施設・社会教育施設の子どもの教養教育の資源としての積極的な活用

美術館や博物館、図書館等が子どもの教育に取り組むことは、子どもの教養の涵養にとっても、これら施設の活性化にとっても意義が大きい。例えば、美術館や博物館における子供向けの館内ツアーや参加・体験プログラムの実施、土・日曜日における学校図書館の開放を積極的に進める必要がある。また、これら施設に対する評価において、子ども向けの取組状況を積極的に評価することも求められる。

##### ②確かな基礎学力を育てる

多様な個性の基盤には、基礎的・基本的な知識・技能が不可欠である。子どもの個性や自主性の重要性を強調する余り、基礎的・基本的な知識・技能を繰り返し教える指導をも「一方的に教え込む」ものとして、好ましくないとする見解も一部にある。しかし、学習に必要な忍耐力を身に付けつつ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、それを基盤として、更なる自主的学習につなげることによって初めて、多様な個性も伸ばすことができるものである。各学校は、すべての児童生徒が、「読み、書き、計算」をはじめとする基本的な事項を確実に習得し、学習する習慣や物事に粘り強く取り組む態度、論理的・科学的にものを考える力や態度を身に付けることができるよう、全力を注いで指導する必要がある。



### ◇基礎学力の徹底のためのきめ細やかな指導の充実

読み・書き・計算などの基本的な事項を徹底するため、各学校では、例えば、反復練習や個別の家庭学習の課題の設定、放課後の個別指導や補習などのきめ細やかな指導を行う必要がある。この際、社会人や大学生等をティーチングアシスタントとして積極的に活用することや、中学校や高等学校の教員が、小学校や中学校での指導に参加することも有意義である。併せて、教職員定数の着実な改善を図る必要がある。

### ◇国語教育や読書指導の重視

国語教育を格段に充実する必要がある。その際、名文や詩歌等の素読や暗唱、朗読など、言葉のリズムや美しさを体で覚えさせるような指導の良さを見直すべきである。また、近年多くの学校に広がっている「朝の10分間読書」は、読書の楽しみを知るだけでなく、集中力の向上などにも大きな成果があると言われ、このような活動が更に広がっていくことが期待される。併せて、司書教諭の配置やボランティアの活用、情報機器の整備などを通じ、図書館の総合的な機能の充実に取り組んでいく必要がある。

## ③学ぶ意欲や態度を育てる

学ぶことの意義や目的を見出し、自ら進んで学び考え、物事に挑戦しようとする意欲や態度を育てることは、幼・少年期の大きな教育課題の一つである。

子どもたちが、自然との触れ合いや体験の中で、物事に興味・関心を持ち、知的好奇心を伸ばしたり、尊敬できる大人と出会う機会を得て、学ぶことや大人になることの意味を実感したりすることができるよう、取組を推進する必要がある。

### ◇子どもたちの知的好奇心を喚起する取組の促進

授業に実験やものづくりの実習等、各種の体験活動を多く取り入れる、学校の卒業生など地域で活躍する人材を講師として活用する、異年齢の子どもたちで学習する機会を設けるなど、子どもたちの知的好奇心を呼び起こし、集中力を高め、学ぶことの意味を実感することができるような指導方法の工夫改善に取り組む必要がある。その際、美術館や博物館、劇場、地域の文化財、図書館等を活用することも有効な方策である。また、各種のメディアを活用しながら、情報を活用する能力を身に付けることも重要である。

## ⑤教員の力量を高める

児童生徒の教育に当たり、教員の与える影響は計り知れない。子どもたちに教養の基礎を培っていくためには、教員一人一人が、教養の持つ意味を自覚し、生涯にわたって教育者として力量を高めるとともに、常に向上心を持って教養を磨くことが必要である。教員の養成・採用・研修を通じて、一貫してこの姿勢を重視する必要がある。

### ◇教員の研究や自己啓発活動の奨励

教員が自ら研究したり、読書等を通じて自己研鑽に励む姿は、子どもたちにあこがれの気持ちを抱かせ、向学心を高めるなど良い影響を及ぼす。教員の研究活動を奨励したり、教員用の図書や映像資料を充実したり、校内で教員と子どもと一緒に読書できるスペースを充実するなどの取組が求められる。

## 第2節 青年期における教養教育

### 1 高等学校における教養教育

#### (2) 具体的な方策

#### ①論理的に粘り強く考える訓練を行う

高等学校の段階は、自らの人生観や世界観を形成し始める時期である。この時期の若者が、歴史や文学、科学、芸術、スポーツ等への関心を持ち、自らこれらに取り組むための素地を養うことができるよう、学校、家庭、社会全体で努めていくことが求められる。また、物事を、自分の頭で納得が行くまで論理的に粘り強く考える訓練をし、それを習慣付けていく必要がある。物事を科学的に調べる能力、科学的なものの見方や考え方を体得することも求められる。そのためには、各学校において、学習内容の確実な定着や、生徒の興味・関心を伸ばすための指導方法・指導体制の工夫を行うとともに、一人一人が、様々な体験を糧としながら深く考えることを促すような様々な学習の機会を意図的に与えていく必要がある。

#### ◇読書の推進

若い時期に、和漢洋の古典を始め、優れた書物に向き合うことの大切さを強調したい。読書は、考える力を育てるのみならず、様々な価値観に対する理解を促し、多元的な視野を与える。例えば、各高等学校において、学校としての「必読書30冊」を選定し、生徒に卒業までに読むことを勧めるなどの方策も有効であろう。

### 2 大学入学者選抜の在り方

高校生が将来を展望しつつ青年期にふさわしい教養を主体的に身に付けていく力を育む上で、大学入試の在り方はきわめて重要である。近年、大学側から、学生の学ぶ意欲や判断力、論理的思考能力等が不十分であるとの批判がなされることも多いが、この問題については、初等中等教育段階までの教育だけでなく、大学入試の在り方が与える影響も大きい。大学入試の在り方を見直し、高等学校までの段階における生徒一人一人の教養の涵養を促進し、大学入学後の学生の学ぶ姿勢や意欲を引き出すものへと改善することが求められる。

このためには、それぞれの大学が、明確な教育理念に基づく入学者の受入方針を確立し、各大学が重要と考える資質に照らして生徒の能力や適性等を適切に評価することが必要である。

18歳人口の減少の中で入学者の確保を主眼とした安易な入学者選抜や、受験者を効率的にふるい落とすことを目的にいたずらに断片的な知識の多寡を問うような入学者選抜も依然として存在している。各大学においては、個々の生徒が初等中等教育の段階までに様々な経験・体験を通して培ってきた資質や能力、将来についての考え方や大学で学ぶ目的意識などを適切に評価する選抜方法を真剣に検討する必要がある。高等学校での教養教育の取組と関連付けた選抜方法の工夫として、例えば、論文試験においてあらかじめ課題となる書物を指定し、それらの読書を前提に出題することや、面接試験において高等学校時代の生徒の課題研究や活動等を発表させ、これに基づいて討論させるなど多様な取組が考えられてよいのではないか。

また、同じクラスのほとんどが同世代のみで構成されがちな我が国の大学に、社会人を積極的に受け入れることは、大学の多様化の面からも有意義である。各大学には、社会人特別選抜の積極的導入等、入学者選抜において社会人の能力や意欲を適切に評価する工夫が求められる。

さらに、各大学における自己点検・評価や様々な評価機関による評価等を通じて、こうした入試改善の取組を促していくことが重要である。

「新しい時代を拓く心を育てるために一次世代を育てる心を失う危機―」（抄）  
（平成10年6月30日中央教育審議会答申）

子どもたちに読書を促す工夫をしよう

読書は、豊かな感性や情操、そして思いやりの心をはぐくむ上で大切な営みである。しかし、今日、小・中・高校生の読書の状況を見ると、読書量が減少し、まったく本を読まない子ども（不読者）も増加しつつあることなどがうかがえる。そうした「本離れ」の背景には、子どもをめぐる情報環境の変化や生活からのゆとりの喪失などが指摘されている。今後、家庭において幼児期から読書を楽しむ体験を子どもに与えるとともに、学校においても読書を促す工夫をしていくことが必要である。

- （ア）学校においては、まず第一に、子どもが感動する本を用意することが大切である。感動こそが読書習慣の形成を図るかなめとなる体験である。そのために、例えば、司書教諭をはじめ学校の教員自身が子どもたちによい本の情報を入手するようにすること、子どもの読書ニーズの把握に努めること、学校と公共図書館等の連携を図ることなどが望まれる。
- （イ）また、読書の楽しさとの出会いをつくることが重要である。例えば毎朝「10分間読書の時間」を設けて、自由に本を読ませる試みも見られる。学校独自の読書週間を設けたり、読書会を行ったりすることや、司書教諭や学級担任など教員が自分の読んだ本を紹介したり、その一部を読み聞かせたりすることなども工夫の一つである。各教科等において本などで「調べる学習」を重視していくことも読書との出会いのきっかけになるであろう。
- （ウ）さらに、教員には、読書を楽しむ子どもの心に共感する態度も求められる。読書を通じて子どもが感じたこと、考えたことについて教員が耳を傾け、話し合うことは、読書の意欲を喚起する上で有意義である。そして、読書体験を一層深める観点から、読書で得た感動を子どもたちが表現する様々な方法を工夫していくことも望まれる。例えば、広く行われる読書感想文などの方法だけにこだわらず、読んだ本を基にした物語の創作、劇遊びなど多様な手法が試みられてよいであろう。
- （エ）本との出会いづくりを豊かにするために、学校図書館にゆったりとしたスペースを設けたり、談話室を隣に設けたり、学校図書館を「心のオアシス」として活性化し、日々の生活の中で子どもたちがくつろぎ、進んで読書を楽しむために訪れるような環境づくりをしてほしい。そのため、常時開館して子どもたちを迎え入れる体制を整えること、図書購入予算を確保して、魅力ある図書資料を充実することに努めてほしい。また、図書の選択に当たって保護者や子どもの意見を反映することもよいと考える。
- （オ）子どもの読書を促す際には、学校での取組と家庭での働きかけとの連携が望まれる。家庭においては、特に、親子の会話を増やし、深める契機として読書をとらえていくことをお願いしたい。また、保護者が学校支援ボランティアとして学校図書館の活動に参画していくことも好ましいことと考える。

「学習の成果を幅広く生かす－生涯学習の成果を生かすための方策について－」（抄）

（平成１１年６月９日生涯学習審議会答申）

（２）活動の場づくり

A 学校での活動参加

1) 学校支援ボランティアの推進

地域社会の重要な核である学校を、地域に支えられ、また地域に貢献するという「地域に根ざした学校」にするためには、学校をより開かれた存在にするとともに、地域住民による多様な学校支援ボランティア活動の充実が重要である。

また、ボランティアによる学校支援は、学校の持つ閉鎖性を排除し、地域住民の学校への理解・共感を深めるためにも必要なこととなっている。さらに、平成１４年度から施行される新学習指導要領の趣旨を生かして、学校においては、特色ある活動を推進し学校を活性化していくうえで、地域の人々にボランティアなどとして学校の場に参加していただく取組が重要となってくる。

なお、こうした地域社会からの支援の受入れにあたり、学校の教員の意識改革はもとより、学校施設等のあり方の見直しも必要となる。学校開放事業の実質的な促進のための施設整備、余裕教室の活用によるＰＴＡや地域の人々のためのスペースの整備、さらには、社会教育施設や社会福祉施設等との複合化なども前向きに検討されるべきである。

学校支援ボランティアの例としては、次のようなものがあげられる。

（学校図書館運営）

学校図書館の管理・運営については、特に、ボランティアによる支援が求められており、地域住民や保護者により、児童生徒の読書活動の支援と併せて地域への貸出事業等も行われるようになってきている。

●栃木県鹿沼市「鹿沼図書館ボランティア」

市教育委員会、市立図書館の支援を受けて、司書資格を持つ市民あるいは研修により必要な知識・能力を身につけた市民のボランティアが、学校図書館や公立図書館の要請に応じ、それらの図書館に派遣され、図書館の運営を支援している。

●愛知県西尾市立東部中学校ＰＴＡ「図書館ボランティア」

本好きのＰＴＡの母親が、月曜から土曜の午後一定時間（夏休み中も３０日間）、数名のグループで、学校の生徒や地域の人々への図書の貸出し、新着本や寄贈本の登録、図書の修理や整理、図書館環境の整備（ペンキ塗り、楽しむコーナー作りなど）、アンケートの実施、本の寄贈の呼びかけ、図書館ボランティア便りの発行、司書業務についての研修、学級活動の時間でのティーム・ティーチングによるブック・トークの実施などの活動を行っている。

## 平成14年度学校図書館関係予算案の概要

### ○平成14年度予算案

#### 1. 司書教諭養成講習会

78 大学・教育機関 74 百万円

#### 2. 学校図書館活用推進事業

(1) 学校図書館活用フォーラムの開催 5 百万円

(2) 学校図書館の活用に関する調査研究  
・ 調査研究協力者会議、指導資料の作成（新規）  
8 百万円

3. 生きる力をはぐくむ読書活動推進事業 42 百万円

#### 4. 学校図書館資源共有型モデル地域事業

47 地域 773 百万円

合 計 902 百万円

### ○地方交付税措置

平成14年度からの5年間で学校図書館図書資料の計画的な整備を図るため、毎年130億円総額650億円の地方交付税措置が講じられることとなっている。

(参考) 平成13年度措置額（標準規模当たり）

小 学 校 : 331 千円（18 学級）

中 学 校 : 548 千円（15 学級）

総 額 : 約108 億円

**平成13年度生きる力をはぐくむ読書活動推進事業  
(読書活動推進地域事業) 実施要項**

**1 目 的**

「子ども読書年」及び移行措置による新学習指導要領の実施を契機として、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ読書活動の一層の推進に資するため、学校図書館を含めた学校における学習活動、公共図書館の活用、家庭での働きかけなどを相互に連携させながら、学校・家庭・地域社会が一体となった読書活動を推進するための総合的な取組を都道府県教育委員会との連携・協力の下で推進する。

**2 読書活動推進地域事業の委嘱等**

- (1) 国立教育政策研究所は、全国から10地域程度を読書活動推進地域（以下「推進地域」という。）とし、推進地域の所在する都道府県教育委員会に本事業を委嘱する。
- (2) 推進地域の範囲は、複数の小学校区程度とする。
- (3) 推進地域の所在する市町村教育委員会（以下「推進地域市町村教育委員会」という。）は、原則として、推進地域内の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校の中からあわせて3校程度以内の推進協力校及び協力機関（公共図書館、公民館（図書室）等）を指定する。

**3 指定期間**

原則として1か年とする。

**4 事業の内容**

推進地域市町村教育委員会は、推進地域において、「生きる力」をはぐくむ読書活動を推進する観点から、学校、家庭、地域社会が相互に連携し、児童生徒の読書を進めるための効果的な取組方法について実践的な研究を行うものとする。

事業の実施に当たっては、

- ① 読書に関する現状調査を行うとともに、読書活動を推進したことによる読書量の増加その他の具体的な効果の把握を行うものとする。
- ② 事業の内容には、他の図書館（公共図書館、他校の学校図書館）、児童生徒の保護者、地域の関係機関等、「学校、家庭、地域社会」の三者の連携を含むものとする。

**5 事業の実施**

**(1) 読書活動推進会議**

推進地域市町村教育委員会は、学校教育関係者、社会教育関係者、児童生徒の保護者、企業関係者、学識経験者等から委員を委嘱して、読書活動推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

推進会議は、推進地域における読書活動推進の各種取組が一体のものとして効果的に推進されるよう、読書に関する現状について調査を行い、全体計画の策定等について協議し、読書活動の推進成果について評価する。また、推進協力校等に対する助言、指導及び調査等を行うものとする。

**(2) 推進協力校等**

推進協力校及び協力機関は、推進会議の定めるところにより、相互の連携を図りながら実践的研究を行う。

## 6 事業の運営

- (1) 推進地域市町村教育委員会は、都道府県教育委員会との緊密な連携のもと事業を実施するものとする。
- (2) 推進地域市町村教育委員会は、年度終了後1カ月以内に事業実施報告を、その所在する都道府県教育委員会に提出するものとする。
- (3) 都道府県教育委員会は、推進地域市町村教育委員会から提出された事業実施報告をもとに実績報告書を作成し、国立教育政策研究所に提出するものとする。
- (4) 都道府県教育委員会が作成した実績報告書については、国立教育政策研究所においてその収録を編集し、公表することができるものとする。

## 7 委嘱の手続

- (1) 委嘱を受けようとする都道府県教育委員会は、別紙様式1により事業計画書を国立教育政策研究所に提出するものとする。  
なお、委嘱の希望に当たっては、読書活動推進地域事業を実施するために必要な施設・設備の利用ができ、かつ推進協力校その他関係機関・団体の協力が得られるよう配慮すること。
- (2) 国立教育政策研究所は、上記(1)により提出のあった事業計画書が適切であると認められた場合、当該都道府県教育委員会に本事業を委嘱する。

## 8 経 費

国立教育政策研究所は、予算の範囲内で、研究に必要な所要額を都道府県教育委員会からの請求に基づいて支払うものとする。なお、都道府県教育委員会は、平成13年度終了後速やかに別紙様式2による収支精算書を国立教育政策研究所に提出するものとする。

## 9 その他

国立教育政策研究所は、必要に応じ、この事業の進捗状況及び経費の処理状況について、実態調査を行う。

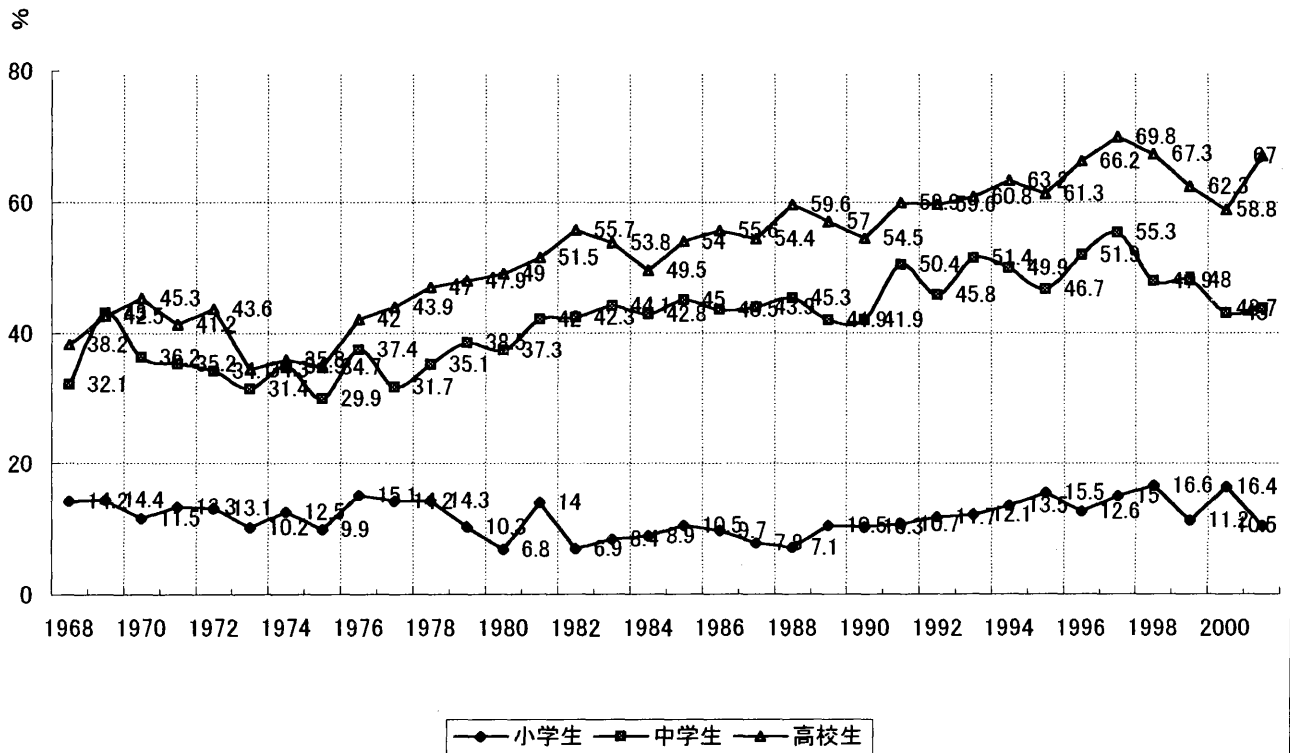
—— 別紙様式については添付省略 ——

## 平成12・13年度 読書活動推進地域一覧

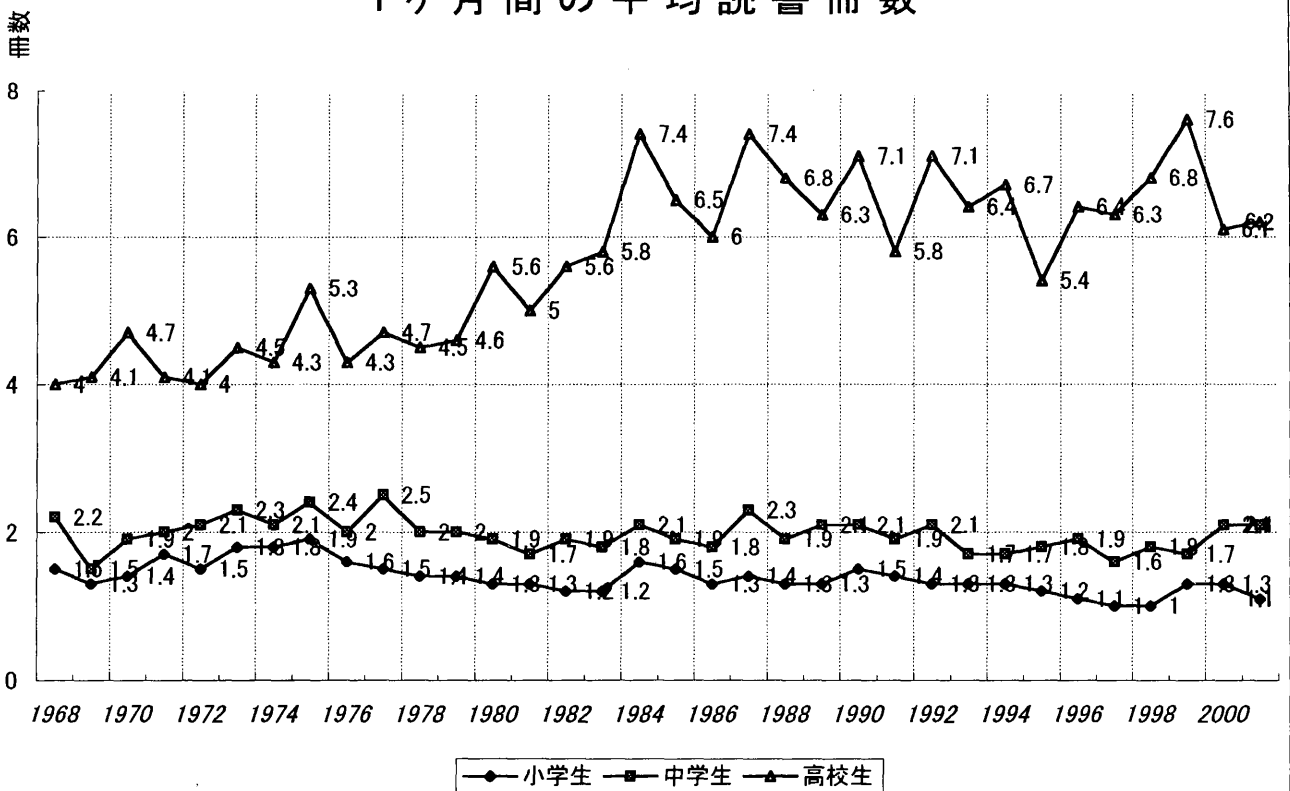
番号	県名	市町村名	地域の範囲	推進協力校
1	福島県	相馬郡小高町	小高町内全域	小高小学校
				福浦小学校
				金房小学校
				鳩原小学校
2	埼玉県	北足立郡伊奈町	小針小学校区を中心とした伊奈町全域	小針小学校
				小室小学校
				南小学校
				小針中学校
3	山梨県	大月市	大月市立図書館付近の推進協力校区	大月東小学校
				初狩小学校
				大月東中学校
4	岐阜県	関市	推進協力校区	富岡小学校
				富野中学校
5	鳥取県	東伯郡東伯町	推進協力校区及び東伯図書館区域	東伯中学校
				東伯小学校
				古布庄小学校
6	島根県	出雲市	塩冶地区及び古志地区	第二中学校
				塩冶小学校
				神戸川小学校
7	広島県	甲奴郡上下町	推進協力校区	上下小学校
				矢野小学校
				吉野小学校
8	福岡県	田川市	伊田中学校区	伊田小学校
				伊田中学校
9	佐賀県	伊万里市	伊万里中学校区	伊万里中学校
				大坪小学校
				立花小学校
10	熊本県	熊本市	飽田中学校区	飽田中学校
				飽田東小学校
				飽田西小学校
				飽田南小学校
11	鹿児島県	姶良郡姶良町	推進協力校区	三船小学校
				重富小学校
				北山小学校
				山田中学校



不読者（0冊回答者）の推移



1ヶ月間の平均読書冊数



出典:読書調査(全国学校図書館協議会)  
調査元:(全国図書館協議会・毎日新聞社)

## 平成13年度学校図書館資源共有型モデル地域事業実施要項

### 1 趣 旨

学校図書館を活用した教育の推進及び必要な図書の学校を越えた共用の促進等を図るため、モデル地域を指定し、蔵書情報のデータベース化及び学校図書館等をネットワーク化した蔵書等の共同利用化を進め、今後の学校図書館運営及び蔵書等を利用した教育実践の在り方等に関する調査研究を各都道府県教育委員会と連携・協力の下、実施する。

### 2 学校図書館資源共有型モデル地域の指定等

- (1) 文部科学省は、学校図書館資源共有型モデル地域（以下「モデル地域」という。）として47地域を指定する。
- (2) モデル地域の範囲は、市町村の全域若しくはその一部、又は2以上の市町村の全域若しくはその一部とする。

### 3 指定期間

原則として3か年間とする。

### 4 事業の内容

- (1) モデル地域の指定を受けた市町村教育委員会（以下「モデル地域市町村委員会」という。）は、実践協力研究校（原則として、モデル地域内の国・公・私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校の中からあわせて36校程度を標準規模とする。）及びネットワークのセンター図書館となる協力機関（公共図書館、公民館（図書室）等）を指定する。
- (2) モデル地域市町村教育委員会は、学校教育関係者、公共図書館その他の協力機関の関係者、学識経験者等から委員を委嘱して、学校図書館資源共有推進委員会（以下「推進委員会」という。）を設置する。
  - ① 委嘱した委員の中から1名を会長とする。
  - ② 推進委員会は、モデル地域における図書等の共同利用などの各種取組が一体のものとして効果的に推進されるよう、全体計画の策定等について協議し、図書等の共同利用の推進成果について評価する。また、実践協力研究校等に対する助言、指導及び調査等を行うものとする。
  - ③ 推進委員会は、モデル地域の事業を推進するための連絡調整及び必要な検討を行う。
  - ④ 実践協力研究校及び協力機関は、推進委員会の定めるところにより、相互の連携を図りながら実践的研究を行う。

- (3) モデル地域では、次の事項についての研究実践を行うことによって、図書等の共同利用の仕組みを整え、運用する。
- ① 実践協力研究校の蔵書情報を全校統一した形でデータベース化する。
  - ② 実践協力研究校と協力機関等とのネットワーク化による図書資料の検索及び貸借・流通システムの構築
  - ③ 学校における教育実践の共有化を促進するため、有効な教育実践の普及及びそのための仕組みを整える。
  - ④ 児童生徒の読書活動、学校図書館における活動、情報化、ボランティアや公共図書館等との連携などにおける優れた実践の普及及びそのための仕組みを整える。
  - ⑤ モデル地域内の学校、公共図書館等の関係職員の研修等の仕組みを整える。
  - ⑥ 以上の仕組みを運用する調整機能（教委、公共図書館、教育センター等）を整備する。

## 5 事業の運営

- (1) 都道府県教育委員会は、モデル地域市町村教育委員会に対して指導、助言又は援助を行うことができるものとする。
- (2) モデル地域市町村教育委員会は、最終年度を除く各年度終了後1カ月以内に当該年度の事業概要を作成し、また、最終年度については、年度終了後1カ月以内に実績報告書を作成し、その所在する都道府県教育委員会を経由して文部科学省初等中等教育局児童生徒課長に提出するものとする。
- (3) モデル地域市町村教育委員会は、研究発表会などにより研究成果を公表する場合は、事前に、その所在する都道府県教育委員会を経由して、文部科学省初等中等教育局児童生徒課長に提出するものとする。
- (4) モデル地域市町村教育委員会が作成した実績報告書については、文部科学省初等中等教育局児童生徒課においてその集録を編集し、公表することができるものとする。

## 6 指定の手続き

- (1) 指定を希望する地域の所在する市町村教育委員会は、別紙様式により事業計画書を作成し、その所在する都道府県教育委員会に提出するものとする。また、センター図書館となる協力機関（公共図書館等）からの別添資料と併せて、都道府県教育委員会に提出するものとする。その際、参考となる資料を適宜添付するものとする。なお、指定の希望に当たっては、学校図書館資源共有型モデル地域事業を実施するために必要な施設・設備の利用ができ、かつ実践協力研究校その他関係機関・団体の協力が得られるよう配慮すること。

(2) 都道府県教育委員会は、上記(1)により提出された事業計画書を添え、推薦順位を付して文部科学省初等中等教育局児童生徒課長に推薦するものとする。

(3) 文部科学省は、事業内容を審査の上、学校図書館資源共有型モデル地域を指定し、都道府県教育委員会を経由して、当該市町村教育委員会に通知するものとする。

## 7 経 費

(1) 文部科学省は、事業の実施に必要な経費を予算の範囲内で支出する。

(2) 上記については、都道府県が行う国の会計事務として支出する経費である。

## 8 その他

文部科学省は、必要に応じ、この事業の進捗状況及び経費の処理状況について、実態調査を行う。

————— 別紙様式については添付省略 —————

## 学校図書館資源共有型モデル地域事業

## これから求められる学校図書館

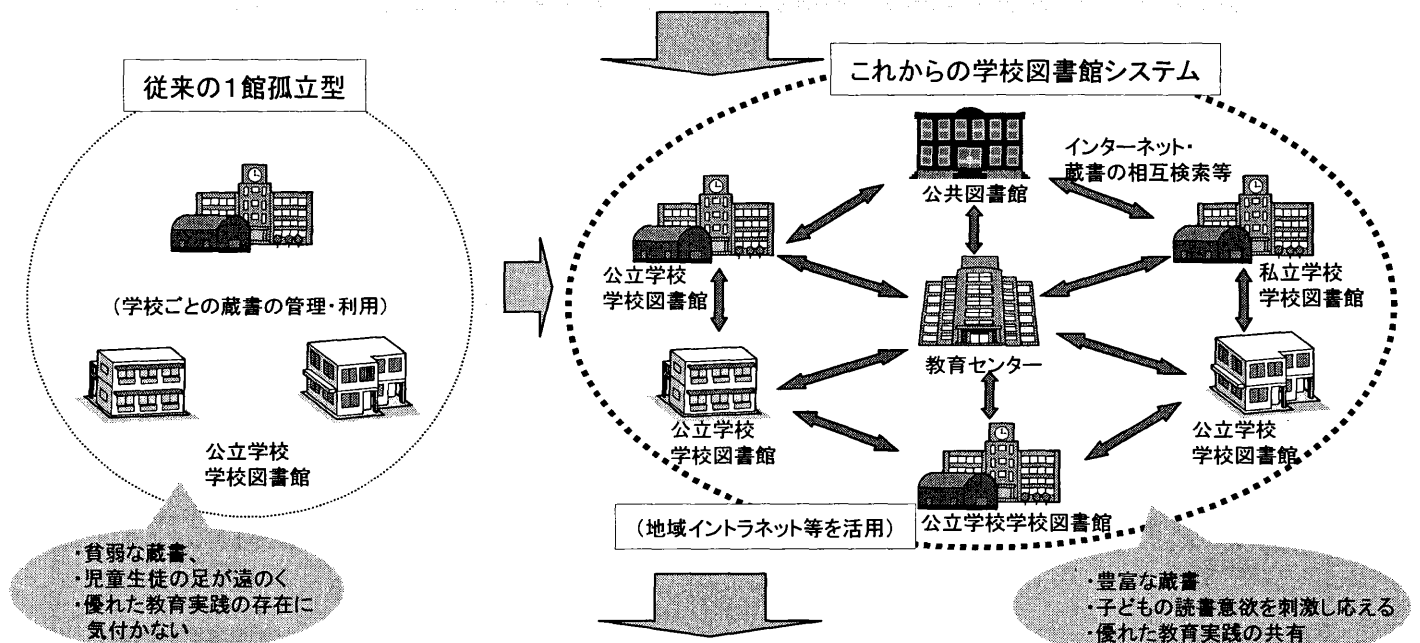
自ら学び自ら考える力などの「生きる力」や豊かな感性や情操、そして思いやりの心を児童生徒にはぐむ上で、学校図書館に整えられた図書をはじめとする資料を積極的に活用

# 新學習指導要領

全ての教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間に共通する配慮事項  
「児童(生徒)の主体的、意欲的な学習活動、読書活動を充実すること」

## 図書の活用や読書奨励に積極的に取り組むための基盤

- ・ 学校図書館の一層の情報化・高機能化
- ・ 子どもの知的活動を増進し、多様な興味や関心に応える新しく魅力的な蔵書の整備充実



## 期待される調査研究の成果

## 今後の学校図書館運営の在り方

## 1館孤立型 から新しい 学校図書館 システムへ の移行

蔵書の共同  
利用のため  
のネットワ  
ーク(地域内  
統一システ  
ムによる効  
果的利用、  
校内LANの  
利用、外部  
からのオン  
ライン等)

地域全体の蔵書の  
地域内の全ての学  
校での活用方策

子どもの  
知的活動  
を増進し、  
多様な興  
味関心に  
応える新し  
く魅力的な  
蔵書の整  
備充実

## 今後の教育実践の在り方

蔵書の共同  
利用に関し、  
単元ごとに  
利用する図  
書の事例集、  
研修会等を  
組み込んだ  
教育実践

校種・市町村・  
設置者の枠を超  
えた広域的な蔵  
書の利活用によ  
る子どもの読書  
量の変化、調べる  
学習の取組状況  
、よく利用され  
る本の把握を通  
じた地域全体と  
しての図書館の  
計画的整備

蔵書の量に  
制約されな  
い教育実践

## 学校図書館が読書センター・学習情報センターとして発展

平成13年度学校図書館資源共有型モデル地域事業一覧

都道府県	番号	モデル地域名	実践協力校数					協力機関等	調整機能機関
			小	中	高	特	合計		
1 北海道	1	室蘭市 壮瞥町	23	12	1		36	市立室蘭図書館・壮瞥町公民館図書室・室蘭市情報教育センター	室蘭市教育委員会 壮瞥町教育委員会
		2 岩見沢市	12	7	1		20	市立岩見沢図書館	岩見沢市教育委員会
		3 札幌市	26	11	8		45	札幌市生涯学習センター・札幌市図書館情報センター	札幌市教育委員会
2 青森	4	八戸市	43	22			65	八戸市立図書館・八戸市総合教育センター	学校図書館資源共有型推進協議会
3 岩手	5	東磐井地域 6町村	32	10	3		45	大東町立図書館・藤沢町図書館・千厩町立図書館・東山町立図書館・室根村立図書館・川崎村立図書館	岩手県教育委員会
6 山形	6	温海町	5	1	1		7	温海町ふれあいセンター	温海町教育委員会
8 茨城	7	古河市 総和町	17	6			23	古河市立図書館・古河市西公民館・古河市中田公民館・総和町立中央公民館・総和町ユーセンター・総和町利根みどり館	古川市教育委員会 総和町教育委員会
		9 栃木 黒磯市	15	6			21	黒磯市図書館・黒磯公民館・厚崎公民館・ひがし公民館・鍋掛公民館・東須野公民館・稲村公民館・高林公民館	黒磯市教育委員会
10 群馬	9	藤岡市	11	5	1		17	藤岡市立図書館・藤岡市教育研究所・中央・藤岡・神流・小野・美土里・美九里・平井・日野公民館	群馬県教育委員会 藤岡市教育委員会
11 埼玉	10	さいたま市	34	11			45	さいたま市北浦和図書館・浦和と教育研究所	さいたま市教育委員会
12 千葉	11	船橋市	55	27	1	1	84	船橋市北図書館・船橋市中央図書館・船橋市東図書館・船橋市西図書館・総合教育センター	学校図書館資源共有型モデル地域事業推進委員会
	12	市川市	40	17	3	1	61	市川市中央図書館・市川市行徳図書館他2館1室・市川市自然博物館・市川市歴史博物館・市川市考古博物館・生涯学習センター・幼稚園8園	学校図書館資源共有推進委員会
	13	光町	4	1			5	光町立図書館	学校図書館資源共有推進委員会
13 東京	14	調布市	20	8			28	調布市立図書館（中央1、分館10）	調布市教育委員会
17 石川	15	松任市	9	4			13	松任市立中央図書館	松任市教育委員会
18 福井	16	鯖江市	12	3			15	鯖江市文化の館	鯖江市教育委員会
	17	永平寺町	3	1			4	四季の森文化館（町立図書館と資料館の複合施設）	永平寺町教育委員会

都道府県	番号	モデル地域名	実践協力校数					協力機関等	調整機能機関
			小	中	高	特	合計		
20 長野	18	茅野市	9	4			13	茅野市図書館・八ヶ岳総合博物館・尖石縄文考古館	茅野市教育委員会
	19	更埴市	5	3			8	更埴市立図書館	更埴市教育委員会
	20	諏訪市	7	4			11	諏訪市図書館・諏訪市立信州風樹文庫	諏訪市教育委員会
21 岐阜	21	美濃加茂市	9	3			12	美濃加茂市立中央図書館・美濃加茂市立東図書館・「みのかも文化の森」	図書館モデル運営協議会
	22	恵那市	10	3			13	恵那市立図書館	恵那市立図書館
22 静岡	23	吉田町	3	1			4	吉田町立図書館	吉田町教育委員会
	24	細江町	4	1			5	細江町立図書館	細江町教育委員会
	25	浅羽町	3	1			4	浅羽町立図書館	浅羽町教育委員会
	26	豊岡村	3	1			4	豊岡村図書館	豊岡村教育委員会
23 愛知	27	豊田市	1	1			2	豊田市中央図書館	豊田市教育委員会
24 三重	28	四日市市	39	21	1		61	市立図書館・教育センター・あさけプラザ・環境学習センター	四日市市教育委員会
	29	甲西町	7	3			10	甲西町立図書館	甲西町教育委員会
26 京都	30	園部町	5	1	1		7	園部中央図書館	園部町教育委員会
28 兵庫	31	西宮市	42	20	2	1	65	中央図書館・西宮市立総合教育センター	西宮市教育委員会
	32	揖保川町	3	1			4	揖保川町立図書館	揖保川町教育委員会
29 奈良	33	香芝市	10	4	1		15	香芝市民図書館	香芝市民図書館
31 鳥取	34	米子市	23	10	1	1	35	米子市立図書館・児童文化センター	米子市教育委員会
32 島根	35	斐川町						斐川町立中央公民館・仁多町立中央公民館	学校図書館資源共有型モデル事業実行委員会
		仁多町	11	3			14		
34 広島	36	東広島市	21				21	中学校、市立図書館等の関係機関との連携は、今後検討	東広島市教育委員会
35 山口	37	小野田市	8	4			12	小野田市立図書館	小野田市教育委員会
36 徳島	38	鳴門市	18	6	1		25	鳴門市立図書館・鳴門教育大学図書館	鳴門市教育委員会
40 福岡	39	小郡市	8	5	2	1	16	小郡市立図書館・小郡幼稚園・三国幼稚園・高尾看護専門学校・平岡介護福祉専門学校	小郡市教育委員会
	40	北九州市	21	11	1		33	北九州市立八幡図書館・北九州市立戸畑図書館・北九州市立戸畑図書館分館	北九州市教育委員会
	41	山田市	3	1	1		5	山田市立図書館	山田市教育委員会
	42	佐賀市	19	9			28	佐賀市立図書館	佐賀市教育委員会
43 熊本	43	熊本市	80	37	2		119	熊本市立図書館・公民館図書室・教育センター	熊本市学校図書館資源共有推進委員会
44 大分	44	挾間町	6	1			7	町立図書館	挾間町教育委員会
46 鹿児島	45	川内市	19	7	1		27	川内市立図書館	川内市教育委員会
47 沖縄	46	那覇市	22	17			39	中央図書館・久茂地図書館・首里図書館・小禄南図書館・若狭図書館・岩嶺図書館・教育研究所	学校図書館資源共有型推進委員会

## 平成13年度学校図書館活用フォーラム実施要項

### 1 目的

学校教育活動における学校図書館の活用や児童生徒の読書活動を推進するための方策等に関して研究協議するとともに、先進的な取組等についての情報交換等を行い、充実した学校教育の展開に資する。

### 2 主催

国立教育政策研究所及び開催地教育委員会

### 3 開催方法

全国を下記の3ブロックに分けて、ブロックごとに開催するものとする。

区分	期 日	開 催 地	地 区 区 分
東部 地区	11月27日(火) ～ 28日(水)	新 潟 県	北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県, 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 山梨県, 長野県, 札幌市, 仙台市, 千葉市, 川崎市, 横浜市, (17都道県5市)
中部 地区	11月5日(月) ～ 6日(火)	京 都 府	富山県, 石川県, 福井県, 岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県, 名古屋市, 京都市, 大阪市, 神戸市 (13府県4市)
西部 地区	10月11日(木) ～ 12日(金)	熊 本 県	鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県, 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県, 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県, 広島市, 北九州市, 福岡市 (17県3市)

### 4 開催時期

原則として、10月から12月までの間に、2日間の日程で開催するものとする。

### 5 参加者

- ① 国公立学校校長、教頭又は教諭（司書教諭である教諭又は司書教諭資格を有する教諭が望ましい。）
- ② 教育委員会の指導主事又は学校図書館若しくは児童生徒の読書活動に係る職員
- ③ 学校図書館の活動や児童生徒の読書活動の推進に参加している者

### 6 参加者数

1都道府県又は政令指定都市当たり60名～70名程度とする。



## 7 内容

フォーラムの内容は、概ね以下のとおりとし、国立教育政策研究所と開催地教育委員会とが協議して決定することとする。

- ① 学校図書館の活用や活性化（司書教諭の発令，コンピュータ化，ボランティアの活用等），読書活動の促進（朝の読書，読み聞かせ，地域との連携協力等）等に関する事例（効果に関する評価を含む）発表，研究協議
- ② 上記①に掲げる内容について積極的に取り組んでいる学校図書館や公共図書館等の見学
- ③ 講師による講演や実演等
- ④ その他

## 8 その他

- (1) 各都道府県教育委員会は、附属学校を置く国立大学，指定都市教育委員会及び都道府県知事と協議の上，参加者を決定し，開催地教育委員会へ報告する。
- (2) 参加者の旅費等は，参加者の所属する地方公共団体等の負担とする。

（参考） 平成14年度学校図書館活用フォーラム開催地

地 区	東部地区	中部地区	西部地区
開 催 地	福 島 県	静 岡 県	鳥 取 県

# 学校図書館の現状に関する調査結果

(文部科学省調査)

## 1 司書教諭講習修了教員数 (平成12年5月1日現在)

司書教諭の講習を修了した者は、国公立学校全体で38,534(国立154, 公立35,612, 私立2,768)人である。

(2以下は公立学校の現状である)

## 2 学校図書館の図書等の整備状況

### (1) 蔵書冊数 (平成12年3月31日現在)

学校図書館の蔵書冊数は、約3億1,843万冊であり、前年度に比べて約615万冊(2.0%)増加している。1校当たりの蔵書冊数は約7,874冊である。

### (2) 年間購入冊数 (平成11年度)

平成11年度の年間購入図書の冊数は、約1,245万冊であり、前年度に比べて約18万冊減少(Δ1.4%)している。1校当たりの年間購入冊数は約308冊である。

## 3 学校図書館図書標準に対する整備状況

\* 学校図書館図書標準・・・平成5年に公立の義務教育諸学校において学校図書館の図書の整備を図る際の目標として設定

### (1) 「学校図書館図書標準に基づく標準冊数」の総計 (平成12年5月1日現在)

小学校及び中学校の「学校図書館図書標準に基づく標準冊数」の総計は約2億7,171万冊である。

### (2) 標準冊数に対する各学校の整備の状況(整備率) (平成12年3月31日現在)

小・中学校の標準冊数に対する蔵書冊数の割合(整備率)を見ると、小学校で31.0%、中学校で22.5%の学校が標準冊数を上回っている。

## 4 学校図書館の情報化の状況について (平成12年5月1日現在)

学校図書館にパソコンを整備している学校数は8,010校(20.4%)であり、1校当たりの

整備台数の平均は2.5台である。

また、蔵書のデータベース化を行っている学校は、4,137校（10.5%）であり、そのうち32.7%の1,354校で、蔵書が100%データベース化されている。

## 5 公共図書館等との連携（平成11年度間）

公共図書館等との連携は、小学校では39.0%、中学校では23.4%、高等学校では24.4%の学校で実施している。

連携の内容は、「図書館資料を貸したり借りたりしている」が最も多い。

## 6 読書活動の状況（平成11年度間）

### (1) 全校一斉の読書活動の実施状況

全校一斉の読書活動は、小学校では55.6%、中学校では39.0%、高等学校では17.5%の学校で実施している。

全校一斉の読書活動を、「週に1回程度以上の頻度で行っている」学校は、小学校で36.5%、中学校で20.8%、高等学校で6.1%であり、いずれも前年度より増加している。

### (2) 全校一斉の読書活動の時期（複数回答可）

読書活動の時期は、「朝の始業前」が最も多く、次いで「授業時間中」、「昼休み中」の順となっている。

## 7 保護者や地域の住民との連携の状況（平成11年度間）

### (1) 地域住民への学校図書館の開放状況

学校図書館を開放する学校は小学校で10.7%、中学校で6.3%、高等学校で6.3%であり、いずれも前年度より減少している。開放の形態は、「閲覧も貸し出しも可」が最も多い。

### (2) 保護者や地域住民による学校図書館でのボランティア活動の状況

保護者や地域住民による学校図書館でのボランティア活動が行われている学校は16.3%である。

学校種別では、小学校が最も多く、比率も高い。

（注）この調査結果の「高等学校」には、「中等教育学校」を含む。

## [公立学校の現状]

### 1 司書教諭の養成・確保

#### (1) 司書教諭講習修了教員数

平成12年5月現在、司書教諭の資格を有している教員は、全体で35,612人(4.7%)であった。

(単位：人)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
12.5.1 現在修了者	21,599	8,449	4,230	1,334	35,612
11.5.1 現在修了者	17,629	6,793	3,448	1,096	28,966
増 減	3,970	1,656	782	238	6,646
12.5.1 現在教諭数	319,705	203,437	184,427	48,281	755,850
11.5.1 現在教諭数	323,262	207,771	186,713	47,539	765,285
増 減	△ 3,557	△ 4,334	△ 2,286	742	△ 9,435
12.5.1 比率 (%)	6.8	4.2	2.3	2.8	4.7
11.5.1 比率 (%)	5.5	3.3	1.8	2.3	3.8
増 減	1.3	0.9	0.5	0.5	0.9

※調査結果の「高等学校」には、「中等教育学校」を含む。以下同じ。

#### <参考1> 司書教諭講習修了教員数(平成9年度末現在)

(単位：人)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
9年度末現在修了者	10,637	4,560	1,962	519	17,678

#### <参考2> 新規採用教諭のうち司書教諭講習の修了者数

(単位：人)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
12年度採用者	268	125	82	46	521
11年度採用者	196	87	64	27	374

#### <参考3> 司書教諭講習修了教員数(講習実施教育機関報告による) ※国公立を対象

(単位：人)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
7年度修了者	768	354	142	40	1,304
8年度修了者	1,565	619	243	60	2,487
9年度修了者	2,260	719	387	88	3,454
10年度修了者	5,747	2,074	1,215	354	9,390
11年度修了者	4,582	1,726	1,144	346	7,798
12年度修了者	4,847	1,850	1,242	353	8,292

(2) 司書教諭の発令計画(平成13年1月現在)

各学校における発令の予定としては、12学級以上の学校に司書教諭が必置となる平成15年度に発令するとする人数が最も多くなっている(回答のあった43都道府県分)。

区 分	13年度	14年度	15年度	合 計
小学校発令予定者数計	966	1,769	10,030	12,765
年度別の割合(%)	7.6	13.9	78.6	100.0
中学校発令予定者数計	444	866	4,588	5,898
年度別の割合(%)	7.5	14.7	77.8	100.0
高等学校発令予定者数計	349	556	2,870	3,775
年度別の割合(%)	9.2	14.7	76.0	100.0
特殊教育諸学校発令予定者数計	66	128	686	880
年度別の割合(%)	7.5	14.5	78.0	100.0
合 計	1,825	3,319	18,174	23,318
年度別の割合(%)	7.8	14.2	77.9	100.0

<参考1> 学校規模別の内訳

(単位:人)

区 分	13年度	14年度	15年度	合 計
12学級以上の学校の発令予定	1,585	3,051	16,998	21,634
11学級以下の学校の発令予定	240	268	1,176	1,684

<参考2> 司書教諭の発令者数(学校基本調査)

(単位:人)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
12年度	532	274	128	35	969
11年度	319	176	64	15	574
増 減	213	98	64	20	395

(3) 学校図書館の業務を担当している教諭の数(司書教諭を除く)及びそのうちの司書教諭講習修了者の数(各年度5月1日現在)

学校において学校図書館の業務を担当している教諭(司書教諭を除く)は66,384人であり、1校当たり1.7人となっている。そのうち20.7%に当たる13,766人が司書教諭講習を修了している。この数は、平成12年5月現在で学校に在職する修了者35,433人の38.9%に当たる。

区 分		教 諭 の 人 数		うち講習修了者数	
		総 数	1校当たり	総 数	構成比(%)
小 学 校	12年度	36,000	1.6	8,124	22.6
	11年度	40,490	1.7	6,931	17.1
	増 減	△ 4,490	△ 0.1	1,193	5.5
中 学 校	12年度	15,691	1.5	4,098	26.1
	11年度	17,916	1.7	3,750	20.9
	増 減	△ 2,225	△ 0.2	348	5.2
高 等 学 校	12年度	12,224	3	1,214	9.9
	11年度	11,807	2.9	1,001	8.5
	増 減	417	0.1	213	1.4
特殊教育諸学校	12年度	2,469	1.1	330	13.4
	11年度	2,632	1.2	252	9.6
	増 減	△ 163	△ 0.1	78	3.8
合 計	12年度	66,384	1.7	13,766	20.7
	11年度	72,845	1.8	11,934	16.4
	増 減	△ 6,461	△ 0.1	1,832	4.3

※学校数のデータについては、学校基本調査報告書(平成12・11年度)から引用

※特殊教育諸学校は、小学部、中学部、高等部をそれぞれ1校として数えている。

## 2 学校図書館の図書等の整備状況

### (1) 蔵書冊数

学校図書館の蔵書冊数は、約3億1,843万冊であり、前年度に比べて約615万冊(2.0%)増加している。1校当たりの蔵書冊数は約7,874冊である。学校種別で見た場合、中学校が伸び率が最も高くなっている。

(単位：冊)

区 分		小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
蔵 書 冊 数	11年度末	151,282,191	82,432,640	81,499,727	3,213,747	318,428,305
	10年度末	148,574,433	80,586,731	79,969,947	3,142,310	312,273,421
	増 減	2,707,758	1,845,909	1,529,780	71,437	6,154,884
1校当 たり蔵 書冊数	11年度末	6,407.3	7,909.5	19,614.9	1,425.2	7,873.5
	10年度末	6,259.2	7,716.8	19,195.9	1,406.0	7,695.1
	増 減	148.1	192.7	419.0	19.2	178.4

※特殊教育諸学校は、小学部、中学部、高等部をそれぞれ1校として数えている。

<参 考>100人当たり蔵書冊数

(単位：冊)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
11年度	2,048.5	2,075.3	2,667.9	3,941.1	2,197.0
10年度	1,968.4	1,961.9	2,601.1	3,927.0	2,108.5
増 減	80.1	113.4	66.8	14.1	88.5

### (2) 平成11年度の年間購入冊数

平成11年度の年間購入図書の冊数は、約1,245万冊であり、前年度に比べて約18万冊(△1.4%)減少している。1校当たりの年間購入冊数は約308冊であり、学校種別で見た場合、高等学校がもっとも多くなっている。

(単位：冊)

区 分		小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
購 入 冊 数	11年度末	6,453,172	3,669,192	2,241,386	90,111	12,453,861
	10年度末	6,520,616	3,838,077	2,181,614	94,370	12,634,677
	増 減	△ 67,444	△ 168,885	59,772	△ 4,259	△ 180,816
1校当 たり購 入冊数	11年度末	273.3	352.1	539.4	40.0	307.9
	10年度末	274.7	367.5	523.7	42.2	311.3
	増 減	△ 1.4	△ 15.4	15.7	△ 2.2	△ 3.4

<参 考>100人当たり購入冊数

(単位：冊)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
11年度	87.4	92.4	73.4	110.5	85.9
10年度	86.4	93.4	71.0	117.9	85.3
増 減	1.0	△ 1.0	2.4	△ 7.4	0.6

### (3) 平成11年度の年間寄贈冊数

平成11年度に寄贈された図書は、約158万冊であり、前年度に比べて約4万冊（△2.5%）減少している。1校当たりの年間寄贈冊数は、約39冊である。

(単位：冊)

区 分		小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
寄 贈 冊 数	11年度末	947,766	332,215	266,523	37,446	1,583,950
	10年度末	935,806	332,745	321,619	33,983	1,624,153
	増 減	11,960	△ 530	△ 55,096	3,463	△ 40,203
1校当 たり寄 贈冊数	11年度末	40.1	31.9	64.1	16.6	39.2
	10年度末	39.4	31.9	77.2	15.2	40.0
	増 減	0.7	0.0	△ 13.1	1.4	△ 0.8

<参 考> 100人当たり寄贈冊数

(単位：冊)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
11年度	12.8	8.4	8.7	45.9	10.9
10年度	12.4	8.1	10.5	42.5	11.0
増 減	0.4	0.3	△ 1.8	3.4	△ 0.1

### (4) 平成11年度の年間廃棄冊数

平成11年度に廃棄された図書は、約788万冊であり、前年度に比べて約97万冊(14.0%)増えている。1校当たりの年間廃棄冊数は約195冊である。前年度と比較すると、小・中学校の廃棄冊数が大きく増えている。

(単位：冊)

区 分		小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
廃 棄 冊 数	11年度末	4,693,180	2,155,498	978,129	56,120	7,882,927
	10年度末	4,178,316	1,735,415	954,825	46,730	6,915,286
	増 減	514,864	420,083	23,304	9,390	967,641
1校当 たり廃 棄冊数	11年度末	198.8	206.8	235.4	24.9	194.9
	10年度末	176.0	166.2	229.2	20.9	170.4
	増 減	22.8	40.6	6.2	4.0	24.5

<参 考> 100人当たり廃棄冊数

(単位：冊)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
11年度	63.5	54.3	32.0	68.8	54.4
10年度	55.4	42.2	31.1	58.4	46.7
増 減	8.1	12.1	0.9	10.4	7.7

※学校数・児童生徒数のデータについては、学校基本調査報告書（平成11・10年度）から引用

### 3 学校図書館標準に対する整備状況

#### (1) 「学校図書館図書規準に基づく標準冊数」の総計

学校図書館図書標準は、平成5年に公立の義務教育諸学校において学校図書館の図書の整備を図る際の目標として設定された。

小学校及び中学校の「学校図書館図書標準に基づく標準冊数」の総数は約2億7,171万冊である。

(単位：冊)

区 分		小 学 校	中 学 校	合 計
標準冊数	12年度	166,955,220	104,757,943	271,713,163
	11年度	171,387,278	103,449,168	274,836,446
	増 減	△ 4,432,058	1,308,775	△ 3,123,283
1校当たり標準冊数	12年度	7,096.9	10,065.1	8,007.3
	11年度	7,255.7	9,906.1	8,068.2
	増 減	△ 158.8	159.0	△ 60.9

#### (2) 標準冊数に対する各学校の整備の状況（整備率）

小・中学校の標準冊数に対する蔵書冊数の割合（整備率）を見ると、小学校で31.0%、中学校で22.5%の学校が標準冊数を上回っている。他方、整備率が50%未満の学校は、小学校で13.9%、中学校で19.7%となっている。

(単位：校)

区 分		小 学 校		中 学 校		合 計	
		学校数	割 合	学校数	割 合	学校数	割 合
0%以上 25%未満	12年度	492	2.1	301	2.9	793	2.3
	11年度	415	1.8	344	3.3	759	2.2
	増 減	77	0.3	△ 43	△ 0.4	34	0.1
25%以上 50%未満	12年度	2,772	11.8	1,750	16.8	4,522	13.3
	11年度	2,941	12.4	2,000	19.1	4,941	14.5
	増 減	△ 169	△ 0.6	△ 250	△ 2.3	△ 419	△ 1.2
50%以上 75%未満	12年度	6,134	26.1	3,134	30.1	9,268	27.3
	11年度	6,564	27.8	3,332	31.9	9,896	29.1
	増 減	△ 430	△ 1.7	△ 198	△ 1.8	△ 628	△ 1.8
75%以上 100%未満	12年度	6,843	29.1	2,878	27.7	9,721	28.6
	11年度	6,814	28.8	2,754	26.4	9,568	28.1
	増 減	29	0.3	124	1.3	153	0.5
100%未満 小 計	12年度	16,241	69.0	8,063	77.5	24,304	71.6
	11年度	16,734	70.8	8,430	80.7	25,164	73.9
100%以上	12年度	7,284	31.0	2,345	22.5	9,629	28.4
	11年度	6,887	29.2	2,013	19.3	8,900	26.1
	増 減	397	1.8	332	3.2	729	2.3

#### (3) 要整備冊数の合計

要整備冊数（各学校の標準冊数に不足している冊数）の合計は、約6,069万冊である。

(単位：冊)

区 分		小 学 校	中 学 校	合 計
要整備冊数	12年度	34,227,447	26,465,995	60,693,442
	11年度	35,708,059	30,077,994	65,786,053
	増 減	△ 1,480,612	△ 3,611,999	△ 5,092,611
1校当たり要整備冊数	12年度	2,107.5	3,282.4	2,497.3
	11年度	2,133.9	3,568.0	2,614.3
	増 減	△ 26.4	△ 285.6	△ 117.0

※学校数のデータについては、学校基本調査報告書（平成12・11年度）から引用



#### 4 学校図書館の情報化の状況について(平成12年3月末現在)

##### (1) 学校図書館のコンピュータ、ネットワークの整備状況

学校図書館にパソコンを整備している学校数は8,010校(20.4%)であり、1校当たりの整備台数の平均は2.5台である。

(単位:校/%)

区 分		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		特殊教育諸学校		合 計	
		学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合
学校図書館にパソコンを整備している学校数/割合		3,932	16.7	1,699	16.3	2,159	52.1	220	18.1	8,010	20.4
整備台数/1校当		11,970	3.0	3,497	2.1	4,230	2.0	410	1.9	20,107	2.5
内 訳	校内LAN等を設置している学校数/割合	186	4.7	103	6.1	135	6.3	19	8.6	443	5.5
	インターネット等に接続している学校数/割合	1,164	29.6	432	25.4	308	14.3	39	17.7	1,943	24.3
	校内LAN等を設置及びインターネット等に接続している学校数/割合	1,074	27.3	551	32.4	503	23.3	57	25.9	2,185	27.3
	いずれも行っていない学校数/割合	1,508	38.4	613	36.1	1,213	56.2	105	47.7	3,439	42.9
学校図書館にパソコンを整備していない学校数/割合		19,593	83.3	8,709	83.7	1,985	47.9	994	81.9	31,281	79.6

##### (2) 学校図書館の蔵書のデータベース化の状況

蔵書のデータベース化を行っている学校は、4,137校(10.5%)であり、そのうち32.7%の1,354校で、蔵書が100%データベース化されている。

(単位:校/%)

区 分		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		特殊教育諸学校		合 計	
		学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合
蔵書の情報をデータベース化している学校数/割合		1,751	7.4	890	8.6	1,386	33.4	110	9.1	4,137	10.5
内 訳	データベース化率0%~25%未満	268	15.3	146	16.4	419	30.2	32	29.1	865	20.9
	データベース化率25%~50%未満	115	6.6	78	8.8	243	17.5	13	11.8	449	10.9
	データベース化率50%~75%未満	142	8.1	89	10.0	170	12.3	11	10.0	412	10.0
	データベース化率75%~100%未満	498	28.4	265	29.8	272	19.6	22	20.0	1,057	25.5
	データベース化率100%	728	41.6	312	35.1	282	20.3	32	29.1	1,354	32.7
蔵書の情報をデータベース化していない学校数/割合		21,774	92.6	9,518	91.4	2,758	66.6	1,104	90.9	35,154	89.5

## 5 公共図書館等との連携（平成11年度間）

公共図書館等との連携は、約3分の1の学校で実施しており、小学校において最も高くなっている。  
 連携の内容は、「図書館資料を貸したり借りたりしている」（22.6%）、「学校として定期的な連絡会をもっている」（4.1%）、「公共図書館の司書等に巡回訪問してもらっている」（4.2%）となっている。

○ 公共図書館等との連携について、複数回答可としてたずねた。

- ① 図書館資料を貸したり借りたりしている
- ② 学校として定期的な連絡会をもっている
- ③ 公共図書館の司書等に巡回訪問してもらっている
- ④ その他
- ⑤ 連携は特に行っていない

(単位：校)

区 分		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		特殊教育諸学校		合 計	
		学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合
①	1 1 年度	6,218	26.4	1,757	16.9	798	19.3	115	9.5	8,888	22.6
	1 0 年度	5,949	25.3	1,643	15.8	892	22.2	101	12.0	8,585	22.1
	増 減	269	1.1	114	1.1	△ 94	△ 2.9	14	△ 2.5	303	0.5
②	1 1 年度	1,118	4.8	443	4.3	52	1.3	7	0.6	1,620	4.1
	1 0 年度	1,187	5.1	437	4.2	89	2.2	14	1.7	1,727	4.5
	増 減	△ 69	△ 0.3	6	0.1	△ 37	△ 0.9	△ 7	△ 1.1	△ 107	△ 0.4
③	1 1 年度	1,449	6.2	201	1.9	10	0.2	7	0.6	1,667	4.2
	1 0 年度	1,375	5.9	188	1.8	10	0.2	5	0.6	1,578	3.5
	増 減	74	0.3	13	0.1	0	0.0	2	0.0	89	0.7
④	1 1 年度	2,710	11.5	596	5.7	198	4.8	85	7.0	3,589	9.1
	1 0 年度	3,731	15.9	928	8.9	434	10.8	118	14.0	5,211	13.4
	増 減	△ 1,021	△ 4.4	△ 332	△ 3.2	△ 236	△ 6.0	△ 33	△ 7.0	△ 1,622	△ 4.3
⑤	1 1 年度	14,347	61.0	7,971	76.6	3,133	75.6	1,031	84.9	26,482	67.4
	1 0 年度	13,087	55.8	7,495	71.9	2,873	71.4	792	94.1	24,247	62.6
	増 減	1,260	5.2	476	4.7	260	4.2	239	△ 9.2	2,235	4.8

(参考) 「教育委員会の職員等（嘱託を含む）に巡回訪問してもらっている」（平成10年度のみ）

区 分	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		特殊教育諸学校		合 計	
	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合
10年度	1,052	4.5	354	3.4	6	0.1	4	0.5	1,416	3.7

# 6 読書活動の状況（平成11年度間）

## （1）全校一斉の読書活動の実施状況

「全校一斉の読書活動」（校内の児童生徒に一斉に読書を行わせる教育活動）は、約半数の学校で実施しており、小学校の実施率が最も高くなっている。

全校一斉の読書活動の頻度は、「週に1回程度行っている」学校が5,455校（13.9%）と最も多く、次いで、「年に数回程度行っている」（3,050校、7.8%）、「ほぼ毎日行っている」（2,943校、7.5%）の順となっている。週に1回程度以上の頻度で行っている学校は11,037校（28.1%）であり、前年度より増加している。

（単価：校、%）

区 分		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		特殊教育諸学校		合 計	
		学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合
ほぼ毎日	11年度	1,386	5.9	1,345	12.9	205	4.9	7	0.6	2,943	7.5
	10年度	1,031	4.4	1,035	9.9	152	3.8	5	0.5	2,223	5.7
	増 減	355	1.5	310	3.0	53	1.1	2	0.1	720	1.8
週に数回程度	11年度	2,193	9.3	414	4	27	0.7	5	0.4	2,639	6.7
	10年度	1,600	6.8	359	3.4	17	0.4	10	1.0	1,986	5.1
	増 減	593	2.5	55	0.6	10	0.3	△ 5	△ 0.6	653	1.6
週に1回程度	11年度	5,002	21.3	409	3.9	19	0.5	25	2.1	5,455	13.9
	10年度	4,638	19.6	381	3.7	21	0.5	19	1.9	5,059	13.0
	増 減	364	1.7	28	0.2	△ 2	0.0	6	0.2	396	0.9
月に1回程度	11年度	506	2.2	160	1.5	9	0.2	16	1.3	691	1.8
	10年度	618	2.6	183	1.8	14	0.3	15	1.6	830	2.1
	増 減	△ 112	△ 0.4	△ 23	△ 0.3	△ 5	△ 0.1	1	△ 0.3	△ 139	△ 0.3
年に数回程度	11年度	1,934	8.2	948	9.1	128	3.1	40	3.3	3,050	7.8
	10年度	2,550	10.8	1,235	11.9	151	3.8	49	4.9	3,985	10.2
	増 減	△ 616	△ 2.6	△ 287	△ 2.8	△ 23	△ 0.7	△ 9	△ 1.6	△ 935	△ 2.4
年に1回程度	11年度	1,019	4.3	435	4.2	278	6.7	44	3.6	1,776	4.5
	10年度	2,028	8.6	689	6.6	370	9.2	83	8.3	3,170	8.1
	増 減	△ 1,009	△ 4.3	△ 254	△ 2.4	△ 92	△ 2.5	△ 39	△ 4.7	△ 1,394	△ 3.6
その他	11年度	1,042	4.4	348	3.3	61	1.5	16	1.3	1,467	3.7
	10年度	1,258	5.3	509	4.9	160	4.0	32	3.2	1,959	5.0
	増 減	△ 216	△ 0.9	△ 161	△ 1.6	△ 99	△ 2.5	△ 16	△ 1.9	△ 492	△ 1.3
未実施	11年度	10,443	44.4	6,349	61.0	3,417	82.5	1,061	87.4	21,270	54.1
	10年度	9,905	41.9	6,021	57.8	3,128	77.9	784	78.6	19,838	50.8
	増 減	538	2.5	328	3.2	289	4.6	277	8.8	1,432	3.3

(2) 全校一斉の読書活動の時期

読書活動の時期は、「朝の始業前に実施」(35.2%)が最も多く、次いで「授業時間中に実施」(3.3%)、「昼休み中に実施」(1.3%)となっている。

区 分		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		特殊教育諸学校		合 計	
		学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合
始 業 前	11年度	10,340	44.0	3,144	30.2	298	7.2	36	3.0	13,818	35.2
	10年度	8,486	36.2	2,486	23.8	210	5.2	34	4.0	11,216	28.9
	増 減	1,854	7.8	658	6.4	88	2.0	2	△ 1.0	2,602	6.3
授 業 中	11年度	712	3.0	370	3.6	189	4.6	36	3.0	1,307	3.3
	10年度	1,837	7.8	767	7.4	259	6.4	54	6.4	2,917	7.5
	増 減	△ 1,125	△ 4.8	△ 397	△ 3.8	△ 70	△ 1.8	△ 18	△ 3.4	△ 1,610	△ 4.2
昼 休 み	11年度	340	1.4	116	1.1	6	0.1	30	2.5	492	1.3
	10年度	856	3.6	454	4.4	28	0.7	39	4.6	1,377	3.6
	増 減	△ 516	△ 2.2	△ 338	△ 3.3	△ 22	△ 0.6	△ 9	△ 2.1	△ 885	△ 2.3
放 課 後	11年度	78	0.3	125	1.2	19	0.5	5	0.4	227	0.6
	10年度	258	1.1	302	2.9	48	1.2	13	1.5	621	1.6
	増 減	△ 180	△ 0.8	△ 177	△ 1.7	△ 29	△ 0.7	△ 8	△ 1.1	△ 394	△ 1.0
そ の 他	11年度	1,612	6.9	304	2.9	215	5.2	46	3.8	2,177	5.5
	10年度	2,869	12.2	729	7.0	326	8.1	75	8.9	3,999	10.3
	増 減	△ 1,257	△ 5.3	△ 425	△ 4.1	△ 111	△ 2.9	△ 29	△ 5.1	△ 1,822	△ 4.8

※平成10年度は複数回答可としたが、平成11年度は単数回答である。

# 7 保護者や地域の住民との連携の状況（平成11年度間）

## （1）地域住民への学校図書館の開放状況

地域住民に学校図書館を開放している学校は8.9%である。

開放の形態は、「閲覧も貸し出しも可」としている学校が最も多く（2,377校、6.0%）、次いで、「閲覧のみ可」（582校、1.5%）、「貸出のみ可」（214校、0.5%）の順になっている。

（単位：校/%）

区 分		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		特殊教育諸学校		合 計	
		学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合
閲 覧 貸 出 可	11年度	1,723	7.3	437	4.2	177	4.3	40	3.3	2,377	6.0
	10年度	2,043	8.7	585	5.6	199	4.9	47	4.7	2,874	7.4
	増 減	△ 320	△ 1.4	△ 148	△ 1.4	△ 22	△ 0.6	△ 7	△ 1.4	△ 497	△ 1.4
閲 覧 の み 可	11年度	424	1.8	117	1.1	36	0.9	5	0.4	582	1.5
	10年度	707	3.0	194	1.9	59	1.4	11	1.1	971	2.5
	増 減	△ 283	△ 1.2	△ 77	△ 0.8	△ 23	△ 0.5	△ 6	△ 0.7	△ 389	△ 1.0
貸 出 の み 可	11年度	143	0.6	49	0.5	16	0.4	6	0.5	214	0.5
	10年度	317	1.4	128	1.2	20	0.5	4	0.4	469	1.2
	増 減	△ 174	△ 0.8	△ 79	△ 0.7	△ 4	△ 0.1	2	0.1	△ 255	△ 0.7
そ の 他	11年度	216	0.9	52	0.5	34	0.8	13	1.1	315	0.8
	10年度	869	3.7	308	3.0	226	5.5	63	6.4	1,466	3.8
	増 減	△ 653	△ 2.8	△ 256	△ 2.5	△ 192	△ 4.7	△ 50	△ 5.3	△ 1,151	△ 3.0
開 放 せ ず	11年度	21,019	89.3	9,753	93.7	3,881	93.7	1,150	94.7	35,803	91.1
	10年度	19,492	83.2	9,200	88.3	3,574	87.6	866	87.4	33,132	85.1
	増 減	1,527	6.1	553	5.4	307	6.1	284	7.3	2,671	6.0

## （2）保護者や地域住民による学校図書館でのボランティア活動の状況（平成11年度間）

保護者や地域住民による学校図書館でのボランティア活動が行われている学校は16.3%である。

学校種別では、小学校の比率が最も高くなっている。

（単位：校/%）

区 分		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		特殊教育諸学校		合 計	
		学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合	学 校 数	割 合
実際に活動		5,804	24.7	512	4.9	17	0.4	79	6.5	6,412	16.3
して も ら っ て い る	謝礼等を出している	976	16.8	151	29.5	11	64.7	6	7.6	1,144	17.8
	謝礼等を出していない	4,513	77.8	336	65.6	5	29.4	66	83.5	4,920	76.7
	両方のケースがある	315	5.4	25	4.9	1	5.9	7	8.9	348	5.4
活動してもらっていない		17,721	75.3	9,896	95.1	4,127	99.6	1,135	93.5	32,879	83.7

※謝礼等には、交通費等を含んでいる。

## [国立及び私立の状況]

### 1 司書教諭の養成・確保

#### (1) 司書教諭講習修了教員数（平成12年5月現在）

(国立)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
12.5.1 現在修了者	60	53	22	19	154
12.5.1 現在教諭数	1,633	1,502	639	1,330	5,104
12.5.1 比率 (%)	3.7	3.5	3.4	1.4	3.0

(私立)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
12.5.1 現在修了者	215	595	1,951	7	2,768
12.5.1 現在教諭数	2,713	10,684	53,691	188	67,276
12.5.1 比率 (%)	7.9	5.6	3.6	3.7	4.1

<参考2> 新規採用教諭のうち司書教諭講習の修了者数

(国立)

(単位：人)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
12年度採用者	9	9	2	0	20

(私立)

(単位：人)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特殊教育諸学校	合 計
12年度採用者	15	16	83	1	115

#### (2) 司書教諭の発令計画（平成13年1月現在）

(国立)

区 分	13年度	14年度	15年度	合 計
小学校発令予定者数計	10	18	47	75
年度別の割合 (%)	13.3	24.0	62.7	100.0
中学校発令予定者数計	14	16	33	63
年度別の割合 (%)	22.2	25.4	52.4	100.0
高等学校発令予定者数計	3	1	7	11
年度別の割合 (%)	27.3	9.1	63.6	100.0
特殊教育諸学校発令予定者数計	3	3	6	12
年度別の割合 (%)	25.0	25.0	50.0	100.0
合 計	30	38	93	161
年度別の割合 (%)	18.6	23.6	57.8	100.0

(私立)

区 分	13年度	14年度	15年度	合 計
小学校発令予定者数計	39	27	33	99
年度別の割合 (%)	39.4	27.3	33.3	100.0
中学校発令予定者数計	82	78	108	268
年度別の割合 (%)	30.6	29.1	40.3	100.0
高等学校発令予定者数計	276	213	384	873
年度別の割合 (%)	31.6	24.4	44.0	100.0
特殊教育諸学校発令予定者数計	2	2	3	7
年度別の割合 (%)	28.6	28.6	42.9	100.0
合 計	399	320	528	1,247
年度別の割合 (%)	32.0	25.7	42.3	100.0